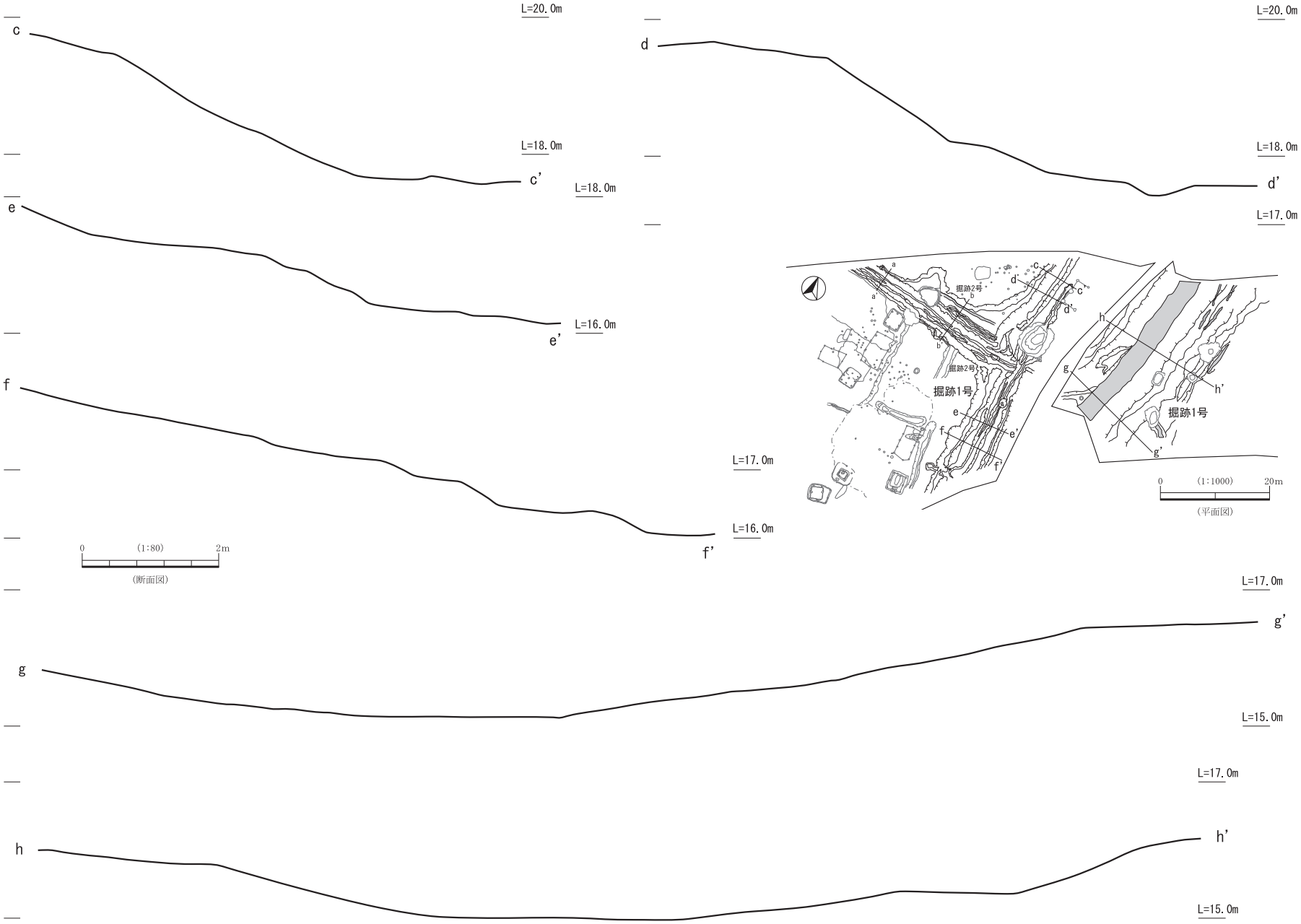
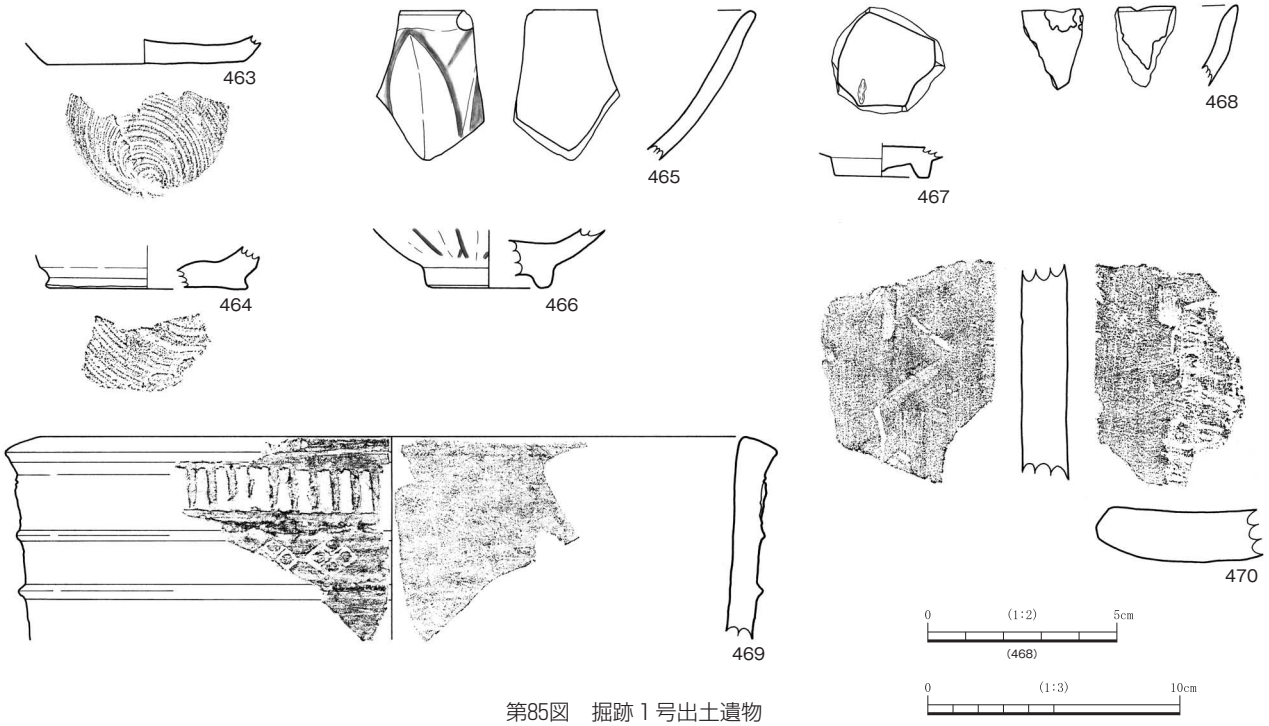


第84図　掘跡１号土層断面図



第85図　掘跡１号出土遺物

デ消されている。体部は直線的に延び，口縁部は鋭い。472は途中で内側に屈曲する。口縁部は鋭い。474は底面内部にナデて回転成形した痕跡が残る。

474，475は土師器皿である。474の色調は乳白色を呈し，475は褐色を呈する。474は底部内面をナデて回転成形したあと体部を直線的に立ち上げる。口唇部内面が斜めに面取りされている。475は底部内面をナデて回転成形したあと体部外面を直線的に立ち上げる。体部内面は緩やかに立ち上がる。

476は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。片切彫で蓮弁文が表現され，間弁を有するが，鎬が僅かに確認できる。477は，明代以降の青磁碗の底部である。高台は欠損している。見込みに界線が廻り，内面中央部が輪状に釉剥ぎされ，その中に目跡が残る。高台内の周縁部は施釉されるが，中央部は施釉されない。胎土は赤橙色を呈し，粗い。高台については意識的に打ち欠いている可能性がある。

478は青磁皿の底部である。外面下部は露胎でヘラケズリにより稜線がはっきりした調整が施される。479は白磁皿の底部である。体部外面下部は露胎である。高台畳付部は緩やかな曲線を描く。見込みに目跡が残る。森田Ｄ群に比定されるものである。

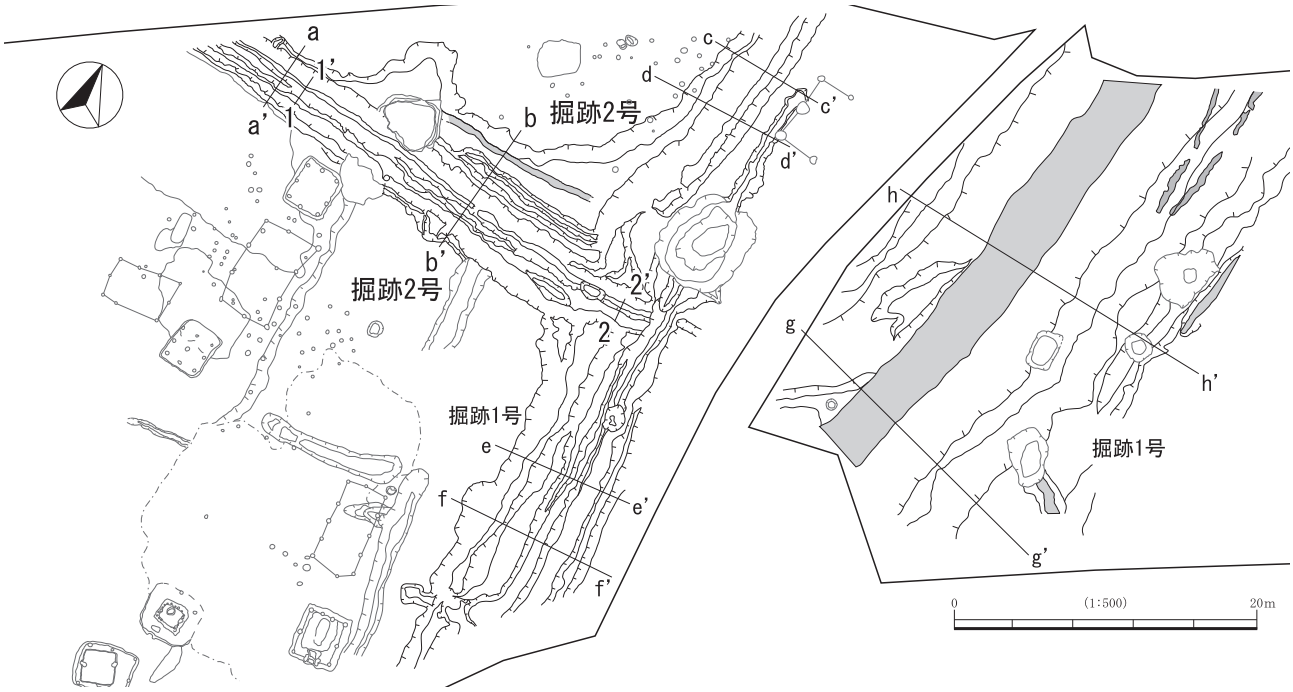
480は染付碗の底部である。高台畳付は丸みを帯びて成形され，釉は畳付を越えて高台内面の途中までかかる。畳付に砂が付着している。見込みに花文が施される。釉は白濁し，胎土も黒色鉱物を多く含んで，粗いことから璋州窯産と考えられる。

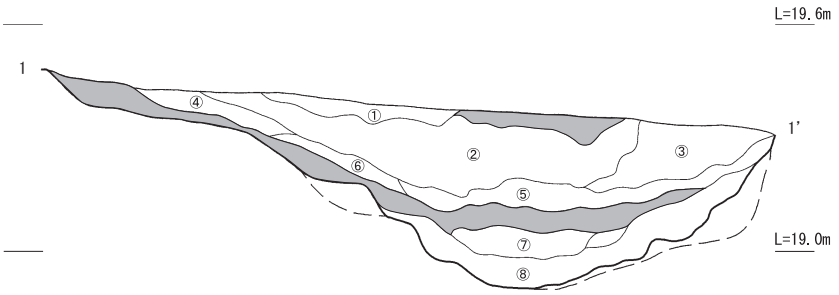
481は中国陶器の甕または壺の胴部片である。内外面は，横方向のナデ調整が施される。胎土は淡橙色を呈し，白色鉱物を多く含む。

482～484は須恵器の甕である。482は口縁部～胴部である。外面の頸部より上位にはナデ調整，下位には格子目叩き痕，内面はナデ調整とハケメ調整の痕跡が残る。口唇部に段を有する。483は頸部である。外面に格子目叩き痕，内面はナデ調整が施されている。胎土が均一な状態である。484は胴部である。外面に格子目叩き痕，内面に平行状の当て具痕が残る。485は瓦質で，頸部から胴部である。外面には平行叩き目，内面は当て具痕を摺り消すナデ調整が施されている。胎土は茶色を呈している。

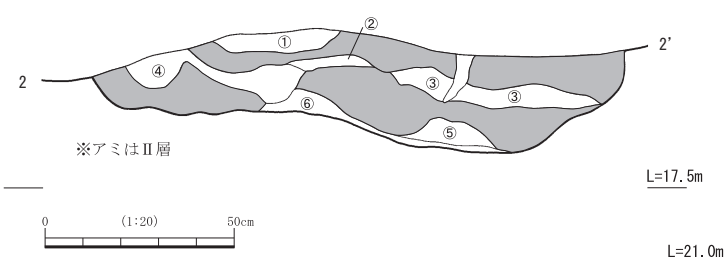
486～494は擂鉢である。486は口縁部から胴部上部である。口唇部は断面三角を呈し，凹みを有さない。内面は外面に比して丁寧なナデ調整が施され，擂目が施されている。487は口縁部から胴部である。内外面とも丁寧に調整が施され，表面に灰釉がかかる。３条の擂目が残る。488は口縁部から胴部上部である。口唇部外面がやや盛り上がり，中央部は凹む。内面に３条の擂目が残る。489は胴部である。内面は外面に比して丁寧なナデ調整が施され，擂目が密に施される。490は胴部下部から底部である。外面は屈曲して立ち上がり，内面は緩やかに立ち上がる。残存している内面には密に擂目が施される。491は底部である。見込みには中心から放射状に擂目が施される。外面は剥落が激しい。

492は完形に復元できるが，底部中心部は欠損している。底部は薄いが，内面の立ち上がりが緩やかで体部の下部は器壁が厚くなる。口唇部は内面側が高く，中央部

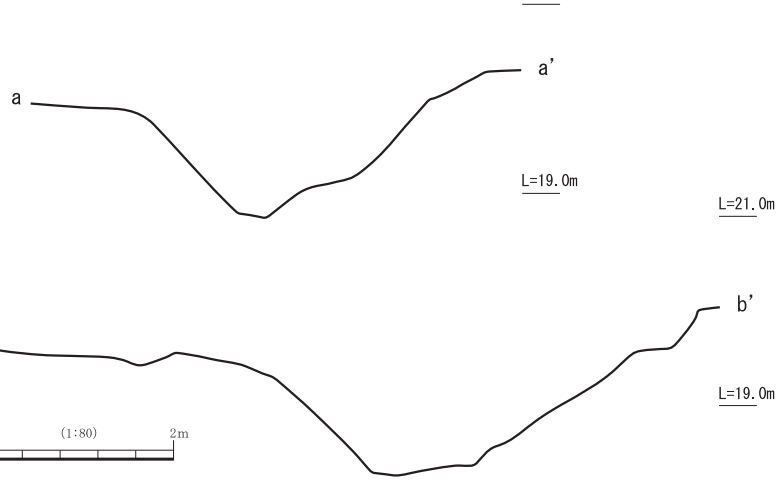




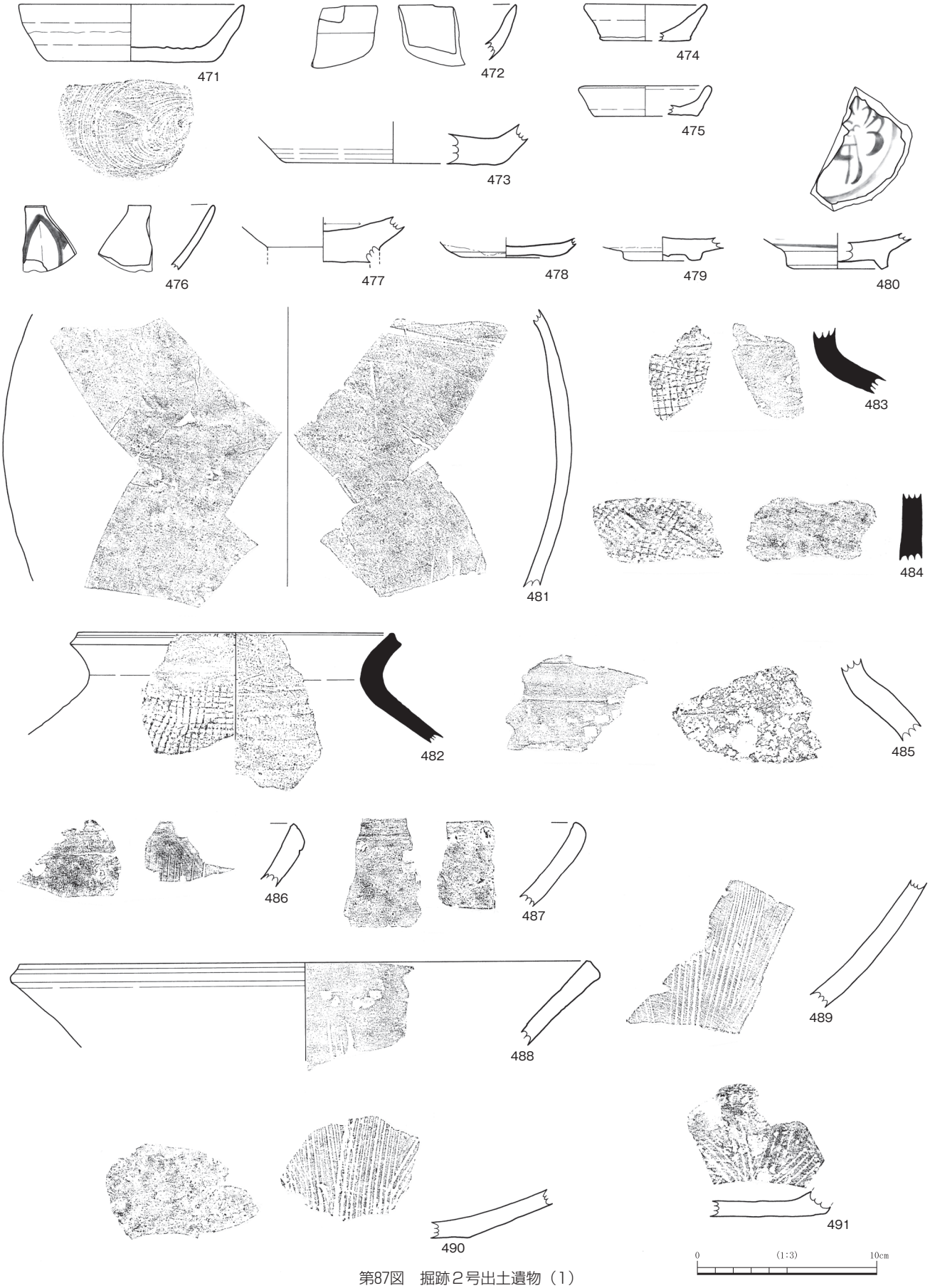
断面1
① 近世の道跡
② 灰褐色土(シラスとⅡ層の混土)
③ 茶褐色土
④ 近世の道跡
⑤ Ⅱ層に黒色土とシラスブロックが混じる
⑥ 暗灰褐色土
⑦ 暗灰茶褐色土
⑧ Ⅱ層にシラスブロックが混じる



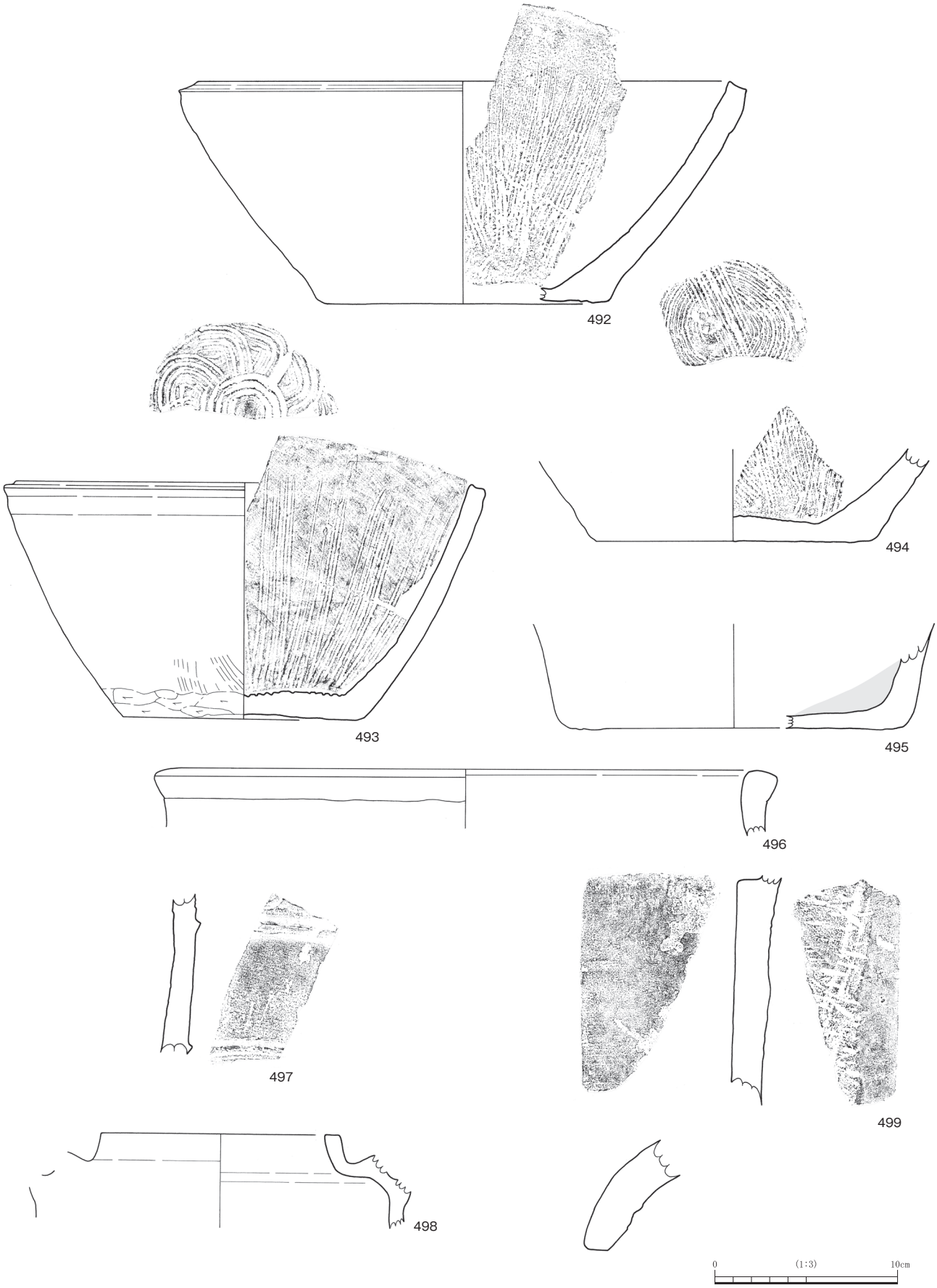
断面2
① 近世の道跡
② Ⅱ層を含む砂質のラミナ状堆積
③ 暗灰茶褐色土
④ 黄緑色砂質土(粗粒)
⑤ 暗茶褐色土とシラスの混土
⑥ Ⅱ層と黄桃色砂質土の混土



第86図　掘跡２号土層断面図



第87図　掘跡２号出土遺物（1）



第88図　掘跡２号出土遺物（2）

がやや凹む。内外面とも粗いナデ調整が施されている。密に擂目が施される。

493は完形に復元できるものである。内外面とも底部から屈曲して立ち上がり，口唇部は内面がやや高く，窪みを有する。見込みに同心円の周囲に曲線を配した擂目，体部内面に放射状の５条を単位とする擂目が施されている。内面には丁寧なハケメ調整が施され，外面はやや粗いナデ調整とハケメ調整が施される。

494は胴部下部から底部である。内面見込みには同心円状の擂目の上に直線的な擂目が施される。体部には密に放射状の擂目が施される。

495は軟質の瓦質土器だが器種は不明である。鉢と考えられる。底部の内面中央部にはハケメが残り，周縁部には幅５㎜程度のヘラナデ痕が残る。底部外面は粗いナデ調整が施される。底部周縁の上から体部を立ち上げ，内面はナデ調整痕が残るが，外面は剥落が激しく不明である。内面の底部から割れ口で一面に煤が付着しており，欠損後に何らか再利用された可能性がある。

496，497は火鉢である。496は口縁部で，口縁端部を外側にやや引き出し，口唇部に平坦面をつくる。497は胴部で上下２条の突帯が巡る。外面上部に文様が一部残る。内外面とも剥落がみられるが，外面はナデ調整が施されている。外面の色調が褐色を呈している。

498は茶釜の口縁部から胴部である。肩部に斜めに孔の長さが２㎝の耳が付く。耳の位置の内面には取付けの際の指頭圧痕が残り，凹む。口唇部には平坦面をつくる。外面は丁寧なナデ調整が施され，内面は，口縁部にハケメ，胴部にナデ調整が施される。

499は丸瓦である。凹面には布目が残り，平坦面は丁寧なナデが施される。凸面は長軸方向のナデ調整が施される。玉縁面がわずかに残る。中国産の瓦である可能性がある。

溝状遺構

本地点で溝状遺構は，４条検出された。調査時の切り合い関係から，竪穴建物跡や掘立柱建物跡，堀跡１号よりも新しい時期のものと判断される。

溝状遺構１号（第89図）

検出状況　Ｃ・Ｄ－15区で，Ⅶ層上面で検出された。掘立柱建物跡３号を切っている。北端の西側に東西方向に延びる溝状遺構２号が隣接している。

形状・規模　平面形は，長軸はほぼ南北方向に延びており，Ｎ３°Ｅを示す。規模は，長軸13ｍ，短軸1.2ｍ程度であり，南側は調査範囲外に続く。検出面からの深さは66㎝である。断面形は底面がレンズ状を呈し，壁面は外傾する。北側に東西方向への分岐がある。

埋土　黒褐色土で，黄色の火山灰パミスが混ざる。

溝状遺構２号（第89図）

検出状況　Ｄ－15区で，Ⅶ層上面で検出された。東端で溝状遺構１号と隣接する。

形状・規模　平面形は東西方向に延びており，長軸はＮ89°Ｗを示す。規模は，長軸9.7ｍ，短軸1.2ｍ程度である。断面形は底面がほぼ平坦で，壁面は外傾する。検出面からの深さは30㎝程度である。

埋土　埋土は溝状遺構１号と同じで，黒褐色土を基調とする。

出土遺物　500，501は糸切底を有する土師器の底部である。

溝状遺構３号（第69図）

検出状況　Ｄ－14・15区で，Ⅶ層上面で検出された。北端は堀跡２号の裾に切られ，南側は削平により消滅する。

形状・規模　平面形は南北方向に延びており，長軸はＮ10°Ｗを示す。規模は，長軸７ｍ，短軸2.5ｍ程度である。

埋土　埋土は溝状遺構１号及び２号と同じで，黒褐色土を基調とする。

その他の遺構

堀跡１号や堀跡２号の壁面のわずかな平坦面に，近世のものと考えられる道跡（帯状の硬化面）や，小規模な溝状遺構などが検出されている。

（３）　Ｂ～Ｅ－19～26区の調査

調査の概要

Ｂ～Ｅ－19～26区は地形が起伏に富み，丘陵部と谷地形及び低湿地からなる。低湿地については（４）で報告する。Ｂ～Ｅ－19～26区の丘陵部ではⅣ～Ⅶ層まで削平を受けており，Ⅱ層の堆積は確認されなかった。そのため，この地点では，表土除去後，直ちに中世の遺構検出を行なった。

Ｂ～Ｅ－22・23区及びＢ・Ｃ－25区の傾斜地及び谷状地形の底付近では，Ⅱ層が良好に残存していたが，含まれる遺物は，小片が少量認められる程度であった。

また，Ｂ－24区からＥ－22区に向かって南北方向に大規模な地形の造成が認められたが，造成後のⅡ層の堆積は確認できなかったため，造成は近世以降のものであると判断した。

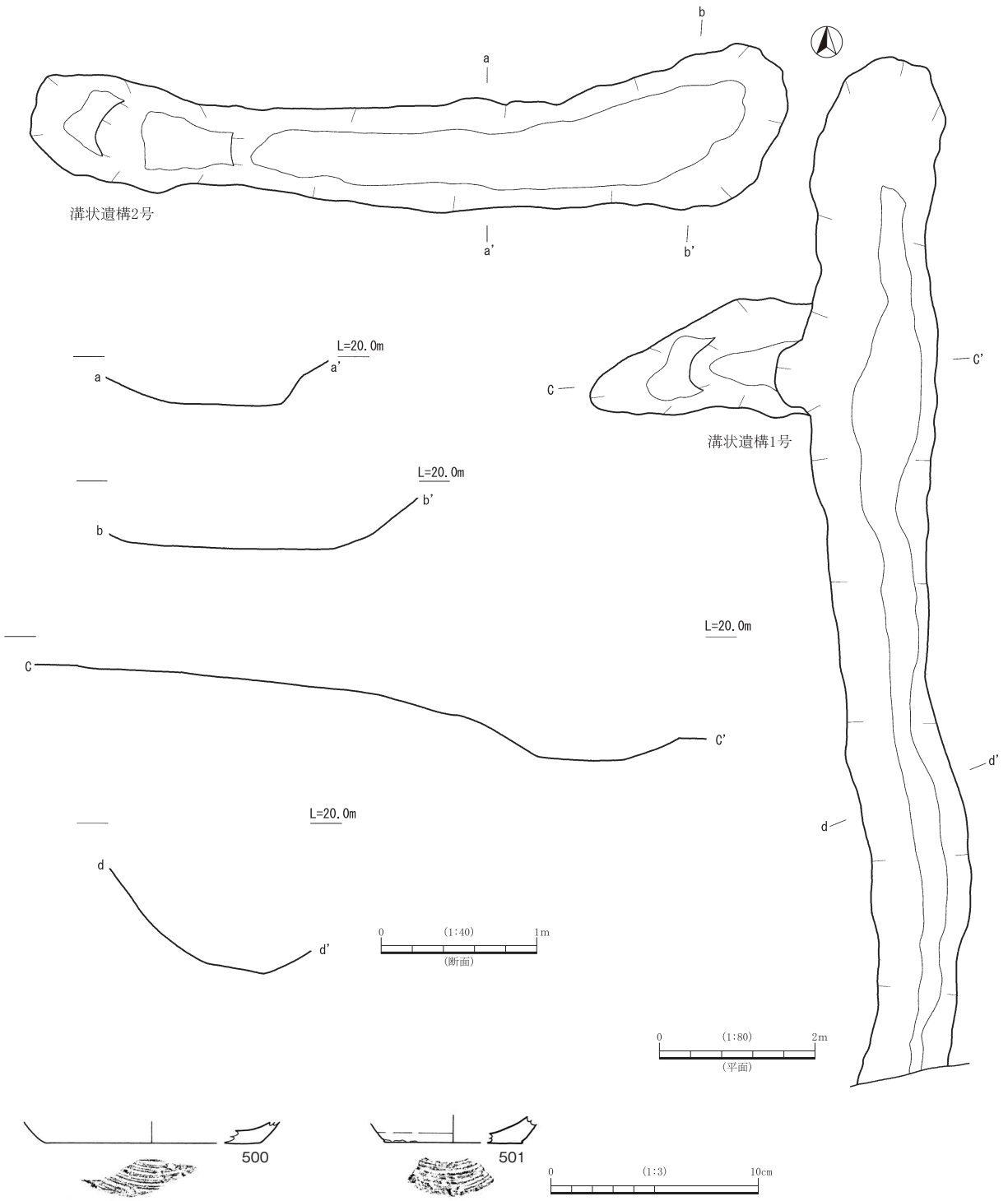
土坑

土坑は５基検出された。

土坑23号（第91図）

検出状況　土坑23号は，Ｃ－23区で西から東へ向かって緩やかに傾斜するⅦ層上面で検出された。

形状・規模　平面形は，南北方向に長い隅丸長方形を



第89図　溝状遺構１・２号及び出土遺物

呈し，長軸はＮ９°Ｅを呈しする。規模は，長軸194cm，短軸98cmである。検出面からの深さは28cmで，断面形は床面がほぼ平坦で，壁面は八の字状に立ち上がる。

埋土　埋土は，Ⅱ層に該当する暗褐色～黒褐色土がレンズ状に堆積する。埋土中から遺物は出土しなかった。

土坑24号（第91図）

検出状況　Ｂ－25区で検出された。谷地形を確認するための先行トレンチで検出されたため，Ⅶ層上面での検出となった。

形状・規模　規模は，長軸117cm，短軸108cmで，平面形は，西側がやや直線的となる円形となる。検出面からの深さは11cmで，断面形はすり鉢状になる。

埋土　埋土は，黒色土と褐色土・黄褐色土がブロック状に堆積する。なお，埋土中から遺物の出土はない。

土坑27号（第91図）

検出状況　B－25区のⅡc層上面で検出された。検出面と遺構埋土が同系統の黒色土であり，平面形及び掘り方の確認を行うため，まずサブトレンチを設定し調査を行った。

形状・規模　規模は，長軸90cm，短軸83cmで，土坑24号よりやや小ぶりな円形となる。検出面からの深さは19cmで，断面形はすり鉢状になる。

埋土　埋土は，黒色土と暗褐色がレンズ状に堆積する。なお，埋土中から遺物は出土しなかった。

土坑25号（第91図）

検出状況　C－22区の谷地形の底付近で，Ⅱc層の下のⅦ層上面で検出された。

形状・規模　規模は長軸55cm，短軸50cmで，平面形は円形となる。

埋土　埋土は暗灰色の粘質土である。

土坑26号（第91図）

検出状況　D－20区で，地形が東から西へ傾斜する斜面で検出された。

形状・規模　規模は，長軸116cm，短軸74cmで，平面形は，東西に長い楕円形である。

埋土　埋土は，Ⅱ層の黒色土である。

溝状遺構（第92・93図）

B～E－22～25区では，溝状遺構が11条検出された。中世に該当するものは，溝状遺構5号～12号である。溝状遺構13号～15号は近世以降に該当する。なお，12号については近世以降の可能性もある。

溝状遺構5号（第92図）

検出状況　溝状遺構5号は，D・E－23・24区の表土直下で検出された。東西方向に延び，西端は調査区外へ続く。

形状・規模　調査した範囲で，長さ約15.5m，幅80～120cm程度である。断面形は不整形で，すり鉢状になる地点や箱形になる地点がみられた。

埋土　埋土は，褐色土～黒褐色土であり，Ⅱa層に相当する。基本的にはレンズ状堆積だが，ベルト4の一部のように，ブロック状の堆積も確認された。埋土中に多くの礫が含まれていた。

出土遺物　502は土師器の坏または皿の口縁部片である。503，504は明代以降の青磁碗の底部である。内面見込みには花文の印文が入る。

溝状遺構6号（第92図）

検出状況　D－23区の表土直下で検出された。西側の1.7mに溝状遺構5号が位置し，東側は溝状遺構8号に隣接する。溝状遺構5号と軸を同じにすることから，本来は同一のものであったと考えられる。

形状・規模　長さ約4.5m，幅80～120cm程度である。断面形は，床面にやや凹凸が見られるが，すり鉢状となる。

埋土　埋土は，褐色土～暗褐色土が，ブロック状に堆積する。暗褐色土はⅡa層に相当する。溝状遺構5号同様，埋土中に多くの礫が含まれていた。

溝状遺構8号（第92図）

検出状況　D－22区の表土直下で検出された。溝状遺構6号に隣接し，溝状遺構6号からほぼ直角に南北方向に折れるような位置関係となる。

形状・規模　長さ約10.5m，幅100～130cm程度である。断面形は，溝状遺構5・6号と比較して壁面の立ち上がりの角度がきつい。

埋土　埋土は，Ⅱa層に相当する暗褐色土を主体とし，ブロック状に堆積する。溝状遺構8号も埋土中に多くの礫が含まれていた。

出土遺物　505，506は瓦質土器である。505は擂鉢で，内面に擂目がみられるが，単位は不明である。外面の摩滅は著しい。506は甕もしくは壺の胴部である。硬質で，内面には横方向のナデ調整が確認できる。

溝状遺構7号（第93図）

検出状況　B～D－22・23区の，西から東へ緩やかに傾斜するⅦ層上面で検出された。B・C－23区では地形の傾斜と平行するように南北方向に延び，南端は道状遺構1号と連接する。一部を溝状遺構13号に切られる。C・D－22・23区の境界付近で，ほぼ直角に東方向に折れるが，東端は自然消滅する。

形状・規模　南北方向約25m，東西方向約7mである。直線的に形成されるが，南端の道状遺構付近では，不規則に曲がる。幅は最小40cm程度から最大150cm程度である。断面形はすり鉢状を基本とするが，箱形で二段堀状になる箇所もみられた。検出面からの深さも地点により変化し，10cm～50cm程度となる。

埋土　埋土はⅡb～Ⅱc層に相当する黒褐色土が主体で，レンズ状堆積を基本とする。北側では埋土にしまりはなく，硬化面等は確認されなかったが，道状遺構1号付近では埋土が固くしまるようになり，床面が硬化する箇所も存在した。

出土遺物　508は土師器の皿である。口縁部の内外面に煤が部分的に付着することから，灯明皿として使用されていたものと考えられる。509は白磁皿Ⅸ類で，口禿皿の口縁部である。510は瓦質の擂鉢である。内面の擂目が深い。

溝状遺構９号（第 93 図）

検出状況　Ｂ・Ｃ－25 区の表土直下のⅦ層上面で検出された。南東から北西へ傾斜する谷地形の斜面に平行に形成される。南東端は調査区外へ続く。

形状・規模　調査した範囲で，長さ約 20 m，幅 70 ～ 130cm程度である。断面形はすり鉢状になる。

埋土　埋土は，Ⅱａ層に相当し，レンズ状堆積を呈する。埋土中に多くの礫が含まれていた。

出土遺物　507 は白磁碗の胴部片である。内面には一条の沈線が入る。

溝状遺構 10 号（第 93 図）

検出状況　Ｃ－ 25 区の表土直下のⅦ層上面で検出された。傾斜する谷地形の斜面に平行に形成される。南東から北西に延びており，溝状遺構 9 ～ 10 号はほぼ並列する。

形状・規模　調査した範囲で，長さ約 11 m，幅 50cm 程度である。

溝状遺構 11 号（第 93 図）

検出状況　Ｂ・Ｃ－ 25 区の表土直下のⅦ層上面で検出された。傾斜する谷地形の斜面に平行に形成される。溝状遺構 9 号と 10 号の間に位置する。

形状・規模　調査した範囲で，長さ約 7 m，幅 50cm 程度で，規模は溝状遺構 10 号と類似する。

近世以降の溝状遺構

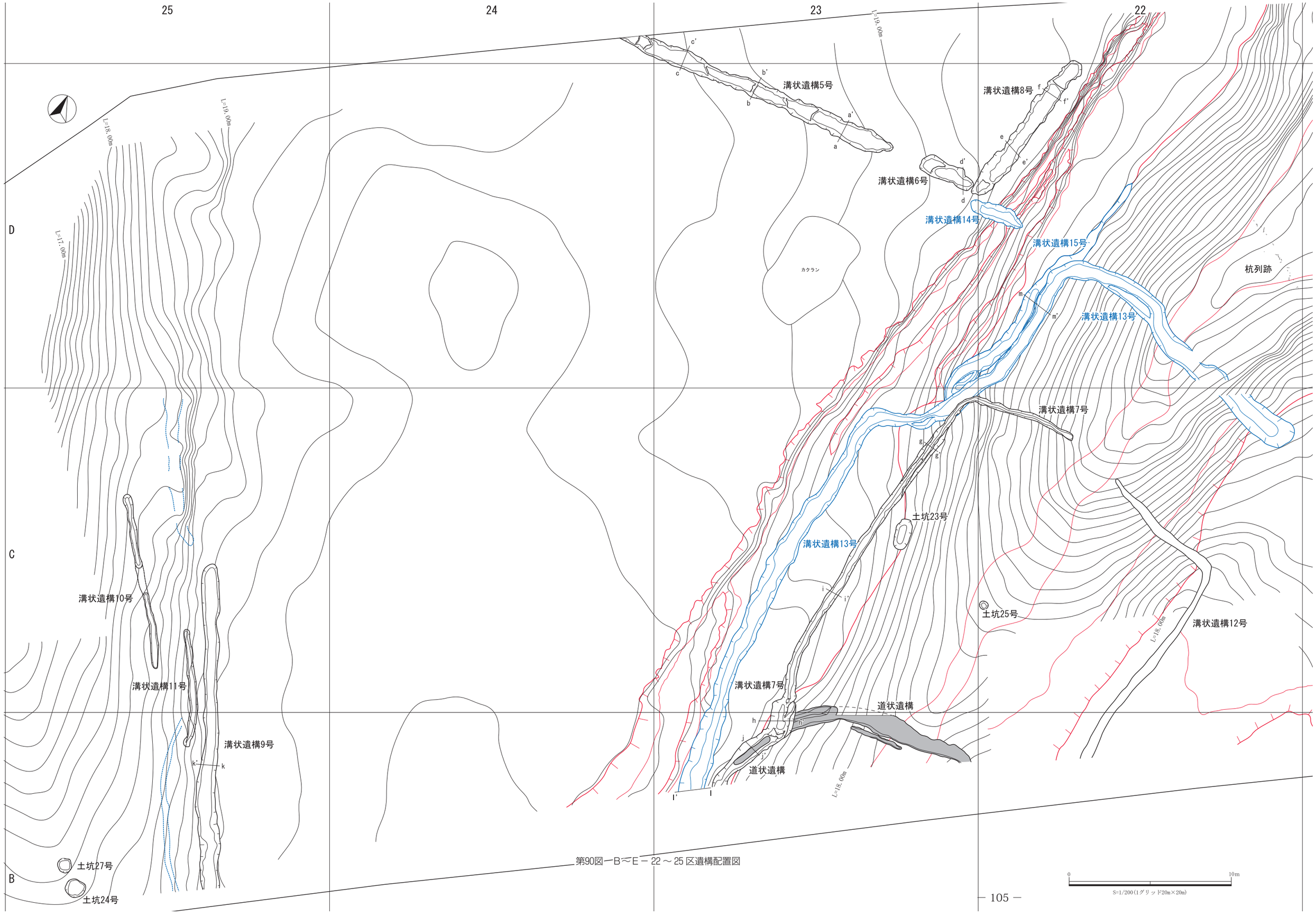
Ｂ～Ｄ－ 22・23 区では，中世に該当する溝状遺構と重なる様に，近世以降の溝状遺構 13 号～ 15 号が検出された。近世以降の溝状遺構は埋土がⅡ上層を基調とする。特に溝状遺構 12 号は，溝状遺構 7 号と軸や折れる方向等が類似する。傾斜面に平行した，南北に直線状に延びるものや，東西どちらかに直角に折れる形状を成すもの等がある。

道状遺構（第 94 図）

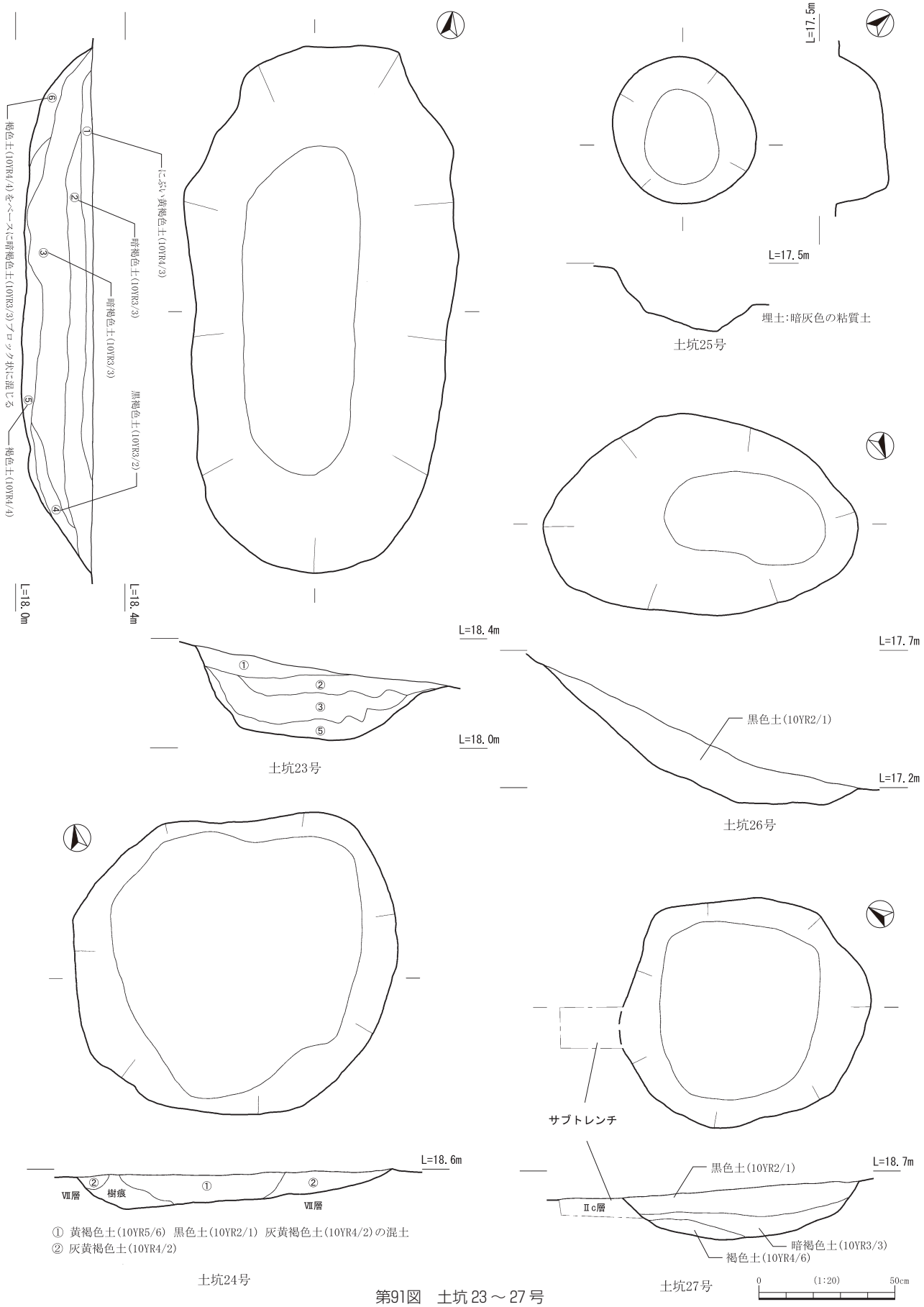
検出状況　Ｂ・Ｃ－23 区の谷頭付近の，東側はⅡｂ層上面で，西側のⅡ層が堆積しない箇所ではⅦ層上面で検出された。遺構の北端が土層観察用ベルトと重なったために，掘削時に一部を破壊している。平面形は東西方向にやや北側に膨らむような弧を描く。東端は調査区外へ続くが，西端は溝状遺構 7 号と繋がり，調査区外へ続く。

断面の状況　Ⅱａ層に覆われ，Ⅱｂ層に形成される。埋土は黄褐色～褐色の砂質土で，非常に固くしまる層を形成する。地点によっては，床面付近ではラミナ状の堆積が確認された。浅いすり鉢状に凹むが，人為的な掘り込みではなく，人間等の往来により徐々に形成されたものと考えられる。

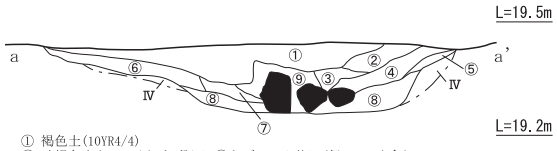
溝状遺構７号との関係　道状遺構と溝状遺構 7 号の新旧関係は，溝状遺構 7 号の黒色土が道状遺構の硬化面を切っている状況から，本遺構が古いと判断した。しかし，本遺構と溝状遺構 7 号床面の硬化面は，レベル差が無く，一連のものと判断されることから，ほぼ同時期のものであると想定される。



第90図ーB〜Eー22〜25区遺構配置図

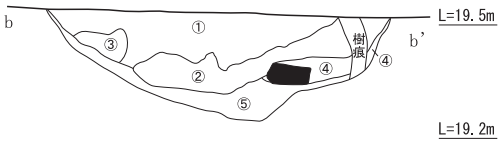


第91図　土坑23～27号



① 褐色土(10YR4/4)
② 暗褐色土(10YR3/4) わずかに④をブロック状に(径1～3cm)含む
③ 褐色土(10YR4/6)をベースに暗褐色土と黒褐色土がブロック状に混じる
④ 黒褐色土(10YR3/2)をベースに褐色土と暗褐色土がブロック状に混じる
⑤ 褐色土(10YR4/6) 粘性ややあり しまりあり
⑥ 褐色土(10YR4/6)と暗褐色土(10YR3/4)がブロック状にまとまりをもって堆積
⑦ 黒褐色土(10YR3/2)
⑧ 暗褐色土(10YR3/4)をベースに褐色土(10YR4/6)を含む
⑨ 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土と黒褐色土をブロック状に含む

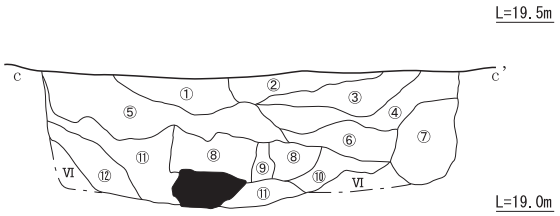
溝状遺構5号a-a'



① 暗褐色土(10YR3/4)をベースに黒褐色土と褐色土がブロック状に混じる
② 黒褐色土(10YR3/2)をベースに褐色土と暗褐色土が30%ずつブロック状に混じる
③ 暗褐色土(10YR3/3)
④ 暗褐色土(10YR3/3),褐色土をブロック状に５%程度含む
⑤ 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を10～15%程度ブロック状に含む

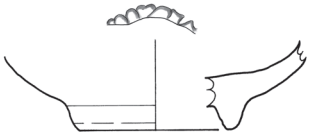
溝状遺構5号b-b'

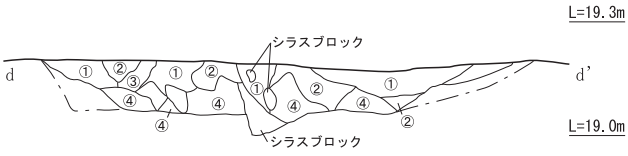
0 (1:20) 50cm



① 褐色土(10YR4/6)と暗褐色土(10YR3/4)が50%程度ずつ混ざり合う
② 褐色土(10YR4/6)をベースに暗褐色土と黒褐色土がブロック状に混じる
③ 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土と黒褐色土がブロック状に混じる
④ 暗褐色土(10YR3/4)をベースに黒褐色土と褐色土がブロック状に混じる
⑤ 暗褐色土(10YR3/4) 径１～２cm程度の褐色土・黒褐色土・Ⅵ層を含む
⑥ 暗褐色土(10YR3/4)
⑦ 褐色土(10YR4/4) 褐色土が20%程度混じる
⑧ Ⅵ層土(砂質)をベースに,にぶい黄褐色と暗褐色土がブロック状に混じる
⑨ 褐色土(10YR4/6)
⑩ 暗褐色土(10YR3/3)
⑪ 褐色土(10YR4/6)
⑫ 褐色土(10YR4/4)

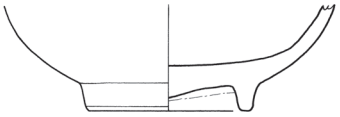
溝状遺構5号c-c'

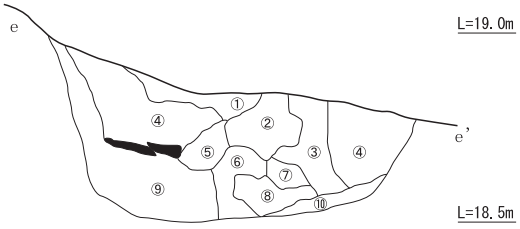




① 暗褐色土(10YR3/3)
② 暗褐色土(10YR3/3)と褐色土(10YR4/6)が混じり合う 径10cm程度の礫を含む
③ 褐色土(10YR4/6) 径1～4cm程度の暗褐色土ブロックをむ
④ 褐色土(10YR4/4) 径10cm程度の礫を含む

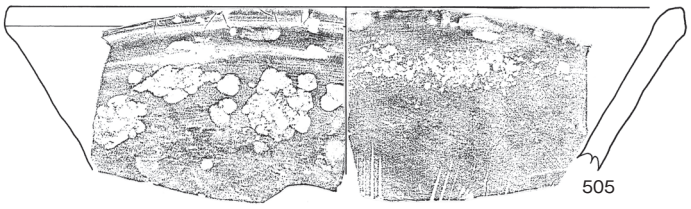
溝状遺構6号d-d'

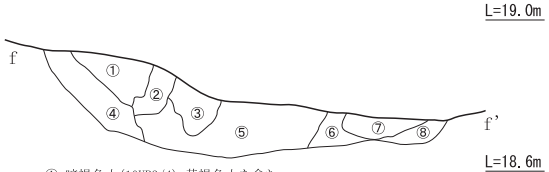




① 暗褐色土(10YR3/4) ⑥ 暗褐色土(10YR3/4)
② 暗褐色土(10YR3/3) ⑦ 暗褐色土(10YR3/4)
③ 褐色土(10YR4/6) ⑧ 暗褐色土(10YR3/3)をベースに褐色土が混じる
④ 褐色土(10YR4/6) ⑨ 褐色土(10YR4/4)
⑤ 暗褐色土(10YR3/3) ⑩ 褐色土(10YR4/4)

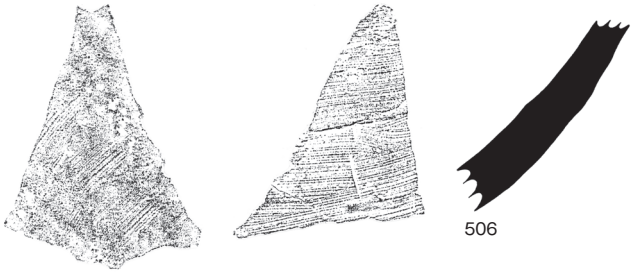
溝状遺構8号e-e'





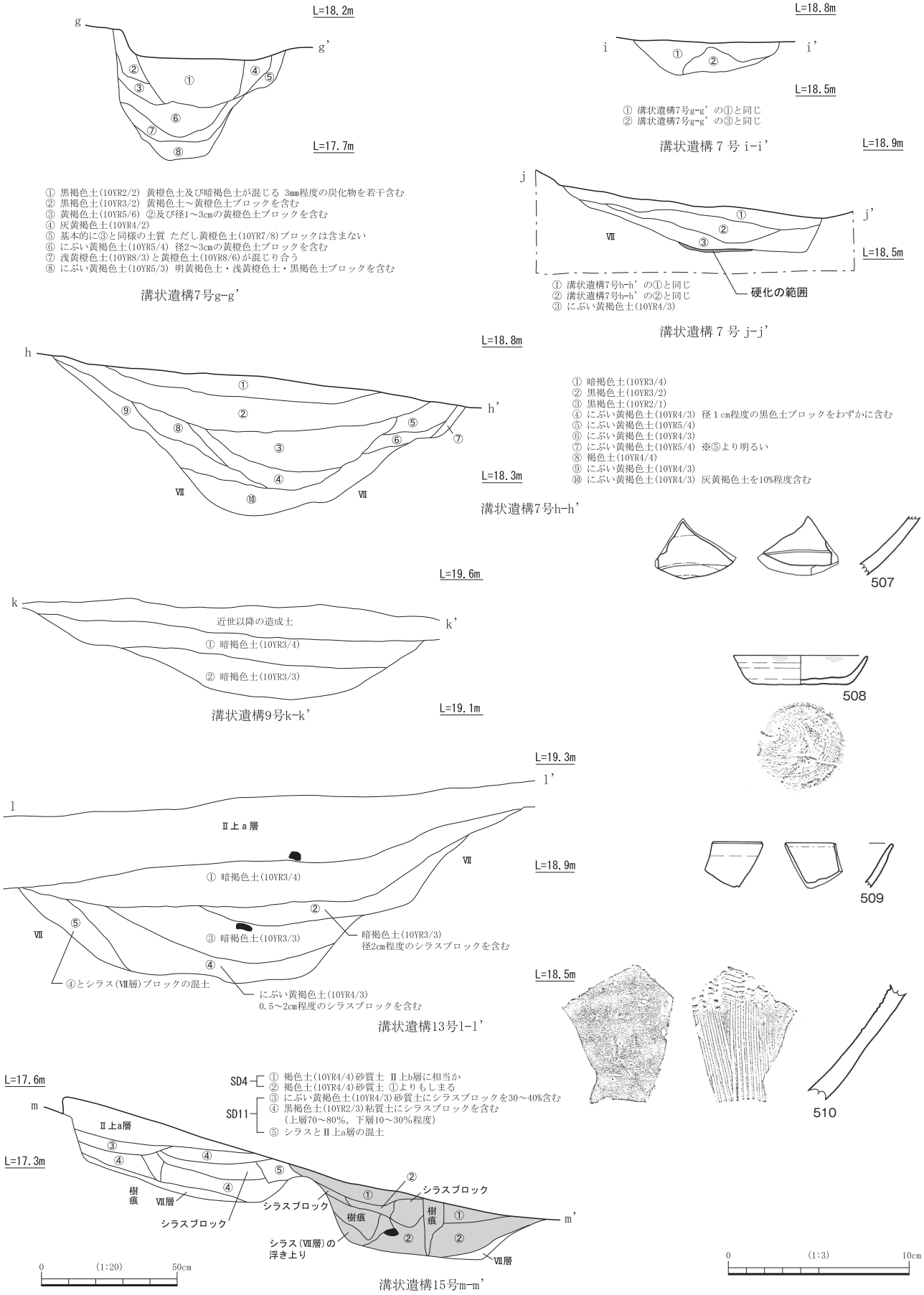
① 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土を含む
② 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を含む
③ 暗褐色土(10YR3/3)
④ 褐色土(10YR4/4)
⑤ 暗褐色土(10YR3/4) シラスブロック(径5cm)を含む
⑥ 褐色土(10YR4/4)
⑦ 暗褐色土(10YR3/4)
⑧ 暗褐色土(10YR3/4) 層中にシラスが5～10%程度混じる

溝状遺構8号f-f'

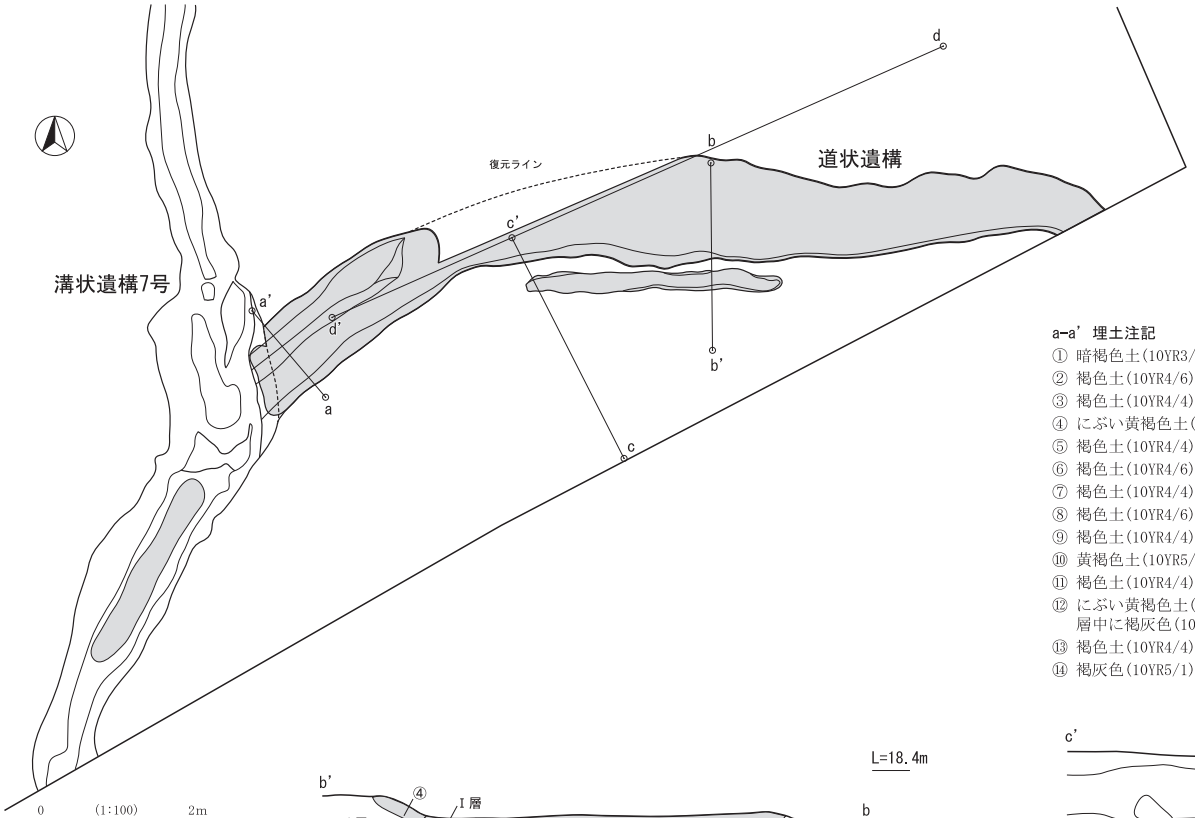


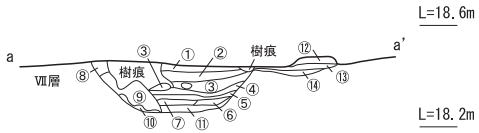
0 (1:3) 10cm

第92図　溝５・６・８号及び出土遺物



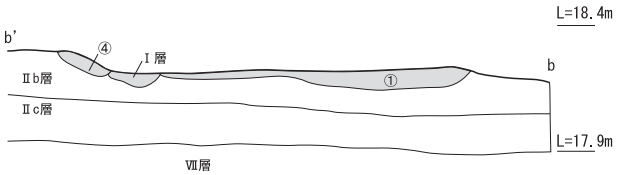
第93図　溝７・９・13・15号及び出土遺物

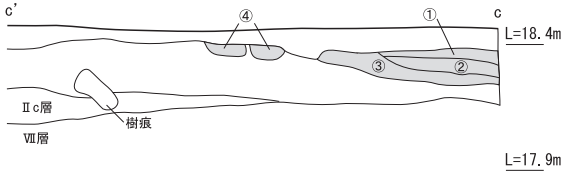


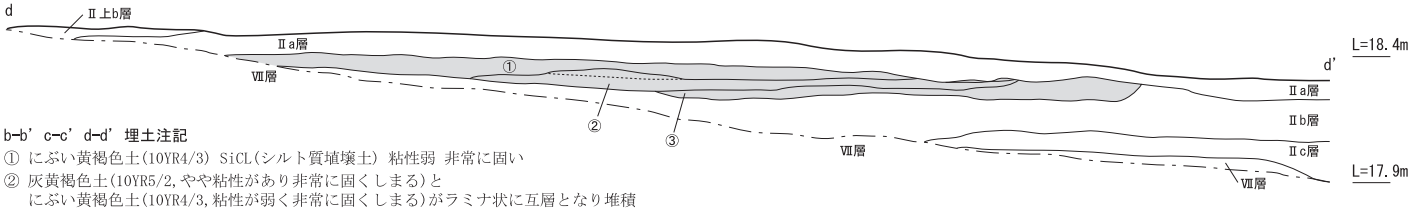


a-a' 埋土注記

① 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり 粘性弱 1cm大のシラスブロックを5%含む
② 褐色土(10YR4/6) 粘性弱 非常に固くしまる
③ 褐色土(10YR4/4) 粘性弱 非常に固くしまる
④ にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性弱 非常に固くしまる
⑤ 褐色土(10YR4/4) 粘性弱 非常に固くしまる
⑥ 褐色土(10YR4/6) 粘性弱 固くしまる
⑦ 褐色土(10YR4/4) 粘性弱 非常に固くしまるシラスブロック及び黒色土ブロックを20%含む
⑧ 褐色土(10YR4/6) 粘性弱 しまりあり シラスブロック及び褐灰色(10YR4/1)のブロックを20%含む
⑨ 褐色土(10YR4/4) 粘性弱 しまりあり
⑩ 黄褐色土(10YR5/8) 粘性ややあり しまりあり
⑪ 褐色土(10YR4/4) ※⑦より灰味がかる 粘性弱 非常に固くしまる
⑫ にぶい黄褐色土(10YR5/4) 粘性弱 非常に固くしまる
層中に褐灰色(10YR5/1)SiCLをラミナ状に含む 全体的に硬化している
⑬ 褐色土(10YR4/4) 粘性弱 非常に固くしまる
⑭ 褐灰色(10YR5/1) 粘性ややあり 非常に固くしまる







b-b' c-c' d-d' 埋土注記

① にぶい黄褐色土(10YR4/3) SiCL(シルト質埴壌土) 粘性弱 非常に固い
② 灰黄褐色土(10YR5/2,やや粘性があり非常に固くしまる)と
にぶい黄褐色土(10YR4/3,粘性が弱く非常に固くしまる)がラミナ状に互層となり堆積
③ ①と類似する
④ 褐色土(10YR4/4) SiCL 粘性弱 中央付近は非常に固くしまる

0 (1:30) 1m
(断面)

第94図　溝状遺構断面図

（4） 低湿地の調査

調査の概要

Ｃ～Ｅ－19～22区は，調査開始時点で水が溜まっており，低湿地の様相を呈していた。湧水は，調査開始前には表土直下から認められたが，調査・掘削が進捗すると，低Ⅱ層と地山であるⅦ層（シラス）との層境から認められるようになった。この地点では，地形と湧水を利用して，近世から現代（1980年代）まで営々と水田が営まれており，その面数は，断面で確認した結果10面を超えるものであった。また，稲作については，花粉分析及びプラントオパール分析の結果，中世まで遡る可能性が想定された。

今回の発掘調査では，現代～近世の水田跡については調査対象とせず，重機により掘削を行い，中世に堆積したと想定された低Ⅱ層（平成21年度はⅡ層）を調査対象として，人力による掘削，遺構検出・調査及び遺物の取り上げを行った。

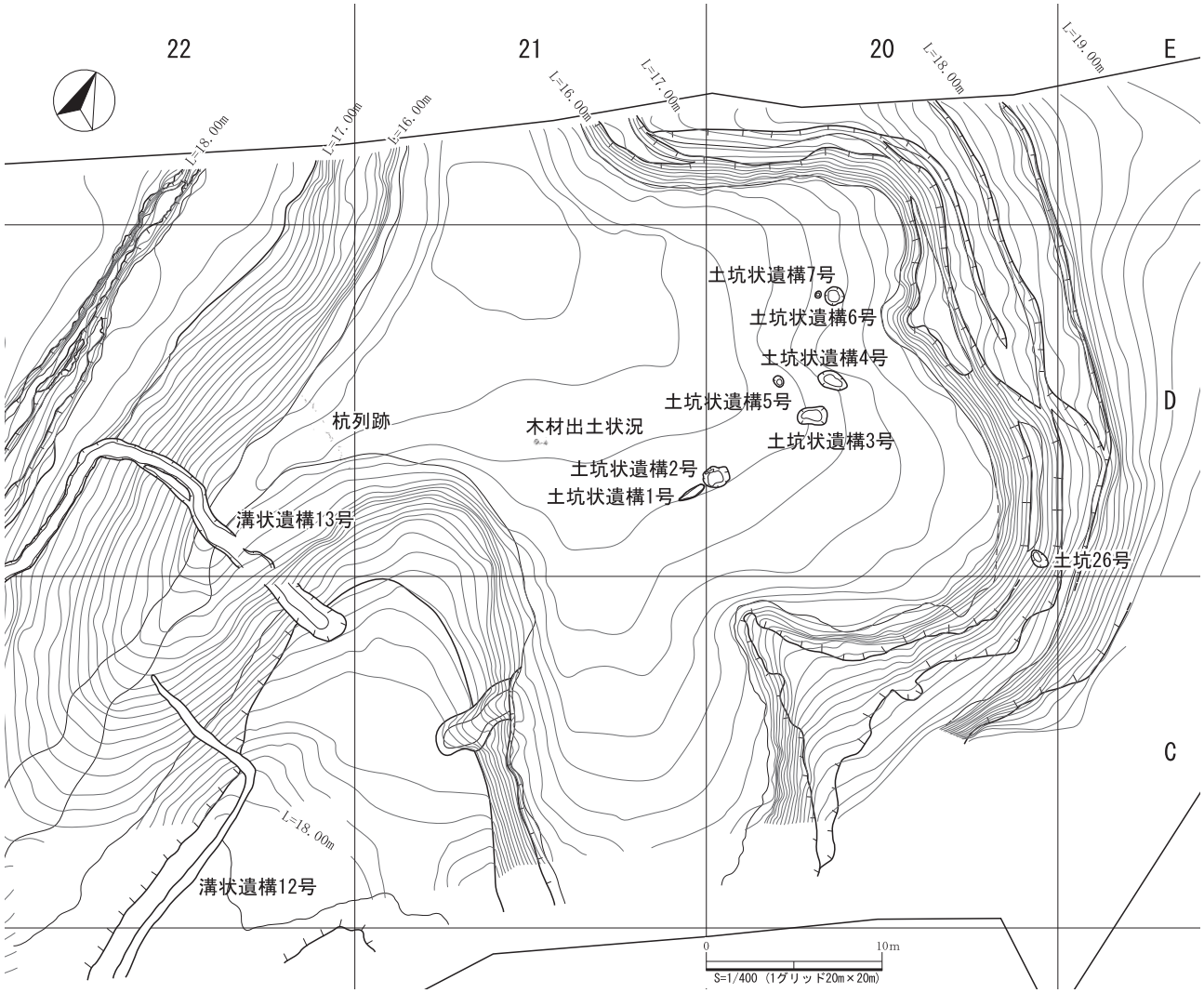
低Ⅱ層の掘削は，木製品やその他自然遺物の検出に注意しながら行い，杭列などの遺構は低Ⅱ層掘削中に検出した。また，低Ⅱ層掘削後，Ⅶ層上面で円形や楕円形状に黒色土や暗灰色土の堆積を確認した場合は，土坑状遺構として調査を行った。

低Ⅱ層掘削後，Ⅶ層状面で遺構精査及び地形測量を行った。その結果，Ｃ～Ｅ－19～22区では，八つ手状の小さな谷状地形が入り組んでおり，Ｄ－21区Gb小グリッド付近を底に，全体的に南東から北西方向へ傾斜していることが判明した。

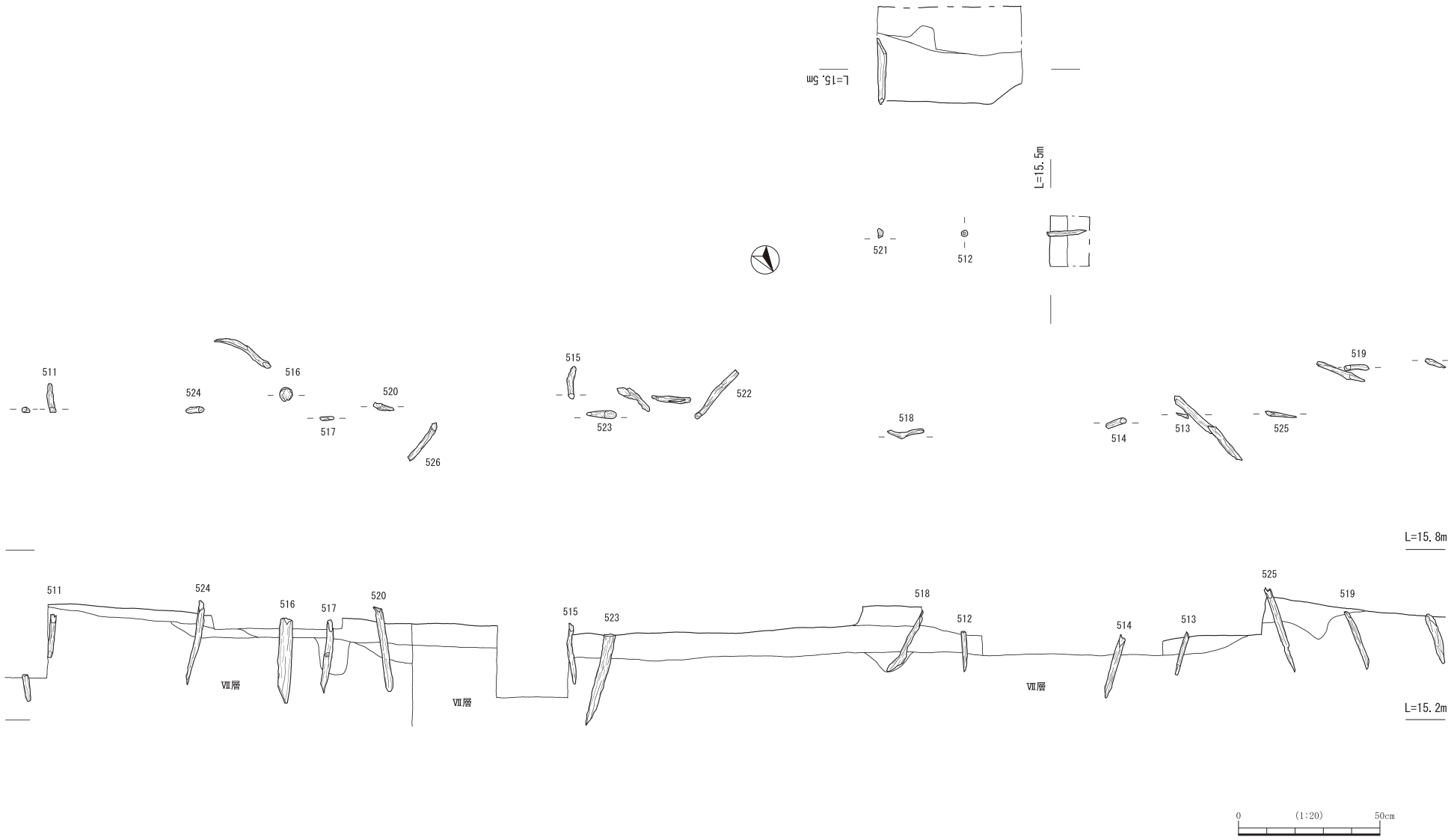
低Ⅱ層における遺物の出土状況は，Ｃ・Ｄ－21区をピークに，北西方向へ薄くなる。また，湧水も南東から北西へ向かって流れていることが判明した。したがって，低Ⅱ層は，南西方向からの流れ込みによる堆積と判断した。調査状況から，この付近における中世の大規模な土地造成等は想定できない。

杭列跡（第96～98図）

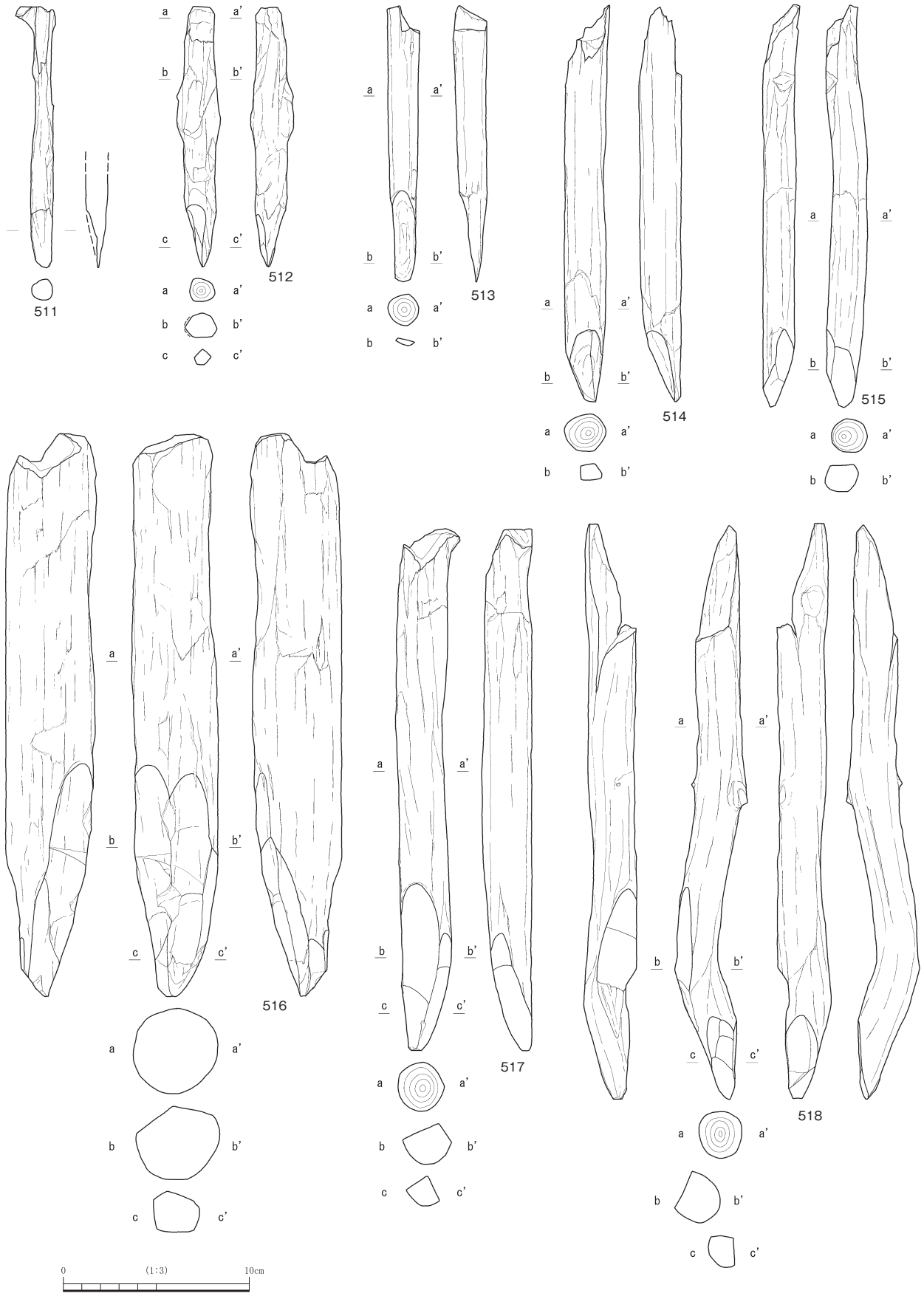
検出状況　Ｄ－21・22区の南北方向に延びる谷状地形の先端付近で，低Ⅱ層掘削中に，木製の杭が立位で検出された。そこで，掘削中の面で遺構の精査を行ったところ，10本程度の木製杭が，谷状地形に直交するような状況で列を成していることが確認された。杭列跡よりも



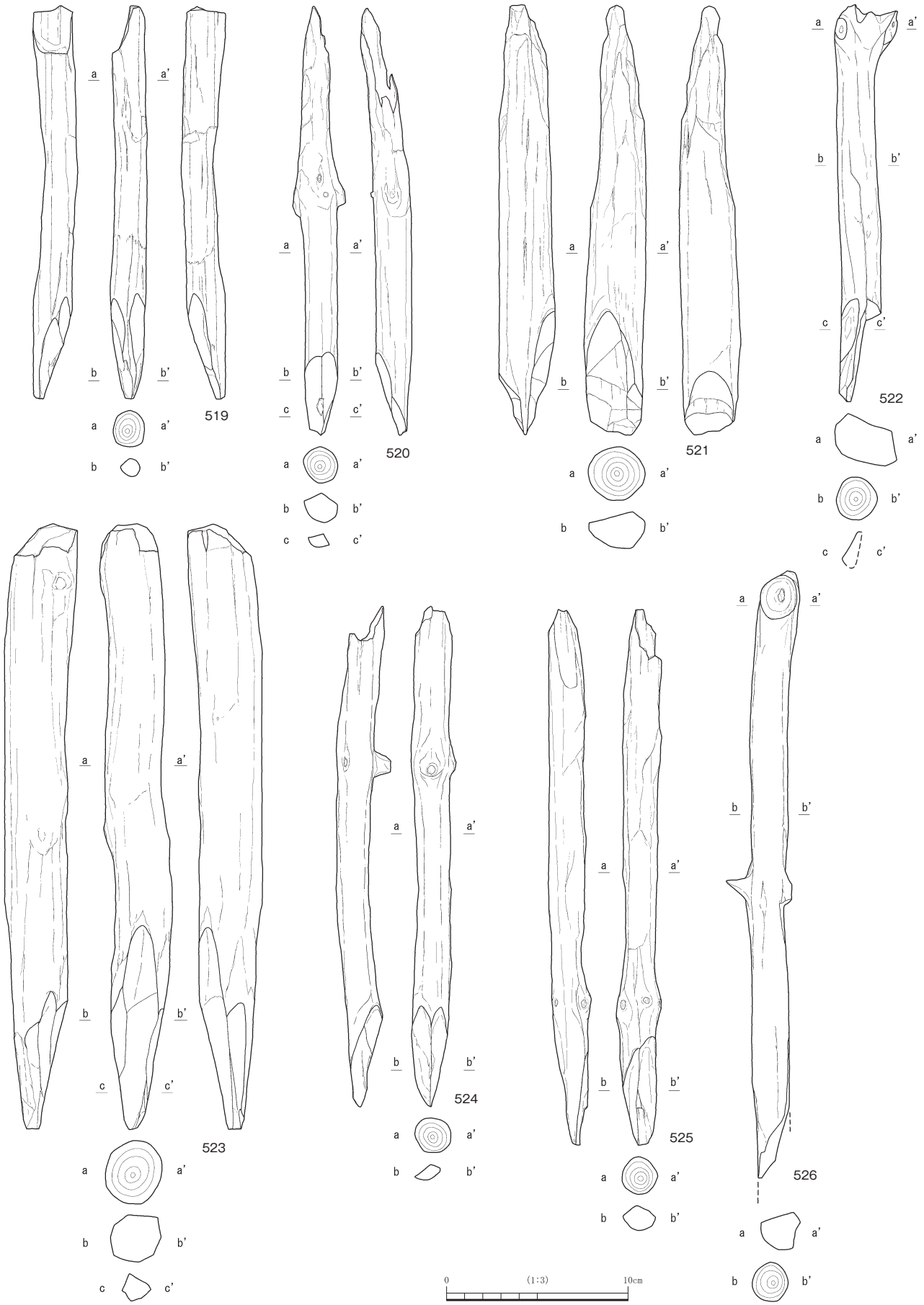
第95図　低湿地遺構配置図


L=15.5m
521
512
L=15.5m
511
524
516
517
520
526
515
523
522
518
514
513
525
519
L=15.8m
511
524
516
517
520
515
523
518
512
514
513
525
519
Ⅶ層
Ⅶ層
Ⅶ層
L=15.2m
0
(1:20)
50cm

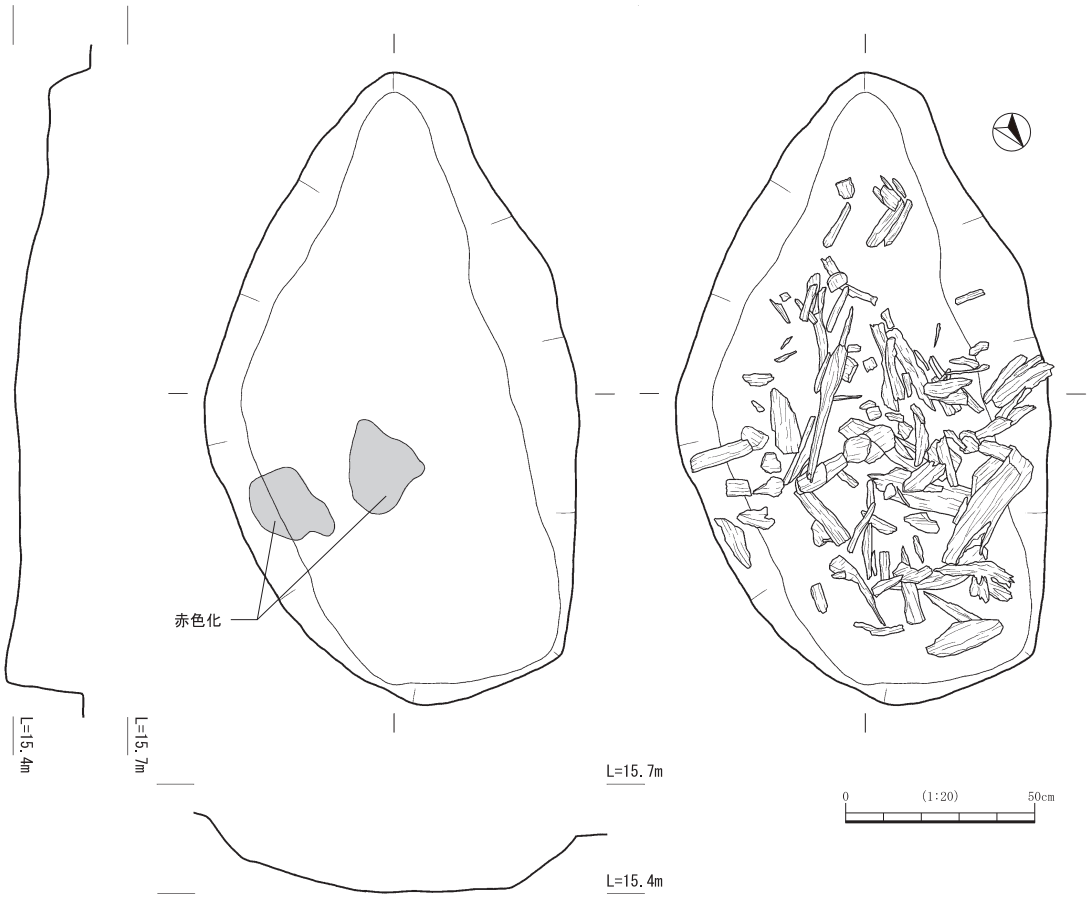
第96図　杭列跡



第97図　杭列跡出土木製品（1）



第98図　杭列跡出土木製品（2）



第99図　土坑状遺構１号

東側では湧水が認められ，低Ⅱ層が堆積するが，南西側の谷状地形の底部付近には湧水は認められず，湿り気を帯びないⅡ層の堆積へと変化する。

また，その列の南西70cm程度の地点で，２本の木製杭が平行に並んでいることが確認された（512・521）。木製杭の数は16本で，最初の検出面から５～10cm掘削を進めたところ，杭列との関連を想定される棒状の木材が出土した。

規模　杭列は，東西約５ｍの範囲で並んでいる。各杭間の間隔は，６～100cm程度と幅があるが，20～30cm程度のものが多い。

遺物　木製の杭16点と棒状の木材４点が出土し，そのうち16点を図化した。木製杭は全てⅦ層まで打ち込まれており，Ⅶ層～低Ⅱ層中に含まれる部位のみ残存している。519～525は木製杭である。太さ1.6～4.6cmの棒状の木材の先端を削り出し，杭に加工している。一部に枝を切り落とした様な加工痕が認められるが，体部の加工はほとんど行われておらず，一部に樹皮が確認できた。522, 526は棒状木製品である。先端部は破損しているが，体部に加工痕が観察される。杭列の樹種また年代測定結果については第４章を参照されたい。

土坑状遺構　低湿地では，Ⅶ層上面で円形や楕円形状に低Ⅱ層（黒色土～暗灰色）の堆積を確認された。人為的な掘り込みなのか，自然の窪地かということは判断できなかったが，比較的壁面がしっかりと立ち上がるものについては，土坑状遺構として記録を作成した。

土坑状遺構１号（第99図）

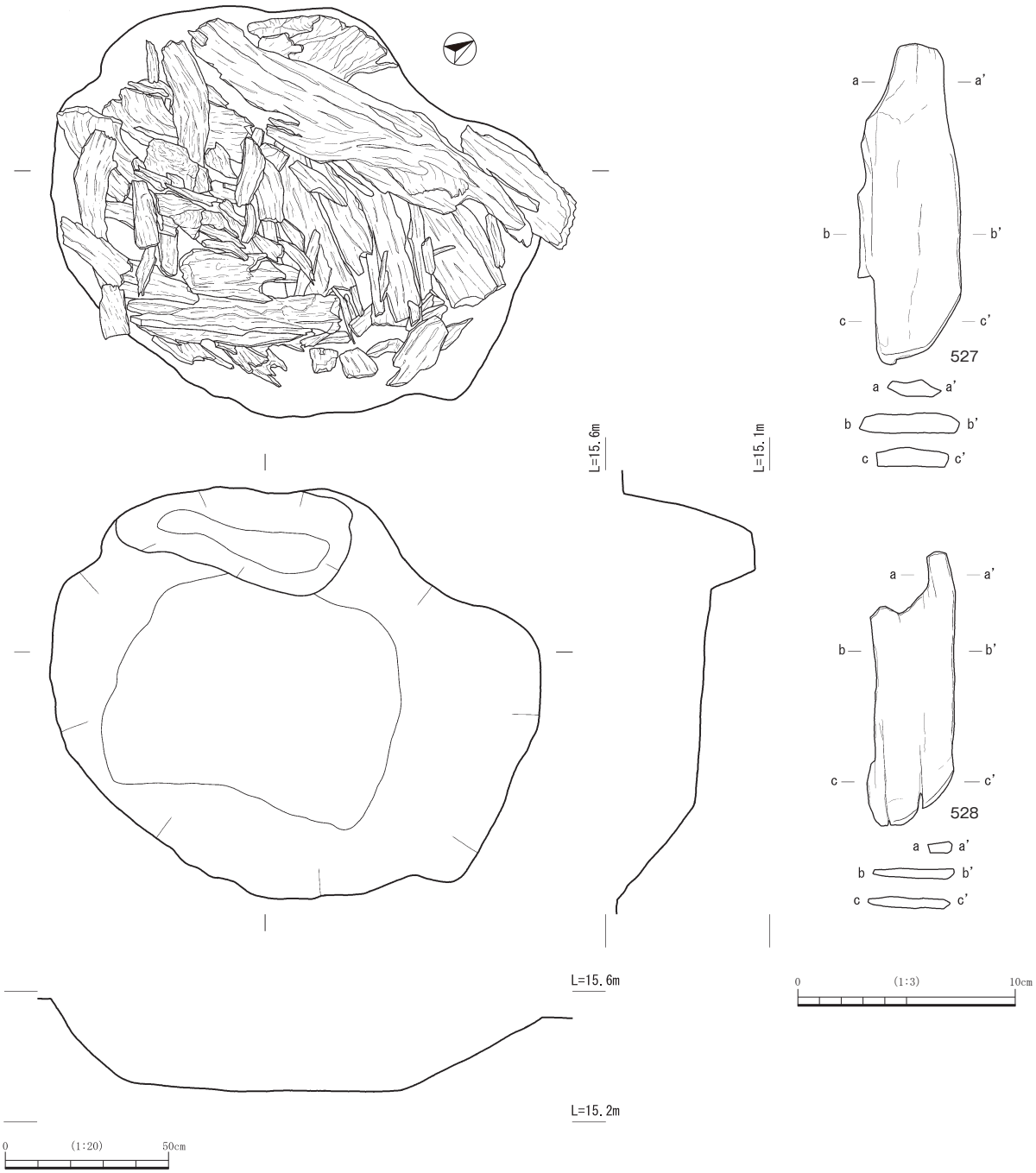
検出状況　Ｄ－21区で一部の木材が露出する状態で検出された。北東には土坑状遺構２号が隣接する。

規模・断面形　規模は長軸168cm，短軸100cmで，検出面からの深さ21cmである。断面形は，長軸方向は比較的壁面が立つが，短軸方向では八の字状に近い。

埋土等の状況　埋土は黒色の低Ⅱｄ層からなる。埋土中には，多量の木材が混入しており，一部で炭化した木材が見られた。また，本遺構の床面で赤色化している範囲も認められた。木材には，数cm程度の小片から長さ30cmを超える大型のものまで含まれている。調査時に木材の加工痕等の有無を確認したが，明確なものは認められなかった。

土坑状遺構２号（第100図）

検出状況　Ｄ－20区で一部の木材が露出する状態で検



第100図　土坑状遺構２号及び出土木製品

出された。南西には土坑状遺構１号が隣接する。

規模・断面形　規模は長軸 149cm，短軸 125cmで，検出面からの深さ 25cmだが，北西側は 40cm程度と一部深くなる。断面形は，緩やかなすり鉢状を呈するが，一部壁面が立つ箇所もみられる。

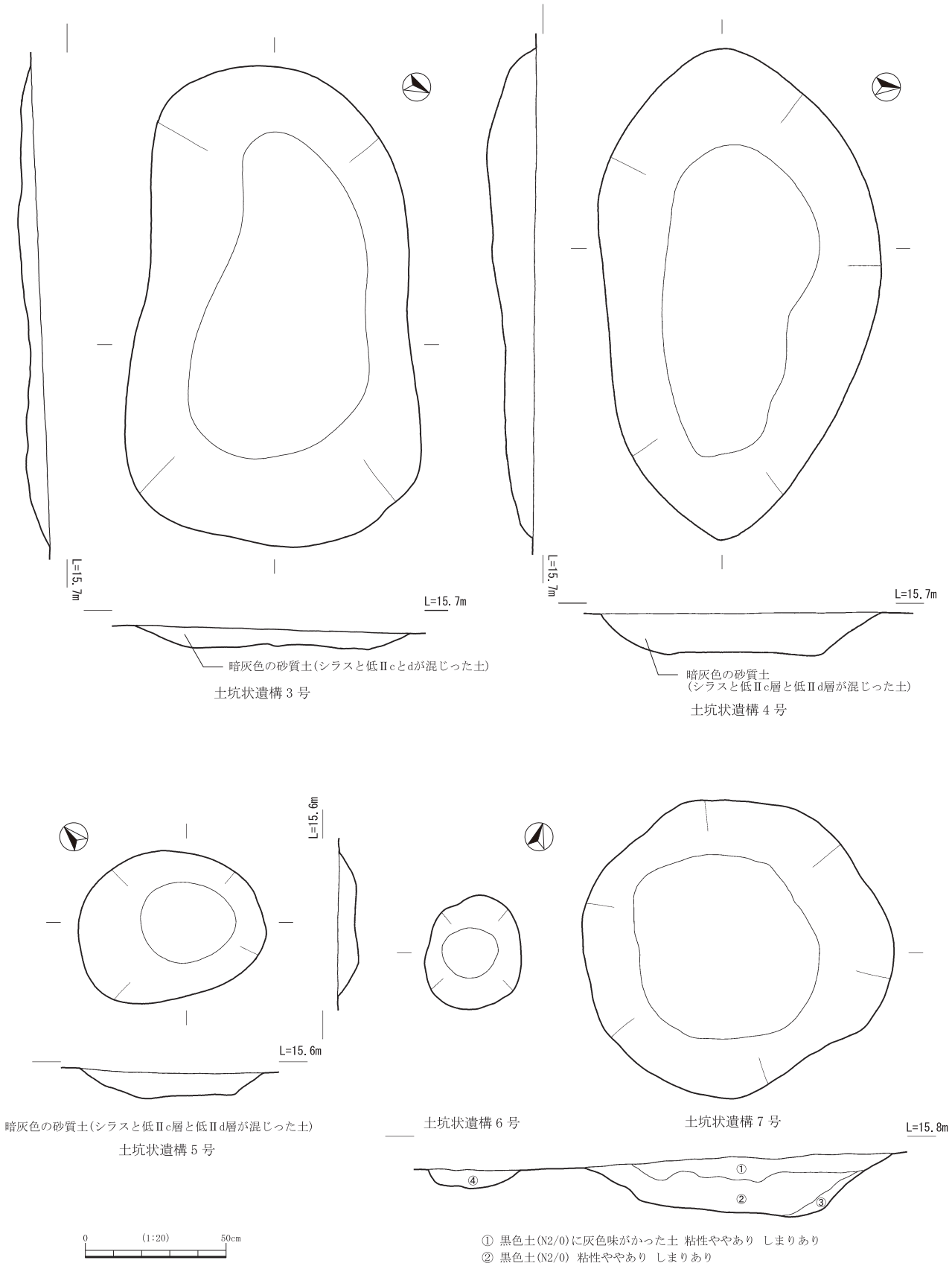
埋土等の状況　埋土は黒色の低Ⅱｄ層からなる。埋土中には，多量の木材が混入しているが，土坑状遺構１号と比較して大型のものが多く，中には長さ 100cmを超えるものも存在した。木材は自然木と判断されるものが大半を占めたが，527，528 のように，薄手で一部削り出されたような痕跡が見られるものも存在する。

土坑状遺構３号（第 101 図）

検出状況　Ｄ－20 区で検出された。北側には土坑状遺構４号が位置する。

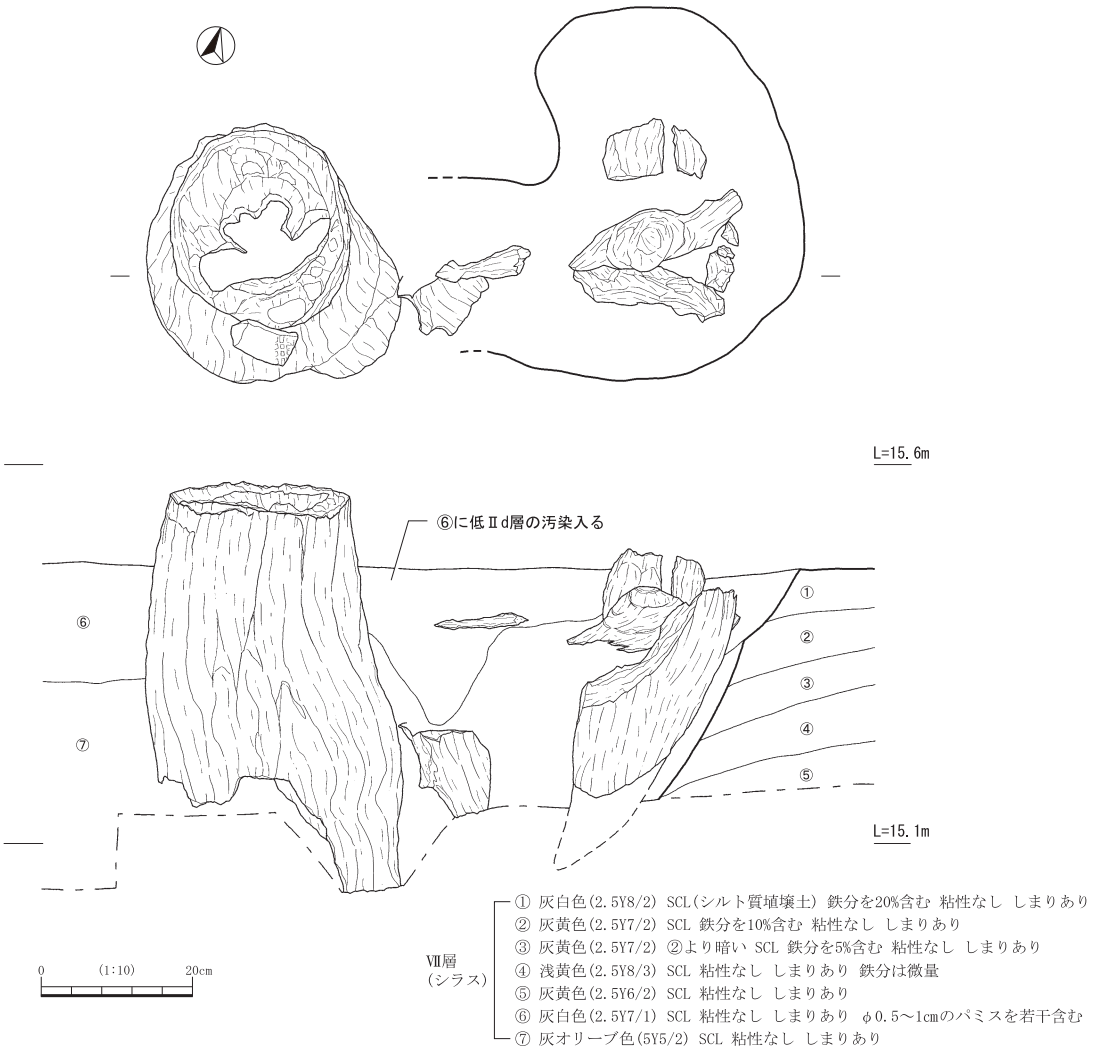
規模　規模は長軸 170cm，短軸 98cmで，検出面からの深さ８cmである。平面形は角丸の長方形を呈し，断面形は，壁面は八の字状で，床面には凹凸がみられる。

埋土　埋土は暗灰色の砂質土で，本遺構を覆っていた低Ⅱｃ層とⅦ層（シラス）が混じり合ったものである。



① 黒色土(N2/0)に灰色味がかった土 粘性ややあり しまりあり
② 黒色土(N2/0) 粘性ややあり しまりあり
③ 黄灰色土(2.5Y5/1) 粘性なし しまりあり
④ 黒色土(N2/0) 粘性ややあり しまりあり

第101図　土坑状遺構３～７号



第102図　木材出土状況

土坑状遺構４号（第 101 図）

検出状況　Ｄ－20 区で検出された。南側には土坑状遺構３号が，西側には土坑状遺構５号が位置する。

規模　規模は長軸 174cm，短軸 100cmで，検出面からの深さ 17cmである。平面形は東西方向に潰れた不整形な楕円形を呈し，断面形は，壁面は緩やかに立ち上がる。

埋土　埋土は土坑状遺構３号と同じ暗灰色の砂質土である。

土坑状遺構５号（第 101 図）

検出状況　Ｄ－20 区で検出された。東側には土坑状遺構４号が位置する。

規模　規模は長軸 65cm，短軸 52cmで，検出面からの深さ９cmである。平面形は潰れた円形を呈し，断面形はすり鉢状である。

埋土　埋土は土坑状遺構３号と同じ暗灰色の砂質土である。

土坑状遺構６号（第 101 図）

検出状況　Ｄ－20 区で検出された。東側には土坑状遺構７号が隣接する。

規模　規模は長軸 40cm，短軸 34cmで，検出面からの深さ６cmである。平面形は円形で，断面形はすり鉢状を呈する。

埋土　埋土は土坑状遺構７号と同じく低Ⅱｄ層からなる。

土坑状遺構７号（第 101 図）

検出状況　Ｄ－20 区で検出された。西側には土坑状遺構６号が位置する。

規模　規模は長軸 110cm，短軸 105cmで，検出面からの深さ 20cmである。平面形は円形に近く，断面形はすり鉢状を呈する。

埋土　埋土は低Ⅱｄ層である。

その他

D－20区Cdでは，低湿地の底面が傾斜する地形の変換点付近で，竹を用いた遺構が検出された。残存状況が悪く，図化及び取り上げはできなかったが，複数の竹が縦に地中に並べて刺さっている状況であった。

また，低湿地では遺構ではないが，樹木や樹種の集中などが確認された。特徴的なものを報告したい。なお，樹種や種実に関しては，第４章を参照されたい。

D－21区Fbでは，低Ⅱｃ・ｄ層からⅦ層にめり込む状態で大型木材が検出された。木材は切り株のような状態で，太さは40cmを超え，残存長100cm程度である。樹種はクスノキである。D－20区Ccの土坑状遺構４号と土坑状遺構５号の中間付近の低Ⅱｃ～ｄ層中において，50×50cm程度の範囲で種実が集中して検出された。種実同定の結果，クスノキの種子であることが判明した。

出土木製品

529～538は杭である。棒状の木材の先端を削り出し，杭に加工している。529は完形で，樹皮は残存しない。530は，上部と下部が割れた状態で出土した。接合した状態で図化している。先端の加工は明瞭である。531は，上部は欠損するが，下部の加工痕や体部の残存状態は良い。先端加工は，２回に分けて削り出した痕跡がみられる。

532は，約45cmと長めの木材で，体部には枝の切り離し痕や樹皮などはみられない。533は枝を切り落とした加工痕が認められる。533，534は体部の枝を切り落とした切り込みがみられる。先端の削り出しは浅い。535は，細めの棒状木材を使用する。上部にも浅い削り出しがみられ，下部の先端部の削りだしは広く，やや鋭利な面をつくりだす。536は上部が炭化している。枝が残るが，一部の枝は切り落とされている。537は全体が炭化している。538は先端部の削り出しに穿孔がある。

539は椀の底部である。外面は黒色の被膜で覆われ，内面は一部に赤褐色の被膜がみられる。漆器である可能性がある。540は蓋である。現存する最大径は7.4cmを測る。左右側面に面を成し，略楕円形を呈する。外面はレンズ状を呈する。内面は略円状のかえりが削り出され，内面は凹む。541～550は，加工痕が確認できる木製品だが，用途が不明なものである。541は船底形に削り出されており，両端は斜めに面取りされ，鋭利になる。

542は，板状の加工品で，正面図右側面が弧を描くように成形されており，左側面は破損した痕跡が残る。543はわずかに曲線を成すように成形される。先端部は削り出しの加工痕が残る。543は三角柱状の形状を成す。中央部には上下方向に鋭利な工具痕も確認できる。全体が炭化している。544は上部と左右側面に削り出し痕が残る。545は，上部に鋭利な工具で施された切れ込みがあり，下部は工具によって削り出される。裏面は破損している。546は板状を呈しており右側面と下部が鋭利な工具痕がみられる。547は，上下に削り出し痕がみられる。

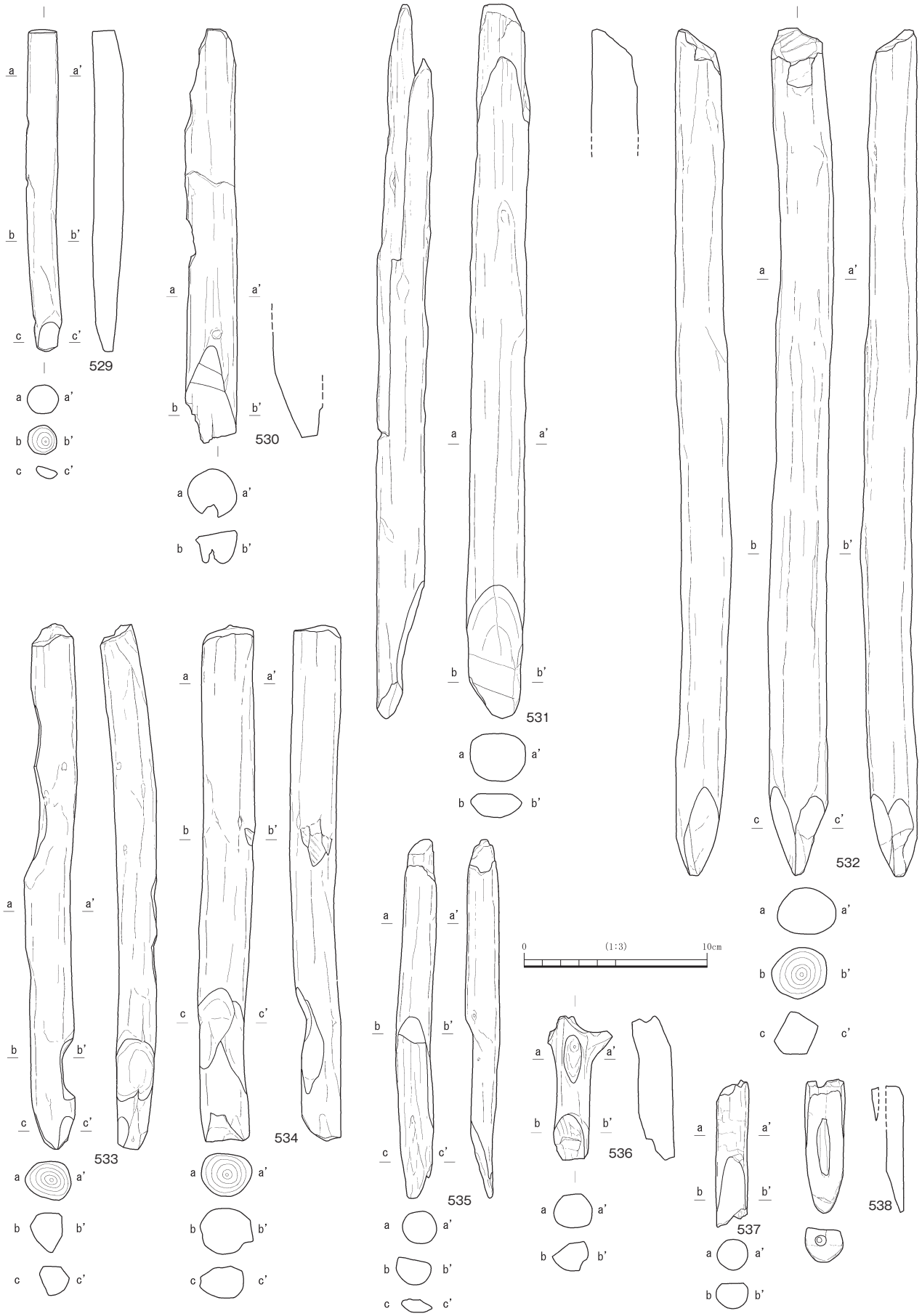
548～550は棒状木製品である。548は４面を面取りされた棒状の加工品である。549は548同様に面取りされており，上下も切断されている。550は，正面と裏面はやや幅広い面取りが施され，左右の側面は斜めに加工され，断面六角形を呈している。箸状の加工品である。

551～561は板状木製品である。551は下部に擦過痕がみられ，先端面が摩耗する。553は，下部に斜め方向の切断痕が残る。上部は欠損しているため明確には確認できないが，下部と対応した形状を呈している可能性がある。554は上部が欠損し，下部先端面が僅かに摩耗する。

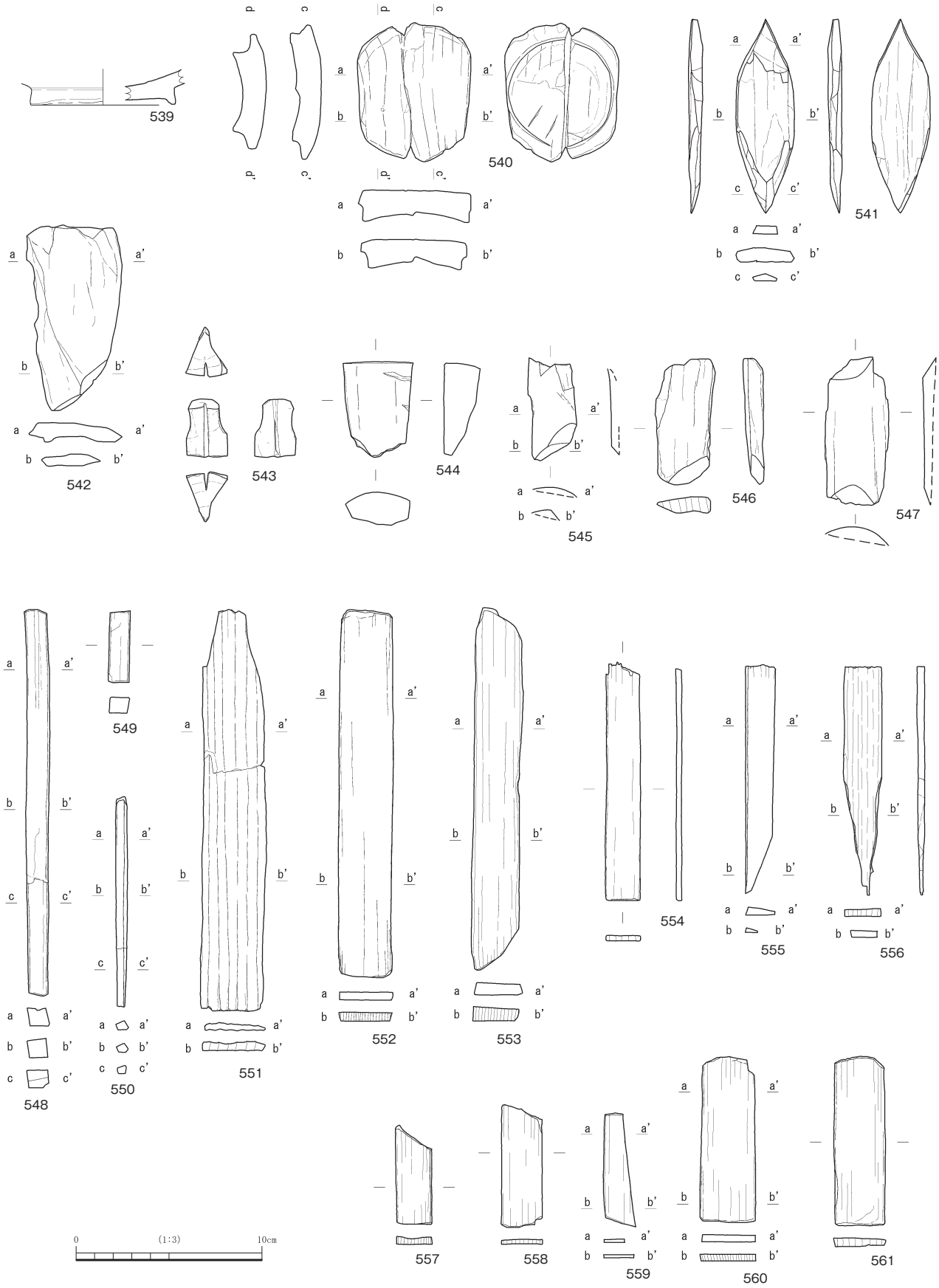
555は斜めに削り出し，鋭利になる。556は右側面下部に削り出す。左側面は切断痕が明確ではない。557，558は，上部が欠損している。559は，台形状を呈しており，ヘラ状を成す。欠損している上部以外は面取りされている。560は，上部が欠損するが，下部先端面にはわずかに摩耗する。561は，下端は厚さ６㎜，上端は厚さ３㎜と上部ほど薄くなる。

562～573は，加工痕を有するが，用途が不明なものである。562は，下部に貫通したほぞ孔状の抉りと，貫通していない溝状の抉りが残る。上部にも貫通していない溝状の抉りが残る。563は，板状を呈するが，表面，裏面には凹凸があり，厚さが一定ではない。下部は斜めに切断されている。564は，下部が斜めに切断されている。裏面は凹凸があり，上部は欠損している。565は，上下が斜めに切断されており，正面にも工具を打ち込んだ痕跡が残る。566は，上部左側が斜めに切断されている。下部は欠損部が丸みを帯びている。

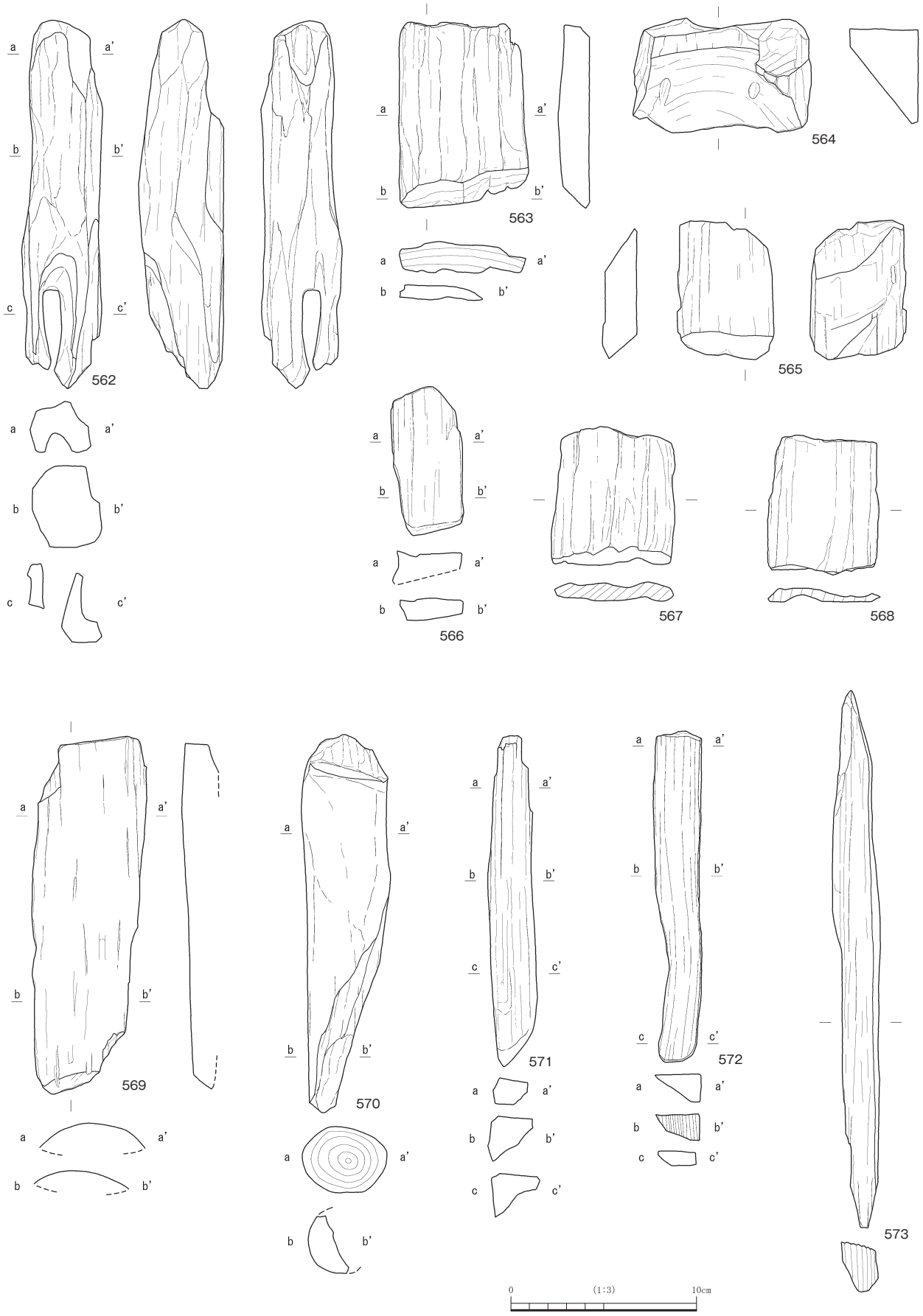
567は，概ね板状を呈するが，正面・裏面には凹凸があり，厚さが一定ではない。568は，横断面が波形を呈している。569は，上下で切断した後，縦に裂かれている。表面には樹皮が残る。570は，杭状を呈し，先端部を斜めに削り出す。571は，下部が斜めに切断されている。572は，断面長方形を呈する。573は上下端が斜めに削り出す。



第103図　低湿地　出土木製品（1）



第104図　低湿地　出土木製品（2）



第105図　低湿地　出土木製品（3）

（5） 遺構外出土遺物（第 106 ～ 126 図）

中世の遺構外遺物は，調査区ごとに報告する。出土層位は包含層及び表土のものも一括して報告する。土師器については，底部の切り離し技法が糸切りのものを中世に分類した。口径 10 ～ 16cm，底径７～ 11cmのものを坏とし，口径 10cm以下，底径５～９cmのものを皿とした。

ア　D・E－４・５区出土遺物（第 106 ～ 113 図）

土師器（第 106 図）

574 ～ 607 は土師器である。574 ～ 583 は坏である。574 は底部が９㎜程の厚さで，いわゆる円盤状の底部を呈している。底部と体部の境は比較的明瞭で、腰部はナデで面取りがされるが，表面が全体的に磨滅しているため，詳細は不明である。575 は体部がやや外反しながら立ち上がる。外面には薄く煤が付着する。576 は厚めの底部を回転ナデにより成形し，体部が斜めに引き出された後，上方に立ち上がる。体部の立ち上がりが不明瞭で，丸みをもつ。577 は緩やかに内湾しながら立ち上がる。578 は直線的に外傾する。579 ～ 583 は坏の底部である。579 ～ 582 は底部と体部の境が不明瞭だが，583 は非常に明瞭で他と比して，体部が横方向に開く。580 は二次的な焼成により，全体的な黒色化がみられる。

584 ～ 606 は皿である。584 は体部を短く引き出し，内面見込みが回転ナデ調整により凹む。586 は体部が直線的に引き出され，外方に伸びる。587 は強い回転ナデ調整により体部中央部に僅かに段をもつ。588，589 は体部が直線的に外傾し，見込み周縁部がやや凹む。591 は体部が直線的に外傾する。胎土に茶色鉱物が多く含まれる。592 は体部がやや内湾しながら立ち上がる。593 は体部をわずかに引き出し，回転ナデにより見込み周縁部が凹む。

594 は体部を短く引き出し，見込み周縁部が凹む。595 は体部を短く引き出す。596 は体部が直線的に外傾する。597 は完形で，内面は浅く，円盤形を成す。598 は内外面ともに丁寧な回転ナデ調整である。599 は体部下部に粗く引き上げたためか段をもつ。600・601 は口縁端部がやや先細りになり、丸く収まる。内外面ともに丁寧な回転ナデで調整される。604 は底部が平坦をなさず，僅かに盛り上がる。底部切り離しの糸切り痕は明瞭に残る。

605 は底部径が小さいが，体部が長く，上方に引き上げる。腰部には糸切り用の糸の痕跡が斜めに残る。

607 は小壺である。体部が肩部で曲線を描いて内湾し、算盤状を呈す。頸部は欠損しているが、上方に伸びることが確認できる。底部切り離しは糸切りで内外面は回転ナデだが、内面の調整はやや粗い。

中世須恵器（第 106・107 図）

608 ～ 620 は捏鉢である。608 ～ 614 は東播系の捏鉢で，口縁部を肥厚させる。口縁部外面には自然釉が付着し，黒色を呈す。610 は片口鉢の注ぎ口である。611 ～ 614 は底部で，比較的小型品で，内外面はナデ調整される。

615 ～ 620 は，樺万丈産の捏鉢である。内面にハケメ状の調整痕を残し，胎土には白色粒が多く含まれる。615，616，618 は外面に縦方向のハケメ後にナデ消す。617，619，620 は底部である。617 は内面見込みまでハケメ状の調整痕が残る。619 は外面に綾杉状の叩き痕を残す。

621，622 は産地不明の擂鉢である。621 は硬質で，橙色を呈す。擂目は鋭く，約 10 条で一単位入る。622 は瓦質の擂鉢で，焼成があまく，淡黄色を呈す。表面の剥落が著しい。内外面に煤が付着する。623 は茶釜の口縁部である。口縁部が垂直に立ち上がる。外面は黒色化し，胎土には白色粒を多く含む。

瓦・羽口・土錘・碁石（第 107 図）

624・625 は，平瓦である。外面に叩き痕を明瞭に残し，内面には布目痕が残る。626 ～ 628 は，鞴の羽口である。626 は先端部の破片で，被熱で溶解しており，ガラス質化している。627，628 は先端部付近の破片であり，被熱による黒色化がみられる。628 は割れ口部分が黒色化し，ガラス質化している。629 ～ 643 は管状土錘である。629，630，632 ～ 634 は焼成が良く，硬質で黒色化する。637 ～ 643 はやや赤色を呈し，表面はナデで調整される。

644 は碁石の可能性がある資料である。蛇紋岩製で丁寧に磨かれている。他にも２例図化している（873，874）。このような円礫が含まれない層からの出土であるため，碁石と考えられる資料として報告する。

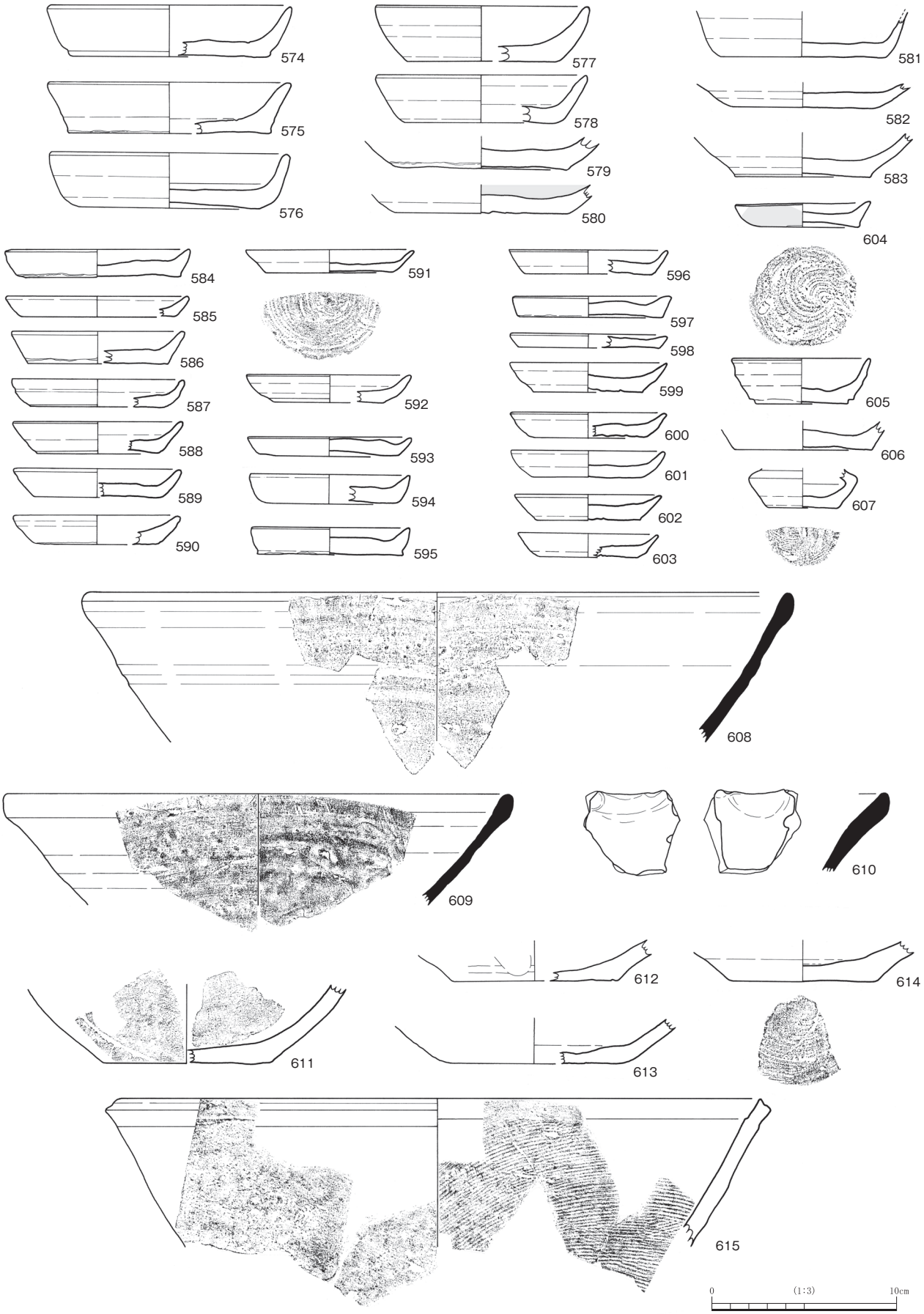
青磁（第 108 図）

645 ～ 677 は青磁である。645 ～ 651 は同安窯系青磁碗Ⅰ類である。口縁部は直口縁で，外面には縦位の櫛目文をもつ。646，647，650 は内面上位に一条の沈線，外面中位に櫛目文をもつ。さらに 650 と 651 の内面にはジグザク状の点描文が入る。

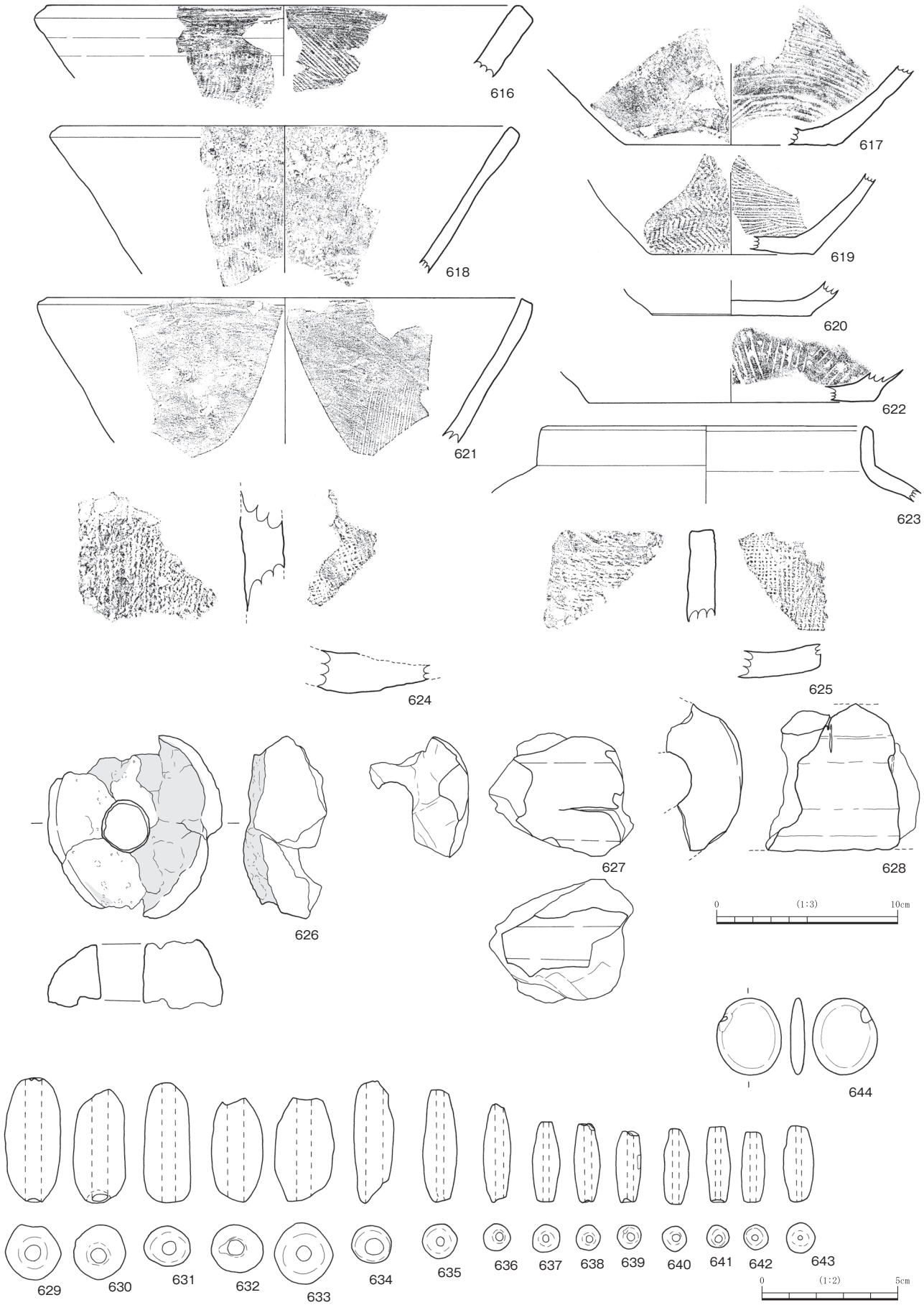
652 ～ 658 は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。652，653 は，内面に劃花文をもつ。腰部がやや張り，口縁部が直口または僅かに外反する。654 ～ 656 は底部であり，畳付から高台内面が露胎する。655 は内面見込みに片彫りの花文をもつ。657 は無文の碗である。658 は小碗である。輪花状の口縁をもち，腰部が張り，底部が厚い。畳付と高台内は露胎する。釉は厚く施釉され，発色が良く青味を帯びた緑色を呈す。

659 ～ 667 は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類に比定されるものである。直口縁で，外面に鎬蓮弁文をもつ。666・667 は底部片で，内面見込みに草花文の印文をもつ龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｃ類に比定されるものである。

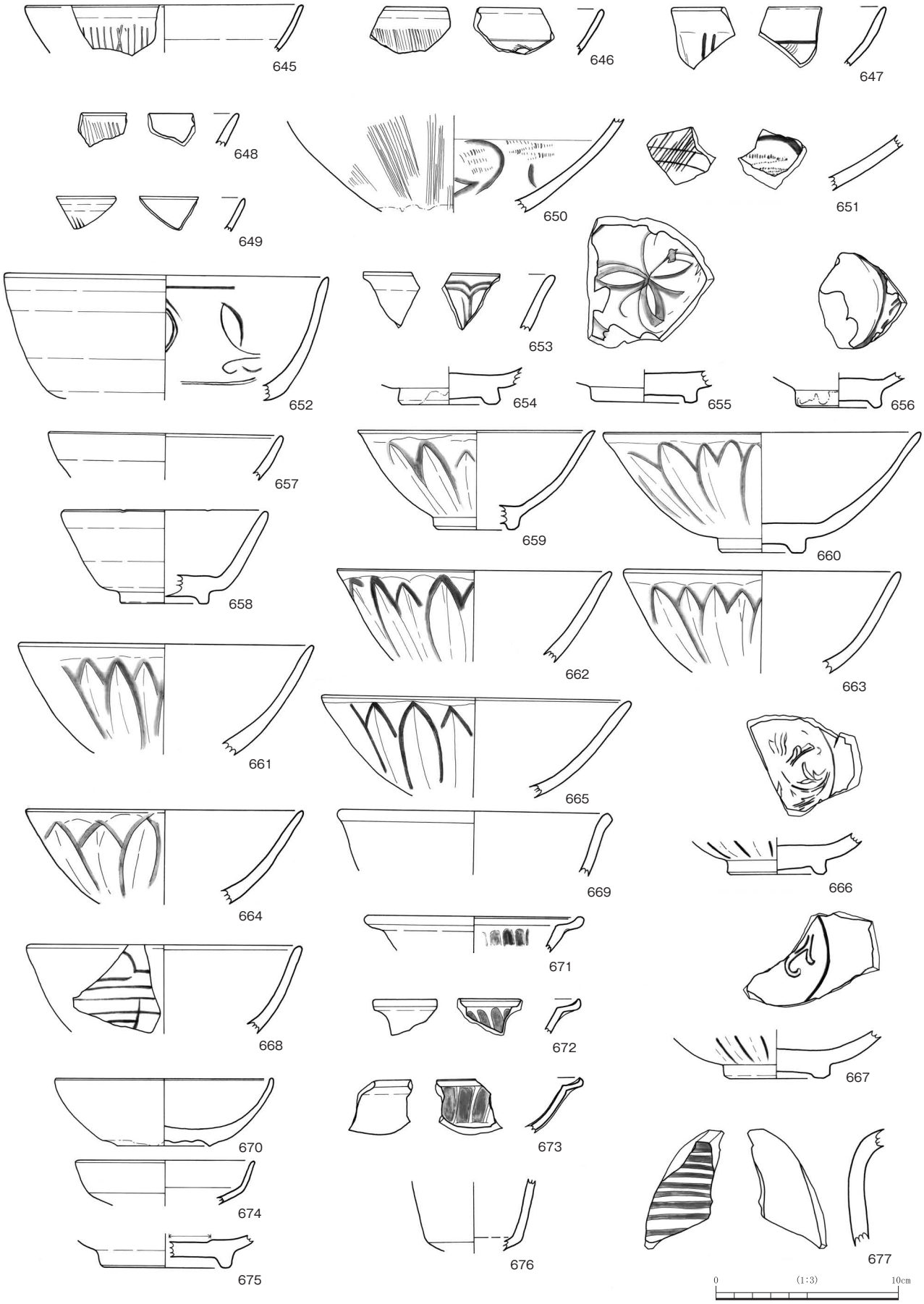
668，669 は明代以降の碗である。668 は外面に雷文帯をもつ上田Ｃ類に比定されるものである。669 は口縁部が外反し，無文のもので上田Ｄ類に比定されるものである。670 は小型の鉢である。削り出しによる碁笥底風の底部を持ち，底部内面は赤色化する。釉が厚くかかり，



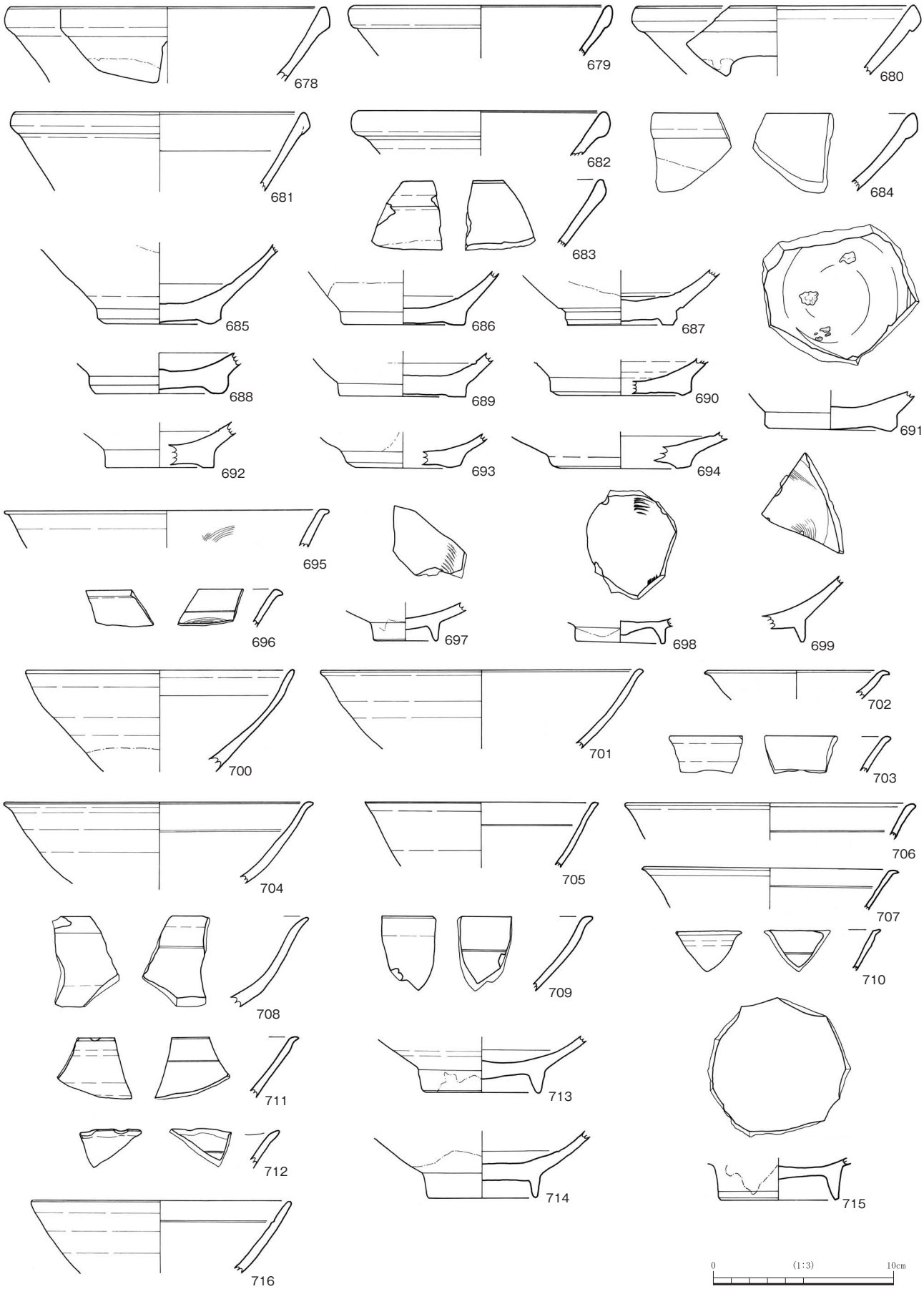
第106図　D・E－4・5区出土遺物（1）



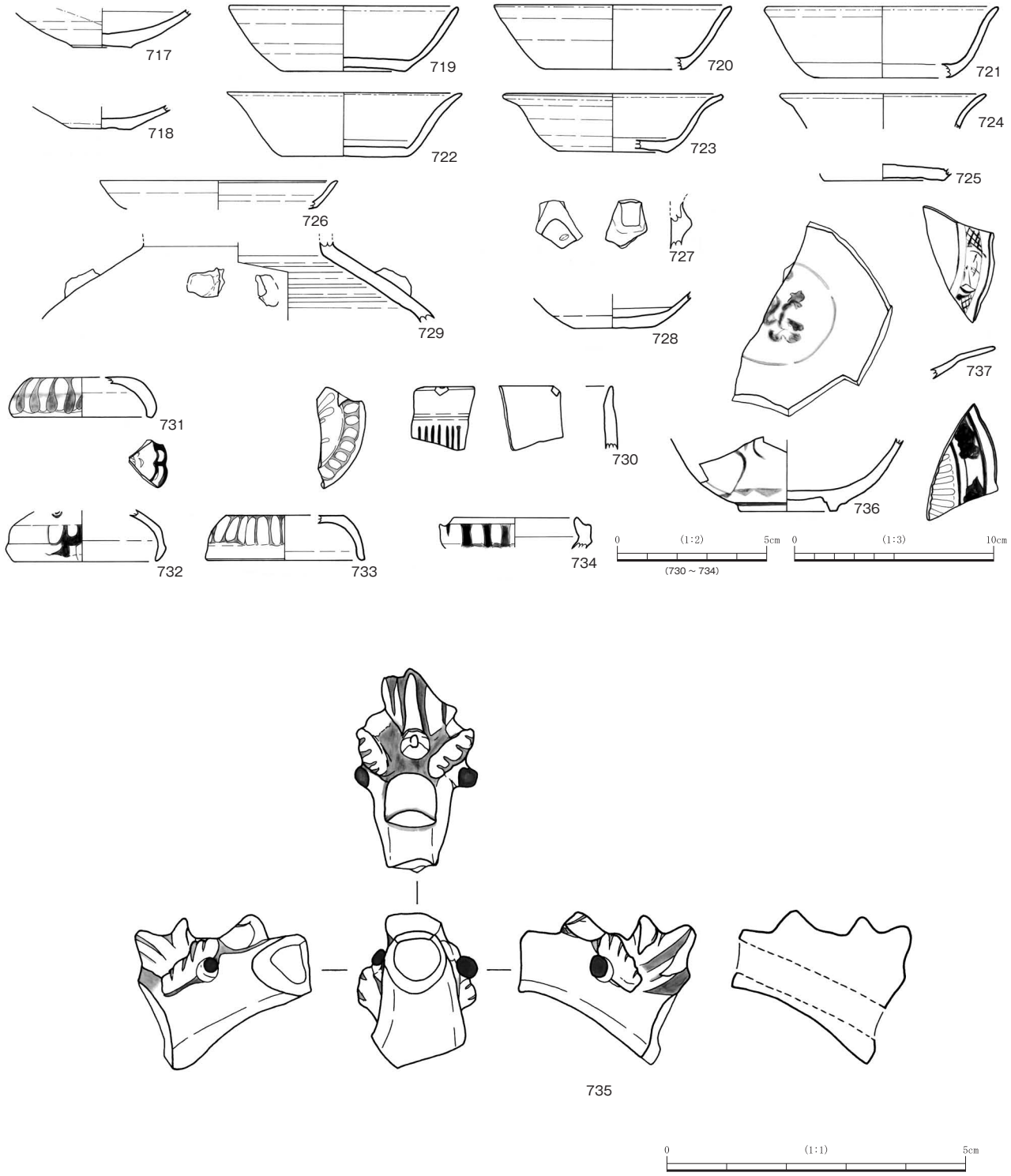
第107図　D・E－4・5区出土遺物（2）



第108図　D・E－4・5区出土遺物（3）



第109図　D・E－4・5区出土遺物（4）



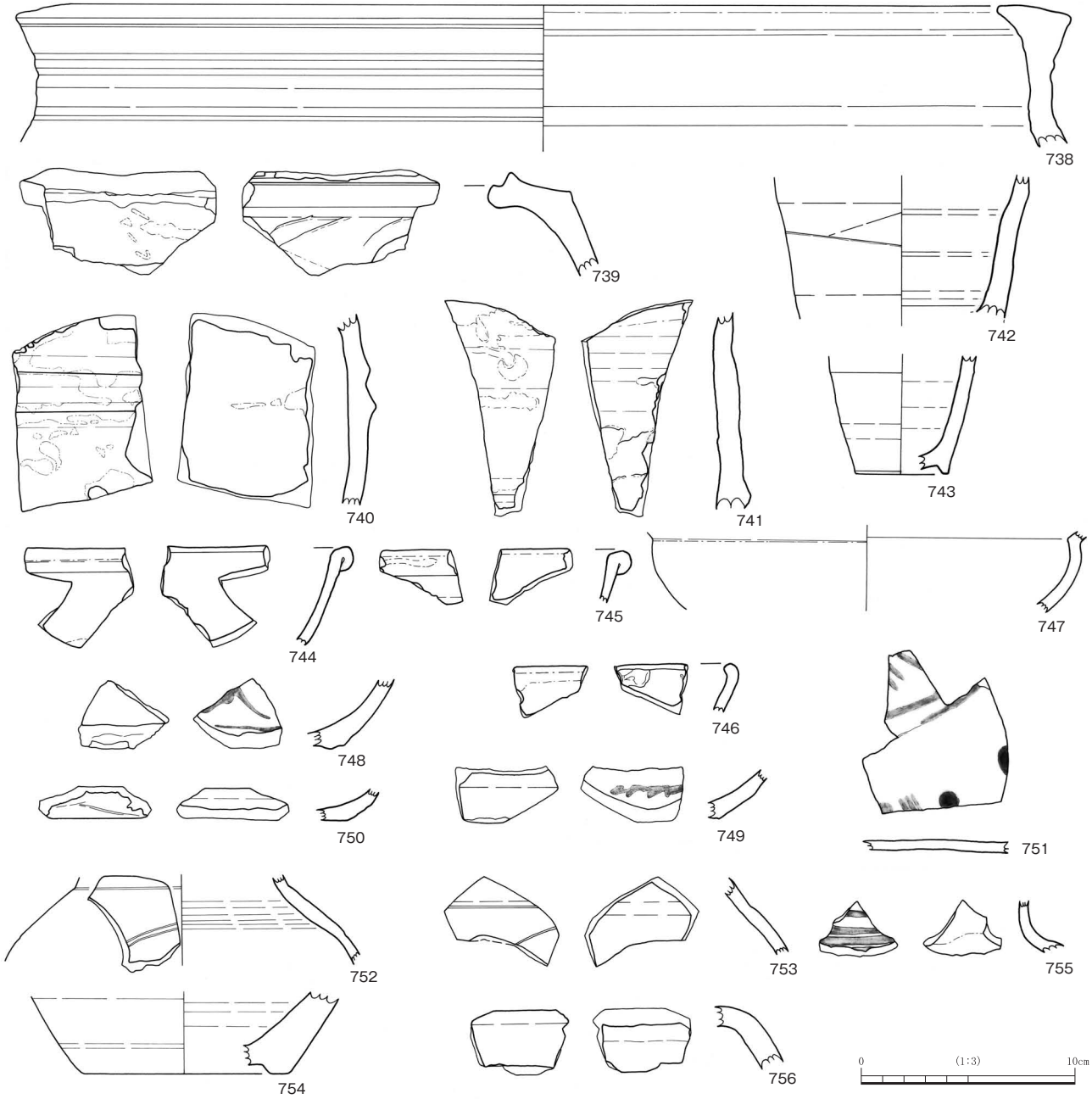
第110図　D・E－4・5区出土遺物（5）

底部には砂目が多く付着する。

674は同安窯系青磁皿である。胴部中位で屈曲し，器壁が薄く，胎土が精緻である。675は底部である。碗よりやや低い高台をもつ。内面見込みの釉を輪状に掻き取った部分が黒色化する。671～673は，龍泉窯系青磁坏Ⅲ類に比定されるものである。口縁端部を屈曲させ，上端は凹面を成し，端部をつまみあげる。内面には削り出しによる花弁状を成す。676は，筒形の香炉である。外面は施釉し，内面は露胎する。677は花瓶（花生）の頸部である。横位の線状の浮文がみられる。

白磁（第109・110図）

678～728は白磁である。678～694は，扁平な玉縁口縁をもつ白磁碗Ⅳ類に比定されるものである。釉は胴部中位以下が露胎するが，施釉部分は厚い。胎土は685,

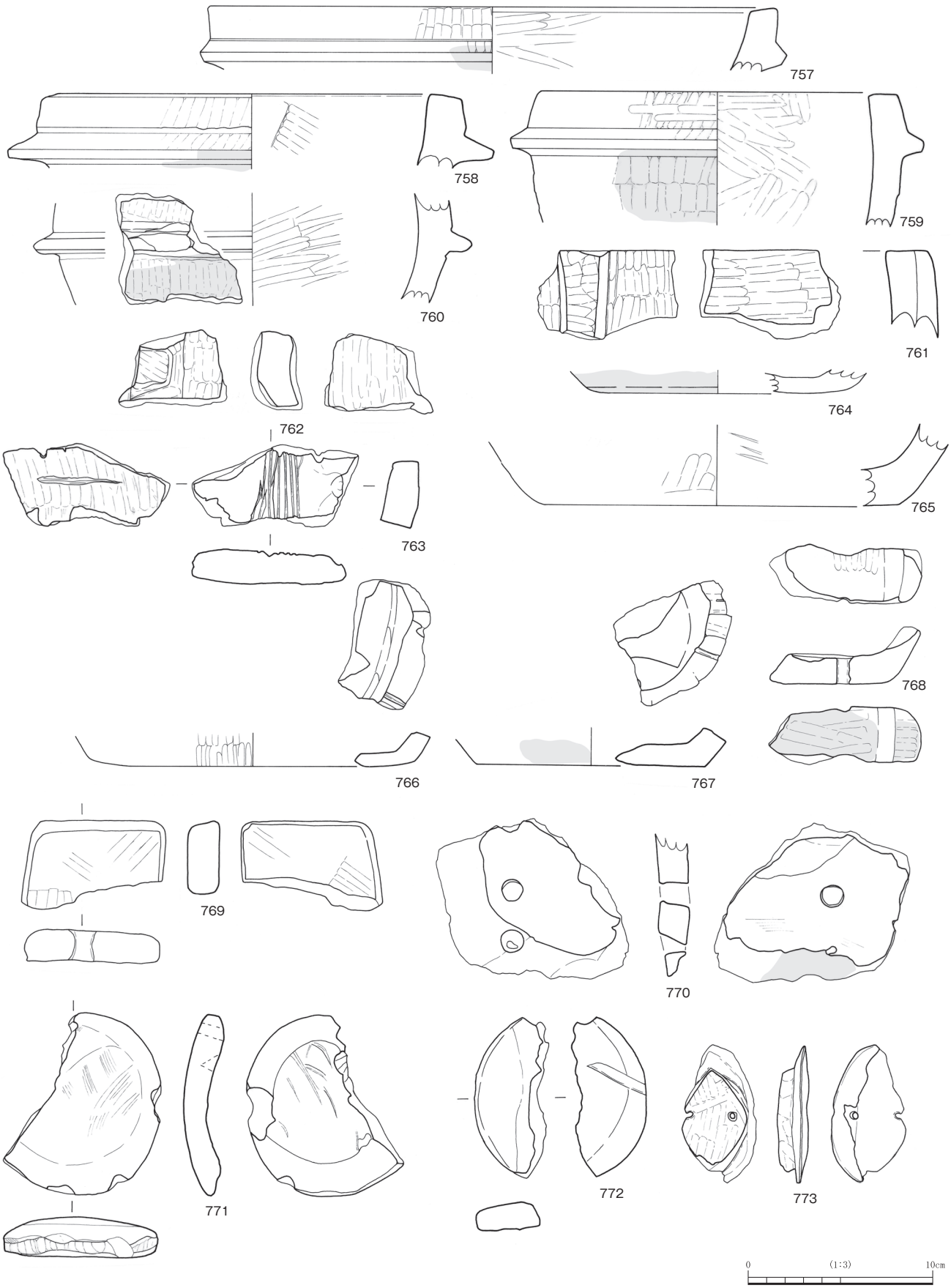


第111図　D・E－4・5区出土遺物（6）

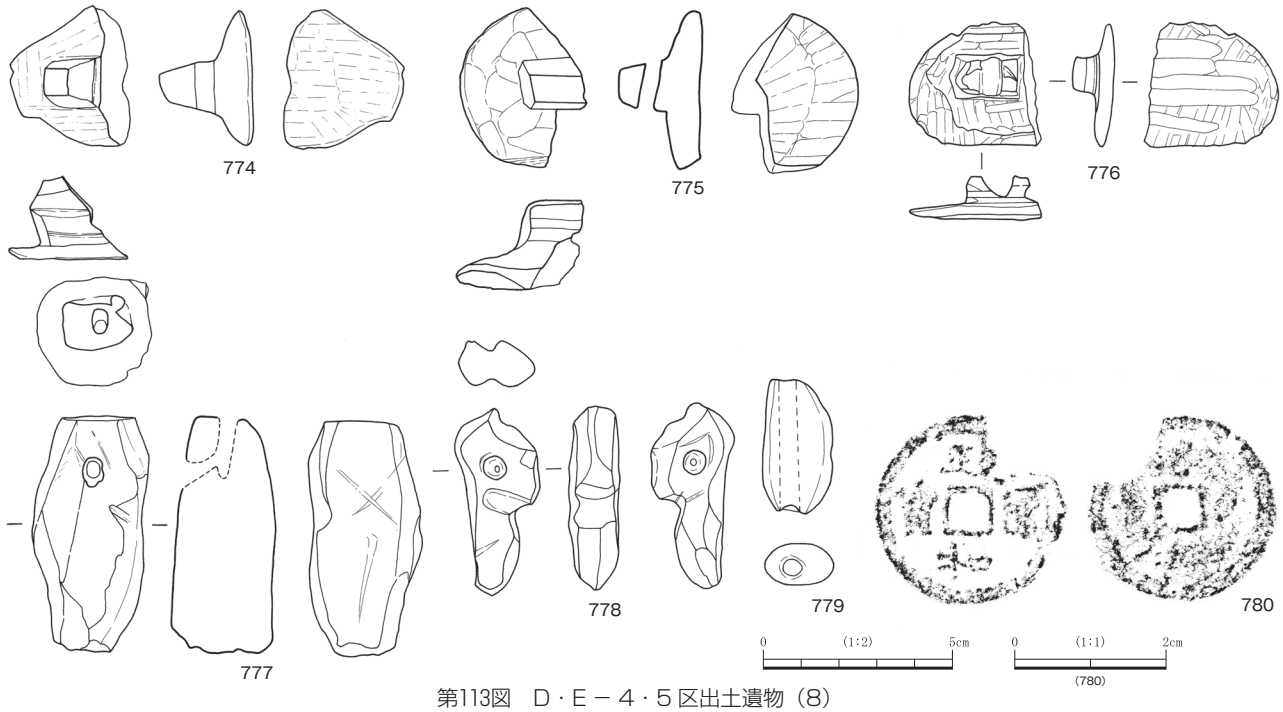
688のように淡黄色で粗いものもあるが，基本的には灰白色で精緻である。685～691は底部が厚く，高台の削りが浅い。内面下位には段をもつ。687は高台内面の釉を輪状に掻き取り，685，692は高台内面に砂目がつく。691は内面見込みに目跡がある。

695～715は白磁碗Ⅴ類である。695，696は嘴状の口縁部で内面に櫛描文をもつ。釉は胴部下位以下が露胎し，胎土は灰白色を呈し，精緻である。697～699は底部で，内面に櫛描文が施される。高台外面～高台内は露胎する。700～716は直口縁もしくは嘴状の口縁部をもつ。胎土は粗く，釉は灰色味を帯びる。外面胴部下位は露胎し，内面上位に沈線が施される。712は稜花状の口縁部をもつ。713～715は白磁碗Ⅴ類の底部で高い高台をもち，腰部～高台内は露胎する。715は意図的な打ち欠きがみられる。716は明代以降の白磁碗である。胎土・釉調が粗く，内面上位に沈線が一条巡る。

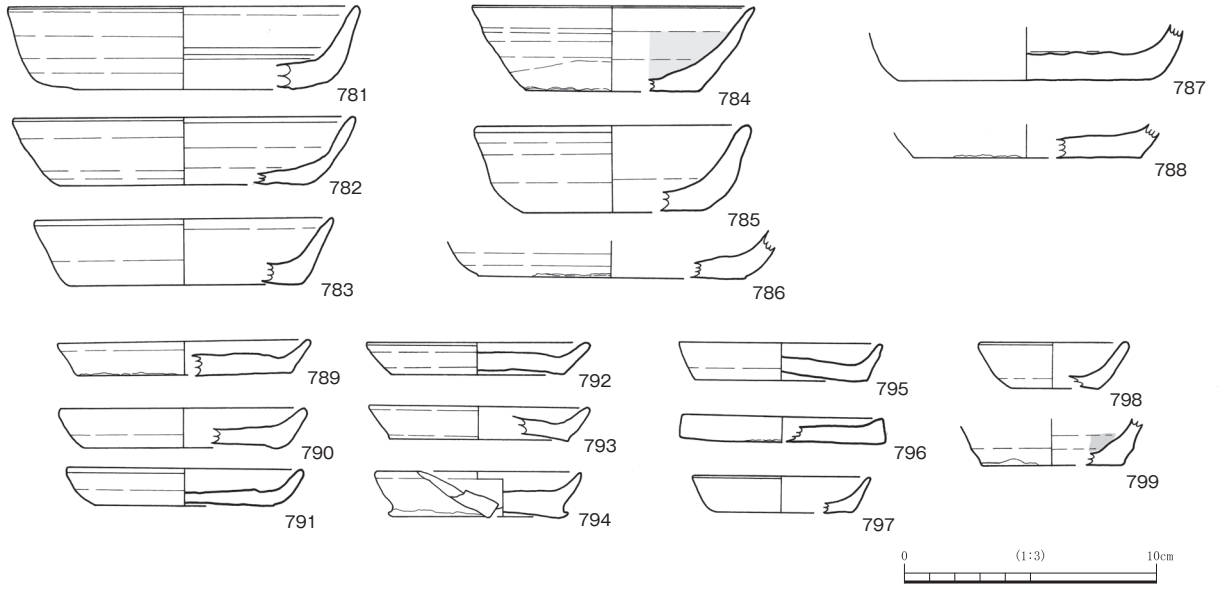
717～725は皿である。717，718は白磁皿Ⅴ類に比定されるものである。平底で胴部中位以下が露胎する。718は釉の剥落が著しい。719～725は口禿口縁をもつ白磁皿Ⅸ類に比定されるものである。口縁部は直口するもの



第112図　D・E－4・5区出土遺物（7）



第113図　D・E－4・5区出土遺物（8）



第114図　B～E－11～17区出土遺物（1）

と，外反するものがある。底部は平底で釉が拭き取られ，胴部との境には段を成す。

726は森田D群に比定される皿である。直口縁で，胎土は精緻で灰色を呈す。727は水注の把手部である。729は四耳壺である。肩部で横形の耳部をもち，内面には強いケズリ痕がみられる。730は小壺の口縁部である。外面には縦位の櫛文が入る。

青白磁（第110図）

728は皿である。内外面ともに厚く，精良な釉がかかる。731～734は合子である。731～733は蓋で，外面は型押しの菊花文をもつ。いずれも内面は露胎する。734は身で受け部は露胎する。

735は龍首水注の注口部である。全体の表現は精巧であり，目・眉上隆起・冠毛がみられる。全体的に釉は厚く，目の表現には褐釉が使用される。注口の大きさは約0.6cmである。神奈川県鎌倉市所在の二ノ鳥居西遺跡の出土品と細部には違いがあるが，非常に類似する。

青花（第110図）

736，737は青花である。736は璋州窯系の饅頭心の碗で，小野碗E群に比定されるものである。胎土は粗く，淡黄色を呈し，黒色粒が多く含まれる。高台内面には削り出しの痕が確認できる。737は稜花皿である。削り出

しにより菊花形を成す。

中国陶器（第 111 図）

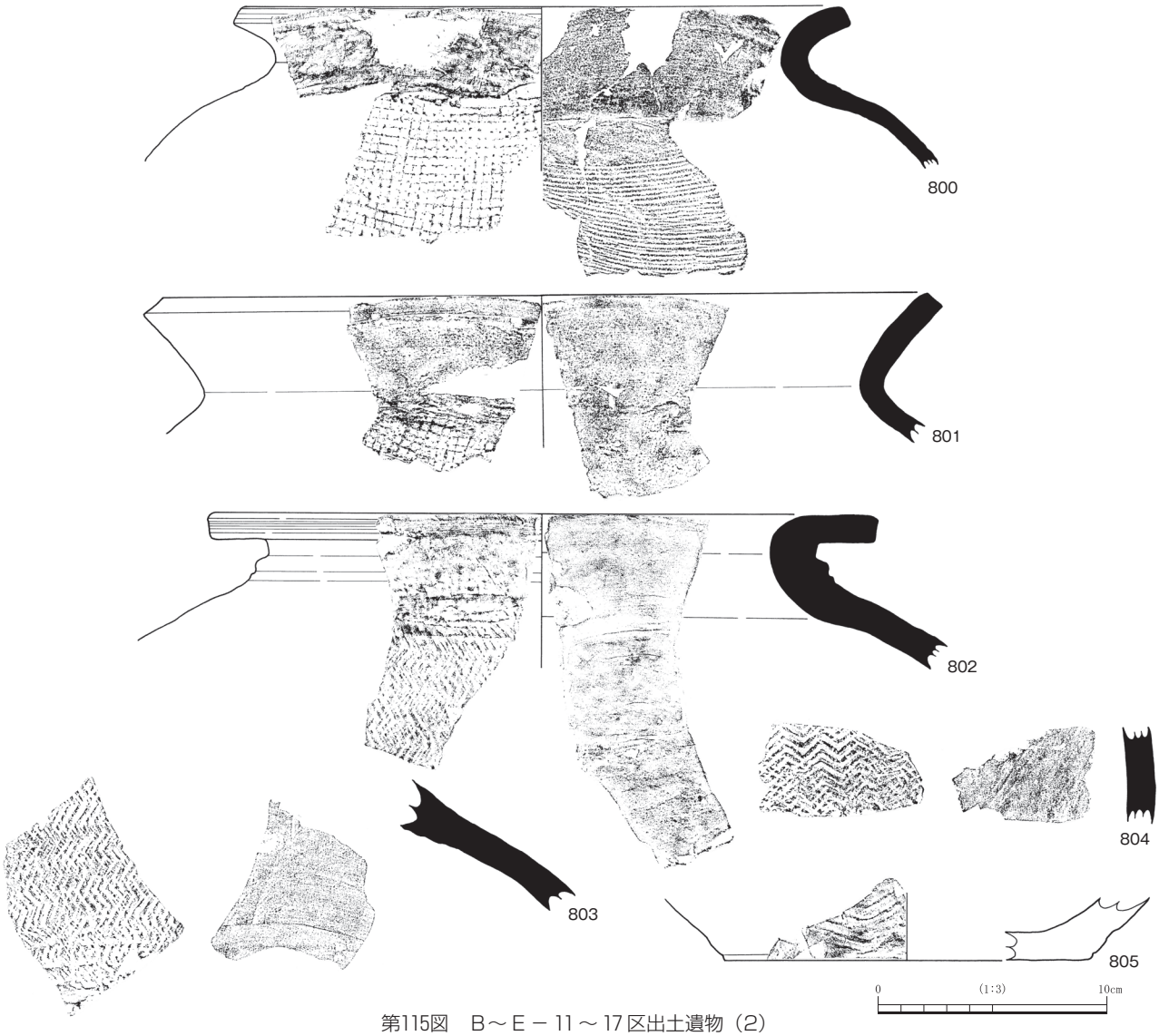
738 ～ 741 は甕である。胎土は粗く白色粒を多く含み，焼成があまい。738 は口縁部で暗緑色釉が施され，発色が悪く疎らである。口縁部が内側に張り出し，断面は逆台形を呈す。739 は内側に屈曲し，外面に稜線を成す。灰黄色釉で施釉されるが，白濁して発色は悪い。内面には同心円の当て具痕をもつ。740，741 は，胴部片で 738 と同一個体と考えられる。突帯を持ち，釉は疎らだが厚い。

742，743 は長胴形の壺である。いずれも内外面に回転ヘラ削り痕が明瞭に残る。742 は灰黄色釉が薄く施釉される。743 は高台状の底部をもつ小型の壺で，底部と内面は施釉せず，外面には灰黄色釉がかかる。

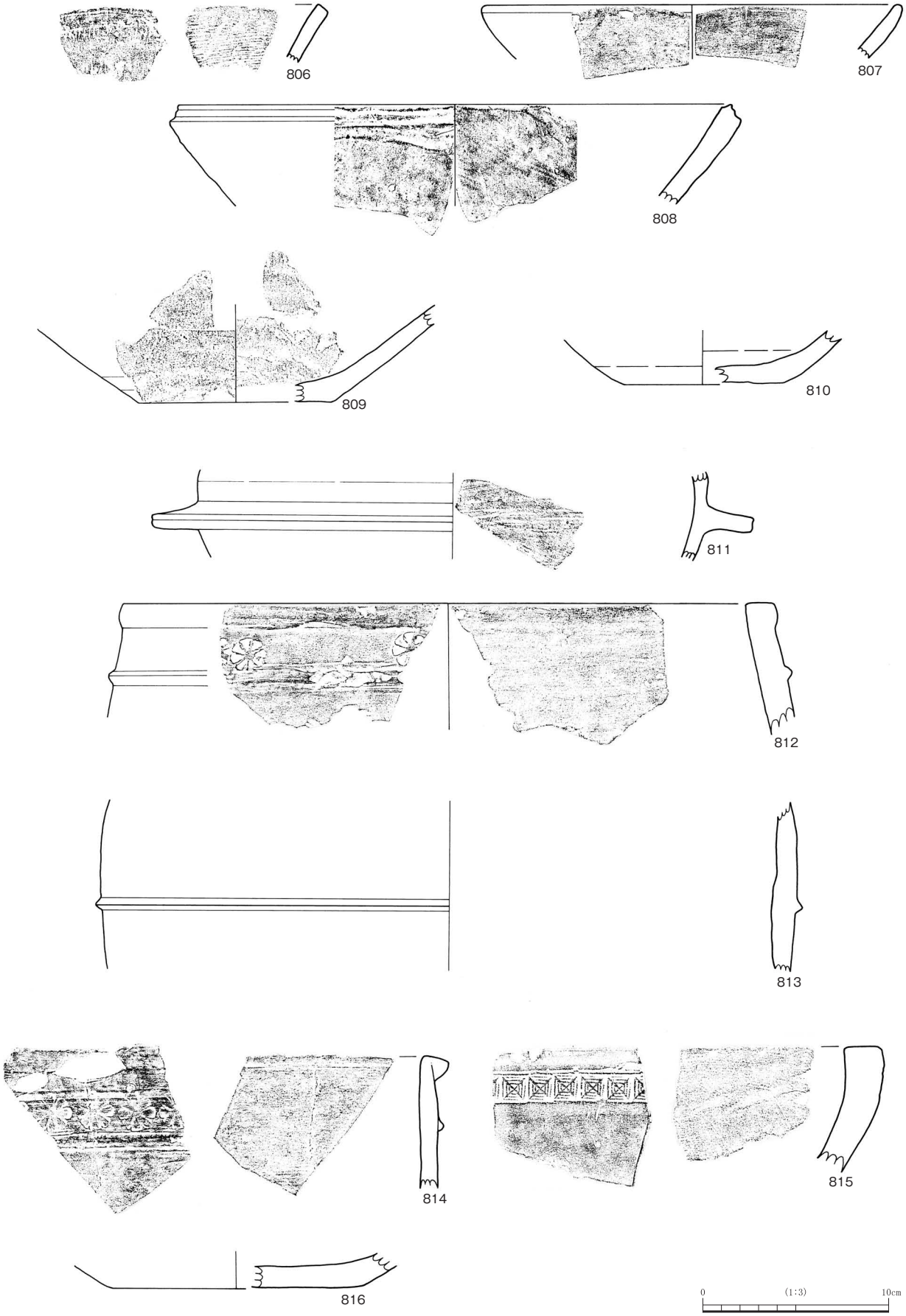
744 ～ 747 は鉢である。744，745 は口縁部を折り曲げて玉縁状に肥厚させる。745 は灰黄色釉で施釉され，口唇部の釉を掻き取る。胎土には白色粒を多く含む。746 は，僅かに内面に屈曲させる口縁部で，表面は摩滅が激しく，釉が剥落するが，僅かに褐色部分が確認できる。内面口縁部下には砂が付着する。胎土は 745 と類似し，灰色で白色鉱物を含む。747 は胴部である。口縁部にかけて屈曲し，胴部が丸味をもつ。胴部は褐色を呈すが，屈曲部上部からは露胎する。内面は表面が摩滅しているため，詳細は不明だが，部分的に黄緑色釉が確認できる。

748 ～ 751 は盤の底部である。立ち上がりの境が明瞭でない。いずれも外面が無釉で，内面は黄釉を施釉し，褐釉による施文がある。胎土は粗く，黒色粒・白色粒を多く含む。751 は鉄絵による文様がみられる。なお，749 と 751 は胎土・釉調が類似することから，同一個体の可能性がある。

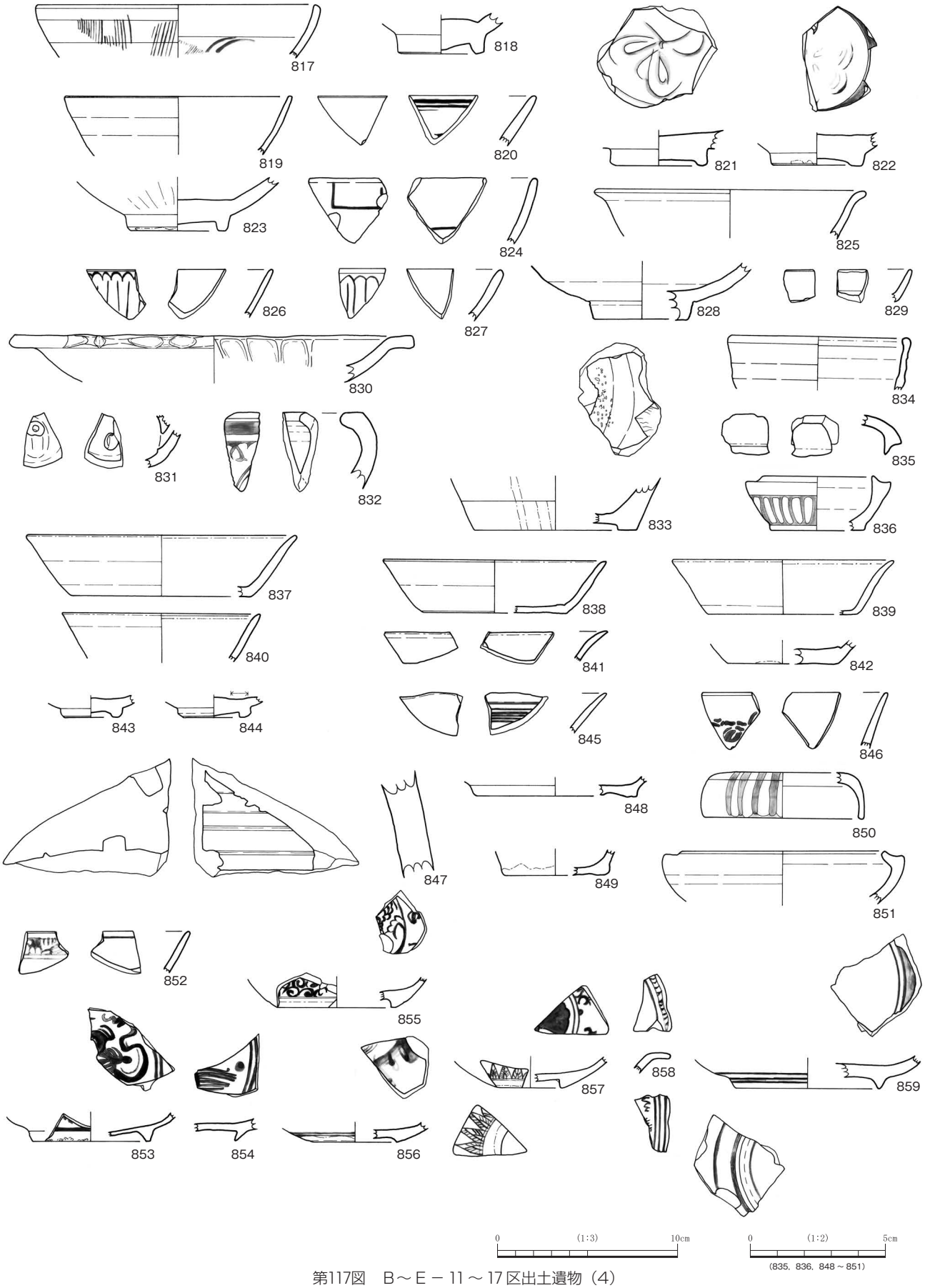
752 ～ 754 は水注である。752 は黄色味の黄緑色釉である。頸部と胴部の境と肩部に円弧状の沈線をもつ。胎土は茶色を呈し，白色粒を含む。753 は釉が全面的に剥落する。754 は高台状を成す底部である。釉は緑味を帯びる黄緑色釉で，畳付・底部内面は露胎する。755 は小



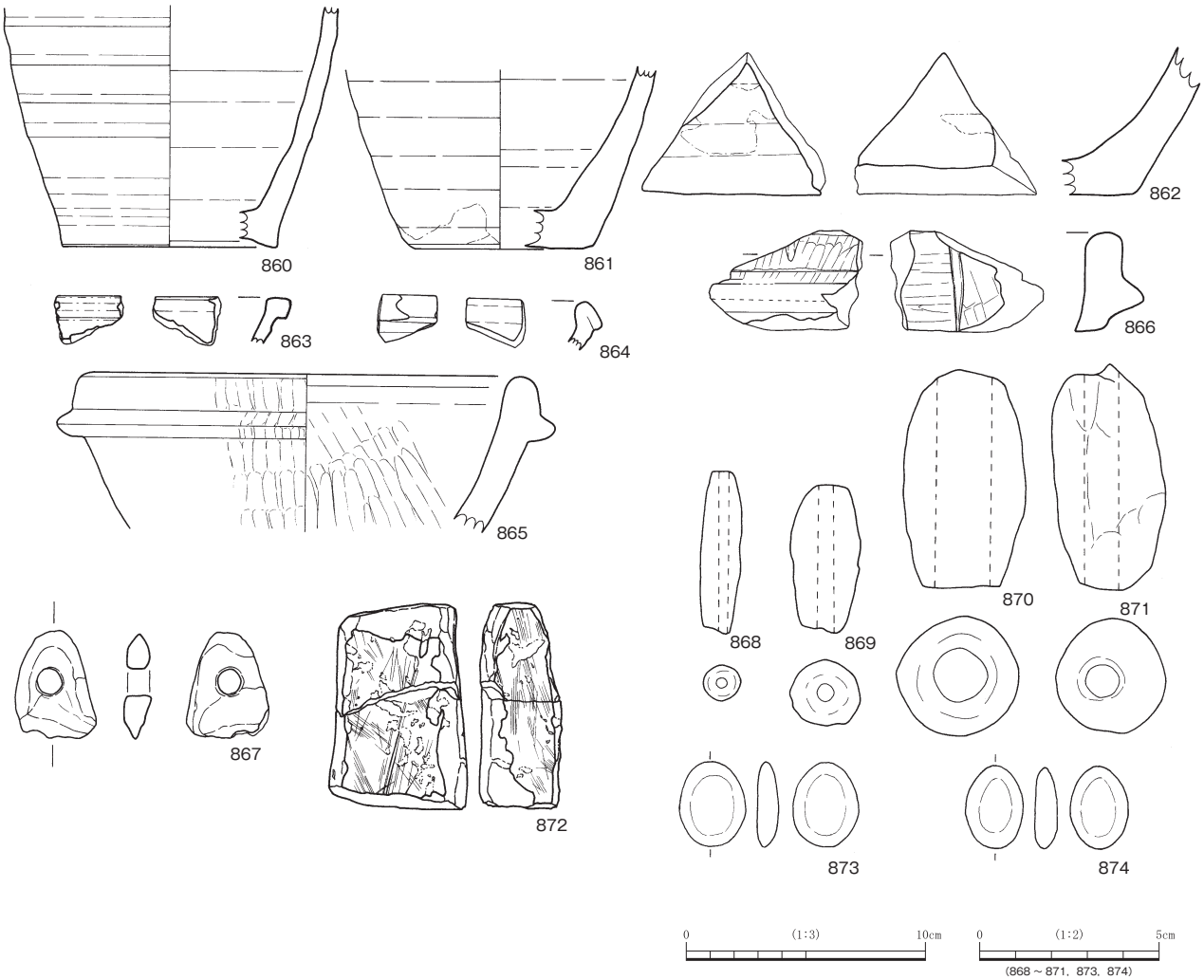
第115図　B～E－11～17区出土遺物（2）



第116図　B～E－11～17区出土遺物（3）



第117図　B～E－11～17区出土遺物（4）



第118図　B～E－11～17区出土遺物（5）

片のため器種の判別が困難だが，黄褐釉の小型壺と考えられる。内面は露胎し，外面に施釉される。暗褐色の釉が線上に入る。胎土は盤の胎土と類似しており，粗く，混入物も多い。

国産陶器（第111図）

756は常滑焼の壺の肩部である。内面は露胎し，外面には緑灰色釉が厚く施釉される。

滑石製品（第112・113図）

757～768は滑石製石鍋である。外面には縦方向の削りが確認できる。757～760は鍔の断面が台形状を成す。鍔がやや垂れ下がり，いずれも鍔下部から煤が厚く付着する。757は鍔部の稜が鋭く，鍔下部には煤が付着する。761，762は，縦耳の石鍋片である。761は断面方形で，稜が鋭い。762は鍔部を再加工している。763は石鍋の胴部片を再加工しており，加工の際の切断線が数本みられる。765は底部片である。

766～768は底部片の二次加工品である。割れ口を磨き，面を作り出す。768は，外面に煤が付着し，底部には穿孔が入る。769～778は，二次加工品である。769は温石と考えられる。板状を呈し，側面部が面を成す。中央部には穿孔痕が確認できる。770は穿孔が2カ所ある。表面には煤が付着し，石鍋の底部片の再加工品と考えられる。771，772は円盤状を成す。771は穿孔痕が2カ所確認できる。

773～776はスタンプ状の馬連形を成す。773，775は穿孔をもつ。777，779は土錘形を呈すものである。777の穿孔は逆L字状を成す。778は勾玉状を成し，中央部に穿った痕があるが，貫通はしない。

古銭

780は政和通寶である。1111年初鋳の北宋銭で，隷書である。

イ　B～E－11～17区出土遺物（第114～118図）

土師器（第114図）

781～788は坏である。781～783は体部が直線的に外傾する形態をもつ。784は内面に煤が厚く付着している。

785 は体部が内湾しながら立ち上がり口縁部にかけて器壁が薄くなる。786 ～ 788 は底部である。788 は内外面ともに煤が付着する。

789 ～ 799 は皿である。789, 790 は体部を短く引き出し，見込みの周縁部が凹む。口縁端部は丸く収まる。794 は口縁部が歪んでいる。底部糸切りを一度途中まで行った後，３㎜ほど下で二度目の糸切りを行った痕跡が底部で確認できる。796 は体部をわずかに引き出すが，ほぼ円盤状に近い。799 は内面に厚く煤が付着する。

中世須恵器（第 115・116 図）

800 ～ 805 は甕である。800 は樺万丈産で焼成は良く，硬質で胎土には白色粒が多く含まれる。外面に格子目状の叩き痕を残し，内面にハケメ状の調整痕を残す。801 は外面に格子目叩き痕，内面はナデ調整である。802 ～ 805 は外面に綾杉状の叩き痕を残す。806 ～ 810 は捏鉢である。806 は内面にハケメ状の調整痕が残ることから，樺万丈産と考えられる。807 は，硬質で内外面は丁寧なナデ調整である。808 は口縁端部が粘土帯貼り付けにより，段状になる。809，810 は底部である。

瓦質土器（第 116 図）

811 は羽釜で，鍔部下位には煤が付着する。812 ～ 815 は火鉢である。812 は胴部に突帯を巡らし，間に花文のスタンプ文をもつ。813 は胴部片で突帯が巡る。814 は口縁部が断面三角形を成し，突帯を一条巡らす。口縁部と突帯の間に花文のスタンプ文をもつ。硬質で灰白色を呈す。815 は直口縁で，体部が丸味をもち，外面に格子目状のスタンプ文をもつ。816 は，鉢の底部と考えられる。全体的に煤が付着し，底部の煤が非常に厚い。割れ口の断面にも煤が付着することから，二次焼成を受けたと思われる。

青磁（第 117 図）

817，818 は同安窯系青磁碗Ⅰ類に比定されるものである。817 は直口縁で，外面には縦位の櫛目文，内面上位に沈線をもち，中位に櫛目文が入る。818 は逆台形状の厚い高台である。

819 ～ 821 は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類に比定される。819 は直口縁で無文である。820 は外面が無文で，内面に劃花文をもつ。821 は底部で，内面に見込みに片彫りの草花文をもつ。畳付～高台内面が露胎する。

822，823 は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類に比定されるものである。底部が肉厚で，高台が断面四角形を成す。823 は外面に鎬蓮弁文をもつ。822 は内面見込みに草花文の印文をもつ龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｃ類に比定されるものである。

824 ～ 827 は，明代以降の碗である。824 は雷文帯をもつ上田Ｃ類に比定されるものである。825 は器壁が薄く，無文で外反する口縁部をもつ，上田Ｄ類に比定されるものである。

826，827 は細描蓮弁文をもつ上田Ｂ類に比定されるものである。剣頭と細線が蓮弁の単位を意識されておらず，簡略化されている。828 は底部で高台が小さい。明代以降の碗である。

830 は盤である。口縁部が稜花を呈し，大きく外反する。内面は削り出しの花弁をもつ。831 は水滴の注口部で，体部は丸みをもつ。832 は鉢である。口縁部が内面に屈曲し，平坦面を成す。外面には草花文の印文をもつ。834 は筒形香炉である。口縁部を内側に折り曲げる。外面は施釉，内面は露胎する。833 は壺の底部である。高台状の底部で，内面には砂目がつく。福建省産のものと考えられる。835・836 は合子である。835 は蓋である。836 は合子の身で，型作りの菊花形を成す。

白磁（第 117 図）

837 ～ 847 は白磁である。837 ～ 842 は白磁皿Ⅸ類に比定されるもので口禿口縁をもつ。843，844 は森田Ｄ群に比定される皿である。胎土は粗く，淡黄色を呈し，黒色粒を多く含む。844 は見込みの釉を輪状に掻き取る。847 は四耳壺または瓶の胴部である。釉はガラス質で光沢をもつ。内面には削り痕が明瞭に残る。846 は，馬上坏の可能性がある。外面には花文の浮文がみられる。

845 は壺の口縁部と考えられる。稜花の口縁で，内面には数条の沈線文が巡る。中国産かまたは時期が新しくなる可能性があるものであるが，類例不足のため，本報告書では白磁として報告しておく。

青白磁（第 117 図）

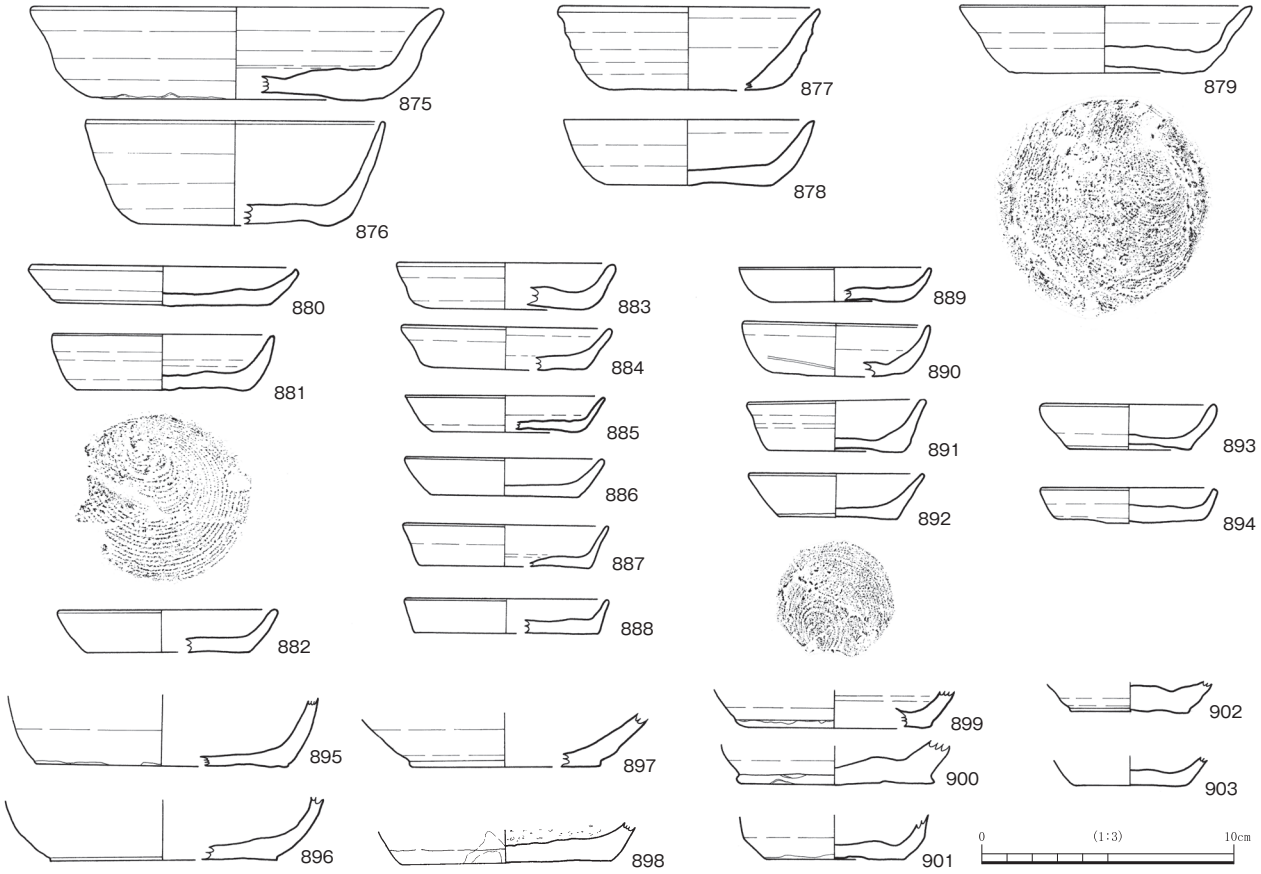
848 ～ 851 は青白磁である。848 は水注の底部で，底部は露胎する。全体的に釉は厚くかかり，青味が強い。849 は小壺の底部と考えられる。胴部下位以下が露胎する。850，851 は青白磁の合子である。850 は蓋で，型作りである。851 は合子の身で，他と比してサイズが大きい。

青花（第 117 図）

852 ～ 859 は青花である。852 は蓮子碗で小野分類の碗Ｃ群に比定されるものである。口縁部外面に四方襷文と思われる文様をもつが，詳細は不明である。853，854 は端反りの皿で，小野分類の皿Ｂ群に比定されるものである。内面見込みに玉取獅子が描かれる。855 ～ 857 は，碁笥底の小野分類の皿Ｃ群に比定されるものである。底部の釉は掻き取られる。855 は外面に渦巻文をもつ。857 は外面に芭蕉葉文をもち，内面には唐草文が描かれる。858 は稜花皿である。859 は端反りの皿で，853，854 よりは後続する小野皿Ｂ２群に比定されるものである。高台が細く，端部の釉は掻き取られる。

中国陶器（第 118 図）

860 ～ 862 は壺である。いずれも内外面に回転ヘラ削り痕が明瞭に残る。860，861 は長胴形の壺である。860 は褐色を呈し，灰黄色釉がかかるが，発色が悪く，焼成もあまい。861 は褐色の胎土を呈し，白色粒を多く含む。硬質で暗緑黄色釉が施釉され，発色も良い。底部は施釉しない。862 は器壁が厚く，大型の壺の底部と考えられる。



第119図　C～E－18～25区出土遺物（1）

灰黄色釉で胎土は褐色を呈す。内外底には砂が付着する。

864は鉢である。折り曲げ口縁で下方に下がり，扁平な形を成す。外面口縁部下位と，内面に僅かに自然釉がかかるが，基本的に無釉で，褐色を呈する。863は口縁部断面が方形状を成す小型の盤である。黄緑色釉がかかるが，口唇部と口縁部を直線上に釉を掻き取る。

滑石製品（第118図）

865，866は滑石製石鍋である。865は鍔が横耳形で，鍔下部には煤が厚く付着する。866は石鍋の再加工品で，割れ口を磨き，面を作り出している。867は二次加工品である。三角形状を成し，中央を穿孔する。

その他の遺物（第118図）

873，874は碁石と考えられる資料である。黒色の砂岩製で，表面を丁寧に磨いている。872は砥石である。砂岩（天草石）製で，表面・側面には擦過痕が残る。868～871は管状土錘である。870,871は大型品で手づくねにより，指頭圧痕が明瞭に残る。

ウ　C～E－18～25区出土遺物（第119～123図）

土師器（第119図）

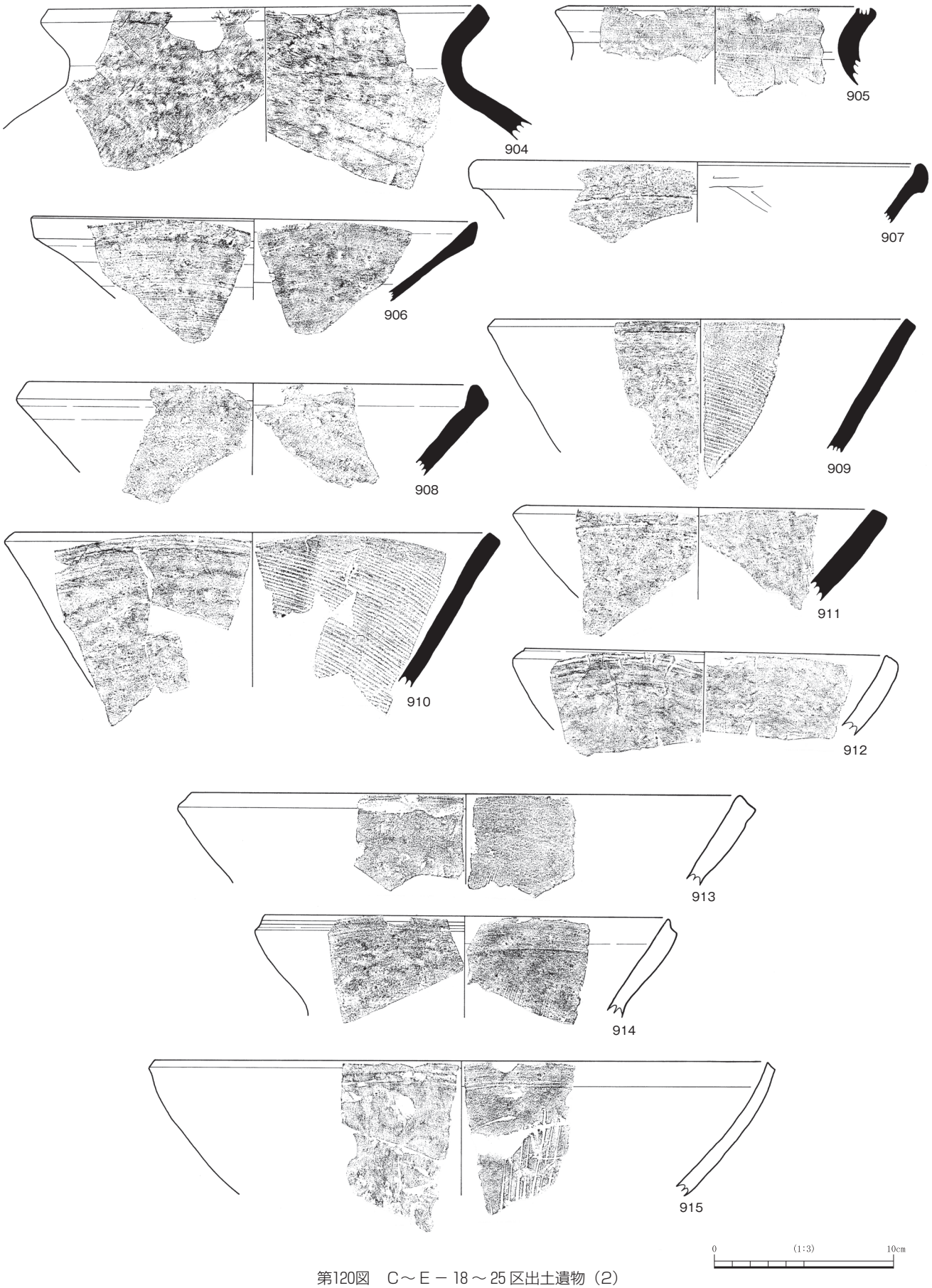
875～879は坏である。875は底部から緩く立ち上がり，体部から外反する形態をもつ。内面には僅かに煤の付着がみられる。876は直線的に外傾し，器壁が非常に薄い。879は内面底面に煤が付着し，表面が剥落する。胎土が粗く，５㎜程の小礫が多く含まれる。878は外面が部分的に赤化する。

880～894は皿である。881は内外面の全体に煤が付着している。885は1.7㎜ほどの大粒の赤色鉱物が含まれる。886は外面表面に薄く赤色化した箇所があるが，塗布されたものかは不明である。895～898は坏の底部である。897は内外面に厚く煤が付着している。898は，内面にガラス化した鉄が付着していることから，坩堝の転用品と考えられる。899～903は皿の底部である。900も内面に煤が付着するが，二次的な焼成により赤化している。

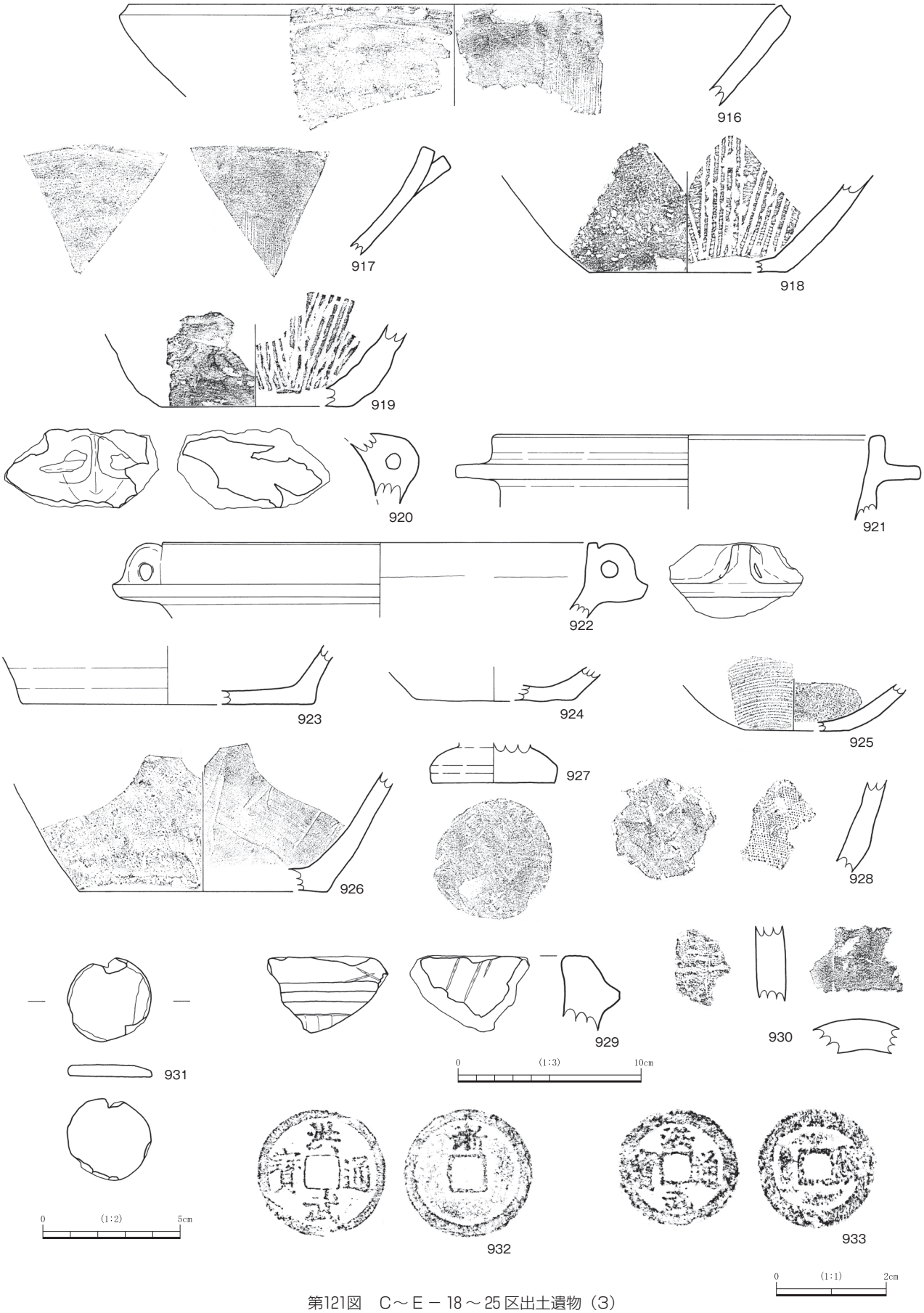
中世須恵器・瓦質土器（第120・121図）

904，905は甕の口縁部である。内外面ともにヨコナデで調整される。905は内面の当て具痕をナデ消すが，僅かな凹凸は残る。906～908は東播系の捏鉢である。口縁部を肥厚させ，口縁部には自然釉が付着し，黒灰色を呈す。908は口縁部を内面に屈曲させ，くの字状に近い形状を成す。909，910は樺万丈産の捏鉢である。内面にハケメ状の調整痕を残し，胎土には白色粒が多く含まれる。

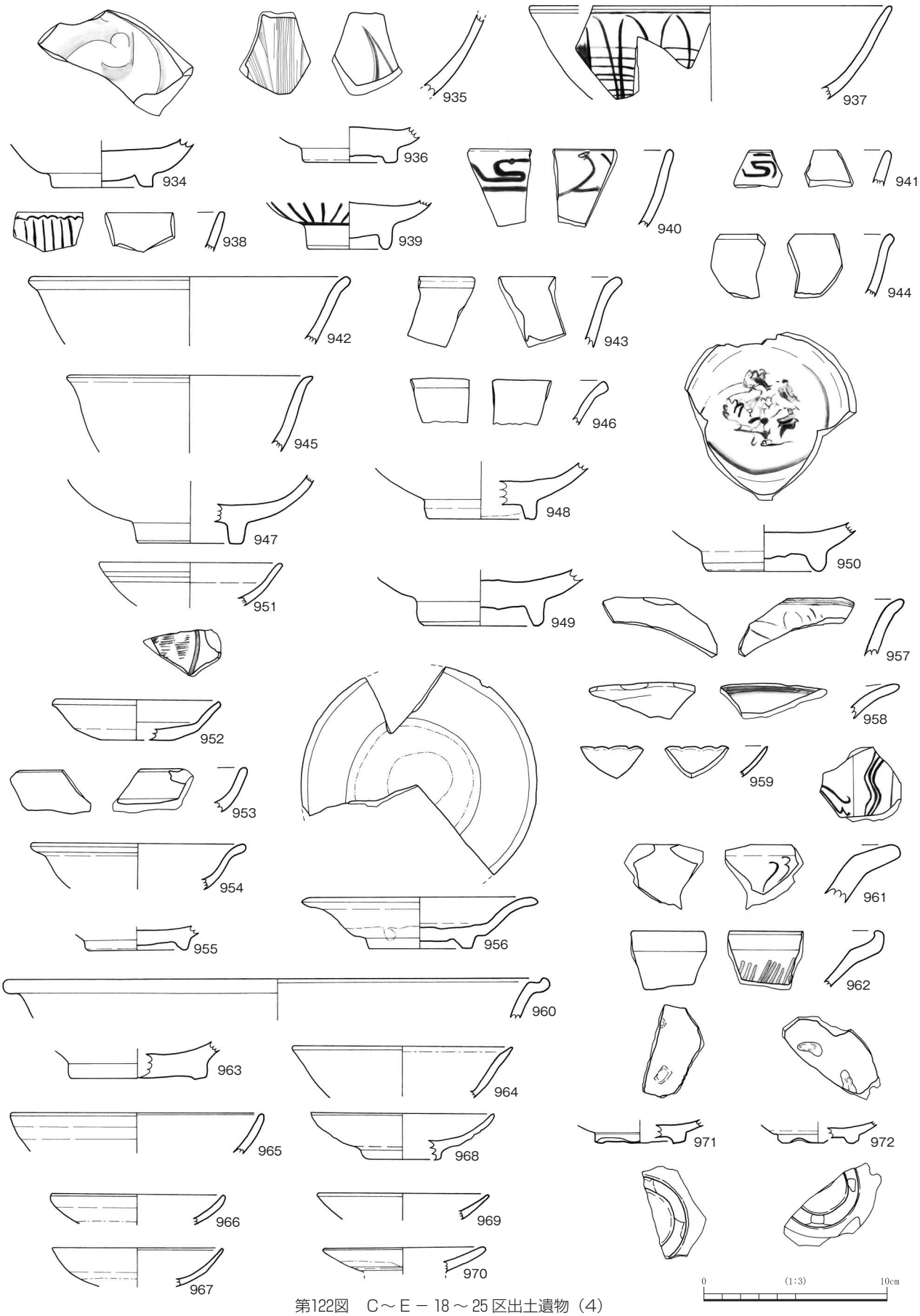
911,912は産地不明の捏鉢である。硬質で灰色を呈す。内外はナデ調整である。913～919は擂鉢である。913～915は硬質で，灰白色を呈し，端部がヨコナデ調整より，



第120図　C～E－18～25区出土遺物（2）



第121図　C～E－18～25区出土遺物（3）



第122図　C～E－18～25区出土遺物（4）

僅かに凹む。内面には約８本程度の単位の擂り目が入る。916 ～ 919 は基本的に淡黄色で，焼成はあまい。擂目は約６条を１単位として施される。

920 は茶釜である。肩部に耳部がつく。921，922 は羽釜である。鍔をもつタイプで，922 は鍔に耳部がつく。鍔部下には煤が付着する。923 ～ 926 は，鉢の底部と考えられる。926 は器壁が薄い。内面が丁寧なナデ調整が施されるのに対し，外面の調整は粗く，叩き痕のような凹凸が目立つ。925 は，外面にハケメ状の調整痕を明瞭に残す。927 は器種不明である。燭台の台部とも考えられるが，断定は難しい。外面をケズリによって成形し，ナデ調整で仕上げる。

その他の遺物（第 121 図）

928 は焼塩土器である。外面には指頭圧痕，内面には布目痕がみられる。929 は滑石製石鍋である。鍔部の稜が明瞭ではなく，丸味をもつ。鍔部下位には煤が付着する。

930 は丸瓦である。凸面はナデ調整で，凹面には布痕が残る。淡黄色を呈す。931 はメンコである。硬質で，灰白色を呈す。932，933 は洪武通寶で，1368 年初鋳，明代の古銭である。932 は背浙，重点通，マ頭通である。933 は無背，単点通，マ頭通である。

青磁（第 122 図）

934，935 は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類に比定されるものである。934 は底部で，内面見込みに片彫りの花文をもつ。935 は胴部片で，外面に縦に櫛目を入れる片彫蓮弁文をもち，内面に櫛目文をもつ。936 は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類に比定される底部である。底部は厚く，高台が断面方形を成す。畳付～高台内面は露胎する。

937 ～ 951 は明代以降の碗である。937 ～ 939 は上田Ｂ類に比定されるものである。直口縁で，端部は丸味をもつ。外面には簡略形の蓮弁文と横位の沈線文が入る。938 は細描蓮弁文をもつ。939 は胴部に蓮弁文をもち，底部が厚く，畳付～高台内が露胎する。940，941 は雷文帯をもつ上田Ｃ類の碗で，940 は内面に草花文をもつ。

942 ～ 950 は口縁部が外反し，口縁端部が丸く収まる上田Ｄ類に比定されるものである。947，948 は二次的な被加熱により釉が変色する。949 は高台内面の釉を輪状に掻き取り，その箇所が赤色に発色している。950 は内面見込みに草花文の印刻をもつ。951 は高麗青磁の碗と考えられる。胎土は暗い灰色を呈し，黒色粒を多く含む。

952，953 は龍泉窯系皿Ⅰ類に比定されるものである。胴部下位で屈曲し，外方に伸びる。952 は，内面に櫛目文をもち，底部は無釉である。

954 ～ 959 は明代以降の皿である。954，956 は口縁部が外反し，端部がやや厚みを帯び，丸みをもつ。956 は外面の腰部～高台内面まで無釉で，内面見込みは輪状に釉を掻き取る。露胎部分は部分的に赤色化する。955 は皿の底部である。957 ～ 959 は稜花皿である。957，958 は口縁部内面に草花文が施される。959 は無文で，菊花皿に近い。

960 ～ 962 は盤の口縁部である。961 は器壁が厚く，大型品と考えられる。口縁内面には波状文，体部には草花文が施される。960，962 は，口縁端部を屈曲させ，上端は凹面を成し，端部をつまみあげる。962 の内面には縦方向の文様がみられる。

白磁（第 122・123 図）

963 は口縁部が玉縁状になる白磁碗Ⅳ類の底部である。高台外面～底部は露胎する。高台の削り出しは浅い。964 は口禿口縁の白磁皿Ⅸ類である。965 ～ 972 は森田Ｄ群に比定されるものである。965 は碗で，胎土は灰白色で精緻である。966 ～ 972 は皿である。直口縁で胴部は丸みをもつ。971，972 は割高台で内面見込みに目跡がつく。

973 ～ 975 は四耳壺である。973 は肩部，974 は胴部である。釉調は光沢があり，精良である。975 は厚く高い底部をもつ。高台部分は露胎し，内面には砂目が多く付着する。976 は壺もしくは瓶の底部である。内面が露胎し，外面が高台内まで施釉されるが，畳付の釉は掻き取る。977 は水注の底部である。

青花（第 123 図）

978 は端反り碗の口縁部で，小野分類の碗Ｂ群に比定されるものである。口縁部の内面に界線，外面には草花文をもつ。979 は直口縁で，小野分類の碗Ｃ群に比定されるものである。内面に界線，外面には四方襷文，胴部は芭蕉文をもつ。981 ～ 983 は碗の底部である。981 は高台内面まで施釉し，畳付の釉は掻き取る。外面・内面見込みと高台内面に花文をもつ。胎土が精緻であることから，景徳鎮産と考えられる。

982 は饅頭心の碗で小野分類のＥ群に比定されるものである。内面見込に山水人物が描かれる。983 は，腰部に界線を持ち，高台は内面まで露胎する。また内面見込みは輪状に釉を掻き取る。982，983 は漳州窯系産と考えられる。

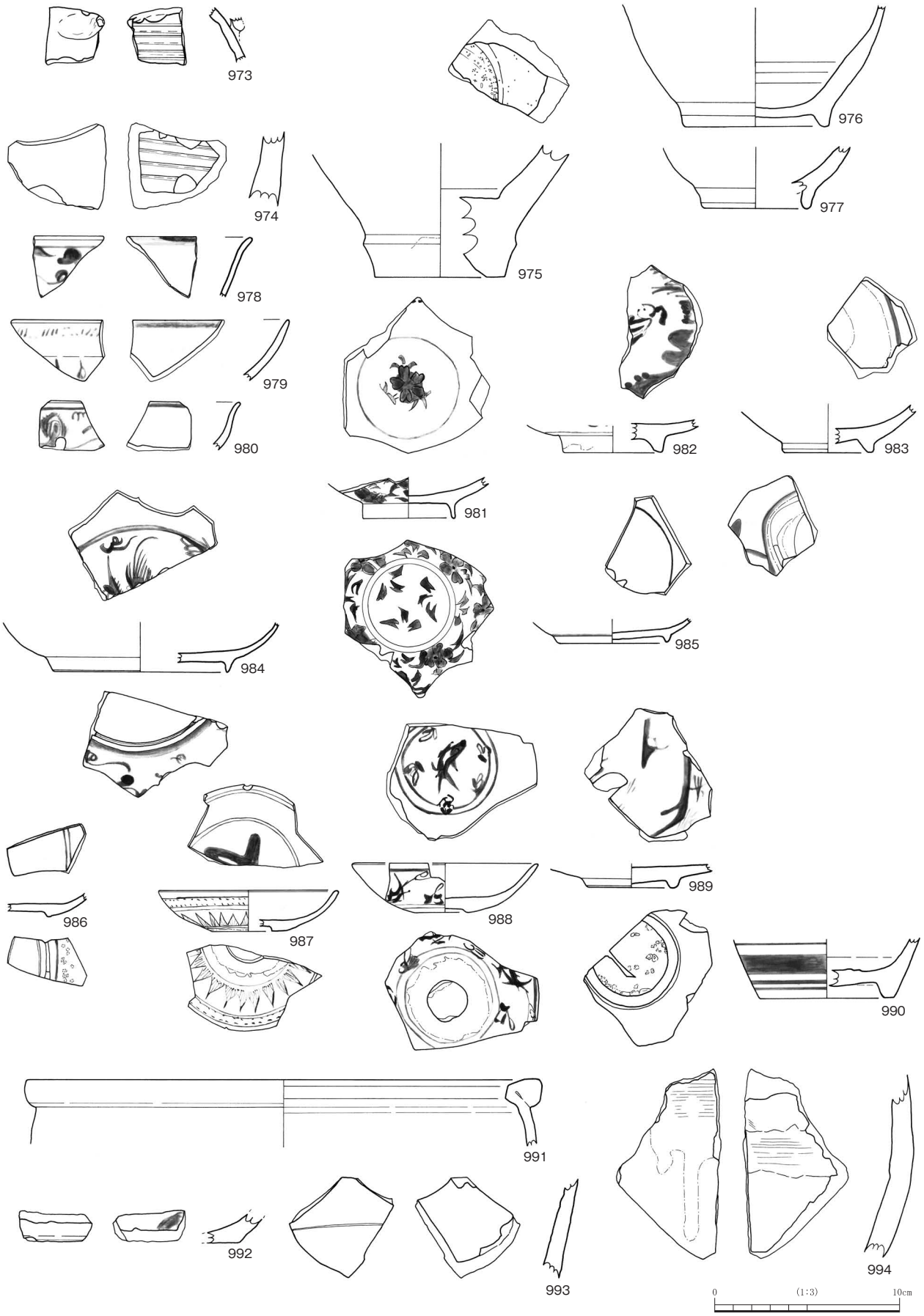
980，984，985 は端反りの皿で，小野分類の皿Ｂ群に比定されるものである。980 は口縁部が外反し，内面に界線，胴部に草花文をもつ。984 は玉取獅子が描かれる。

986 ～ 988 は碁笥底をもつ小野分類の皿Ｃ群である。底部の釉は掻き取られる。986 は底部に砂目がつく。987 は外面に芭蕉葉文，988 は草花文を内外面見込みにもつ。

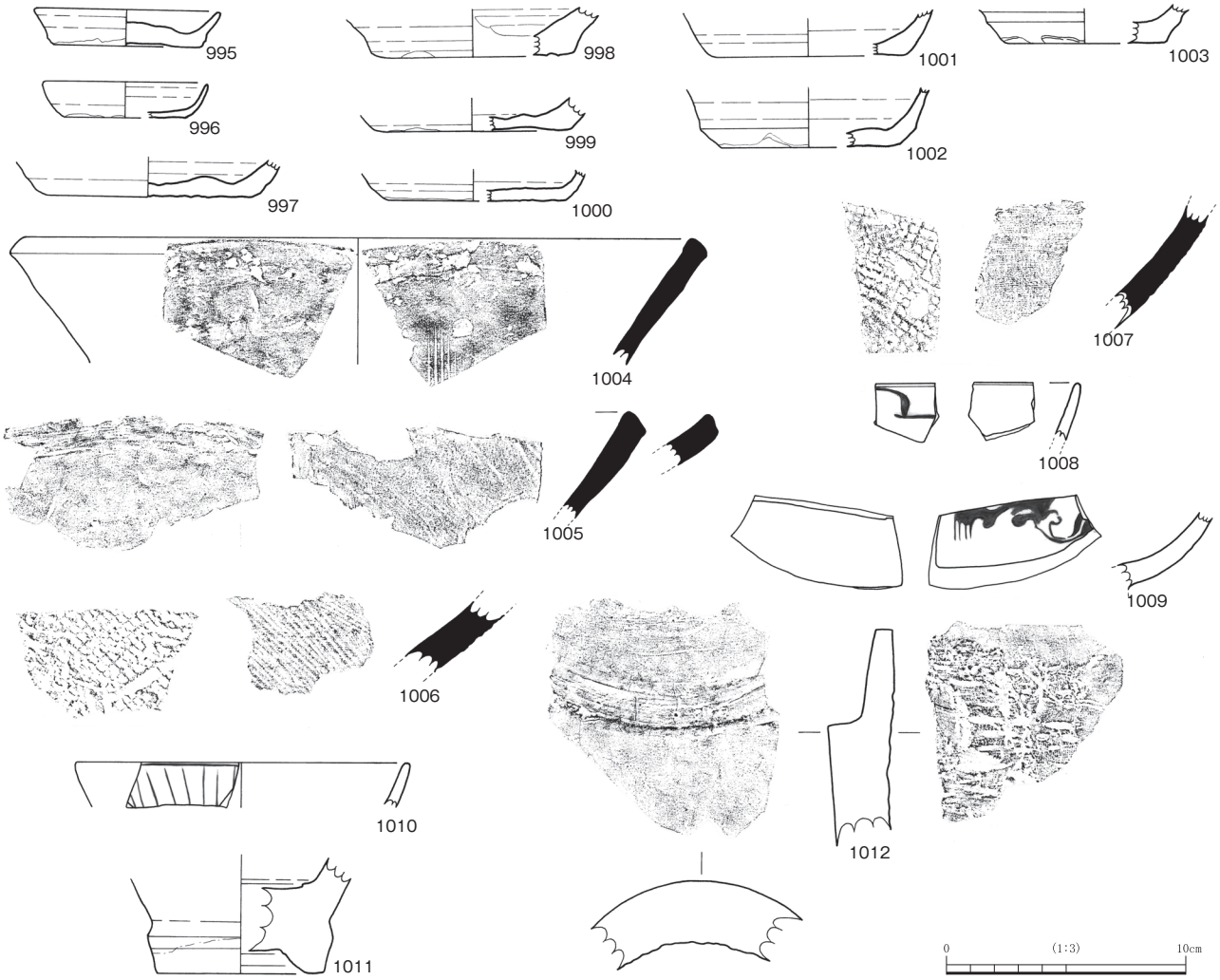
989 は，小野分類の皿Ｅ群である。高台内面に５㎜大の小礫が付着する。内面見込には，山水が描かれる。990 は，壺もしくは瓶である。底部には界線をもち，内面は露胎する。17 世紀代のものと考えられる。

中国陶器（第 123 図）

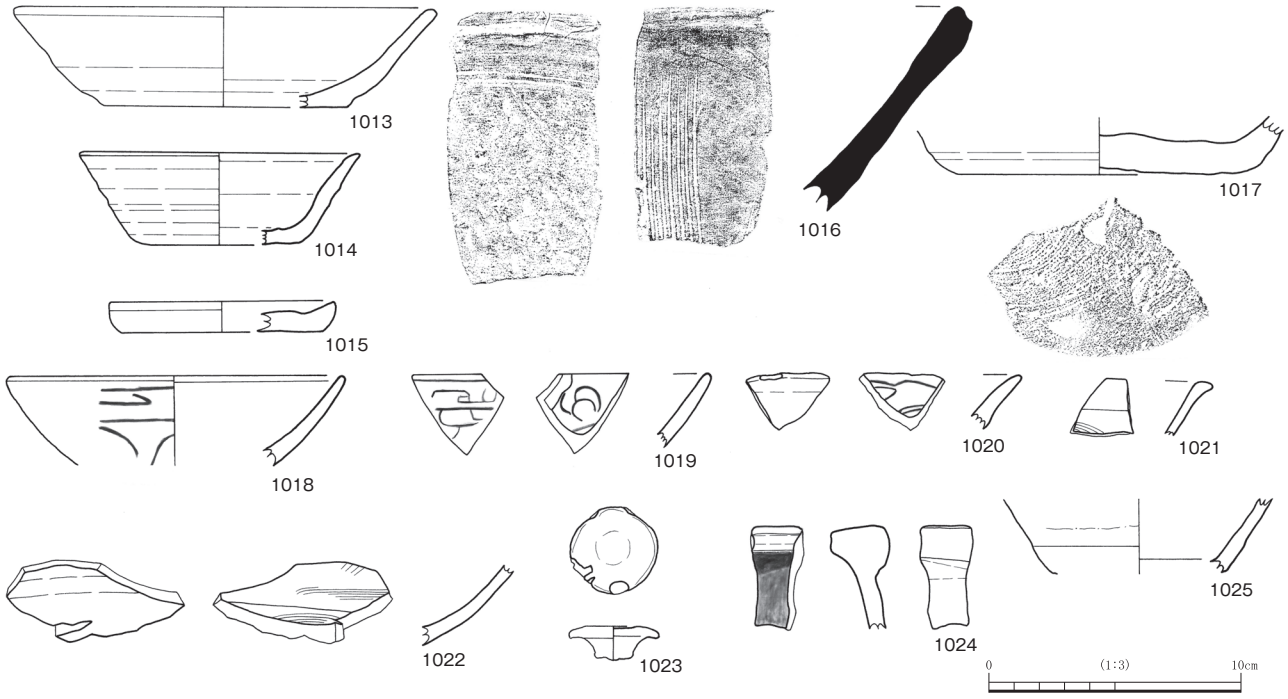
991 は鉢である。口縁部を折り曲げて玉縁状に肥厚させる。ヨコナデにより内面は稜を成す。無釉で表面は暗褐色を呈し，胎土には褐色・白色粒を多く含む。992 は盤の底部である。外面は露胎し，内面に黄緑色釉が施釉され，



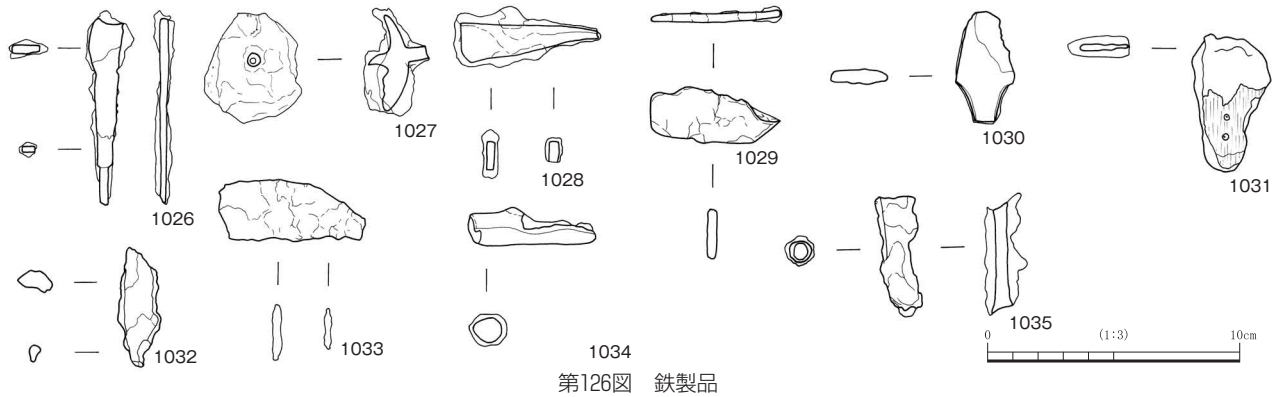
第123図　C～E－18～25区出土遺物（5）



第124図　B・C－26～28区出土遺物



第125図　その他出土遺物



第126図　鉄製品

褐釉による文様が描かれる。993 は水注の胴部片である。一条の沈線が巡る。外面の釉は部分的に剥落する。

国産陶器（第 123 図）

994 は常滑焼の甕の胴部片である。外面に叩きによる平行状の押印がみられる。灰緑色釉が厚くかかる。

エ　B・C－26～28 区出土遺物（第 124 図）

土師器

995，996 は皿である。995 は体部が直線的に外傾する。見込み周縁部が回転ナデにより凹む。996 は体部が曲線を描いて立ち上がった後，直線的に外傾する。997 ～ 1002 は底部の径から坏の底部と判断した。1003 は底部の径から皿の底部であると考えられる。

中世須恵器

1006，1007 は甕の胴部片である。いずれも硬質で外面は格子目叩き痕が残る。内面調整は 1006 がハケメ状の調整痕，1007 がナデ調整である。1004，1005 は擂鉢である。1005 は片口鉢である。

青磁・白磁・瓦

1008 ～ 1010 は明代以降の青磁の碗である。1010 は上田Ｂ類に比定されるもので，細描蓮弁文をもつ。1008 は上田Ｃ類に比定されるもので，雷文帯をもつ。1009 は内面に草花の印文をもつ。1011 は白磁の四耳壺の底部である。底部が厚く，底部の外面中位～高台内は露胎する。

1012 は，丸瓦である。凸面は，丁寧なナデで調整され，黒色化する。凹面は，布目痕が明瞭に残る。凹面側縁部は布目痕がナデ消されている。

オ　出土区不明遺物（第 125・126 図）

土師器・中世須恵器（第 125 図）

1013 ～ 1015 は土師器である。1013，1014 は坏で，1013 の体部は直線的に外傾する。1014 は，口縁部内面上から 1.5㎜程度のところで面取りのような調整が施される。1014 は体部が直線的に外傾する。内面上部にハケメがみられる。1015 は皿であり，体部を短く引き出す。回転ナデ調整により内面の立ち上がり部分が凹む。

1016 は擂鉢である。硬質で，口縁部端部はヨコナデにより凹む。1017 は鉢の底部である。底部の切り離しは糸切りである。

輸入陶磁器（第 125 図）

1018 ～ 1020 は青磁である。1018，1019 は明代以降の青磁の碗である。上田Ｃ類に比定されるもので，外面には雷文帯をもつ。1020 は稜花皿である。内面には草花文をもつ。1021 ～ 1023 は白磁である。1021，1022 は碗Ｖ類に比定されるものである。嘴状の口縁部をもち，内面には櫛描文をもつ。

1023 は小壺の蓋である。天井部のみ施釉される。1024 は中国陶器の黄褐釉盤の口縁部である。外面は無釉で，内面は施釉される。1025 は天目碗の胴部である。鉄釉が厚く施釉される。

鉄製品（第 126 図）

1026 ～ 1035 は鉄製品である。本遺跡の中世の遺物は表層からも多く出土しているため，これらの鉄製品を中世の項に掲載することとするが，明確な時期の特定はできていない。

1026 は刀子または鉄鏃の茎部の可能性がある。1027 は紡錘車である。紡輪が湾曲しており，軸が一部残存する。1029，1031 ～ 1033 は刀子の可能性がある。1031 は木製の把が装着されており，約２㎜の断面円形の目釘が残る。

1028，1030 は鉄鏃である可能性がある。1028 は略菱形を呈する鉄鏃の上部が切断された可能性がある。1030 は略菱形を呈す。1034，1035 は，筒状を呈す。煙管の可能性が高いが，残存部での断定はできない。

6　近世の調査

近世に該当する遺構に関しては，前項で記した通りである。近世に相当する遺物の出土層はⅠ層である。出土遺物の中でも残存状況が良いものを中心とし，掲載する。

（1）　近世の遺物

ア　D・E－4・5区出土遺物（第127図）

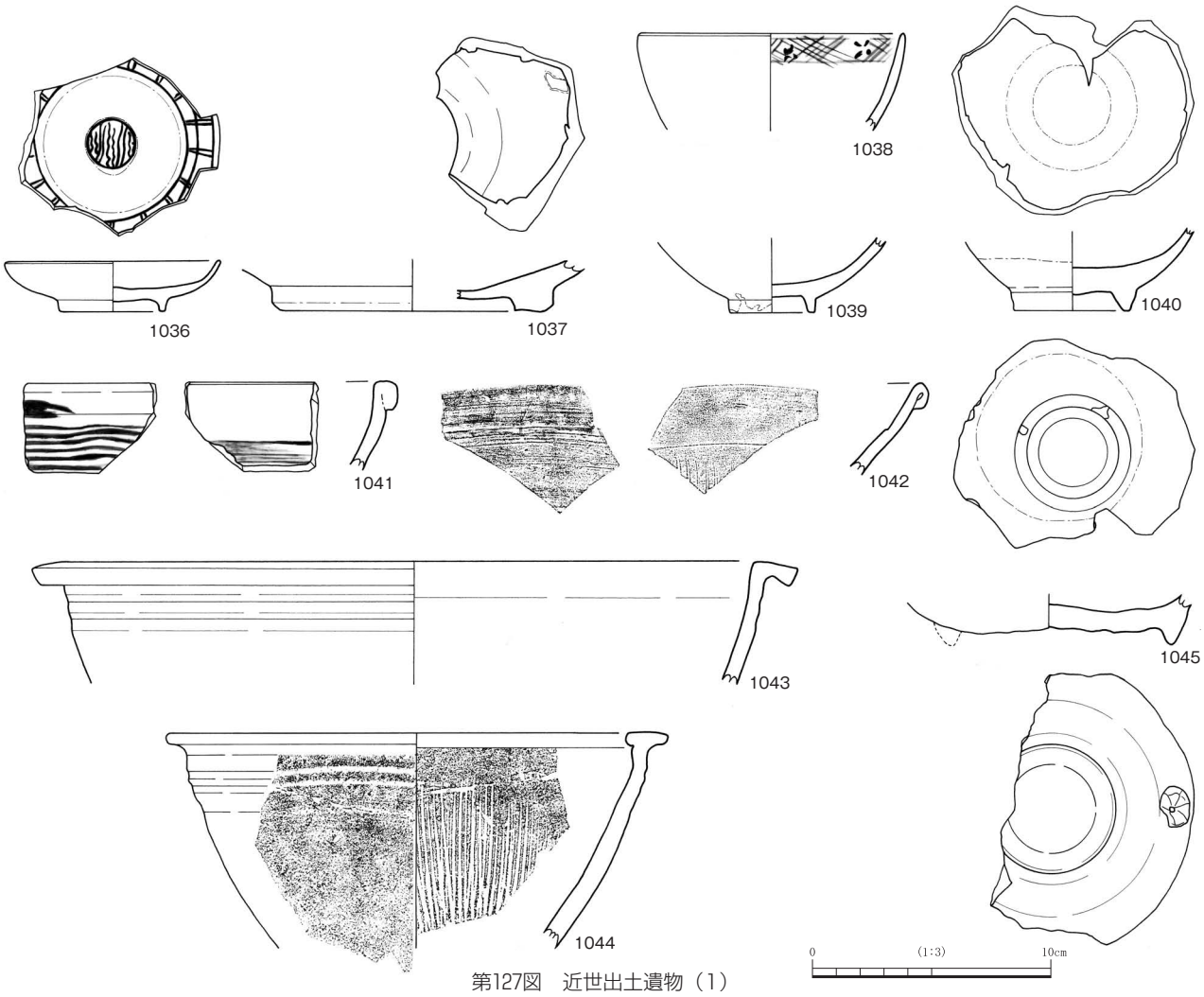
1036～1039，1041，1042は肥前系の陶磁器である。1036は皿である。内面見込みは釉を輪状に掻き取る。内面は格子文が描かれ，外面は無文である。畳付の釉は掻き取る。1037は鉢である。畳付～高台内面は露胎し，内外面には灰釉がかかる。また内面には目跡が残る。1038，1039は碗である。1038は磁器で，透明釉が施釉され，外面は無文，内面には四方襷文をもつ。

1039は京焼風陶器と考えられる。胎土は浅黄色を呈し，全体に灰釉が施釉される。高台が小さく，畳付～高台内面は露胎する。1041は鉢である。口縁部を折り返し，玉縁状にする。内外面には白土による刷毛目文が施される。1042は擂鉢である。1041同様，口縁部を折り返し，扁平な玉縁状になる。口縁部に鉄釉が施釉され，器壁は薄い。

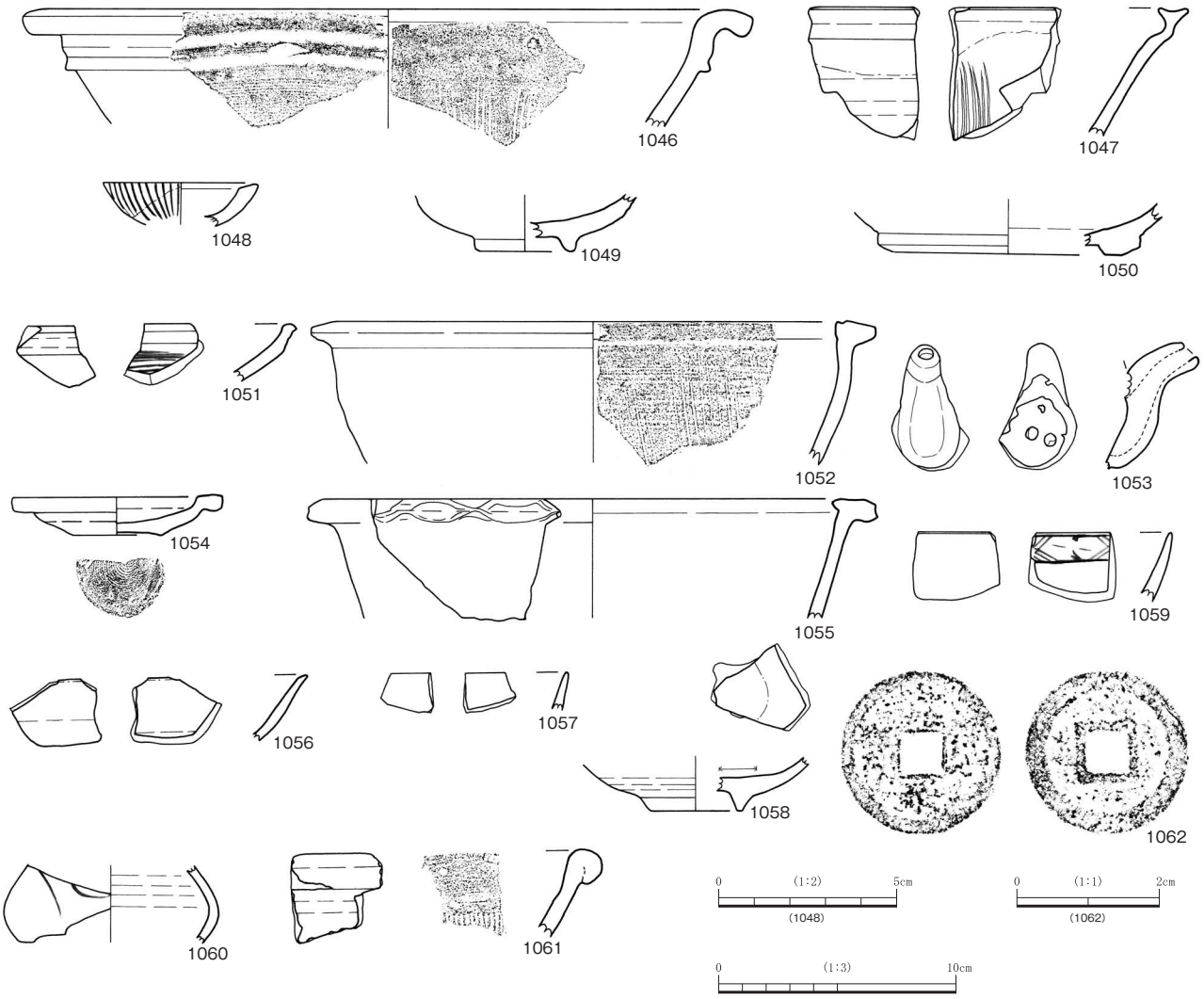
1040，1043～1045は薩摩焼である。1040は龍門司窯系の碗である。鉄釉が施釉され，内面見込みの釉を輪状に掻き取る。1043は苗代窯系の鉢で，口縁部が断面台形状を成す。外面には沈線文が2条入り，内面には強いヨコナデがみられる。鉄釉が施釉されるが，口縁部の釉が掻き取る。1044は擂鉢である。口縁部が内側に張り出し，T字状を成す。外面は施釉されず，内面には鉄釉がかかる。1043同様，口縁部の釉は掻き取る。1045は土瓶の底部である。脚部は3カ所つくものと考えられる。外面は無釉で，内面には鉄釉が施釉される。胎土は明赤褐色を呈し，白色粒を多く含む。

イ　B～E－11～17区出土遺物（第128図）

1046は薩摩焼の擂鉢である。口縁部が外反し，口縁下には削り出しによる突帯をもつ。体部はやや丸味を帯びる。1047は肥前系の擂鉢である。口縁部は凹み，内面口縁部下は大きく凹み断面Y字状をなす。鉄釉が口縁～胴部上位にかかる。1048は紅皿である。外面には縦位の櫛文を施し，やや青味かかった透明釉が，内面～外面胴部上位に施釉される。



第127図　近世出土遺物（1）



第128図　近世出土遺物（2）

ウ　C～E－18～25区出土遺物（第128図）

1049は肥前系（唐津か？）の碗である。胎土は黄橙色を呈し，灰釉が施釉される。畳付には釉が付着しており，焼成時のものと考えられる。1050は肥前系の鉢と考えられる。内面は無釉で，外面には透明釉がかかる。底部形態と釉調は1037と類似する。1051は鉢の口縁部と考えられる。内面には白土による刷毛目文がみられる。

1053は土瓶の注口である。鉄釉が施され，内面には３カ所穿孔される。1054は小型の鉢と考えられるが，器種が不明である。底部は糸切り底で，外面に薄く透明釉がかかる。口縁部の一部に煤が付着することから，灯明皿として使用されていた可能性がある。

1052, 1055は苗代窯系の薩摩焼である。1052は擂鉢で，内面上位に段を成す。外面に藁灰釉が施釉される。1055は植木鉢である。稜花状の口縁部で，口縁部の釉が掻き取られる。

エ　B・C－26～28区出土遺物（第128図）

1056は肥前系の皿である。口縁部が外反し，やや先細りになる。全体に透明釉が施釉される。1057は，肥前系の碗の口縁部と考えられる。無文で，全面に鉄釉がかかる。1058は肥前系の碗である。内面の釉は輪状に掻き取られる。1060は肥前系の油壺である。内面は露胎し，外面には草花文と思われる文様が描かれる。

1061は薩摩焼の擂鉢である。鉄釉が全面にかかり，内面の擂目は粗い。

オ　出土区不明遺物（第128図）

1059は肥前系の碗である。直口縁で，内面には四方襷文をもつ。1062は寛永通寶である。表面の摩耗が著しく，時期については判別できない。

第２表　旧石器時代の遺物観察表

挿図No.	掲載番号	取上番号	出土地点	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
14	1	－	D－24	Ⅶ	掻器	ob_日東	2.65	2.14	0.98	5.41	
	2	116	B－27	Ⅳ	掻器	ob_腰岳	2.16	1.24	0.65	1.54	
	3	960	B－27	Ⅴ	ナイフ形石器	ob_桑ノ木津留	2.31	1.22	0.71	1.57	
	4	2410	C－24	－	角錐状石器	ob_日東	2.54＋	1.61	1.17	4.32	
	5	－	B－27	Ⅰ	ナイフ形石器	ob_上牛鼻	2.46	1.62	0.80	1.70	
	6	－	B－25	－	台形石器	ob_上牛鼻	3.49	2.15	0.70	4.70	
	7	－	C－26	Ⅱc	台形石器	チャート	2.72	2.82	0.70	4.29	
	8	146	B－27	Ⅳ	ナイフ形石器	ob_上牛鼻	2.6＋	2.05	0.98	4.39	
	9	1315	D－15	Ⅳ	ナイフ形石器	ob_日東	3.68	1.91	1.16	5.78	
	10	591	B－27	Ⅴ	ナイフ形石器	ob_日東	3.34＋	2.45	1.26	8.46	
	11	763	B－28	Ⅴ	彫器	チャート	2.73	2.79	1.16	8.72	
	12	544	C－27	Ⅳ	－	ob_日東	2.89＋	2.25	1.97	10.46	
39	13	857	B－27	Ⅴ	石核	ob_日東	6.74	5.33	3.16	92.46	

第３表　縄文時代の遺物観察表（１）

挿図No.	掲載番号	取上番号	出土地点	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
40	171	1301	D－16	Ⅵ	打製石鏃	ob_腰岳	2.16	1.28	0.41	0.73	
	172	3021	D－24	－	剥片	ob_上牛鼻	3.24＋	2.04	0.96	4.03	
41	173	799	B－28	Ⅴ	打製石鏃	チャート	1.77	1.56	0.27	0.54	
	174	1016	B－28	Ⅴ	打製石鏃	安山岩	1.57＋	1.72	0.45	0.92	
	175	2515	D－23	Ⅴ	ナイフ形石器	ob_日東	1.82＋	1.24＋	0.77	1.23	
	176	820	B－27	Ⅴ	トロトロ石器	チャート	3.66	1.83	0.74	3.93	
	177	2375	D－24	Ⅴ	剥片	ob_腰岳	1.86	1.54	0.49	0.67	
	178	2545	D－23	Ⅴ	残核	ob_腰岳	1.91	0.92	0.63	1.09	
	179	2517	D－24	Ⅴ	剥片	チャート	1.66	1.99	0.39	1.67	
	180	2727	D－23	Ⅴ	剥片	ob_日東	2.30	2.00	0.60	2.31	
	181	2517	D－23	Ⅴ	剥片	ob_腰岳	2.45	1.95	0.40	2.03	
	182	2388	C－23	Ⅴ	剥片	チャート	2.56	3.41	0.77	7.05	
	183	2399	C－24	Ⅴ	石匙	ob_上牛鼻	4.53	5.60＋	0.95	19.78	
	184	2500	D－24	Ⅴ	調整剥片	ob_針尾	1.70	2.68	0.40	0.91	
	185	－	D－23	Ⅴ	剥片	玉髄	6.50	3.30	1.15	28.80	
	186	2671	D－24	Ⅴ	削器	チャート	9.44	5.10	1.30	55.86	
42	187	503	B－28	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	6.24＋	6.93	2.62	118.07	
	188	755	B－28	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	7.01＋	10.66	2.16	139.27	
	189	645	B－28	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	10.95	10.87＋	3.08	358.00	
	190	784	B－28	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	6.62＋	10.3	3.55	327.21	
	191	616	B－27	Ⅴ	打製石斧	ホルンフェルス	14.5	6.85	2.65	360.00	
	192	2377	D－24	Ⅴ	打製石斧	ホルンフェルス	16.37＋	6.86	2.23	278.35	
	193	2454	D－24	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	16.84	8.91	5.57	746.00	
	194	2572	D－23	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	26.58	9.42	4.97	1600.00	
43	195	2359	D－23	Ⅴ	石核	ob_針尾	6.08	9.07	8.97	444.00	
44	196	181	B－27	Ⅳ	打製石鏃	ob_桑ノ木津留	1.49	1,42	0.27	0.49	
	197	2047	C－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	1.66	1.57＋	0.29	0.45	
	198	2300	C－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_桑ノ木津留	1.73	1.81	0.29	0.50	
	199	－	B－27	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	1.79	1.66	0.36	0.71	
	200	648	B－28	Ⅳ	打製石鏃	ob_桑ノ木津留	1.72	1.23＋	0.34	0.37	
	201	612	B－27	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	2.06	1.65	0.53	1.04	
	202	657	B－28	Ⅳ	打製石鏃	チャート	2.03	1.65	0.41	0.93	
	203	－	B－27	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	2.14	1.67	0.39	0.94	
	204	－	B－27	Ⅳ	打製石鏃	チャート	1.88	1.22	0.19	0.24	
	205	2174	C－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_腰岳	1.50＋	1.16＋	0.34	0.41	
	206	2040	C－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_腰岳	2.03＋	1.54＋	0.28	0.46	
	207	2276	D－24	Ⅳ	打製石鏃	ハリ質安山岩	2.68＋	1,77	0.33	1.05	
	208	2231	D－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	2.27	1.48	0.35	0.91	
	209	148	B－27	Ⅳ	器種不明	チャート	2.01	1.78	0.79	2.20	
	210	133	B－27	Ⅳ	打製石鏃	チャート	2.37	1.41	0.30	0.67	
	211	2941	C－24	Ⅳ	打製石鏃	ob_針尾	1.71＋	2.15＋	0.44	1.38	
	212	－	B－27	Ⅳ	打製石鏃	ハリ質安山岩	2.07	1.40	0.39	0.89	
	213	2255	D－23	Ⅳ	打製石鏃	ob_三船産	3.23＋	2.46	0.52	2.57	
	214	2117	C－24	Ⅳ	使用痕剥片	ob_三船産	1.27	1.57	0.43	1.05	
	215	－	B－27	Ⅳ	剥片	ob_桑ノ木津留	1.72	1.63	0.45	1.15	
	216	2299	C－24	Ⅳ	折断剥片	ob_日東	1.49＋	2.08	0.73	1.95	
	217	2505	D－24	Ⅳ	微細剥離痕剥片	ob_腰岳	1.64	2.18	0.56	2.03	
	218	2087	C－23	Ⅳ	使用痕剥片	チャート	3.00	2.65	0.96	6.60	
	219	2049	C－24	Ⅳ	剥片	ob_日東	3.72	5.12	1.00	15.28	
45	220	2296	C－24	Ⅳ	ナイフ形石器	ob_日東	3.58＋	1.75	1.20	4.94	
	221	2039	C－24	Ⅳ	彫器	ob_日東	2.81	1.90	0.82	4.50	
	222	－	B－27	Ⅳ	剥片	チャート	2.58	3.40	1.00	8.57	
	223	－	B－27	Ⅳ	剥片	チャート	2.14	2.04	0.89	5.09	
	224	2274	D－24	Ⅳ	剥片	ob_日東	2.42	2.57	0.76	4.48	
	225	2940	D－24	Ⅳ	剥片	ob_腰岳	2.70	1.84	1.01	3.12	
	226	2179	C－24	Ⅳ	剥片	ob_桑ノ木津留	2.50	2.20	0.55	2.38	
	227	124	B－24	Ⅳ	削器	チャート	6.85	4.28	1.00	30.93	
	228	2938	D－24	Ⅴ	石核	軟質頁岩	4.78	5.87	3.01	80.02	
	229	2438	C－23	Ⅳ	剥片	ob_日東	3.83＋	3.73＋	0.93	11.68	

第３表　縄文時代の遺物観察表（２）

挿図No.	掲載番号	取上番号	出土地点	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
46	230	2120	C－24	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	10.90	6.98	2.56	217.46	
	231	114	B－27	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	12.59	6.56	2.75	234.22	
	232	2945	D－24	Ⅳ	打製石斧	安山岩	11.79＋	6.60	2.07	223.22	
	233	1181	C－24	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	10.18＋	7.16	2.60	215.98	
	234	2340	D－23	Ⅳ	打製石斧	硬質砂岩	14.70	5.70	3.03	301.01	
	235	1121	D－24	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	13.96	7.00	3.74	443.00	
	236	－	C－23	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	14.96	7.72	2.62	319.13	
	237	1267	B－28	Ⅳ	打製石斧	泥岩	12.40	7.30	4.10	361.00	
	238	119	B－27	Ⅳ	打製石斧	硬質砂岩	13.34	5.75	2.60	285.85	
	239	2116	C－24	Ⅳ	打製石斧	頁岩	15.40＋	7.56	4.97	814.00	
	240	624	B－28	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	16.74	10.11＋	5.14	896.00	
47	241	234	B－27	Ⅳ	剥片	ホルンフェルス	4.76	8.08	1.35	38.99	
	242	2181	C－24	Ⅳ・Ⅴ	敲石	砂岩	7.05	4.88	3.27	152.46	
	243	910	C－27	Ⅳ	周辺加工石器	擬灰岩	7.48	8.89	1.73	132.85	
	244	1324	E－15	Ⅳ	礫器	ホルンフェルス	7.56	10.43	3.29	287.68	
	245	216	B－27	Ⅳ	礫器	ホルンフェルス	9.82	10.79	3.75	510.00	
	246	2071	D－23	Ⅳ	敲石	砂岩	8.90	7.29	4.36	390.00	
	247	1182	C－24	Ⅳ	石器	ホルンフェルス	14.66	9.78	5.56	960.00	
	248	2322	C－23	Ⅳ	石皿	砂岩	23.46＋	19.11＋	4.98	3810.00	
	249	2964	E－23	Ⅳ	打製石斧	ホルンフェルス	15.98	7.97	3.52	472.00	
48	250	38	B－27	Ⅲ	打製石鏃	ob_上牛鼻	1.45	1.31	0.37	0.32	
	251	69	B－27	Ⅲ	打製石鏃	チャート	1.47	1.42	0.46	0.48	
	252	69	C－27	Ⅲ	打製石鏃	ob_日東	1.67	1.35	0.46	0.70	
	253	961	B－27	Ⅴ	接合資料	ob_霧島	4.56	5.11	0.96	－	
	254	446	C－27	Ⅲ	石核	ob_霧島	5.65	6.00	3.30	98.96	
	255	445	C－27	Ⅲ	礫器	ob_針尾	4.66	6.33	4.16	138.62	
	256	－	C－23	Ⅱ	打製石鏃	ob_腰岳	1.03＋	1.17＋	0.25	0.23	
	257	－	D－23	Ⅱ	打製石鏃	ob_針尾	1.78	1.68＋	0.27	0.46	
	258	－	D－22	Ⅱ	打製石鏃	ob_針尾	1.85	1.50	0.40	0.68	
	259	－	D－21	Ⅱ	打製石鏃	ob_針尾	2.30	1.67	0.46	0.86	
	260	2940	D－21	Ⅱ	剥片	チャート	2.54＋	2.13＋	0.60	2.80	
	261	－	B－26	Ⅱc	剥片	ob_腰岳	3.70	2.64	0.64	5.96	
	262	－	D－20	Ⅱd	剥片	ob_上牛鼻	1.43＋	2.85＋	0.48	1.54	
	263	－	D－20	Ⅱc	剥片	ob_上牛鼻	2.46	3.08	0.85	5.75	
49	264	－	D－21	低Ⅱc	打製石斧	頁岩	16.00	5.68	2.41	267.84	
	265	267	D－5	Ⅱ	打製石斧	ホルンフェルス	13.12	9.45	3.54	490.00	
	266	竪穴建物状遺構	E－15	－	打製石鏃	黒色安山岩	2.56	2.10	0.50	1.61	
	267	竪穴建物状遺構	E－15	－	打製石鏃	ob_針尾	1.76	1.75	0.30	0.60	
	268	土抗7号	C－24	－	剥片	ob_腰岳	2.40＋	1.21	0.40	1.33	
50	269	－	B・C－26～28	－	打製石鏃	チャート	1.74	1.15	0.41	0.53	
	270	－	D－13	－	打製石鏃	ob_上牛鼻	2.40	1.77	0.40	1.50	
	271	－		－	打製石鏃	安山岩	2.55＋	1.90	0.40	1.47	
	272	－	C－15	－	打製石鏃	安山岩	2.90	1.98	0.40	1.83	
	273	－	D－14	－	打製石鏃	ob_針尾	3.30	1.64	0.44	1.57	
	274	－	B－26	－	打製石鏃	ob_腰岳	2.20	1.40	0.31	0.64	
	275	－	大園	－	打製石鏃	ob_針尾	1.61	1.80	0.41	0.62	
	276	－	B－27,28	－	打製石鏃	ob_桑ノ木津留	1.9＋	1.46	0.30	0.49	
	277	－	B－26	－	打製石鏃	チャート	2.78	1.41＋	0.40	1.24	
	278	－	E－23	－	打製石鏃	ob_針尾	2.22＋	1.12＋	0.39	0.64	
	279	－	D－13	－	打製石鏃	ob_桑ノ木津留	1.37	1.20	0.33	0.31	
	280	－	B－28	－	打製石鏃	ob_針尾	1.94＋	1.35＋	0.34	0.56	
	281	－	採取	－	打製石鏃	チャート	1.77＋	1.47＋	0.41	1.01	
	282	－	D－13	－	打製石鏃	ob_桑ノ木or霧島	1.46＋	1.22＋	0.40	0.59	
	283	－	D－28,29	－	打製石鏃	チャート	1.77	1.49	0.70	1.54	
	284	－	－	Ⅰ	石匙	安山岩	3.43＋	3.06	1.10	7.99	
	285	－	C－24	－	掻器	ob_日東	2.39＋	2.81＋	1.40	7.33	
	286	－	E－15	－	打製石鏃	鉄石英	2.55	2.11	0.89	3.36	
	287	－	B－27	－	打製石鏃	チャート	3.67	2.82	0.85	5.38	
	288	－	D－24	－	打製石鏃	瑪瑙	3.06	2.85	1.21	9.09	
51	289	－	C－25	－	石錐	ob_腰岳	3.76	1.08	0.27	0.85	
	290	－	C－27	－	打製石鏃	チャート	2.61	1.69	0.58	2.45	
	291	－	C－23,24	－	剥片	ob_腰岳	2.31	1.86	0.28	1.60	
	292	－	D－7	－	調整剥片	ob_針尾	2.20	1.60	0.40	0.94	
	293	－	D－7	－	調整剥片	黒色頁岩	2.00	1.96	0.50	1.65	
	294	－	D－24	－	剥片	ob_腰岳	3.44	2.90	0.75	5.19	
	295	－	C－15	－	石匙	安山岩	6.93	3.46＋	1.03	17.72	
52	296	－	C－25	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	11.80	4.82	1.77	123.23	
	297	－	B－28	表土採集	打製石斧	頁岩	11.22	5.08＋	3.44	210.03	
	298	－	D－20	表土採集	打製石斧	頁岩	9.9＋	7.24	3.73	340.00	
	299	－	C－28	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	14.49	6.56	2.62	359.00	
	300	－	B－28	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	11.08＋	5.95	2.70	214.94	
	301	－	C－28	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	11.7＋	6.76	2.84	340.00	
	302	－	C－23	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	14.58	6.84	2.60	343.00	
	303	－	D－15	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	16.49	6.07	4.38	468.00	
	304	－	B－27,28	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	20.20	5.74	3.29	504.00	
	305	－	D－16	表土採集	握斧	ホルンフェルス	11.40	14.20	5.10	1070.00	
	306	－	B－27	表土採集	打製石斧	ホルンフェルス	10.21	10.55	3.10	328.07	
53	307	－	B－27,28	表土採集	環状石斧	砂岩	11.65	7＋	1.60	139.91	

第４表　弥生・古墳時代の遺物観察表

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
54	308	－	－	1391	弥生土器	壺	口縁～頸部	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	17.2	－	－	○	○	○	白色赤色鉱物	肥後型複合口縁壺
	309	D－5	Ⅱ	－	成川式土器	甕	胴部～脚部	ナデ	ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	－	－	○	○	○	黒色・赤色鉱物	
	310	D－5	Ⅱ	380	成川式土器	甕	胴部～脚部	ケズリ→ナデ	ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	－	－	○	○	○	黒色・白色鉱物	
	311	D－5	Ⅰ	－	成川式土器	甕	胴部～脚部	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/3	－	－	－	○	○	○	黒色・赤色鉱物	
	312	E－16	Ⅰ	－	成川式土器	甕	口縁部	ハケメ→ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	25.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	313	C－22	Ⅱb	1343	成川式土器	甕	口縁～胴部	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	12.8	－	－	○	○	○	赤色鉱物	
	314	D－23	Ⅱ上b	一括	成川式土器	甕	胴部	平行タタキ	ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	－	－	○	○		赤色鉱物	
	315	C－23	Ⅱa	一括	成川式土器	甕	胴部	平行タタキ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	明黄褐色 Hue2.5Y7/6	－	－	－	○	○		赤色鉱物	
	316	D－21	低Ⅱc	一括	成川式土器	甕	脚部	ナデ	ナデ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	灰黄褐色 Hue10YR6/2	－	10.0	－	○	○		小礫・白色鉱物	
	317	D－22	Ⅱd	一括	成川式土器	高坏	底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	－	－	－	○	○		白色鉱物	
55	318	B－28	Ⅰ	783	成川式土器	甕	口縁～底部	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	明黄褐色 Hue10YR7/6	21.3	－	－	○	○		小礫・黒色鉱物	
	319	B－26	Ⅱc	一括	成川式土器	甕	脚部	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	11.0	－	○	○	○	黒色・赤色鉱物	
	320	C－27	Ⅲ	450	成川式土器	甕	脚部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	10.9	－	○	○	○	黒色鉱物	
	321	B－28	Ⅰ	－	成川式土器	壺	口縁部	ナデ	ナデ	明黄褐色 Hue10YR 7 /6	明黄褐色 Hue10YR7/6	16.6	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	322	B－27	Ⅲb	－	成川式土器	壺	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	12.6	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	323	B－27	Ⅰ	－	成川式土器	壺	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4	明黄褐色 Hue10YR7/6	14.8	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	324	B－28	Ⅳ	478	成川式土器	壺	胴部～底部	ハケメ→ナデ	ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	－	－	－	○	○			
	325	B－27	Ⅳ	52	成川式土器	壺	胴部	ハケメ→ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	326	D－28	Ⅳ	74	成川式土器	壺	胴部～底部	ハケメ→ナデ	ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	黄橙色 Hue10YR8/6	－	－	－	○	○			
	327	B－27	Ⅰ	－	成川式土器	壺	胴部～底部	ハケメ→ナデ	ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	2.0	－	○	○			
	328	B－28	Ⅰ	一括	成川式土器	鉢	胴部	ナデ	ケズリ→ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	329	C－28	Ⅰ	－	成川式土器	鉢	口縁～底部	ナデ	ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	13.1	－	－	○	○	○	白色鉱物	
56	330	C－27	Ⅰ・Ⅲ	28	古式土師器	甕	胴部	ハケメ→平行タタキ	ナデ	橙色 Hue5YR6/8	橙色 Hue5YR6/6	－	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	331	C－28	Ⅰ	－	須恵器	甕	口縁部	ナデ	ナデ	オリーブ色 Hue5Y6/2	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	9.0	－	－	○	○			櫛描波状文

第５表　古代の遺構内出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	遺構	出土地点	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
58	332	土抗７号	－	－	土師器	甕	完形	ナデ	ケズリ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	12.4	－	11.9	○	○		白色鉱物	煤付着
	333	土抗７号	D － 14	－	土師器	坏	完形	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	黄橙色 Hue10YR8/6	10.0	5.0	4.1	○	○	○	赤色鉱物	
	334	土抗７号	D － 14	－	土師器	埦	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	14.0	8.6	7.1	○	○	○	黒色鉱物	

第６表　古代の遺物観察表（１）

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
59	335	D－5d	Ⅰ	609	土師器	甕	口縁部	ヨコナデ	ケズリ→ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄橙色 Hue10YR8/4	25.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	336	D－5c・D－5d	Ⅰ	626・464・385	土師器	埦	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue2.5YR6/6	橙色 Hue2.5YR6/6	17.8	－	－	○	○		白色鉱物	
	337	D－5d	Ⅰ	974	土師器	埦	底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	－	8.4	－	○	○		白色鉱物	
	338	D－5	Ⅱ	－	土師器	埦	底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	黄灰色 Hue2.5Y6/1	－	7.2	－	○	○		白色鉱物	
	339	D－5・D－5c	Ⅰ・Ⅱ	632・376	内黒土師器	埦	口縁～底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	黒色 Hue7.5Y2/1	17.0	7.0	5.7	○	○	○	赤色鉱物	
	340	D－5d	Ⅰ	692・370	内黒土師器	埦	口縁～底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	黒色 Hue7.5Y2/1	15.5	4.8	6.2	○	○	○	赤色鉱物	
	341	D－5d	Ⅰ	368	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	褐灰色 Hue10YR4/1	16.0	－	－	○	○			外面に煤付着
	342	D－5a	Ⅰ	1065	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ナデ→ミガキ	ミガキ	黄褐色 Hue2.5Y5/3	黒色 HueN1.5/	16.5	－	－	○	○		赤色鉱物	
	343	D－5	Ⅱ	－	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ミガキ	ミガキ	淡黄色 Hue2.5Y8/3	黒色 Hue2.5Y2/1	16.0	－	－	○	○		黒雲母	
	344	D－5	Ⅰ	一括	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ナデ→ミガキ	ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	黒色 Hue5Y2/1	15.0	－	－	○	○		赤色鉱物	
	345	D－5d	Ⅰ	614・975	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黒色 HueN2/	18.0	－	－	○	○		赤色鉱物	
	346	D－5b	Ⅰ	256	内黒土師器	埦	口縁～胴部	ミガキ	ミガキ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	黒色 HueN1.5/	18.0	－	－	○	○		赤色鉱物	
	347	D－5	Ⅱ	263	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	黒色 Hue10YR1.7/1	－	7.8	－	○	○		赤色鉱物	
	348	D－5	Ⅰ	－	内黒土師器	埦	胴部～底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	黒色 Hue10YR1.7/1	－	6.8	－	○	○		赤色鉱物	外面丹塗り
	349	D－5	Ⅰ	－	内黒土師器	埦	胴部～底部	ナデ	ミガキ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	黒色 Hue10Y2/1	－	6.6	－	○	○		赤色鉱物	
	350	D－5	Ⅱ	－	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黒色 Hue10YR1.7/1	－	7.2	－	○	○		赤色鉱物	
	351	D－5d	Ⅰ	352	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	橙色 Hue7.5YR7/6	黒色 Hue7.5YR1.7/1	－	6.8	－	○	○	○		焼成前穿孔。高台内面に矢印状の線刻あり
	352	D－5	Ⅱ	371	内黒土師器	埦	胴部～底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黄灰色 Hue2.5Y4/1	－	6.8	－	○	○	○	赤色鉱物・火山ガラス	高台内「X」の字に線刻
	353	D－5	Ⅱ	－	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/2	橙色 Hue7.5YR7/6	－	7.4	－	○	○		赤色鉱物	
	354	D－5d	Ⅰ・Ⅱ	380	内黒土師器	埦	胴部～底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	明黄褐色 Hue10YR7/6	黒色 Hue10YR2/1	－	6.8	－	○	○		赤色鉱物	高台境に接合痕あり
	355	D－5	Ⅱ	－	内黒土師器	埦	底部	ナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黒色 Hue10YR1.7/1	－	8.6	－	○	○		赤色鉱物	
	356	D－5	Ⅱ	332	内黒土師器	埦	底部	回転ナデ	ミガキ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	暗灰色 HueN2/	－	6.0	－	○	○		赤色鉱物	
	357	D－5	Ⅱ	252	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい橙色 Hue2.5YR6/4	赤灰色 Hue2.5YR5/1	－	8.2	－	○	○	○	赤色鉱物・火山ガラス	内面丹塗り→黒色化

第6表　古代の遺物観察表（2）

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
59	358	D－5d	Ⅰ	607	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	黒色 Hue7.5YR1.7/1	－	7.2	－	○	○		火山ガラス	
	359	D－5	－	①	楠葉型黒色土器B	埦	胴部～底部	ミガキ	ミガキ	灰色 Hue5Y5/1	灰色 HueN4/	6.0	－	－	○	○			
	360	D－5d	Ⅰ	967	楠葉型黒色土器B	埦	底部	ナデ	ミガキ	暗灰色 HueN3/	暗灰色 HueN3/	－	6.5	－	○	○			
	361	D－5a	Ⅰ	557	須恵器	蓋	つまみ部	ナデ	ナデ	オリーブ黒色 Hue7.5Y3/1	灰色 Hue7.5Y5/1	－	－	－	○	○			
	362	D－5c	Ⅰ	1274	須恵器	蓋	つまみ部	ナデ	ナデ	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	○	○			
	363	D－5	Ⅰ	－	須恵器	壺	頸部	ナデ	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	364	D－5	Ⅰ	－	焼塩土器	－	口縁部	ナデ	布目圧痕	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	－	－	－	○	○		白色鉱物・小礫	二次焼成による赤化
	365	D－5d	Ⅰ	963	焼塩土器	－	口縁部	ナデ	布目圧痕	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	－	－	－	○	○		白色鉱物・小礫	
	366	D－5	Ⅱ	－	瓦	平瓦	－	格子目タタキ	布目圧痕	浅黄橙色 Hue10YR8/3	浅黄橙色 Hue10YR8/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	布目あり
	367	E－12	Ⅱa	1156	須恵器	坏	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	灰黄褐色 Hue10YR６/2	15.7	－	－	○	○			
	368	E－13	Ⅱb	1117	須恵器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	灰色 HueN6/	灰白色 Hue5Y7/1	－	8.4	－	○	○		小礫	高台内ヘラ切り痕
	369	E－12	Ⅰ	－	須恵器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	－	9.2	－	○	○		白色鉱物	
	370	D E－13	Ⅰ	－	須恵器	甕	口縁部	ナデ→格子目タタキ	ナデ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	20.2	－	－	○	○		小礫	
	371	D－14	Ⅰ	－	須恵器	甕	肩部	ナデ→平行タタキ	ナデ→同心円あて具痕	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	黄灰色 Hue2.5Y5/1	－	－	－	○	○		黒色鉱物	
	372	D－14	Ⅰ	－	須恵器	壺	肩部	ナデ	ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	○	○		小礫	外面に自然釉
	373	D－13	Ⅰ	－	須恵器	壺	底部	ナデ	ナデ	明灰黄色 Hue2.5Y5/2	黄灰色 Hue2.5Y4/1	－	10.2	－	○	○		小礫	
	374	D－12	Ⅰ	－	須恵器	壺	底部	ナデ	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	－	10.0	－	○	○		小礫・白色鉱物	
60	375	D－21	低Ⅱd	－	土師器	甕	口縁～胴部	ハケメ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	○	○			
	376	B－25	Ⅱb	一括	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黒色 Hue10YR1.7/1	－	－	－	○	○		赤色鉱物・火山ガラス	
	377	C－20	Ⅰ	一括	内黒土師器	埦	底部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	黒色 Hue7.5Y2/1	－	7.0	－	○	○		赤色鉱物	高台内に1条の線刻あり
	378	B－23	Ⅰ	一括	両黒土師器	坏	底部	ミガキ	ミガキ	黒色 Hue2.5Y2/1	黒色 Hue2.5Y2/1	－	6.0	－	○	○			糸切り底
	379	D－19・20	Ⅰ	－	土師器	甕	胴部	ヨコナデ	ケズリ→ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	橙色 Hue7.5YR6/6	－	－	－	○	○		黒雲母・赤色鉱物	
	380	C－23	Ⅱc	一括	土師器	蓋	天井部～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 Hue5YR6/8	橙色 Hue5YR6/8	16.0	2.4	3.0	○	○			
	381	D－23	Ⅱ上a	一括	須恵器	壺	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	382	B－25	Ⅱb	一括	須恵器	壺	肩部	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	383	B－25	Ⅱa	一括	須恵器	壺	胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	384	D－20	Ⅱ	－	須恵器	甕	胴部	格子目タタキ	平行あて具痕	橙色 Hue7.5YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	－	－	○	○		白色鉱物・小礫	
	385	B－27・28	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	13.2	5.4	4.8	○	○	○		ヘラ切り
	386	B－27	Ⅰ	－	内黒土師器	埦	口縁～胴部	回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	黒色 Hue10YR7/1	5.8	－	－	○	○	○	白色鉱物・小礫	
	387	B－27	Ⅰ	－	須恵器	甕	胴部	格子目タタキ	平行あて具痕	青黒色 Hue5BG2/1	灰色 HueN5/	－	－	－	○	○			
	388	C－28	Ⅰ	－	須恵器	甕	胴部	格子目タタキ	同心円あて具痕	灰色 Hue5Y4/1	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	○	○			
	389	B－27	Ⅰ	－	須恵器	甕	胴部	ヨコナデ	平行あて具痕	黄灰色 Hue2.5Y6/1	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	390	C－28	－	－	須恵器	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	オリーブ灰色 Hue5GY5/1	オリーブ灰色 Hue5GY5/1	－	－	－	○	○			
	391	－	Ⅰ	－	内黒土師器	埦	胴部～底部	ヨコナデ	ナデ→ミガキ	灰白色 Hue2.5Y8/2	褐灰色 Hue10YR6/1	－	7.2	－	○	○		赤色鉱物	
	392	－	－	1480	土師器	坩堝	口縁部	ナデ	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y６/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2	7.8	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	外面に煤付着

第7表　中世の遺構内出土遺物観察表（1）－1　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	遺　構	層	出土地点	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
									外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
62	393	造成面焼土域	－	D－5	－	土師器	Ⅲ	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR7/6	橙色 Hue5YR7/6	9.2	8.0	1.2	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
	397	柱穴	－	D－5	－	土師器	Ⅲ	完形	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	浅黄橙色 Hue7.5YR8/4	9.0	7.5	1.3	○	○		赤色鉱物	糸切り
66	413	土坑15号	Ⅱ	D－5	268	土師器	坏	完形	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 Hue7.5YR6/1	橙色 Hue7.5YR7/6	12.0	9.0	3.2	○	○		赤色鉱物	糸切り
	414	土坑15号	Ⅱ	D－5	－	土師器	Ⅲ	完形	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	8.7	7.2	1.3	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
	415	土坑15号	Ⅱ	D－5	－	土師器	Ⅲ	完形	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	8.5	7.7	1.3	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
	416	土坑16号	－	D－5	－	土師器	坏・Ⅲ	底部	ナデ	ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
	417	土坑16号	－	D－5	－	土師器	坏・Ⅲ	底部	ナデ	ナデ	明褐灰色Hue７.５YR7/２	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	－	－	○	○		赤色鉱物	糸切り
	420	土坑16号	Ⅱ	D－5	一括	焼塩土器	－	胴部	ナデ	布目痕	橙色 Hue2.5YR6/6	橙色 Hue2.5YR6/6	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	二次焼成による赤化
68	421	竪穴建物跡1号	－	E－15	①②③床面	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	灰色 Hue5Y5/1	26.9	－	－	○	○		白色鉱物	
70	422	竪穴建物跡2号	－	D－15	－	土師器	Ⅲ	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	7.8	6.6	1.7	○	○		赤色鉱物	糸切り
	423	竪穴建物跡2号	－	D－15	一括	土師器	坏・Ⅲ	底部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	－	5.2	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	424	竪穴建物跡2号	－	C－16	－	須恵器	甕	胴部	平行タタキ	平行あて具痕	暗赤褐色　Hue５YR３/３	黄灰色 Hue2.5Y5/1	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
72	427	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	土師器	小皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	9.2	7.0	1.4	○	○		白色鉱物	糸切り
	428	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	土師器	Ⅲ	口縁～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	9.3	7.0	1.5	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	429	竪穴建物跡3号	－	C－15	床面	土師器	小皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	8.8	7.0	1.3	○	○		白色鉱物	糸切り
	430	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	土師器	Ⅲ	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	8.8	7.0	1.5	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	431	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	土師器	Ⅲ	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	8.9	6.6	1.6	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	435	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ→ハケメ	ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	灰色 Hue10Y4/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
73	437	竪穴建物跡4号	下	－	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	－	9.0	－	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り

第７表　中世の遺構内出土遺物観察表（１）－２　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	遺構	層	出土地点	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
									外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
74	438	竪穴建物跡５号	－	C－16	－	土師器	坏	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	12.0	9.0	3.3	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	439	竪穴建物跡５号	－	C－16	－	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR7/6	橙色 Hue5YR7/6	－	6.0	－	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
75	443	竪穴状遺構	－	E－15	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	9.4	8.4	1.0	○	○		黒色鉱物	糸切り後ナデ
	444	竪穴状遺構	－	E－15	－	土師器	皿	底部	ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	－	8.4	－	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	445	竪穴状遺構	－	E－15	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	明黄褐色 Hue10YR6/6	7.2	5.4	1.4	○	○		白色鉱物	糸切り
	446	竪穴状遺構	－	E－15	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	6.6	5.2	1.5	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
79	449	柱穴跡１号	－	E－15	P60①	土師器	坏・皿	底部	ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	－	8.0	－	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
80	451	土坑１９号	－	E－14	－	土師器	皿	完形	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	8.7	8.3	1.0	○	○		白色・赤色鉱物	糸切り
	452	土坑１９号	－	E－14	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明褐色 Hue7.5YR5/6	橙色 Hue7.5YR6/6	8.0	7.8	1.2	○	○		白色鉱物	糸切り。器形歪んでる
83	457	大型土抗状遺構３号	Ⅱ	D・E－14	－	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	－	7.0	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	458	大型土抗状遺構３号	Ⅱ	E－14	－	土師器	坏・皿	底部	ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue１０YR7/4	－	7.2	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	459	大型土抗状遺構３号	Ⅱ	D・E－14	－	須恵器	壺	胴部	格子目タタキ	ナデ・ハケメ	灰色 HueN6/	灰色 HueN5/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	460	大型土抗状遺構３号	Ⅱ	D・E－14	－	須恵器	壺	胴部	ナデ	ハケメ	黄灰色 Hue2.5Y6/１	黄灰色 Hue2.5Y6/１	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	462	大型土抗状遺構３号	－	E－14	一括	瓦質土器	火鉢	底部	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	にぶい黄色 Hue２.５Y６/３	褐灰色 Hue １０YR５/２	－	30.4	－	○	○		白色鉱物	
85	463	堀跡１号	Ⅱ	D・E－14	410	土師器	坏	底部	ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue5YR6/3	褐灰色 Hue5YR5/1	－	7.8	－	○	○		白色・赤白鉱物	糸切り
	464	堀跡１号	Ⅱ	D－14	413	土師器	坏	底部	ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	－	8.0	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	469	堀跡１号	Ⅱ	C－14	－	瓦質土器	火鉢	口縁部	ナデ・ミガキ	ナデ	灰色 Hue7.5Y4/1	灰色 Hue5Y5/1	30.6	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
	470	堀跡１号	Ⅱ	E－14	408	瓦	平瓦	－	ナデ	布目痕・ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	布目痕
87	471	堀跡２号	－	E－15	727	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	12.5	9.0	3.2	○	○		白色鉱物	糸切り
	472	堀跡２号	－	E－15	内溝	土師器	坏	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/3	にぶい橙色 Hue7.5YR７/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	473	堀跡２号	－	D－14	－	土師器	坏	底部	ナデ	回転ナデ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	にぶい黄橙色 Hue10Y6/4	－	12.0	－	○	○		白色・黒色鉱物	
	474	堀跡２号	－	D－14	666	土師器	皿	底部	ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	－	5.0	－	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り
	475	堀跡２号	－	E－15	676	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	7.4	5.8	1.7	○	○	○	黒色鉱物	糸切り
	482	堀跡２号	Ⅰ・Ⅱ	D－13 D－14	－	須恵器	甕	口縁部	格子目タタキ・ナデ	ナデ・ハケメ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	17.6	－	－	○	○		白色鉱物	
	483	堀跡２号	Ⅱ	E－15	431	須恵器	甕	頸部	格子目タタキ	ナデ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	484	堀跡２号	－	E－15	－	須恵器	甕	胴部	格子目タタキ	ナデ	灰色 HueN4/1	灰色 HueN5/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	485	堀跡２号	Ⅱ	E－15	438	瓦質土器	甕	頸部～胴部	格子目タタキ・ハケメ	ナデ	黒色 Hue7.5Y2/1	黒色 Hue7.5Y2/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	486	堀跡２号	－	D－14	－	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	487	堀跡２号	－	E－15	677	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 Hue5Y5/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	488	堀跡２号	Ⅱ	E－14	古道硬化面上 422	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2	32.7	－	－	○	○		白色鉱物	
	489	堀跡２号	Ⅱ	E－14	古道硬化面上 421	瓦質土器	擂鉢	胴部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	490	堀跡２号	－	D－14	底面落ち込み	瓦質土器	擂鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	491	堀跡２号	－	E－15	－	瓦質土器	擂鉢	底部	ナデ	ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/3	にぶい褐色 Hue7.5YR6/3	－	－	－	○	○		赤色鉱物	
88	492	堀跡２号	Ⅰ・Ⅱ	D－14 E－15	436・674	瓦質土器	擂鉢	口縁～底部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/4	31.0	16.0	12.1	○	○		白色鉱物	
	493	堀跡２号	Ⅰ・Ⅱ	D－14 E－14 E－15	721・715	瓦質土器	擂鉢	口縁～底部	ナデ	ハケメ	黄橙色 Hue10YR8/6	橙色 Hue7.5YR7/8	26.4	13.2	12.8	○	○		白色鉱物	
	494	堀跡２号	－	E－15	底面溝	瓦質土器	擂鉢	底部	ナデ	ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	15.0	－	○	○		白色鉱物	
	495	堀跡２号	埋土	E－15	一括	瓦質土器	鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue2.5Y7/6	－	18.0	－	○	○		赤色鉱物	煤付着
	496	堀跡２号	Ⅰ	D－14 E－15	930	瓦質土器	火鉢	口縁部	ナデ	ナデ	オリーブ黒色 Hue7.5Y3/1	オリーブ黒色 Hue7.5Y3/1	34.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	497	堀跡２号	－	E－15	697	瓦質土器	火鉢	胴部	ミガキ	ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	498	堀跡２号	1	D－14 E－15	－	瓦質土器	茶釜	口縁～胴部	ナデ	ナデ・ハケメ	灰オリーブ色 Hue5Y5/3	灰色Hue5Y4/2	13.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	499	堀跡２号	－	D－14	底面	瓦	丸瓦	－	ナデ	布目痕・ナデ	灰白色 Hue5Y7/2	灰白色 Hue5Y7/2	－	－	－	○	○		白色鉱物	
89	500	溝状遺構２号	－	D－15	－	土師器	坏・皿	底部	ナデ	ナデ	橙色 Hue5YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	10.4	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	501	溝状遺構２号	－	D－15	－	土師器	坏・皿	底部	ナデ	ナデ	黄褐色 Hue2.5Y5/3	黄褐色 Hue2.5Y5/3	－	6.6	－	○	○		赤色鉱物	糸切り
92	502	溝状遺構５号	－	E－24	一括	土師器	坏・皿	口縁～胴部	ナデ	ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	505	溝状遺構８号	－	D－22	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ハケメ・ナデ	ハケメ	灰色 Hue5Y5/1	灰黄色 Hue2.5Y7/2	27.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	506	溝状遺構８号	－	D－22	－	瓦質土器	甕・壺	胴部	ハケメ・ナデ	ハケメ	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y5/1	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
93	508	溝状遺構７号	Ⅱ上a	C－23	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	7.5	4. 6	1.6	○	○		赤色鉱物	糸切り
	510	溝状遺構７号	－	C－23	一括	瓦質土器	擂鉢	胴部	ナデ	ハケメ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	－	－	○	○		白色鉱物	糸切り

第8表　中世の遺構内出土遺物観察表（2）陶磁器

挿図番号	掲載番号	遺　構	層	出土地点	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬種類	色調	部位	備考
											口径	底径	器高				
62	394	造成面焼土域	Ⅱ	D－5	345	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～底部	灰色 Hue5Y6／1	16.2	5.4	6.8	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6／2	畳付～高台内露胎	
	395	造成面焼土域	－	D－5	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～底部	灰白色 Hue5Y7／1	16.7	5.2	6.5	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue5G Y7／1	畳付～高台内露胎	
	396	落ち込み	Ⅱ	D－5	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8／2	14.0	－	－	透明釉	浅黄色 Hue2.5Y7／3	残存部全面施釉	
66	418	土坑16号	－	D－5	－	白磁	碗	碗Ⅳ類?	胴部	灰白色 Hue7.5Y7／1	－	－	－	透明釉	灰色 Hue7.5Y6／1	残存部全面施釉	
	419	土坑16号	－	D－5	－	白磁	碗	碗Ⅳ類?	胴部	灰白色 Hue7.5Y8／1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7／1	残存部全面施釉	
72	432	竪穴建物跡3号	－	－	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8／1	11.2	－	－	透明釉	明オリーブ灰色 Hue5G Y7／1	残存部全面施釉	
	433	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	青磁	碗	上田B類	口縁部	橙色 Hue5Y R6／6	－	－	－	青磁釉	にぶい黄橙色 Hue10Y R7／3	残存部全面施釉	
	434	竪穴建物跡3号	－	C－15	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁部	灰白色 Hue5Y7／1	－	－	－	青磁釉	灰色 Hue7.5Y7／1	残存部全面施釉	
74	441	竪穴建物跡5号	－	－	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰オリーブ色 Hue5Y6／2	16.0	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6／2	残存部全面施釉	
	442	竪穴建物跡5号	－	C－16	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7／2	16.0	－	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6／3	残存部全面施釉	
75	447	竪穴状遺構	－	E－15	－	中国陶器	水注	－	胴部	灰白色 Hue5Y8／1	－	－	－	灰緑釉	暗オリーブ色 Hue5Y4／4	内面露胎	
79	450	柱穴跡2号	－	E－14	P－116	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	胴部	灰白色 Hue7.5Y7／1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5／2	残存部全面施釉	
81	454	土抗21号	－	D－12	一括	青磁	碗	－	底部	灰白色 Hue2.5Y／2	－	4.6	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue2.5G Y7／1	畳付～高台内露胎	
	455	土抗21号	－	D－12	一括	青磁	坏	龍泉窯系	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8／1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5G Y6／2	残存部全面施釉	
82	456	大型土抗状遺構1号	－	D－12	③	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7／1	18.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7／2	残存部全面施釉	
83	461	大型土抗状遺構3号	Ⅱ	D・E－14	－	国産陶器	甕	－	胴部	灰黄褐色 Hue１０YR５／２	－	－	－	無釉	灰黄褐色 Hue１０YR５／２	－	
85	465	堀跡1号	Ⅱ	D－14	411	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7／1	－	－	－	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y5／4	残存部全面施釉	
	466	堀跡1号	Ⅱ	D－14	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	胴部～底部	灰白色 Hue5Y7／1	－	5	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5／3	残存部全面施釉	
	467	堀跡1号	Ⅱ	D－14	－	青磁	碗	－	底部	灰白色 Hue2.5Y7／	－	3.7	－	青磁釉	灰白色 Hue7.5Y7／1	残存部全面施釉	
	468	堀跡1号	Ⅱ	D－14	－	中国陶器	天目碗	－	口縁部	浅黄色 Hue2.5Y7／3	－	－	－	鉄釉	暗褐色 Hue10Y R3／3	残存部全面施釉	
87	476	堀跡2号	－	D－14	底面	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y7／1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y4／2	残存部全面施釉	
	477	堀跡2号	－	E－15	底面722	青磁	碗	明代以降	底部	にぶい橙色 Hue7.5Y R6／4	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5／3	内面見込み輪状掻き取り，高台内露胎	高台打ち欠き
	478	堀跡2号	－	E－14	716	青磁	皿	同安皿Ⅰ－1a類	底部	灰白色 Hue5Y7／1	－	5	－	青磁釉	灰色 Hue7.5Y6／1	胴部下位～底部露胎	
	479	堀跡2号	Ⅱ	E－15	－	白磁	皿	森田D群	底部	灰白色 Hue2.5Y8／2	－	4.2	－	透明釉	灰白色 Hue2.5Y8／2	腰部～高台内面露胎	
	480	堀跡2号	－	E－15	679	青花	碗	小野碗B群	底部	浅黄色 Hue2.5Y7／3	－	5.6	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7／2	畳付～高台内露胎	瑞州窯系
	481	堀跡2号	底面	D－14 E－14 E－15	底面溝	中国陶器	甕・壺	－	胴部	橙色 Hue7.5YR6/6	－	－	－	無釉	橙色 Hue7.5Y6／6	－	
92	503	溝状遺構5号	－	D－23	一括	青磁	碗	上田D類?	底部	淡黄色 Hue2.5Y8／3	－	6.0	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y4／2	畳付～高台内露胎	
	504	溝状遺構5号	－	D－23	一括	青磁	碗	上田D類?	胴部～底部	灰白色 Hue5Y7／1	－	6.4	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6／2	畳付～高台内露胎	
93	507	溝状遺構9号	－	B－25	一括	白磁	碗	碗Ⅴ類	胴部	灰白色 Hue5Y7／1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7／1	残存部全面施釉	
	509	溝状遺構7号	Ⅰ下a	C－23	一括	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8／2	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y8／1	残存部全面施釉	

第9表　中世の遺構内出土遺物観察表（3）滑石製品

挿図番号	掲載番号	遺　構	層	出土地点	取上番号	種別	器種	部位	色調	法量（cm）			備考
										口径	底径	器高	
62	398	柱穴	－	D－4	－	滑石製品	石鍋	胴部	灰白色Hue10Y7/1	－	－	－	穿孔1ヶ所
77	448	掘立柱建物跡2号	－	E－15	－	滑石製品	石鍋	口縁部	灰白色Hue10Y7/1	19.8	－	－	

第10表　中世の遺構内出土遺物観察表（4）土製品

挿図番号	掲載番号	遺　構	層	出土地点	取上番号	種別	器種	色調	法量（cm）			胎土				備考
									長さ	幅	穿孔	石英	長石	角閃	他	
70	425	竪穴建物跡2号	Ⅰ	C－15	－	土製品	土錘	浅黄橙色 Hue7.5YR8/3	3.7	1.4	0.6	○	○			
74	440	竪穴建物跡5号	－	C－16	－	土製品	羽口	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	－	－	○	○		白色鉱物	

第11表　中世の遺構内出土遺物観察表（5）

挿図番号	掲載番号	出土地点	遺構	取上番号	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
65	399	D－5	土抗9号	－	鉄製品	釘	3.8	0.1	0.1	3.13	
	400			－	鉄製品	釘	(4.4)	(0.9)	0.9	3.03	
	401			－	鉄製品	釘	4.2	0.7	0.7	2.03	
	402			－	鉄製品	釘	(3.8)	(0.5)	0.6	1.30	
	403			－	鉄製品	釘	3.2	0.1	0.2	1.61	
	404			－	鉄製品	釘	(4.50)	(0.7)	0.4	2.19	
	405			－	鉄製品	釘	(4.1)	(0.7)	0.7	2.40	
	406			一括	鉄製品	釘	3.0	0.6	0.4	1.57	
	407			－	鉄製品	釘	3.2	0.2	0.2	0.99	
	408			－	鉄製品	釘	2.5	0.2	0.1	2.06	
	409			一括	鉄製品	釘	3.1	0.1	－	2.01	
	410			－	鉄製品	釘	2.5	0.2	0.2	1.90	
	411			－	鉄製品	釘	3.9	0.8	0.6	2.64	
	412			－	鉄製品	釘	(3.9)	(0.6)	(0.9)	1.94	
70	426	C－16	竪穴建物跡2号	一括	鉄製品	釘?	4.1	0.9	0.7	5.25	
72	436	C－14	竪穴建物跡3号	一括	鉄製品	釘?	4.0	1.3	0.5	5.74	
80	453	－	土抗18号	埋土	鉄製品	鉄滓	6.0	2.2	1.4	26.13	

第12表　中世の遺構内出土遺物観察表（6）木製品

挿図番号	掲載番号	出土地点	遺構	取上番号	種別	器種	法量（cm）			樹種	備考
							長さ	幅	厚さ		
97	511	杭列跡	低Ⅱc・d	D－22	10	杭	14.0	a:1.2	a:1.2	－	
	512				23	杭	13.9	a:1.4 b:1.8 c:0.8	a:1.2 b:1.3 c:0.8	－	
	513				22	杭	14.8	a:1.6 b:1.1	a:1.7 b:0.4	－	
	514				3	杭	21.3	a:2.3 b:1.2	a:2.0 b:0.9	マツ属複維管束亜属	
	515				5	杭	21.6	a:1.9 b:1.7	a:1.8 b:1.4	－	
	516				8	杭	30.2	a:4.6 b:4.5 c:2.5	a:4.6 b:4.0 c:2.2	エゴノキ属	
	517				7	杭	28.0	a:2.5 b:2.6 c:1.8	a:2.7 b:2.2 c:1.6	－	
	518				4	杭	30.8	a:2.3 b:2.4 c:1.4	a:2.5 b:2.8 c:1.7	マツ属複維管束亜属	
98	519	杭列跡	低Ⅱc・d	D－22	21	杭	21.6	a:1.9 b:1.1	a:2.0 b:1.0	－	
	520				6	杭	23.5	a:1.9 b:1.8 c:1.2	a:2.0 b:1.6 c:0.8	－	
	521				12	杭	23.7	a:3.2 b:3.1	a:3.0 b:2.0	ハイノキ属ハイノキ節	
	522				15	杭	21.8	a.3.3 b.2.2	a.2.9 b.2.4	－	
	523				20	杭	33.2	a:3.1 b:2.8 c:1.6	a:3.5 b:2.6 c:1.6	シキミ	
	524				9	杭	27.5	a:1.9 b:1.4	a:1.9 b:0.9	－	
	525				2	杭	29.5	a:2.0 b:1.8	a:2.1 b:1.4	－	
	526				14	杭	33.4	a.2.2 b.2.0	a.2.1 b.2.2	－	
100	527	土抗状遺構２号	低Ⅱ	D－20	一括	板状木製品	14.7	a.2.6 b.4.7 c.3.3	a.0.8 b.1.0 c.0.9	－	
	528	土抗状遺構２号	低Ⅱ	D－20	一括	板状木製品	12.6	a.（1.1） b.3.7 c.3.8	a.（0.5） b.0.5 c.0.6	－	

第13表　中世の遺物観察表（1）木製品

挿図番号	掲載番号	層	出土地点	取上番号	種別	器種	法量（cm）			樹種	備考
							長さ	幅	厚さ		
103	529	低Ⅱd	D－20	－	木製品	杭	17.6	a.1.7 b.1.6 c.1.2	a.1.6 b.1.6 c.0.7	－	
	530	－	－	1402	木製品	杭	22.6	a.2.7 b.2.4	a.2.7 b.（1.8）	－	
	531	－	－	1420	木製品	杭	39.0	a.3.0 b.2.8	a.2.6 b.1.4	－	
	532	低Ⅱb	D－20	－	木製品	杭	46.2	a.2.9 b.3.1 2.3	a.2.6 b.2.9 c.2.3	－	
	533	低Ⅱd	D－20	－	木製品	杭	28.7	a.2.5 b.1.7 c.1.7	a.2.1 b.2.1 c.1.6	－	
	534	低Ⅱd	D－20	－	木製品	杭	28.2	a.2.8 b.2.8 c.2.5	a.2.4 b.2.6 c.1.8	－	
	535	低Ⅱc	D－21	－	木製品	杭	19.6	a.1.8 b.1.9 c.1.7	a.1.8 b.（1.5） c（0.8）	－	
	536	低Ⅱc	D－20	－	木製品	杭	7.9	a.2.1 b.2.0	a.1.9 b.1.6	－	
	537	低Ⅱc	D－21	－	木製品	杭	8.0	a.1.7 b.1.7	a.1.7 b.1.4	－	
	538	低Ⅱc	D－20	－	木製品	杭	7.3	2.1	1.9	－	
104	539	低Ⅱc	C－20	－	木製品	碗	（器高）1.9	（底径） 7.8	－	－	
	540	低Ⅱc	D－20	－	木製品	蓋	7.5	6.1	最大1.7 最小1.3	－	
	541	低Ⅱc	D－20	－	木製品	棒状木製品	10.4	a.1.4 b.3.2 c.1.1	a.0.5 b.0.8 c.0.4	－	
	542	－	－	1371	木製品	棒状木製品	10.0	a.5.0 b.3.2	a.1.0 b.0.7	－	
	543	低Ⅱc	D－21	－	木製品	棒状木製品	3.2	2.2	2.7	－	
	544	低Ⅱc	D－21	－	木製品	板状木製品	5.2	3.5	1.8	－	
	545	低Ⅱc	D－20		木製品	板状木製品	5.6	a.2.3 b.1.3	－	－	
	546	低Ⅱc	D－20	一括	木製品	板状木製品	6.6	3.0	0.9	－	
	547	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	8.0	3.4	－	－	
	548	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	20.8	a.1.2 b.1.2 c.1.2	最大1.0 最小0.1	－	
	549	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	3.8	1.2	0.9	－	
	550	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	11.3	a.0.6 b.0.6 c.0.5	最大0.5 最小0.1	－	
	551	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	22.6	a.3.3 b.3.4	a.0.4 b.0.5	－	
	552	低Ⅱd	D－21	－	木製品	板状木製品	19.8	a.2.9 b.2.8	a.0.5 b.0.5	－	
	553	低Ⅱd	D－21	－	木製品	板状木製品	19.5	a.2.5 b.2.5	a.0.7 b.0.8	－	
	554	－	－	1369	木製品	板状木製品	12.8	1.9	0.3	－	
	555	Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	12.3	a.1.6 b.0.6	a.0.4 b.0.3	－	
	556	－	－	1365	木製品	板状木製品	12.3	a.2.0 b.1.5	a.0.4 b.0.4	－	
	557	低Ⅱc	D－21	－	木製品	板状木製品	5.4	1.9	0.4	－	
	558	低Ⅱd	D－21	－	木製品	板状木製品	6.6	2.2	0.3	－	
	559	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	6.1	a.1.1 b.1.6	a.0.2 b.0.2	－	
	560	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	8.9	a.2.8 b.3.0	a.0.4 b.0.4	－	
	561	低Ⅱd	D－21	－	木製品	板状木製品	9.1	2.8	0.5	－	
105	562	Ⅱ	－	1460	木製品	板状木製品	19.8	a.（－） b.3.7 c.4.1	a.（－） b.4.4 c.4.3	－	
	563	－	－	1419	木製品	板状木製品	10.0	a.6.8 b.4.4	a.1.7 b.0.9	－	
	564	－	D－20	－	木製品	板状木製品	5.3	9.6	3.7	－	
	565	Ⅱ	－	1291	木製品	板状木製品	7.0	5.2	1.7	－	
	566	Ⅱ	－	1289	木製品	板状木製品	8.0	a.3.8 b.3.3	a.（－） b.1.2	－	
	567	－	－	1417	木製品	板状木製品	7.4	6.3	1.0	－	
	568	Ⅱ	－	1441	木製品	板状木製品	7.6	6.0	0.7	－	
	569	低Ⅱc	D－20	－	木製品	板状木製品	19.3	a.5.8 b.5.0	－	－	
	570	Ⅱ	C－20	1273	木製品	杭	20.3	a.4.5 b.2.1	a.3.6 b.（3.1）	－	
	571	低Ⅱc	D－20	－	木製品	杭	17.8	a.1.9 b.2.4 c.2.5	a.1.0 b.2.4 c.2.4	－	
	572	－	－	1452	木製品	杭	17.8	a.2.5 b.2.4 c.2.1	a.1.5 b.1.4 c.0.8	－	
	573	－	－	1473	木製品	杭	28.9	2.0	2.6	－	

第14表　中世の遺物観察表（2）－1　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
106	574	D－5	Ⅱ	382	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	13.3	10.9	2.8	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	575	D－5d	Ⅰ	991・992	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	13.2	11.0	2.7	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	576	D－5	Ⅱ	355	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	13.0	9.8	3.0	○	○		白色鉱物	糸切り
	577	D－5c	Ⅰ	1263・499	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	11.7	8.1	3.0	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	578	D－5	Ⅱ	366	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	橙色 Hue7.5YR6/ 6	11.4	8.4	2.6	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	579	D－5	Ⅱ	381	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	9.5	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	580	D－5b	Ⅰ	338	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 Hue10YR5/1	褐灰色 Hue10YR5/1	－	9.4	－	○	○		茶色・白色鉱物	内全体と外の一部が黒色化
	581	D－5	Ⅱ	311	土師器	坏	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	－	9.0	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	582	D－5b	Ⅰ	1126	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	7.6	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	583	D－5c	Ⅰ	463・938	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	7.4	－	○	○		白色鉱物	糸切り
	584	D－5	Ⅱ	293	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	10.0	8.9	1.5	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	585	D－5	Ⅱ	295	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	橙色 Hue5YR7/6	10.0	8.4	1.1	○	○		白色鉱物	糸切り
	586	D－5	Ⅱ	342	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	9.4	7.7	1.7	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	587	D－5	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR7/6	9.4	7.4	1.5	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	588	D－5d	Ⅰ	1174	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	9.2	6.5	1.7	○		○	茶色・白色鉱物	糸切り。二次焼成痕
	589	D－5a	Ⅰ	1045・1048	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/3	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	9.1	7.0	1.6	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	590	D－5c	Ⅰ・Ⅱ	529	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	黄橙色 Hue10YR8/6	黄橙色 Hue10YR8/6	11.0	8.4	1.6					糸切り
	591	D－5c	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	にぶい橙色 Hue5YR7/4	9.1	7.0	1.3	○	○	○	茶色鉱物	糸切。内面丹塗
	592	D－5	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue2.5YR6/8	9.0	6.0	1.5	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	593	D－5	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	8.9	7.6	1.0	○	○	○		糸切り。全体的にやや摩滅
	594	D－5c	Ⅰ	808	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	8.8	7.5	1.6	○	○	○		糸切り。二次焼成可能性あり
	595	D－5	Ⅱ	310	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	8.6	7.8	1.5	○			茶色鉱物	糸切り
	596	D－5	Ⅱ	374	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	8.6	7.0	1.3	○		○	茶色鉱物	糸切り。煤付着。
	597	D－5	Ⅱ	346	土師器	皿	完形	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	8.6	7.8	1.1	○		○	茶色・白色鉱物	糸切り
	598	D－5	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	8.6	7.6	0.8	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	599	D－5	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 Hue2.5Y5/1	灰黄色 Hue2.5Y7/2	8.6	6.0	1.6	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り。須恵器質で硬質
	600	D－5c	Ⅰ	507	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR6/3	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	8.6	6.6	1.4	○	○	○	茶色・白色鉱物・金雲母	糸切り
	601	D－5	Ⅱ	353	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	8.3	6.0	1.4	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	602	D－5c	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐色 Hue10YR5/2	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	8.0	5.7	1.4	○	○	○		糸切り。二次焼成
	603	D－5	－	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	7.6	5.4	1.3	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	604	D－5	Ⅱ	320	土師器	皿	完形	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	橙色 Hue7.5YR7/6	7.4	6.1	1.4	○		○	茶色・白色鉱物	糸切り。煤付着
	605	D－5	Ⅱ	328	土師器	皿	口縁～底部	回転ヘラケズリ→回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	7.4	5.0	2.4	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	606	D－5	Ⅱ	321	土師器	皿	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/3	橙色 Hue2.5YR7/6	－	7.4	－	○	○	○		糸切り
	607	D－5	Ⅱ	361	土師器	小壺	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	－	4.0	－	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	608	D－5	Ⅱ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	灰色 Hue7.5Y5/1	灰色 Hue7.5Y5/1	38.4	－	－	○	○		白色鉱物	東播系
	609	D－5b	Ⅰ	1137・1138	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	灰色 HueN4/	灰色 HueN6/	27.6	－	－	○	○		白色鉱物	東播系
	610	D－5	Ⅱ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰白色 Hue7.5Y7/1	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	東播系
	611	D－5・D－5a	Ⅰ・Ⅱ	457・1147	瓦質土器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	黄灰色 Hue2.5Y6/1	－	9.0	－	○	○		白色鉱物	東播系
	612	D－5b	Ⅰ	261	瓦質土器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y6/1	－	9.0	－	○	○		白色鉱物	東播系
	613	D－5	－	－	瓦質土器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1	－	10.0	－	○	○		白色鉱物	東播系
	614	D－5b	Ⅰ	1075	瓦質土器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	灰白色 Hue5Y7/1	灰色 Hue5Y5/1	－	8.0	－	○	○		白色鉱物	東播系
	615	D－5・D－5c	Ⅰ・Ⅱ	638	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ→ハケメ	灰色 HueN4/	灰色 HueN4/	34.6	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	樺万丈系
107	616	D－5a	Ⅰ	1051	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	黄灰色 Hue2.5Y5/1	黄灰色 Hue2.5Y5/1	27.6	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	樺万丈系
	617	D－5	Ⅱ	288	瓦質土器	捏鉢	底部	ナデ→ハケメ	ナデ→ハケメ	灰白色 Hue5Y7/1	灰白色 Hue5Y7/1	－	12.0	－	○	○		白色・黒色鉱物	樺万丈系
	618	D－5d	Ⅰ	1001	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ハケメ→ナデ	ハケメ→ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	24.9	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	樺万丈系
	619	D－5	Ⅱa	－	須恵器	捏鉢	底部	綾杉状タタキ痕	ナデ→ハケメ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	－	9.0	－	○	○		白色・黒色鉱物	樺万丈系
	620	D－5	Ⅱ	274	須恵器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰色 Hue5Y4/1	－	8.8	－	○	○		白色鉱物	樺万丈系
	621	D－5	Ⅱ	333	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue5YR6/6	27.4	－	－	○	○		白色鉱物	

第14表　中世の遺物観察表（2）－2　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
107	622	D－5・D－5a	Ⅰ・Ⅱ	－	瓦質土器	擂鉢	底部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/3	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	15.8	－	○	○		白色鉱物	
	623	D－5・D－5b	Ⅰ・Ⅱ	266	瓦質土器	茶釜	口縁部	ナデ	ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/2	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	18.5	－	－	○	○			
	624	D－5	Ⅱ	337	瓦	平瓦	－	縄状タタキ痕	布目圧痕	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	625	D－5	Ⅱ	－	瓦	平瓦	－	縄状タタキ痕	布目圧痕	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	－	－	－	○	○		白色鉱物	
114	781	E－14	－	111	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	14.0	9.0	3.3	○	○			
	782	D－13	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	13.6	10.0	2.7	○	○		茶色・白色鉱物	
	783	E－13	Ⅱa	1123	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	11.8	9.1	2.6	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	784	D－13	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	11.2	7.0	3.4	○	○		茶色・白色鉱物	内面に煤付着
	785	D－13	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hue7.5YR7/6	11.0	7.0	3.4	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	786	D・E－13	－	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	10.5	－	○	○		白色鉱物	糸切り。ヘラ痕あり
	787	D・E－13	－	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	10.0	－	○	○		白色鉱物	
	788	E－13	Ⅱb	1119	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 Hue2.5Y5/1	黄灰色 Hue2.5Y5/1	－	9.0	－	○	○		茶色・白色鉱物	
	789	D－13	Ⅱb	1126	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	10.0	8.4	1.3	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	790	D・E－13	－	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	黄橙色 Hue7.5YR7/8	黄橙色 Hue7.5YR7/8	9.7	8.0	1.6	○	○		白色鉱物	糸切り
	791	D－15	Ⅱ	1316	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR7/6	9.4	7.0	1.5	○	○		茶色鉱物	糸切り
	792	E－13	Ⅱb	1120	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	橙色 Hue5YR6/6	8.8	6.8	1.3	○	○	○		糸切り
	793	E－12	Ⅱb	1144	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐色 Hue10YR5/2	灰黄褐色 Hue10YR5/2	8.8	7.0	1.3	○			茶色・白色鉱物	
	794	D－13	Ⅱa	1113	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR7/6	橙色 Hue5YR7/6	8.7	7.0	1.8	○	○			糸切り
	795	E－12	Ⅱa・Ⅱb	1147・1148	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	8.0	6.8	1.5	○	○	○		糸切り
	796	E－12	Ⅱ	1150	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue5YR7/6	8.0	8.1	1.0	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	797	D－14	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	7.1	5.6	1.5	○		○		糸切り
	798	E－13	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	6.0	3.5	1.8	○	○	○		糸切り
	799	C－15	Ⅰ	－	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 Hue10YR4/1	褐灰色 Hue10YR5/1	－	5.6	－	○	○			糸切り。外底まで煤付着。
115	800	D・E－13	Ⅰ	－	須恵器	甕	口縁部	格子目タタキ痕	ナデ・ハケメ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	27.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	801	E－12・13	Ⅱ・Ⅱa	1152	須恵器	甕	口縁部	格子目タタキ痕	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	35.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	802	E－13	Ⅰ	－	須恵器	甕	口縁部	綾杉状タタキ痕	ナデ	灰色 Hue5Y6/1	灰色 Hue5Y6/1	29.2	－	－	○	○		白色鉱物	
	803	D－13	Ⅰ	－	須恵器	甕	胴部	綾杉状タタキ痕	ナデ	灰色 Hue7.5Y5/1	灰色 Hue7.5Y4/1	－	－	－	○	○			
	804	C－15	Ⅰ	－	須恵器	甕	胴部	綾杉状タタキ痕	ナデ	灰色 HueN4/	灰色 HueN5/	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	805	D－13	Ⅰ	－	須恵器	甕	底部	綾杉状タタキ痕	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	黄灰色 Hue2.5Y6/1	－	16.2	－	○	○		白色鉱物	
116	806	D－12	Ⅰ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰白色 Hue5Y7/1	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	○	○			
	807	D－15	Ⅰ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰黄色 Hue2.5Y6/2	灰黄色 Hue2.5Y6/2	22.8	－	－	○	○		白色鉱物	
	808	C－14	Ⅰ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/2	灰色 Hue5Y5/1	30.0	－	－	○	○		白色鉱物	
	809	D－13	Ⅰ	－	須恵器	捏鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	－	10.6	－	○	○			
	810	C－15	Ⅰ	－	須恵器	捏鉢	底部	ナデ	ナデ	黄灰色 Hue2.5Y6/1	黄灰色 Hue2.5Y6/1	－	8.2	－	○	○		白色鉱物	
	811	D－13	Ⅰ	－	瓦質土器	羽釜	胴部	ナデ	ナデ	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	812	E－15	Ⅰ	－	瓦質土器	火鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	黄灰色 Hue2.5Y6/1	灰黄色 Hue2.5Y6/2	35.3	－	－	○	○			花文：スタンプ文
	813	E－14	Ⅰ	－	瓦質土器	火鉢?	胴部	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	－	－	－	○	○		白色鉱物	
	814	D－15	Ⅰ	－	瓦質土器	火鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰白色 Hue5Y7/1	灰色 Hue5Y5/1	－	－	－	○	○			花文：スタンプ文
	815	D－12	Ⅰ	－	瓦質土器	火鉢	口縁部	ナデ	ナデ	黄灰色 Hue2.5Y4/1	黄灰色 Hue2.5Y4/1	－	－	－	○	○		白色鉱物	格子文：スタンプ文
	816	E－13	Ⅰ	－	瓦質土器	鉢	底部	ナデ	ナデ	黒褐色 8Hue7.5Y2/2	にぶい褐色 Hue7.5YR5/4	－	14.2	－	○	○		白色・黒色鉱物	内外煤付着
119	875	B－23	Ⅰ	一括	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	16.4	11.6	3.7	○	○			糸切り
	876	D－20 D－21	低Ⅱc	一括	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	12.0	8.0	4.1	○	○			糸切り
	877	D－22	Ⅰ	一括	土師器	坏	口縁～底部	回転ヘラケズリ→回転ナデ	回転ヘラケズリ→回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	10.5	7.0	3.3	○	○			糸切り
	878	B－19・20	－	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ヘラケズリ→回転ナデ	回転ヘラケズリ→回転ナデ	橙色 Hue5YR7/6	橙色 Hue5YR7/6	10.0	6.6	2.6	○	○			糸切り
	879	D－22	Ⅱb	一括	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue5YR7/4	にぶい橙色 Hue5YR7/4	11.6	7.8	2.7	○	○			糸切り。煤付着
	880	D－21	低Ⅱc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	11.2	8.5	1.6	○	○			糸切り
	881	D－21	低Ⅱc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	8.8	7.0	2.2	○	○		茶色鉱物	糸切り。煤付着
	882	D－20	低Ⅱc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	8.7	6.5	1.7	○	○	○	茶色鉱物	糸切り

第14表　中世の遺物観察表（2）－3　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整 外面	器面調整 内面	色調 外面	色調 内面	法量（cm） 口径	法量（cm） 底径	法量（cm） 器高	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃	胎土 他	備考
119	883	D－22	低Ⅱc・Ⅰc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	8.8	6.5	1.9	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	884	D－22	低Ⅱc・Ⅰb	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	8.4	6.4	1.7	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	885	C－21 C－22	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	8.0	6.0	1.4	○	○	○	赤色鉱物	糸切り
	886	D－22	Ⅰb・低Ⅱc・Ⅱd	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	8.0	5.8	－	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	887	D－20	Ⅰ	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	8.2	6.8	1.6	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	888	D－21	低Ⅱd	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	8.2	7.5	1.4	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	889	B－21	低Ⅱb	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	橙色 Hue7.5YR7/6	7.6	6.0	1.4	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	890	D－22	Ⅱ上b	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	灰黄色 Hue2.5Y6/2	7.4	5.5	2.1	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	891	C－22	Ⅱa	1351	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	7.2	5.4	2.1	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	892	D－20	低Ⅱc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	7.0	4.7	1.8	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	893	D－20	低Ⅱc	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 Hue2.5Y7/2	灰黄色 Hue2.5Y7/2	7.0	4.8	1.8	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	894	D－20	低Ⅱc・d	一括	土師器	皿	口縁～底部	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ヘラケズリ・回転ナデ	にぶい橙色 Hue10YR7/3	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	7.0	6.0	1.4	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	895	D－21	低Ⅱd	一括	土師器	坏	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	10.0	－	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	896	C－19	Ⅱc	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	明黄褐色 Hue10YR7/6	－	8.9	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	897	D－22	低Ⅱc	一括	土師器	坏	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	－	7.6	－	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	898	D－22	Ⅱ上b	一括	土師器	坏	底部	ヘラケズリ→回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐色 Hue10YR6/2	灰黄褐色 Hue10YR6/2	－	8.2	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	899	B－20	Ⅰ	一括	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	7.8	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	900	B－22	Ⅱa	1337	土師器	皿	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	にぶい褐色 Hue7.5YR5/3	－	7.8	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	901	C－23	低Ⅱa・d	一括	土師器	皿	胴部～底部	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	橙色 Hue2.5YR6/6	－	5.6	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	902	C－22	Ⅰ	－	土師器	皿	底部	ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 Hue7.5YR6/4	橙色 Hue7.5YR7/6	－	4.7	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
	903	D－20	低Ⅱc	一括	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	4.5	－	○	○	○	白色鉱物	糸切り
120	904	C－20	Ⅰ	－	須恵器	甕	口縁部	ナデ	ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	25.1	－	－	○	○	○		
	905	D－20	低Ⅱc	一括	須恵器	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 Hue7.5Y7/1	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	○	○	○		
	906	D－21	低Ⅱc	一括	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	黄灰色 Hue2.5Y5/1	灰色 Hue5Y5/1	20.5	－	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	東幡系
	907	C－22	Ⅰ	一括	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	灰色 Hue10Y6/1	灰色 Hue10Y5/1	25.6	－	－	○	○	○		東幡系
	908	C－20	Ⅰ	－	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	灰色 Hue7.5Y5/1	灰色 Hue7.5Y5/1	25.2	－	－	○	○	○		東幡系
	909	D－21	低Ⅱc	一括	須恵器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ→ハケメ	灰オリーブ色 Hue5Y4/2	灰オリーブ色 Hue5Y4/2	24.0	－	－	○	○	○	白色鉱物	樺万丈系
	910	D－20	低Ⅱc・Ⅰ	一括	瓦質土器	捏鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ→ハケメ	灰色 HueN5/	灰色 HueN5/	27.6	－	－	○	○	○	白色鉱物	樺万丈系
	911	D・E－22	Ⅰ	一括	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	黒褐色 Hue2.5Y3/1	灰色 Hue5Y6/1	18.8	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	912	D－20	Ⅱ	一括	瓦質土器	捏鉢	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	21.6	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	913	D－20	低Ⅱc	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	灰色 HueN6/	灰色 HueN6/	32.2	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	914	D－20	低Ⅱc	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	黄灰色 Hue2.5Y6/1	黄灰色 Hue2.5Y6/1	23.6	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	915	C－20	Ⅰ	－	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/4	34.8	－	－	○	○	○	白色鉱物	
121	916	D－22	Ⅰ	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	37.0	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	917	C－21	Ⅰ	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	淡黄色 Hue2.5Y8/4	淡黄色 Hue2.5Y8/4	－	－	－	○	○	○	白色鉱物	
	918	D－20	Ⅰ	一括	瓦質土器	擂鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	17.5	－	○	○	○	白色鉱物	
	919	D－23	Ⅱ上a	一括	瓦質土器	擂鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	10.6	－	○	○	○	白色鉱物	
	920	B－25	Ⅱb	一括	瓦質土器	茶釜	鍔部	ナデ	ナデ	橙色 Hue5YR6/6	浅黄色 Hue2.5Y7/4	－	－	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	
	921	C－22	Ⅱa	1347	瓦質土器	羽釜	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	21.4	－	－	○	○	○		
	922	C－23	Ⅱ上	一括	瓦質土器	羽釜	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR6/4	23.8	－	－	○	○	○		
	923	B－25	Ⅱa	一括	瓦質土器	鉢	底部	ナデ	ナデ	橙色 Hue5YR5/6	橙色 Hue2.5YR6/8	－	16.0	－	○	○	○	白色鉱物	
	924	D－20	低Ⅱc	一括	瓦質土器	鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN7/	－	9.0	－	○	○	○	白色鉱物	
	925	D－22	Ⅰ	一括	瓦質土器	鉢	胴部～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	褐灰色 Hue10YR5/1	－	5.7	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	
	926	D－21	低Ⅱc	一括	瓦質土器	鉢	底部	ナデ	ナデ	にぶい橙色 Hue5YR6/4	にぶい橙色 Hue5YR6/4	－	13.6	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	
	927	C－19	Ⅰ	－	瓦質土器	－	底部	ナデ	ナデ	褐灰色 Hue5YR4/1	橙色 Hue5YR6/6	－	6.8	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	
	928	C－23	Ⅰ下a	一括	焼塩土器	－	胴部	指頭圧痕	布目圧痕	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	－	－	－	○	○	○	白色鉱物・小礫	
	930	E－20	Ⅰ	一括	瓦	丸瓦	－	ナデ	布目圧痕	浅黄色 Hue2.5Y7/4	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	－	－	○	○	○	白色・黒色鉱物	
	931	C－17・18	Ⅰ	－	土製品	メンコ	－	ナデ	ナデ	灰色 Hue7.5Y6/1	灰色 Hue7.5Y6/1	3.2	3.0	0.4	○	○	○		

第14表　中世の遺物観察表（2）－4　土師器・須恵器他

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	器面調整		色調		法量（cm）			胎土				備考
								外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高	石英	長石	角閃	他	
124	995	C－28	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 Hue10YR8/4	黄橙色 Hue10YR8/6	7.8	6.2	1.5		○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	996	B－27	Ⅰ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	6.8	5.0	1.5	○	○	○	茶色・白色鉱物	糸切り
	997	B－27・28	Ⅰ	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue5YR6/6	橙色 Hu7.5YR6/6	－	9.0	－	○	○			糸切り
	998	C－28	Ⅰ	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	8.4	－	○	○			糸切り
	999	C－27	Ⅰ	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	－	8.4	－	○	○			糸切り
	1000	C－28	Ⅰ	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色 Hue10YR7/6	黄橙色 Hue7.5YR7/8	－	7.8	－	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	1001	B－28・29	Ⅰ	－	土師器	坏	底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	－	8.2	－	○	○			糸切り
	1002	B－28	－	－	土師器	坏	胴部～底部	回転ナデ	回転ナデ	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	暗灰黄色 Hue2.5Y4/2	－	7.6	－	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	1003	B－28	Ⅰ	一括	土師器	皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR7/6	－	6.8	－	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	1004	B－28・29	Ⅰ	－	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	浅黄色 Hue2.5Y7/3	浅黄色 Hue2.5Y7/3	29.6	－	－	○	○			
	1005	C－28	Ⅰ	－	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	浅黄色 Hue2.5Y7/4	－	－	－	○	○			
	1006	C－28	－	－	須恵器	甕	胴部	格子目タタキ痕	ハケメ	灰色 Hue7.5Y4/1	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
	1007	C－27	Ⅰ		須恵器	甕	胴部	格子目タタキ痕	ナデ	灰色 HueN5/	灰色 HueN6/	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
	1012	B－27・28			瓦	丸瓦	－	ナデ	布目圧痕	灰色 Hue7.5Y4/1	浅黄色 Hue2.5Y7/3	－	－	－	○	○		白色・黒色鉱物	
125	1013	－	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR6/6	橙色 Hue7.5YR6/6	16.7	9.8	4.0	○	○		茶色・白色鉱物	糸切り
	1014	－	Ⅰ	－	土師器	坏	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	11.1	6.4	3.7	○	○			糸切り
	1015	－	Ⅱ	－	土師器	皿	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	橙色 Hue7.5YR7/6	橙色 Hue7.5YR6/8	9.9	8.0	1.2	○	○	○	茶色鉱物	糸切り
	1016	－	Ⅰ	－	瓦質土器	擂鉢	口縁部	ナデ	ナデ	褐灰色 Hue10YR6/1	褐灰色 Hue10YR6/1	－	－	－	○	○			
	1017	－	－	1426	瓦質土器	鉢	底部	ナデ	ナデ	灰白色 Hue2.5Y8/2	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2	－	11.2	－	○	○		白色・黒色鉱物	糸切り

第15表　中世の遺物観察表（3）－1　陶磁器

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
108	645	D－5	Ⅱ	－	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	15.2	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	646	D－5b	Ⅰ	1102	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	647	D－5	Ⅰ	一括	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	648	D－4・5	Ⅱ	－	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	649	D－5	Ⅱ	一括	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	650	D－5b	Ⅰ・Ⅱ	1002	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	胴部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue7.5Y6/3	残存部全面施釉	12c後半~13c内面に櫛目の草花文
	651	D－5	Ⅱ	－	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	胴部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	12c後半~13c前半　内面点描文
	652	D－5	Ⅱ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	口縁～胴部	灰白色 Hue2.5Y8/1	17.8	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半内面劃花文
	653	D－5b	Ⅰ	71?	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	残存部全面施釉	12c後半~13c前半内面草花文
	654	D－5d	Ⅰ	360	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	5.6	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/3	高台内外露胎	12c後半~13c前半
	655	D－5a	Ⅰ	?043	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	5.8	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/3	畳付～高台内露胎	12c後半~13c前半内面見込み片彫草花文
	656	D－5	Ⅱ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	底部	灰色 Hue5Y6/1	－	4.6	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	畳付～高台内露胎	12c後半~13c前半内面に草花文?あり
	657	D－4b	Ⅰ	22	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	12.8	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/3	残存部全面施釉	12c後半~13c前半
	658	D－5	Ⅱ	－	青磁	小碗	龍泉碗Ⅰ－1類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	11.3	4.8	5.1	青磁釉	明緑灰色 Hue10GY7/1	畳付釉剥ぎ　高台内露胎	13c中~後半
	659	D－4・D－5	Ⅱ	308・309	青磁	小碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～底部	オリーブ灰色 Hue5GY6/1	13.0	4.8	5.5	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	高台内露胎	13c中~後半
	660	D－5d・D－5・E－5	Ⅰ・Ⅱ	358	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～底部	灰白色 Hue5Y8/1	17.3	4.8	6.6	青磁釉	明褐灰色 Hue10GY7/1	畳付～高台内露胎	13c中~後半
	661	E－5	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue2.5Y8/1	16.0	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y5/3	残存部全面施釉	13c中~後半
	662	D－5	Ⅱ	297	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	15.0	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	残存部全面施釉	13c中~後半
	663	D－5	Ⅱ	350	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	15.0	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	13c中~後半
	664	D－5c	Ⅰ	428	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue2.5Y8/1	15.2	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	13c中~後半
	665	D－4	Ⅱ	304	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－b類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/1	17.0	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	13c中~後半
	666	D－5	Ⅰ・Ⅱ	912	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－c類	底部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	5.4	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	高台内露胎	内面見込み草花印文
	667	D－5	Ⅰ・Ⅱ	1127・1100	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－c類	胴部～底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	5.8	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	畳付～高台内露胎	内面見込み草花印文
	668	D－5c	Ⅰ	145	青磁	碗	上田C類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	15.0	－	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue2.5GY7/1	残存部全面施釉	15c中頃
	669	D－5b	Ⅰ	308	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	15.0	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue7.5GY6/1	残存部全面施釉	15c前半~中頃
	670	D－5a	Ⅰ	－	青磁	鉢	－	口縁～底部	灰白色 Hue10YR8/2	11.8	5.0	3.7	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/1	腰部露胎　底部釉剥ぎ	15c前半~中頃 赤色に発色（底部釉剥ぎ部分）
	671	D－5	Ⅱ	－	青磁	坏	龍泉坏Ⅲ－3b類	口縁部	灰白色 Hue.5Y7/1	12.0	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue7.5GY6/1	残存部全面施釉	13c中頃~14c 前半
	672	D－5	Ⅱ	335	青磁	坏	龍泉坏Ⅲ－3b類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue5GY6/1	残存部全面施釉	13c中頃~14c 前半
	673	D－5	Ⅱ	－	青磁	坏	龍泉坏Ⅲ－3b類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue10GY6/1	残存部全面施釉	13c中頃~14c 前半
	674	D－5c	Ⅰ	516	青磁	皿	同安皿Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	9.8	－	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/4	残存部全面施釉	12c後半~13c前半

第15表　中世の遺物観察表（3）－2　陶磁器

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
108	675	D－5	Ⅱ	－	青磁	皿	－	底部	浅黄橙色 Hue10YR8/3	－	7.0	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue7.5Y6/3	畳付～高台内露胎	15c前半~中頃 内面見込み輪状釉剥ぎ
	676	E－5	Ⅰ	－	青磁	香炉	－	胴部～底部	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	内面露胎	
	677	D－5a	Ⅰ	452	青磁	花瓶	－	頭部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	14c~外面に浮文
109	678	D－5d	Ⅰ	968	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/1	17.5	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	胴部中位以下露胎	12c中頃~13c
	679	D－5	Ⅰ・Ⅱ	25・271	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/1	14.8	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	12c中頃~13c
	680	D－5	Ⅰ・Ⅱ	319	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/1	15.6	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	胴部中位以下露胎	12c中頃~13c
	681	D－4・5	Ⅰ	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	16.7	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	残存部全面施釉	12c中頃~13c
	682	D－5	Ⅰ	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/1	14.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	胴部中位以下露胎	12c中頃~13c
	683	D－5	－	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	胴部中位以下露胎	12c中頃~13c
	684	D－5	Ⅰ	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	胴部中位以下露胎	12c中頃~13c
	685	D－5	Ⅱ	255	白磁	碗	碗Ⅳ類	胴部～底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	6.9	－	透明釉	淡黄色 Hue2.5Y8/3	胴部中位～高台内露胎	12c中頃~13c。内面に段。
	686	D－5c	Ⅰ	636	白磁	碗	碗Ⅳ類	胴部～底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	6.8	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	胴部中位～高台内露胎	12c中頃~13c。内面に段。
	687	D－5	－	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	胴部～底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	5.8	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/2	腰部～高台内露胎	内面見込み輪状釉剥ぎ
	688	D－5d	Ⅰ	384	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	7.2	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	腰部～高台内露胎	内面下位に段。打ち欠き
	689	D－5	Ⅱ	289	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	7.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	腰部～高台内露胎	内面胴部下位段
	690	D－5a	Ⅰ	1053	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	7.0	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	腰部～高台内露胎	12c中頃~13c
	691	D－5	Ⅱ	357	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	7.2	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	腰部～高台内露胎	12c中頃~13c
	692	D－5b	Ⅰ	314	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	6.0	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	腰部～高台内露胎	12c中頃~13c
	693	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	6.5	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	腰部～高台内露胎	12c中頃~13c
	694	D－5	－	－	白磁	碗	碗Ⅳ類	胴部～底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	6.8	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	腰部～高台内露胎	内面胴部下位段
	695	D－5	Ⅱ	341	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	18.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	残存部全面施釉	内面櫛目文
	696	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	残存部全面施釉	内面1条沈線、櫛目文
	697	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	3.6	－	透明釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	高台内外露胎	内面櫛目文
	698	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	5.0	－	透明釉	浅黄色 Hue5Y7/3	高台内外露胎	内面見込みに櫛目
	699	D－5	－	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	胴部～底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/2	腰部～高台内露胎	内面胴部下位沈線、櫛目文
	700	D－5	Ⅱ	300・301	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁～胴部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	14.8	－	－	透明釉	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	腰部以下露胎	内面上位に沈線
	701	D－5d	Ⅰ	946	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/2	18.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	
	702	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	10.2	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	残存部全面施釉	
	703	D－5b	Ⅰ	1125	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	残存部全面施釉	
	704	D－5d	Ⅰ	932	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	17.2	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	残存部全面施釉	内面上位沈線
	705	D－5	Ⅰ・Ⅱ	944	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	13.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue2.5GY8/1	残存部全面施釉	内面上位沈線
	706	D－5	Ⅱ	362	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	16.0	－	－	透明釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	内面胴部上位沈線
	707	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	14.2	－	－	透明釉	灰白色 HueN8/	残存部全面施釉	内面胴部上位沈線
	708	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁～胴部	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	－	－	－	透明釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	内面上位に沈線
	709	D－5	Ⅱ	302	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	残存部全面施釉	内面胴部上位段
	710	D－5c	Ⅰ	1222	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	15.6	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	残存部全面施釉	内面上位沈線
	711	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	残存部全面施釉	内面上位沈線
	712	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/2	残存部全面施釉	12c~13c前半
	713	D－5	Ⅱ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	胴部～底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	6.6	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	畳付～高台内露胎	内面胴部下位段
	714	D－5	Ⅱ	330・363	白磁	碗	碗Ⅴ類	胴部～底部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	6.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	腰部～高台内露胎	内面に段。
	715	D－5	Ⅱ	278	白磁	碗	碗Ⅴ類	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	6.6	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	高台内外露胎	打ち欠き
	716	D－5b	Ⅰ	1020	白磁	碗	森田D群	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	14.4	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	15c～　内面上位沈線
110	717	D－5	Ⅰ	－	白磁	皿	皿Ⅴ類	底部	灰白色 HueN7/	－	3.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/2	胴部～底部露胎	12c後半~
	718	D－5	－	－	白磁	皿	皿Ⅴ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	3.0	－	透明釉	浅黄色 Hue5Y7/3	胴部～底部露胎	12c後半~
	719	D－5	Ⅰ	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	11.6	6.3	3.3	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	口禿 底部釉剥ぎ	13c中~14c前後
	720	D－5	Ⅱ	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	12.0	7.2	3.2	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	口禿	13c中~14c前後
	721	D－5	－	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	11.8	7.0	3.6	透明釉	灰白色 Hue5GY8/1	口禿	13c中~14c前後
	722	D－5	Ⅰ	372・1141	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	11.8	6.4	3.2	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿 底部釉剥ぎ	13c中~14c前後
	723	D－5	Ⅱ	292	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	11.2	5.4	2.9	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿 底部釉剥ぎ	13c中~14c前後
	724	D－5	Ⅱ	312	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/1	10.4	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿	13c中~14c前後
	725	D－5	－	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	6.2	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	底部外面釉のばし	13c中~14c前後
	726	D－5	Ⅱ	－	白磁	皿	森田D群	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	12.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	残存部全面施釉	15ｃ～

第15表　中世の遺物観察表（3）－3　陶磁器

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
110	727	D－4	Ⅰ	一括	白磁	水注	－	突手	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y8/1	残存部全面施釉	縦耳形
	728	D－5d	Ⅰ	972	青白磁	皿	－	底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	4.0	－	青白磁釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	底部露胎	12c後半～13c前半
	729	D－5	Ⅱ	286	白磁	四耳壺	－	肩部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	残存部全面施釉	14c前半～中頃 肩部に横耳
	730	D－4b	Ⅰ	538	白磁	小壺	－	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	残存部全面施釉	12c～
	731	D－5	Ⅱ	－	青白磁	合子蓋	－	天井部～底部	灰白色 Hue2.5Y8/2	4.6	3.4	1.3	青白磁釉	灰白色 Hue10Y7/1	内面露胎	
	732	D－5	Ⅱ	－	青白磁	合子蓋	－	天井部～胴部	灰白色 Hue7.5YR8/1	－	4.6	－	青磁釉	灰白色 Hue2.5GY8/1	内面露胎	
	733	D－5a	Ⅰ	569	青白磁	合子蓋	－	天井部～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	5.4	4.0	1.5	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue5GY7/1	内面胴部露胎 天井部施釉	天井部に草花印文
	734	D－5	Ⅱ	－	青白磁	合子身	－	蓋受け部～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	4.2	－	－	青白磁釉	灰白色 Hue5GY8/1	蓋受け部、胴部下位露胎	
	735	D－5	Ⅱ	374	青白磁	龍首水注	－	注口部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	青白磁釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	残存部全面施釉	13c中頃～後半 目の部分のみ褐釉
	736	D－5	Ⅰ	－	青花	碗	小野碗E群	胴部～底部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	5.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	畳付～高台内露胎	16c前半～中頃 瑞州窯系
	737	D－5	Ⅰ	118	青花	皿	小野皿F群	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	透明釉	明オリーブ灰色 Hue5GY7/1	残存部全面施釉	16c前半～中頃 稜花皿　外面型押し
111	738	D－4・5	Ⅱ	－	中国陶器	甕	－	口縁～胴部	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	49.6	－	－	暗緑色釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	口縁部～胴部施釉	12c後半～　表面に砂粒付着
	739	D－5	Ⅱ	276	中国陶器	甕	甕Ⅰ類	口縁部	褐灰色 Hue10YR6/1	－	－	－	灰黄色釉	浅黄色 Hue5Y7/3	残存部全面施釉	表面に砂粒付着
	740	D－5・6	Ⅰ	206	中国陶器	甕	－	胴部	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	－	－	－	灰黄色釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	内外面ともに砂粒付着
	741	D－4・5	Ⅰ	－	中国陶器	甕	－	胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	－	－	灰黄色釉	灰オリーブ色 Hue5Y5/2	残存部全面施釉	内外面ともに砂粒付着
	742	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	壺	－	胴部～底部	にぶい褐色 Hue7.5YR6/3	－	－	－	灰黄色釉	灰黄褐色 Hue10YR4/2	残存部全面施釉	
	743	D－5	Ⅱ	338	中国陶器	小壺？	－	胴部～底部	浅黄色 Hue2.5Y7/3	－	4.4	－	灰黄色釉	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	内面・畳付～底部露胎	
	744	D－4b	Ⅰ	537	中国陶器	鉢	－	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	灰黄色釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施?	口縁部?拭き取り
	745	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	鉢	－	口縁部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	灰黄色釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	口縁部に目跡?
	746	D－4・5	Ⅱ	－	中国陶器	鉢	－	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	褐釉	浅黄色 Hue2.5Y7/3	全面釉剥落	13c前半～中頃
	747	D－5	Ⅱ	298	中国陶器	鉢	－	頸部～胴部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	黄緑色釉	明褐灰色 Hue5YR7/2	外面施釉内面露胎	13c前半～中頃
	748	D－5c	Ⅰ	－	中国陶器	盤	－	胴部～底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	黄釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/4	外面露胎	内面に鉄絵（褐?）
	749	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	盤	盤Ⅰ類	胴部	灰白色 Hue10YR7/1	－	－	－	黄釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	外面露胎	内面に鉄絵（褐?）
	750	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	盤	－	胴部～底部	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	黒釉	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	外面露胎	
	751	D－5	Ⅰ・Ⅱ	695・1256	中国陶器	盤	－	底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	黒釉	灰黄色 Hue2.5Y6/2	外面露胎	内面に鉄絵（褐?）
	752	D－5・6	Ⅰ	262	中国陶器	水注	－	頸部～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	－	－	黄緑色釉	黄褐色 Hue2.5Y5/4	残存部全面施釉	
	753	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	水注	－	胴部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	黄釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/4	残存部全面施釉	内外面ともに表面に摩耗
	754	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	水注	－	底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	9.6	－	黄緑色釉	オリーブ黄色 Hue5Y6/4	底部露胎	
	755	D－5	Ⅱ	－	中国陶器	壺	－	頸部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	黄褐釉	黒色 Hue7.5Y2/1	外面施釉	
	756	D－5	－	－	国産陶器	壺	－	肩部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	緑灰色釉	暗オリーブ色 Hue7.5Y4/3	外面施釉	常滑
117	817	E－15	Ⅰ・Ⅱ	417	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/2	15.4	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	12c後半～13c前半　内面に櫛目の草花文
	818	D－12a	Ⅰ	－	青磁	碗	同安碗Ⅰ類	底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	4.7	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	腰部～高台内露胎	12c後半～13c前半
	819	D－14	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	12.6	－	－	青磁釉	浅黄色 Hue5Y7/3	残存部全面施釉	12c後半～13c前半
	820	E－13	Ⅱ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	残存部全面施釉	12c後半～13c前半
	821	E－12	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	5.5	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	高台内露胎	12c後半～13c前半内面見込み片彫草花文
	822	D－13	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－c類	底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	5.0	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue5GY7/1	畳付～高台内露胎	内面見込み草花印文
	823	E－14	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ－ｂ類	胴部～底部	灰色 Hue5Y6/1	－	5.6	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	畳付～高台内露胎	13c中～後半
	824	D－14	Ⅰ	－	青磁	碗	上田C類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue7.5Y6/3	残存部全面施釉	15c中頃
	825	D－13	Ⅰ	－	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	15.0	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/2	残存部全面施釉	14c後半
	826	D－14	Ⅰ	－	青磁	碗	上田B類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	16c～
	827	D－14	Ⅰ	－	青磁	碗	上田B類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	16c～
	828	E－14	Ⅰ	－	青磁	碗	上田D類	胴部～底部	浅黄色 Hue2.5Y7/3	－	5.4	－	青磁釉	オリーブ黄色 Hue7.5Y6/3	畳付～高台内露胎	14c後半
	829	D－14	Ⅰ	－	青磁	皿	龍泉皿Ⅰ類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	青磁釉	明黄褐色 Hue2.5Y6/4	残存部全面施釉	12c後半～13c前半
	830	E－13	Ⅰ	－	青磁	盤	－	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/1	22.0	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	13c中頃～14c前半　口縁部稜花
	831	C－15	Ⅰ	－	青磁	水滴	－	注口部	灰色 Hue5Y6/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue5GY6/1	残存部全面施釉	13c～
	832	D－12	Ⅰ	－	青磁	鉢	－	口縁部	灰白色 Hue10Y8/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	14c中頃～　外面草花印文
	833	D－14	Ⅰ	－	青磁	壺	－	底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	9.0	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	内面砂目　底部露胎	14c中頃～
	834	D－12	Ⅰ	－	青磁	香炉	－	口縁～胴部	淡黄色 Hue2.5Y8/4	9.9	－	－	青磁釉	灰白色 Hue10Y7/2	内面露胎	二次焼成
	835	E－16	Ⅰ	－	青磁	合子蓋	－	胴部～身受け部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/2	身受け部露胎	14c中頃～
	836	D・E－13	Ⅰ	－	青白磁	合子身	－	蓋受け部～底部	灰白色 Hue2.5Y8/2	4.1	3.5	2.0	青磁釉	灰白色 Hue10Y8/2	蓋受け部露胎	13c～中頃
	837	D－13	Ⅱ	709	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	15.0	10.0	3.4	透明釉	灰白色 Hue10Y8/1	口禿	13c中～14c前後
	838	D－13	Ⅰ	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	12.4	8.0	2.9	透明釉	灰白色 Hue5GY8/1	口禿 底部釉剥ぎ	13c中～14c前後
	839	D－15	Ⅰ	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～底部	灰白色 Hue7.5Y8/1	12.2	8.3	3.0	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿	13c中～14c前後

第15表　中世の遺物観察表（3）－4　陶磁器

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
117	840	D－15	Ⅱ	427	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～胴部	灰白色 Hue7.5Y8/1	11.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y8/1	口禿	13c中～14c前後
	841	E－13	Ⅱa	1115	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	－	－	透明釉	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	口禿	13c中～14c前後
	842	D－14	Ⅰ	－	白磁	皿	皿Ⅸ類	底部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	6.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	底部外面?のばし	13c中～14c前後
	843	D－13	Ⅰ	－	白磁	皿	森田D群	底部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	3.2	－	透明釉	灰白色 Hue2.5GY8/1	腰部～高台内露胎	15c～
	844	D－13	Ⅰ	一括	白磁	皿	森田D群	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	3.4	－	透明釉	淡黄色 Hue2.5Y8/3	腰部～高台内露胎	15c～内面見込み輪状釉剥ぎ
	845	D－13d	Ⅰ	－	白磁	壺	－	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue5GY8/1	残存部全面施釉	口縁稜花
	846	D－14	Ⅰ	－	白磁	馬上坏	－	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	残存部全面施釉	13c中頃～14c前半　馬上坏　外面浮文
	847	D－12	Ⅰ	－	白磁	四耳壺	－	胴部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰色 Hue10Y6/1	残存部全面施釉	14c前半～中頃
	848	D－14	Ⅰ	－	青白磁	水注	－	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	6.0	－	青白磁釉	灰白色 Hue2.5Y8/2	外面胴部～底部露胎	
	849	D－12	Ⅰ	－	青白磁	小壺	－	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	4.0	－	青白磁釉	明緑灰色 Hue10GY7/1	底部露胎	13c前半～中頃
	850	D－15	Ⅰ	－	青白磁	合子蓋	－	天井部～底部	灰白色 Hue10YR8/1	6.0	4.7	1.7	青磁釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	内面露胎	
	851	D－12	Ⅰ	－	青白磁	合子身	－	蓋受け部～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	7.6	－	－	青白磁釉	灰白色 HueN8/	蓋受け部露胎	
	852	D－15	Ⅰ	－	青花	碗	小野碗C群	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY7/1	残存部全面施釉	15c中頃～後半
	853	D－14	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿B群	底部	灰白色 HueN8/	－	6.6	－	透明釉	明青灰色 Hue5B7/1	全面施?畳付のみ?剥ぎ取り	15c中頃～後半　畳付に砂目付着
	854	E－15	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿B群	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	畳付釉剥ぎ　高台内施釉	15c中頃～後半
	855	D－12d	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿C群	底部	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	6.6	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	腰部～底部露胎	15c中頃～後半　碁笥底 外面渦巻文
	856	D－15	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿C群	底部	灰白色 Hue10Y7/1	－	4.8	－	透明釉	明オリーブ灰色 Hue2.5GY7/1	腰部～底部露胎	15c中頃～後半　碁笥底
	857	D－14	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿C群	胴部～底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	3.6	－	透明釉	明青灰色 Hue10BG7/1	底部露胎	15c中頃～後半　碁笥底
	858	D－16	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿F群	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	透明釉	明オリーブ灰色 Hue5GY7/1	残存部全面施釉	16c前半～中頃　稜花皿
	859	D－14	Ⅰ		青花	皿	小野皿B－2群	底部	灰白色 Hue2.5Y8/1	－	8.0	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	畳付釉剥ぎ　高台内施釉	16c中頃～17c前半
118	860	E－12	Ⅱa	1141	中国陶器	壺	－	胴部～底部	にぶい橙色 Hue7.5YR7/3	－	9.0	－	灰黄色釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y5/2	残存部全面施釉	
	861	DE－13	Ⅰ	－	中国陶器	壺	－	底部	にぶい赤褐色 Hue2.5YR5/3	－	7.8	－	暗緑黄色釉	暗オリーブ色 Hue7.5Y4/3	外面胴部下位～底部露胎	
	862	D－14	Ⅰ	－	中国陶器	壺	－	胴部～底部	にぶい赤褐色 Hue2.5YR4/4	－	－	－	灰黄色釉	オリーブ黒色 Hue5Y2/2	底部露胎	
	863	D－11b	Ⅰ	－	中国陶器	盤	－	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	黄緑色釉	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	残存部全面施釉（口縁部釉拭き取り）	
	864	DE－13	Ⅰ	－	中国陶器	鉢	－	口縁部	灰色 Hue10Y6/1	－	－	－	無釉	灰褐色 Hue7.5YR5/2	内外面僅かに自然?	
122	934	E－19	Ⅰ	－	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	5.6	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y4/2	畳付～高台内露胎	12c後半～13c前半内面見込み片彫草花文
	935	B－25	Ⅰ	一括	青磁	碗	龍泉碗Ⅰ類	胴部	灰白色 Hue10Y8/	－	－	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue2.5GY7/1	残存部全面施釉	13c中～後半
	936	D－21	低Ⅱc	一括	青磁	碗	龍泉碗Ⅱ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	5.2	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	高台内露胎	メンコ状（打ち欠き）　内面見込み草花印文
	937	D－20	低Ⅱc・低Ⅱdcb	一括	青磁	碗	上田B類	口縁～胴部	灰白色 HueN8/	20.0	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/3	残存部全面施釉	14c中～後半
	938	B－19・20	－	－	青磁	碗	上田B類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	16c～細線蓮弁文
	939	D－22	低Ⅱc	一括	青磁	碗	上田B類	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	4.5	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY5/1	高台内露胎	
	940	E－20	Ⅱ上	－	青磁	碗	上田C類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	－	－	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue2.5GY7/1	残存部全面施釉	15c中頃　口縁部外面雷文帯
	941	D－20	Ⅰ	一括	青磁	碗	上田C類	口縁部	灰白色 Hue10Y8/1	－	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue5GY6/1	残存部全面施釉	15c中頃　口縁部外面雷文帯
	942	D－21	Ⅱ上a	一括	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y7/1	17.6	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	14c後半
	943	B－25	Ⅰ・Ⅱa	一括	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue7.5GY6/1	残存部全面施釉	14c後半
	944	D－21	低Ⅱa	－	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	Ⅸ
	945	C－23	Ⅱ・Ⅱ上	一括	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/1	13.4	－	－	青磁釉	緑灰色 Hue10GY6/1	残存部全面施釉	15c前半～中頃
	946	C－21	Ⅰ	一括	青磁	碗	上田D類	口縁部	灰白色 Hue10Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	15c前半～中頃
	947	D－21	低Ⅱc上	－	青磁	碗	上田D類	胴部～底部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	5.9	－	青磁釉	灰白色 Hue5Y8/1	高台内露胎	二次焼成により釉変色
	948	D－21	低ⅡC	一括	青磁	碗	上田D類	胴部～底部	灰白色 Hue7.5Y8/	－	5.8	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	高台内釉剥ぎ	14c後半
	949	D－20	Ⅰ	一括	青磁	碗	上田D類	底部	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	6.9	－	青磁釉	緑灰色 Hue7.5GY6/1	高台内輪状釉剥ぎ	釉剥ぎ部分赤化
	950	D－20	低ⅡC	一括	青磁	碗	上田D類	胴部～底部	灰白色 HueN8/	－	6.8	－	青磁釉	緑灰色 Hue7.5GY6/1	高台内輪状釉剥ぎ	内面見込みに草花文の印文
	951	D－22	Ⅰ	一括	青磁	碗	高麗青磁？	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/1	10.0	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	12c～
	952	D－20	Ⅰ	一括	青磁	皿	龍泉皿Ⅰ類	口縁～底部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/1	底部露胎	12c後半～13c前半　内面見込み櫛描文
	953	D－20	低Ⅱc	一括	青磁	皿	龍泉皿Ⅰ類	口縁～胴部	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/1	残存部全面施釉	
	954	C－23	Ⅱ上	－	青磁	皿	－	口縁部	灰白色 Hue7.5Y7/1	11.8	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y6/2	残存部全面施釉	14c中頃～15c前半
	955	D－20	Ⅱ	一括	青磁	皿	－	底部	灰白色 HueN8/	－	5.6	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY5/1	高台内輪状釉剥ぎ	14c後半～　メンコ状（打ち欠き）
	956	D－20	Ⅱ・低Ⅱc上	一括	青磁	皿	－	口縁～底部	灰白色 Hue2.5Y8/2	13.0	5.7	2.9	青磁釉	灰オリーブ色 Hue7.5YR6/2	外面腰部以下露胎	内面輪状釉剥ぎ。15c前半～中頃
	957	D－20	Ⅱ	一括	青磁	稜花皿	－	口縁部	灰白色 Hue7.5Y8/	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue5GY6/1	残存部全面施釉	15c前半～中頃
	958	D－19～22	Ⅰ	－	青磁	稜花皿	－	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	15c前半～中頃
	959	E－18	Ⅰ	－	青磁	稜花皿	－	口縁部	灰色 Hue2.5Y8/1	－	－	－	青磁釉	明緑灰色 Hue7.5GY7/1	残存部全面施釉	15c～
	960	D－24	Ⅰ	一括	青磁	盤	－	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	30.0	－	－	青磁釉	灰白色 Hue5Y8/1	残存部全面施釉	13c中頃～14c前半　二次焼成により釉変色

第15表　中世の遺物観察表（3）－5　陶磁器

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
122	961	C－25	Ⅰ	一括	青磁	盤	－	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	
	962	D－22	Ⅰ	一括	青磁	盤	－	口縁部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	青磁釉	明オリーブ灰色 Hue5GY7/1	残存部全面施釉	14c中頃～後半　内面ヘラ彫り
	963	B－23	Ⅰ	一括	白磁	碗	碗Ⅳ類	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	7.5	－	透明釉	明オリーブ灰色 Hue2.5GY7/1	腰部～高台内露胎	内面見込みに砂目
	964	D－21	低Ⅱc	一括	白磁	皿	皿Ⅸ類	口縁～胴部	灰白色 HueN8/	12.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿	13c中～14c前後
	965	D－21・22	Ⅰ	－	白磁	碗	森田D群	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/2	14.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	残存部全面施釉	15c～
	966	D－19	Ⅰ・低Ⅱc	一括	白磁	皿	森田D群	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	9.6	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	腰部以下露胎	15c～
	967	D－20	低Ⅱc	一括	白磁	皿	森田D群	口縁～胴部	灰白色 HueN8/	9.4	－	－	透明釉	灰白色 Hue5GY8/1	外面腰部以下露胎	15c～
	968	B－23	Ⅰ	一括	白磁	皿	森田D群	口縁～底部	灰白色 Hue10YR8/1	10.0	4.2	2.5	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	腰部～高台内露胎	15c～
	969	D－21	低Ⅱc	一括	白磁	皿	森田D群	口縁～胴部	灰白色 HueN8/	9.4	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y8/1	残存部全面施釉	15c～
	970	E－20	Ⅰ	一括	白磁	皿	森田D群	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1	9.0	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/1	外面胴部中位以下露胎	15c～
	971	D－21	Ⅰ	一括	白磁	皿	森田D群	底部	浅黄橙色 Hue10YR8/3	－	5.0	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/2	腰部～高台内露胎	15c　割高台見込みに目跡
	972	B－25	Ⅱa	一括	白磁	皿	森田D群	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/4	－	4.0	－	透明釉	灰白色 Hue5Y8/2	残存部全面施釉	15c　割高台内面見込みに目跡
123	973	D－20	低Ⅱa	－	白磁	四耳壺	－	肩部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	透明釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/1	残存部全面施釉	14c前半～中頃
	974	D－22	Ⅰ	一括	白磁	四耳壺	－	胴部	灰白色 Hue7.5Y7/1	－	－	－	透明釉	灰色 Hue7.5Y5/1	残存部全面施釉	14c前半～中頃
	975	C－21	Ⅱ	－	白磁	四耳壺	－	胴部～底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	7.0	－	透明釉	灰色 Hue7.5Y6/1	高台外釉剥ぎ　畳付～高台内露胎	14c前半～中頃　内面見込みに砂粒多く付着
	976	D－24	Ⅰ	一括	白磁	壺・瓶	－	胴部～底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	8.0	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/2	内面露胎　畳付釉剥ぎ	13c前半～
	977	C－23	Ⅰ	一括	白磁	水注	－	底部	灰白色 HueN8/	－	6.0	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/1	内面露胎　畳付釉剥ぎ	
	978	B－25	Ⅰ	一括	青花	碗	小野碗B群	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY7/1	残存部全面施釉	15c中頃～後半　外面草花文
	979	D－20	Ⅰ	一括	青花	碗	小野碗C群	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	外面口縁部波濤文帯
	980	B－24	Ⅰ	一括	青花	皿	小野皿B群	口縁部	灰白色 Hue5Y8/2	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY7/1	残存部全面施釉	15c～
	981	B－24	Ⅰ	一括	青花	碗	小野碗C群	底部	灰白色 Hue5GY8/1	－	5.0	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	全面施釉畳付のみ釉剥ぎ取り	16c前半～中頃　蓮子碗　内面・外面見込み高台内草花文
	982	E－18	Ⅰ	－	青花	碗	小野碗E群	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/4	－	5.5	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	畳付～高台内露胎	16c前半～中頃　瑞州窯系　内面見込み人物山水
	983	C－23	Ⅱ上a	一括	青花	碗	小野碗C群	胴部～底部	浅黄橙色 Hue10YR8/3	－	4.8	－	透明釉	浅黄色 Hue2.5Y7/3	高台内外露胎	内面見込み輪状釉剥ぎ。17c～
	984	D－20	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿B群	胴部～底部	灰白色 HueN8/	－	9.5	－	透明釉	明緑灰色 Hue5G7/1	全面施?畳付のみ?剥ぎ取り	15c中頃～後半
	985	E－18	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿B群	底部	灰白色 Hue5Y8/1	－	5.8	－	透明釉	灰白色 Hue2.5GY8/1	畳付釉剥ぎ　高台内施釉	15c～
	986	D－20	Ⅰ	一括	青花	皿	小野皿C群	胴部～底部	灰白色 Hue2.5GY7/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	畳付～底部露胎	15c～　碁笥底
	987	D－19・20	Ⅰ	－	青花	皿	小野皿C群	口縁～底部	灰白色 Hue5Y8/1	9.8	4.0	2.2	透明釉	明青灰色 Hue5BG7/1	底部露胎	15c中頃～後半　碁笥底　底部に砂目付着
	988	C－25	Ⅰ	一括	青花	皿	小野皿C群	口縁～底部	灰白色 Hu2.5Y8/1	10.0	2.4	2.6	透明釉	明青灰 Hue10BG7/1	底部露胎	15c中頃～後半
	989	C－23・D－21・22	Ⅱ上a・Ⅰ	一括	青花	皿	小野皿E群	底部	灰白色 HueN8/	－	5.0	－	透明釉	青灰色 Hue10BG6/1	全面施釉畳付のみ釉剥ぎ取り	16c中頃～17c前半　内面見込みに人物山水　高台内に小石付着
	990	C・D－23	Ⅰ	一括	青花	壺・瓶	－	胴部～底部	浅黄橙色 Hue10YR8/4	－	7.2	－	透明釉	淡黄色 Hue5Y8/3	畳付釉かきとり　内面露胎	17c～
	991	D－20	低Ⅱc上	－	中国陶器	鉢	－	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	28.2	－	－	無釉	灰黄褐色 Hue10YR5/2	内面に僅かに自然釉	
	992	B－23	Ⅰ	一括	中国陶器	盤	盤Ⅰ類	底部	灰白色 Hue5Y7/1	－	－	－	黄緑色釉	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	外面胴部～底部露胎	内面に鉄絵（褐?）
	993	D－22	Ⅱ上b	一括	中国陶器	水注	－	胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	黄釉	明黄褐色 Hue2.5Y6/6	内面露胎	
	994	D－20	低Ⅱc	一括	国産陶器	甕	－	胴部	灰白色 Hue10YR7/1	－	－	－	灰緑色釉	暗オリーブ色 Hue7.5Y4/3	外面施釉	常滑・外面に押印
124	1008	C－28	Ⅰ	－	青磁	碗	上田C類	口縁部	灰白色 Hue10Y8/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	15c中頃　雷文帯
	1009	B－26	Ⅰ	一括	青磁	碗	上田D類	胴部	灰白色 Hue10Y8/	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y6/2	残存部全面施釉	15c前半～中頃　内面に草花文の陽刻
	1010	B－28・29	Ⅰ	－	青磁	碗	上田B類	口縁部	灰白色 Hue5Y7/2	14.0	－	－	青磁釉	灰オリーブ色 Hue2.5GY7/1	残存部全面施釉	16c～
	1011	C－30	－	－	白磁	四耳壺	－	底部	灰白色 Hue2.5Y7/1	－	7.0	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	高台内外露胎	14c前半～中頃
125	1018	－	Ⅰ	－	青磁	碗	上田C類	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y7/2	13.3	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	15c中頃
	1019	－	Ⅰ	一括	青磁	碗	上田C類	口縁部	灰白色 Hue5Y8/	－	－	－	青磁釉	明緑灰色 Hue10GY7/1	残存部全面施釉	15c中頃　口縁部外面雷文帯
	1020	－	Ⅰ	－	青磁	皿	稜花皿	口縁部	灰色 Hue7.5Y6/1	－	－	－	青磁釉	オリーブ灰色 Hue10Y5/2	残存部全面施釉	15c前半～中頃
	1021	－	－	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	口縁部	灰白色 Hue2.5Y8/2	－	－	－	透明釉	灰オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	内面に櫛目文
	1022	－	Ⅰ	－	白磁	碗	碗Ⅴ類	胴部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y7/1	口禿	内面胴部下位段、櫛目文
	1023	－	－	1479	白磁	小壺蓋	－	完形	灰白色 HueN8/	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y8/1	内面露胎	13c前半～
	1024	－	Ⅰ	－	中国陶器	盤	－	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	－	－	黄褐釉	黄褐色 Hue2.5Y5/3	内面口縁部以下施釉	
	1025	－	Ⅰ	－	中国陶器	天目碗	－	胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/4	－	－	－	鉄釉	黒色 Hue10YR1.7/1	腰部露胎	13c～

第16表　中世の遺物観察表（4）滑石製品

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	部位	色調	法量（cm）			備考
									口径	底径	器高	
112	757	D－5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	口縁部	褐灰色Hue7.5YR6/1	31.0	－	－	外面に煤付着
	758	D－5	Ⅱ	277	滑石製品	石鍋	口縁～胴部	褐灰色Hue5YR5/1	22.8	－	－	鍔下部～胴部煤付着
	759	D－5	Ⅱ	259	滑石製品	石鍋	口縁～胴部	灰色HueN6/	19.7	－	－	外面胴部中位以下煤付着
	760	D－5d	Ⅰ	941	滑石製品	石鍋	胴部	明紫灰色Hue5RP4/1	－	－	－	外面に煤付着。補修孔。
	761	D－5c	Ⅰ	472	滑石製品	石鍋	胴部	にぶい橙色Hue5YR6/3	－	－	－	縦耳形
	762	D－5c	Ⅰ	526	滑石製品	加工品	胴部	明褐色Hue7.5YR7/2	－	－	－	上下面に削痕が残る。
	763	D－5	Ⅱ	－	滑石製品	加工品	胴部	灰オリーブ色Hue7.5Y5/2	－	－	－	内面左端に穿孔。内面中央部に削痕。
	764	D－5	Ⅱ	314	滑石製品	石鍋	底部	褐灰色Hue10YR5/1	－	14.3	－	
	765	D－5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	底部	灰色Hue7.5Y6/1	－	19.2	－	煤付着
	766	D－5d	Ⅰ	615	滑石製品	石鍋	底部	灰色HueN6/	－	17.6	－	
	767	D－5c	Ⅰ	736	滑石製品	石鍋	底部	赤黒色Hue10R2/1	－	12.6	－	
	768	D－5	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	底部	オリーブ黒色Hue5Y3/1	－	－	－	
	769	D－5	Ⅱ	283	滑石製品	加工品	－	灰色HueN5/	－	－	－	
	770	D－5	Ⅱ	285	滑石製品	加工品	－	灰色HueN6/	－	－	－	二次加工品　外面に煤付着
	771	D－5	Ⅱ	296	滑石製品	加工品	－	灰色HueN6/	－	－	－	
	772	D－5c	Ⅰ	1280	滑石製品	加工品	－	灰白色Hue7.5Y7/1	－	－	－	
	773	D－5	Ⅱ	370	滑石製品	加工品	馬連形	黄灰色Hue2.5Y5/1	－	－	－	
113	774	D－5	Ⅱ	305	滑石製品	加工品	馬連形	にぶい赤褐色Hue2.5YR5/3	－	－	－	
	775	D－5	Ⅱ	354	滑石製品	加工品	馬連形	灰色Hue5Y5/1	－	－	－	
	776	D－5	Ⅱ	306	滑石製品	加工品	馬連形	黄灰色Hue2.5Y5/1	－	－	－	上穴は補修孔か周囲に煤付着
	777	D－5	－	－	滑石製品	加工品	土錘形	明紫灰色Hue5RP7/1	－	－	－	
	778	D－5c	Ⅰ	766	滑石製品	加工品	胴部	灰色Hue10Y6/1	－	－	－	
	779	D－5	Ⅱ	－	滑石製品	加工品	土錘形	紫灰色Hue5RP6/1	長さ3.5	幅1.7	孔径0.5	
118	865	C－16	Ⅰ	－	滑石製品	石鍋	口縁～胴部	黒色Hue5Y2/1	19.2	－	－	外面胴部中位以下煤付着
	866	D－15	Ⅱ	－	滑石製品	石鍋	胴部	黄灰色 Hue2.5Y6/1	－	－	－	下部に二次加工痕あり
	867	E－12	Ⅱa	1157	滑石製品	加工品	－	暗灰色HueN3/	－	－	－	
121	929	C－22	Ⅰ	一括	滑石製品	石鍋	口縁部	オリーブ灰色Hue5GY6/1	－	－	－	

第17表　中世の遺物観察表（5）土製品

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	色調	法量（cm）			胎土				備考
								長さ	幅	穿孔	石英	長石	角閃	他	
107	626	D－5d	Ⅰ	942・943	土製品	羽口	黄灰色Hue2.5Y5/1	10.1	9.5	4.6	○	○		白色鉱物	
	627	D－5d	－	117?	土製品	羽口	黄灰色Hue2.5Y5/2	7.9	6.6	3.3	○	○		白色鉱物	
	628	D－5	－	－	土製品	羽口	黄灰色Hue2.5Y5/3	8.5	8.2	2.8	○	○		白色鉱物	
	629	D－5c	Ⅰ	755	土製品	土錘	黄灰色Hue2.5Y4/1	4.6	2.1	0.6	○	○			
	630	D－5	Ⅱ	－	土製品	土錘	黒色Hue7.5YR2/1	4.1	1.9	0.5	○	○			
	631	D－5	Ⅱ	291	土製品	土錘	灰白色Hue5Y7/1	4.4	1.7	0.5	○	○			
	632	D－5	Ⅱ	－	土製品	土錘	黒色Hue5Y2/1	3.8	1.9	0.5	○	○			
	633	D－5	Ⅱ	375	土製品	土錘	灰黄色Hue2.5Y6/2	3.8	2.1	0.5	○	○		白色鉱物	
	634	D－5	Ⅱ	－	土製品	土錘	黒色Hue5Y2/1	4.5	1.5	0.6	○	○			
	635	D－5a	Ⅰ	575	土製品	土錘	浅黄色Hue2.5Y7/3	4.1	1.2	0.3	○	○		白色鉱物	
	636	D－5a	Ⅰ	563	土製品	土錘	にぶい黄橙色Hue10YR6/3	3.6	1.0	0.3	○	○		白色鉱物	
	637	D－5a	Ⅰ	917	土製品	土錘	にぶい赤褐色Hue5YR5/4	3.0	1.0	0.2	○	○			
	638	D－5a	Ⅰ	906	土製品	土錘	にぶい橙色Hue5YR6/3	3.0	0.9	0.3	○	○		白色鉱物	
	639	D－5c	Ⅰ	669	土製品	土錘	にぶい赤褐色Hue5YR5/4	2.6	0.9	0.3	○	○		白色鉱物	
	640	D－5a	Ⅰ	1298	土製品	土錘	にぶい赤褐色Hue5YR5/4	2.8	0.9	0.2	○	○		白色鉱物	
	641	D－5b	Ⅰ	245	土製品	土錘	にぶい橙色Hue7.5YR6/4	2.8	0.9	0.2	○	○		白色鉱物	
	642	D－5a	Ⅰ	909	土製品	土錘	にぶい橙色Hue7.5YR6/4	2.7	1.0	0.2	○	○		白色鉱物	
	643	D－5a	Ⅰ	1243	土製品	土錘	橙色Hue7.5YR6/6	2.8	1.1	0.2	○	○			
118	868	C－14	Ⅰ	－	土製品	土錘	明黄褐色Hue10YR6/6	4.5	1.1	0.3	○	○		白色鉱物	
	869	D－12d	Ⅰ	－	土製品	土錘	暗灰黄色Hue2.5Y5/2	4.1	2.0	0.4	○	○			
	870	D－12c	Ⅰ	－	土製品	土錘	灰黄色Hue2.5Y7/2	6.1	3.4	1.5	○	○			
	871	D－13	Ⅱb	1103	土製品	土錘	黄灰色Hue2.5Y4/1	6.3	2.9	0.9	○	○		白色鉱物	

第18表　中世の遺物観察表（6）石製品

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石材	備考
107	644	D－5	－	－	石製品	碁石	2.9	2.4	0.5	5.50	蛇紋岩	
118	872	D－13	Ⅱb	1105	石製品	砥石	8.5	5.8	3.5	230.83	天草石	
	873	D－12	Ⅰ	－	石製品	碁石	2.4	1.8	0.6	3.99	砂岩	
	874	D－12	Ⅰ	－	石製品	碁石	2.3	1.6	0.6	3.57	砂岩	

第19表　中世の遺物観察表（7）古銭

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	古銭名	計測値（cm）							重量（g）	備考
							a	b	c	d	e	f	厚さ		
113	780	D－5	Ⅱ	239	古銭	政和通寶	2.5	2.5	2.1	2.1	0.5	0.5	0.1	1.48	
121	932	D－20	Ⅰ	一括	古銭	洪武通寶	2.35	2.4	2.0	2.0	0.6	0.6	0.1	2.79	
	933	D－20	Ⅰ	一括	古銭	洪武通寶	2.2	2.2	1.7	1.7	0.5	0.5	0.1	2.91	
128	1062	－	Ⅰ	一括	古銭	寛永通寶	2.4	2.3	1.9	1.9	0.6	0.6	0.1	2.27	

第20表　中世の遺物観察表（8）鉄製品

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
126	1026	D－5	－	一括	鉄製品	刀子？	7.4	1.2	9.3	11.26	
	1027	D－5a	Ⅱ	552	鉄製品	紡錘車	3.9	3.3	2.4	23.83	
	1028	E－12	Ⅰ	－	鉄製品	鉄鏃	5.4	1.3	0.3	11.99	
	1029	D－19・20	Ⅰ	一括	鉄製品	刀子	5.2	2.0	0.3	12.13	
	1030	B－26	Ⅱb	一括	鉄製品	鉄鏃	4.5	2.4	0.6	10.39	
	1031	－	－	－	鉄製品	刀子？	5.4	1.9	0.2	21.01	木質付着
	1032	D－5	－	一括	鉄製品	刀子？	4.7	1.4	0.7	6.31	
	1033	D－5	Ⅱ	一括	鉄製品	刀子？	5.8	2.3	0.3	9.07	
	1034	D－12	Ⅰ	－	鉄製品	煙管？	5.0	1.3	0.2	9.50	
	1035	D－5a	Ⅱ	一括	鉄製品	煙管？	4.8	0.9	0.2	8.32	

第21表　近世の遺物観察表

挿図番号	掲載番号	出土地点	層	取上番号	種別	器種	分類	部位	胎土色調	法量（cm）			釉薬			備考
										口径	底径	器高	種類	色調	部位	
127	1036	D－4・5	Ⅱ	－	陶磁器	皿	肥前系	口縁部～底部	灰白色 Hue5GY8/1	9.0	4.4	2.1	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/1	内面見込み輪状掻き取り	
	1037	D－4b	Ⅰ	16	陶磁器	鉢	肥前系	底部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	－	11.0	－	灰釉	灰白色 Hue5Y7/2	畳付～高台内露胎	内面目跡
	1038	E－5	Ⅰ	－	陶磁器	碗	肥前系	口縁～胴部	灰白色 Hue10Y8/1	11.2	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	残存部全面施釉	
	1039	D－5c	Ⅰ	346	陶磁器	碗	肥前系	胴部～底部	浅黄色 Hue2.5Y7/3	－	3.6	－	灰釉	灰白色 Hue2.5Y7/1	畳付～高台内露胎	京焼風陶器
	1040	D－5c	Ⅰ	－	薩摩焼	碗	龍門司系	胴部～底部	にぶい橙色 Hue7.5YR7/4	－	4.8	－	鉄釉	褐灰色 Hue7.5YR4/1	残存部全面施釉	
	1041	D－4・5	Ⅰ	－	陶磁器	鉢	肥前系	口縁部～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	鉄釉	暗灰黄色 Hue2.5Y5/2	残存部全面施釉	白土による刷毛目文
	1042	D－4・5	Ⅱ	－	陶磁器	擂鉢	肥前系	口縁部～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	鉄釉	赤灰色 Hue2.5YR5/2	残存部全面施釉	17世紀代（1650～）
	1043	D－4・5	Ⅰ	－	薩摩焼	鉢	苗代系	口縁部～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	32.0	－	－	鉄釉	灰色Hue10Y4/1	残存部全面施釉	
	1044	D－5a	Ⅰ	541・542	薩摩焼	摺鉢	苗代系	口縁部～胴部	灰黄色 Hue2.5Y7/2	21.0	－	－	鉄釉	灰黄褐色 Hue10YR6/2	外面無釉	18世紀代
	1045	D－5	Ⅰ	－	薩摩焼	土瓶	－	底部	明赤褐色 Hue5YR5/6	－	10.6	－	鉄釉	灰黄褐色 Hue10YR5/2	外面無釉	
128	1046	D－13	Ⅰ	－	薩摩焼	摺鉢	堂平窯系	口縁部	灰黄色 Hue2.5Y6/1	31.0	－	－	鉄釉	灰褐色 Hue7.5YR5/2	残存部全面施釉	堂平Ⅱ期17世紀後半～
	1047	D－15	Ⅰ	－	陶磁器	擂鉢	肥前系	口縁部～胴部	にぶい黄橙色 Hue10YR6/3	－	－	－	鉄釉	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	口縁～胴部上位施釉	17世紀代（1631～）
	1048	D－12b	Ⅰ	－	陶磁器	紅皿	－	口縁～胴部	灰白色 Hue5Y8/1				透明釉	明緑灰色 Hue10GY8/1	外面胴部露胎	
	1049	D－21・22	Ⅰ	－	陶磁器	碗	肥前系	底部	にぶい黄橙色 Hue10YR7/3	－	2.2	－	灰釉	灰白色 Hue5Y7/1	高台内露胎	
	1050	D－25	Ⅰ	一括	陶磁器	鉢	肥前系	胴部～底部	浅黄色 Hue2.5Y7/4	－	11.0	－	透明釉	オリーブ灰色 Hue2.5GY6/1	内面、畳付～高台内露胎	
	1051	D－21・22	Ⅰ	－	陶磁器	鉢	肥前系	口縁部	にぶい黄色 Hue2.5Y6/3	－	－	－	鉄釉	暗オリーブ色 Hue5Y4/3	残存部全面施釉	白土による刷毛目文
	1052	C－23	Ⅰ	一括	薩摩焼	摺鉢	苗代系	口縁部～胴部	橙色 Hue2.5YR6/6	24.0	－	－	鉄釉	灰黄色 Hue2.5Y6/2	外面施釉	
	1053	D－21・22	Ⅰ	－	薩摩焼	土瓶	－	注口部	灰黄褐色 Hue10YR6/2	－	－	－	鉄釉	黒褐色 Hue10YR3/2	残存部全面施釉	
	1054	C－23	Ⅰ	一括	陶磁器	－	関西系	口縁部～底部	浅黄橙色 Hue10YR8/3	8.8	3.8	1.6	透明釉	浅黄橙色 Hue7.5YR8/6	内外面上位施釉	
	1055	C－23	Ⅰ	一括	薩摩焼	植木鉢	苗代系	口縁部～胴部	灰黄色 Hue2.5Y6/2	24.0	－	－	鉄釉	灰黄色 Hue2.5Y7/2	残存部全面施釉	
	1056	C－28	Ⅰ	－	陶磁器	皿	肥前系	口縁部	灰白色 Hue2.5GY8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue7.5Y8/1	残存部全面施釉	
	1057	B－28	Ⅰ	一括	陶磁器	碗	肥前系	口縁部	褐灰色 Hue10YR5/1	－	－	－	鉄釉	灰オリーブ色 Hue7.5Y4/2	残存部全面施釉	
	1058	C－27	Ⅰ	－	陶磁器	碗	肥前系	底部	淡黄色 Hue2.5Y8/3	－	4.0	－	透明釉	灰色Hue5Y6/1	内面見込み輪状掻き取り	
	1059	D－1?	Ⅰ	－	陶磁器	碗	肥前系	口縁部	灰白色 Hue10Y8/1	－	－	－	透明釉	灰白色 Hue10Y7/1	残存部全面施釉	
	1060	C－29,30	Ⅰ	－	陶磁器	油壺	肥前系	胴部	灰白色 Hue7.5Y8/1	－	－	－	透明釉	明緑灰色 Hue7.5GY8/6	内面露胎	
	1061	B－27,28	Ⅰ	－	薩摩焼	擂鉢	－	口縁～胴部	にぶい赤褐色 Hue2.5YR5/4	－	－	－	鉄釉	暗赤灰色 Hue10R3/1	残存部全面施釉	

第４章　自然科学分析

中郡遺跡群における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

中郡遺跡群は，鹿児島県出水市野田町下名ほかに所在し，出水平野を形成する沖積地(扇状地)西端に立地する。測定対象試料は，4 号竪穴建物最下部の炉床出土木炭（No.1：IAAA－121876），5 号竪穴建物炉基底部出土木炭（No.2：IAAA－121877），同建物貼床下の最下炉床面出土木炭（No.3：IAAA－121878），土坑 7 埋土出土木炭（No.4：IAAA－121879）の合計 4 点である（表 22）。

2　測定の意義

遺構の年代を把握する。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

（2）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA 処理における酸処理では，通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」，1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

（3）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C － AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し，^{14}C の計数，^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$），^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）$\delta^{13}C$ は，試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 22）。AMS 装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され，1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 22 に，補正していない値を参考値として表 23 に示した。^{14}C 年代と誤差は，下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また，^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は，試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は，標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し，pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため，補正した値を表 22 に，補正していない値を参考値として表 23 に示した。

（4）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1 標準偏差（1 σ = 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，$\delta^{13}C$ 補正を行い，下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い，OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表 23 に示した。暦年較正年代は，^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）され

第22表　放射性炭素年代測定結果（1）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA－121876	No.1	4 号竪穴建物　最下部　炉床	木炭	AAA	－26.21 ± 0.57	920 ± 30	89.2 ± 0.28
IAAA－121877	No.2	5 号竪穴建物　炉基底部	木炭	AAA	－25.03 ± 0.59	800 ± 30	90.57 ± 0.28
IAAA－121878	No.3	5 号竪穴建物　貼床下　最下炉床面	木炭	AAA	－26.08 ± 0.49	830 ± 30	90.21 ± 0.28
IAAA－121879	No.4	土坑 7　埋土	木炭	AAA	－26.86 ± 0.56	580 ± 20	93.07 ± 0.28

た年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果（第22・23表，第129図）

試料の ^{14}C 年代は，4号竪穴建物最下部の炉床出土木炭 No.1 が 920 ± 30yrBP，5号竪穴建物炉基底部出土木炭 No.2 が 800 ± 30yrBP，同建物貼床下の最下炉床面出土木炭 No.3 が 830 ± 30yrBP，土坑7埋土出土木炭 No.4 が 580 ± 20yrBP である。5号竪穴建物の炉基底部から出土した No.2 と貼床下の最下炉床面から出土した No.3 の値は，誤差（± 1 σ）の範囲で重なり，近い年代を示す。

暦年較正年代（1 σ）は，No.1 が 1045 ～ 1159cal AD の間に3つの範囲，No.2 が 1224 ～ 1260cal AD の範囲，No.3 が 1191 ～ 1256cal AD の間に2つの範囲，No.4 が 1320 ～ 1408cal AD の間に2つの範囲で示される。

試料の炭素含有率はすべて 60％を超える十分な値で，化学理，測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337 − 360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0 − 50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111 − 1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355 − 363

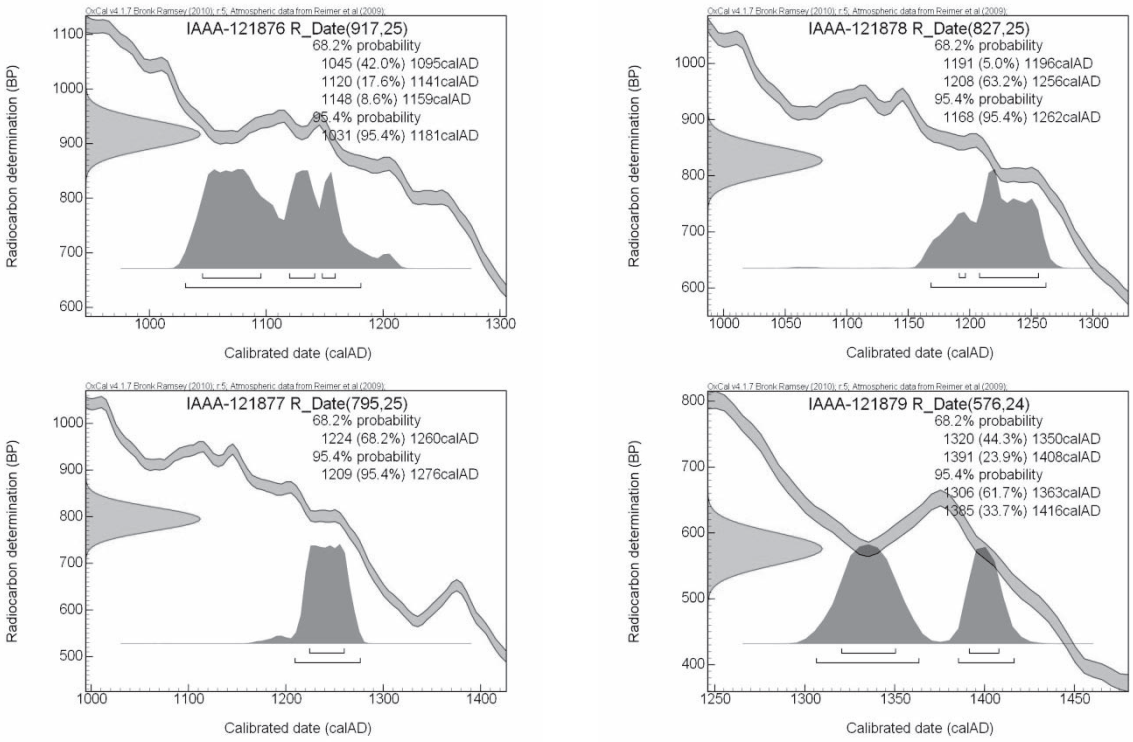
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337 − 360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0 − 50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111 − 1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355 − 363

第23表　放射性炭素年代測定結果（2）

測定番号	δ 13C 補正なし Age (yrBP)	δ 13C 補正なし pMC (%)	暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
IAAA − 121876	940 ± 20	88.98 ± 0.26	917 ± 25	1045calAD − 1095calAD (42.0%) 1120calAD − 1141calAD (17.6%) 1148calAD − 1159calAD (8.6%)	1031calAD − 1181calAD (95.4%)
IAAA − 121877	800 ± 20	90.57 ± 0.26	795 ± 25	1224calAD − 1260calAD (68.2%)	1209calAD − 1276calAD (95.4%)
IAAA − 121878	850 ± 20	90.01 ± 0.27	827 ± 25	1191calAD − 1196calAD (5.0%) 1208calAD − 1256calAD (63.2%)	1168calAD − 1262calAD (95.4%)
IAAA − 121879	610 ± 20	92.72 ± 0.26	576 ± 24	1320calAD − 1350calAD (44.3%) 1391calAD − 1408calAD (23.9%)	1306calAD − 1363calAD (61.7%) 1385calAD − 1416calAD (33.7%)



第129図　年代測定結果

中郡遺跡群における放射性炭素年代（AMS 法）
・樹種同定・種実同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

中郡遺跡群では，縄文時代の集石や落し穴，中世の竪穴建物跡，掘立柱建物跡等の遺構が検出されている。中世の遺構には，島津氏初代忠久の居館跡といわれる「木牟礼城館跡」に関連すると考えられる建物跡もあり，輸入陶磁器が多数出土している。

本報告では，杭列などの出土木材を対象として，年代確認のための放射性炭素年代測定と古植生・木材利用を検討するための樹種同定を実施する。また，遺構内から出土した種実を対象として，古植生や植物利用を検討するための種実同定を実施する。

Ⅰ．放射性炭素年代測定

1．試料

試料は，SA1 を校正する杭 2 点，低湿地から出土した木製品 1 点，D － 21Fb 出土の木材 1 点の合計 4 点（試料番号 9 ～ 12）である。

2．分析方法

試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合，これらをピンセット，超音波洗浄等により物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去，NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去，HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ，1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて，管内を真空にして封じきり，500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し，真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し，グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして，タンデム加速器のイオン源に装着し，測定する。

測定機器は，3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C － AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH － 2）を使用する。AMS 測定時に，標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX －Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また，測定中同時に 13C/12C の測定も行うため，この値を用いて δ 13C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また，測定年代は 1,950 年を基点とした年代（BP）であり，誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお，暦年較正は，RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986 － 2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い，誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは，大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動，及び半減期の違い（14C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては，本来 10 年単位で表すのが通例であるが，将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため，1 年単位で表している。

暦年較正結果は，測定誤差 σ，2 σ（σ は統計的に真の値が 68%，2 σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また，表中の相対比とは，σ，2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合，その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

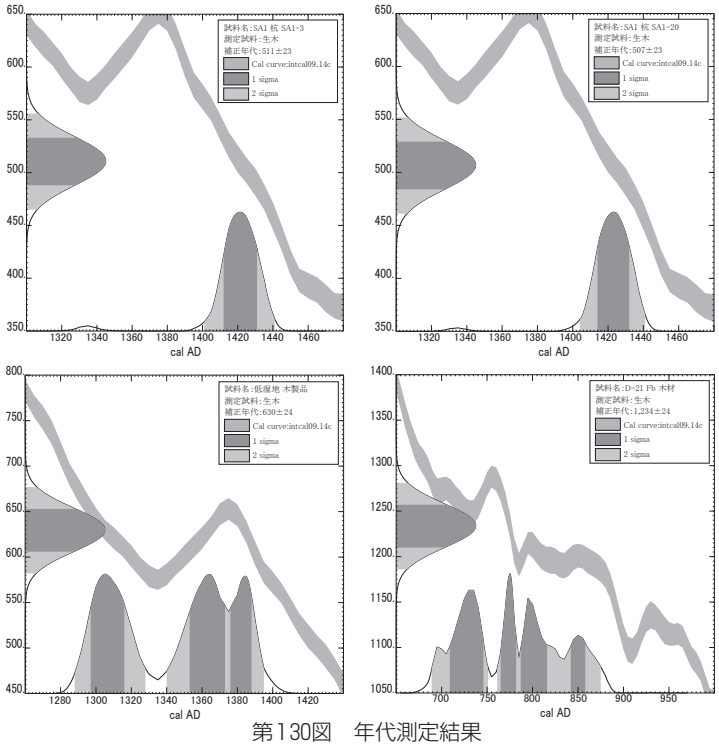
3．結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表 24 に示す。また，各試料の暦年較正曲線図を 130 図に示す。同位体効果の補正を実施した測定結果（補正年代）は，試料番号 9（514）と試料番号 10（523）が共に 510 ± 20BP，試料番号 11（低湿地の木製品）が 630 ± 20BP，試料番号 12（第 102 図）が 1,230 ± 20BP である。また，補正年代に基づく暦年較正結果（2 σ の確率 1）は，試料

第24表　放射性炭素年代測定結果

地区 遺構など	種類	処理 方法	測定年代 BP	δ 13 C (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code №
						誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
№9 SA1 － 3 杭 514	生木	AAA	580 ± 20	－ 29.23 ± 0.49	510 ± 20 (511 ± 23)	σ	cal AD 1,413 － cal AD 1,431	cal BP 537 － 519	1.000	IAAA － 130499
						2 σ	cal AD 1,402 － cal AD 1,441	cal BP 548 － 509	1.000	
№10 SA1 － 20 杭 523	生木	AAA	540 ± 20	－ 26.75 ± 0.41	510 ± 20 (507 ± 23)	σ	cal AD 1,414 － cal AD 1,432	cal BP 536 － 518	1.000	IAAA － 130500
						2 σ	cal AD 1,405 － cal AD 1,442	cal BP 545 － 508	1.000	
№11 低湿地 木製品	生木	AAA	690 ± 20	－ 28.43 ± 0.51	630 ± 20 (630 ± 24)	σ	cal AD 1,297 － cal AD 1,317	cal BP 653 － 633	0.374	IAAA － 130501
							cal AD 1,354 － cal AD 1,374	cal BP 596 － 576	0.381	
							cal AD 1,376 － cal AD 1,389	cal BP 574 － 561	0.245	
						2 σ	cal AD 1,288 － cal AD 1,329	cal BP 662 － 621	0.403	
							cal AD 1,340 － cal AD 1,386	cal BP 610 － 564	0.597	
№12 D － 21 Fb 木材 (第 102 図)	生木	AAA	1,280 ± 20	－ 27.70 ± 0.51	1,230 ± 20 (1,234 ± 24)	σ	cal AD 710 － cal AD 747	cal BP 1,240 － 1,203	0.405	IAAA － 130502
							cal AD 766 － cal AD 783	cal BP 1,184 － 1,167	0.205	
							cal AD 788 － cal AD 817	cal BP 1,162 － 1,133	0.273	
							cal AD 843 － cal AD 859	cal BP 1,107 － 1,091	0.117	
						2 σ	cal AD 689 － cal AD 751	cal BP 1,261 － 1,199	0.384	
							cal AD 761 － cal AD 876	cal BP 1,189 － 1,074	0.616	

1) 処理方法の AAA は、酸処理－アルカリ処理－酸処理を示す。
2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
3)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
4) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
5) 暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986 － 2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
7) 年代値は、1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は 1 桁目を丸めていない。
8) 統計的に真の値が入る確率はσは 68.3%、2 σは 95.4% である。
9) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第130図　年代測定結果

番号9がcal AD1,402 − 1,441, 試料番号10がcal AD1,405 − 1,442, 試料番号11がcal AD1,340 − 1,386, 試料番号12がcal AD761 − 876である。

4．考察

SA1を構成する杭2点は，後述する樹種同定により，SA1 − 3が針葉樹のマツ属複維管束亜属，SA1 − 20が広葉樹のシキミに同定されている。年代測定結果は，補正年代が共に510 ± 20BPであり，暦年較正結果(2 σ)でもSA1 − 3がcal AD1,402 − 1,441, SA1 − 20がcal AD1,405 − 1,442で，ほぼ一致する結果となった。この結果から, SA1の構築時期として，15世紀前半が想定される。

低湿地の木製品は，補正年代が630 ± 20BP，暦年較正結果(2 σの確率1）がcal AD1,340 − 1,386であり，SA1よりも若干古い14世紀中頃〜後半にかけての年代の可能性がある。また，D − 21 Fbの木材は，補正年代が1,230 ± 20BP，暦年較正結果(2 σの確率1）がcal AD761 − 876であり，古代の8世紀後半〜9世紀後半まで遡ることが推定される。

各試料の測定結果については，共伴する遺物や層序の情報も含めて検証することが必要である。

Ⅱ.樹種同定

1．試料

試料は，SA1の杭5点（試料番号1〜5），低湿地出土の木製品1点（試料番号6），D − 21Fbの木材1点（試料番号7）の合計7点である。このうち，試料番号4〜7の4点は，年代測定を実施した4点と同一個体である。

2．分析方法

各試料の破損部等から少量の木片を採取する。剃刀を用いて木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し，プレパラートとする。プレパラートは，生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東（1982），Wheeler他（1998），Richter他（2006）を参考にする。また，日本産木材の組織配列は，林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3．結果

樹種同定結果を第25表に示す。木製品は, 針葉樹1分類群（マツ属複維管束亜属）と広葉樹5分類群（シキミ・クスノキ・サカキ・エゴノキ属・ハイノキ属ハイノキ節）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急〜やや緩やかで，晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は，仮道管，柔細胞，

第25表　樹種同定結果

番号	遺構・層位など	遺物番号等	器種	種類
1	SA1 − 4	518	杭	マツ属複維管束亜属
2	SA1 − 8	516	杭	エゴノキ属
3	SA1 − 12	521	杭	ハイノキ属ハイノキ節
4	SA1 − 3	514	杭	マツ属複維管束亜属
5	SA1 − 20	523	杭	シキミ
6	低温地	−	木製品	サカキ
7	D − 21　Fb	第102図	木材	クスノキ

第26表　種実同定結果(1)

番号	区	層			年月日	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	
1	D－21	低Ⅱc	Hc		24.12.12	モモ	核	破片	1	－	26.4 +	22.8 +	9.4 +	半分厚 , 頂部欠損 , 縫合線残存
2	D－21	低Ⅱd	Eh		24.12.5	ヤマモモ	核	破片	2	－	3.8 +	－	－	
2	D－21	低Ⅱd	Eh		24.12.5	クスノキ	種子	完形	1	－	5.9	5.7	5.4	
2	D－21	低Ⅱd	Eh		24.12.5	クスノキ	種子	破片	2	1	5.1 +	3.7 +	4.0 +	
2	D－21	低Ⅱd	Eh		24.12.5	クスノキ	種子	破片	－	2	2.0 +	－	－	
3	D－20	低Ⅱa	Bb		20121109	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	40.8	24.9	24.5	
4	D－20	低Ⅱb	Db		24.11.8	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	22.9 +	13.3 +	13.0 +	
5	D－20	低Ⅱc	Eb	一括	24.12.12	キカラスウリ	種子	完形	1	－	12.9	7.3	2.8	
6	D－20	低Ⅱc	Dd(小)	一括	24.11.21	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	35.9	18.1	15.5 +	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	16	1	6.5	6.6	6.0	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	2	6.4	6.3	5.7	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	3	6.8	6.9	6.5	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	4	6.0	6.2	5.8	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	5	7.1	7.0	6.4	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	6	6.4	6.0	5.7	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	7	6.6	6.7	6.3	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	8	6.8	6.3	5.8	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	9	6.1	6.0	5.9	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	10	6.7	6.5	5.8	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	－	11	6.6	6.6	6.0	
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	完形	15	－	－	－	－	欠損 ,3 個食痕
7	D－20	低Ⅱd	Cc	樹種集中	.12.12	クスノキ	種子	破片	243	－	－	－	－	5 個食痕
8	D－20	低Ⅱc	Cd	一括	24.12.18	モモ	核	完形	1	－	26.8	21.3	17.5	
9	D－20	低Ⅱa	Bo		20121109	モモ	核	完形	1	－	27.1 +	20.8	14.4	頂部欠損
10	D－20	SK17	Cd	埋土一括	24.12.12	ウメ	核	完形	1	－	13.4 +	13.9	8.2 +	
10	D－20	SK17	Cd	埋土一括	24.12.12	ウメ	核	破片	1	－	11.8 +	－	－	
11	D－20～22	低Ⅱc		トレンチ	20121025	モモ	核	半分	1	－	28.4	20.2	7.4 +	
12	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.10	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	36.6 +	24.9 +	17.2 +	
12	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.10	モモ	核	完形	2	1	24.5	18.0	14.6	
12	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.10	モモ	核	完形	－	2	25.5	17.8 +	14.6	
12	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.10	モモ	核	半分	1	－	23.5 +	18.9 +	9.1 +	
13	D－22	低Ⅱc	Ib		24.12.12	モモ	核	破片	1	－	21.2 +	16.8 +	7.6 +	
14	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.13	アカガシ亜属	果実	破片	1	－	10.9 +	15.4 *	－	乾燥により裂開 , 着点径 6.3mm
14	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.13	コナラ属	子葉	破片	3	－	7.3	4.8	2.6 +	半分厚
15	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.17	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	44.1 +	22.6 +	20.3 +	
15	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.17	モモ	核	完形	1	－	29.8	21.7	16.4	
15	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.17	モモ	核	半分	1	－	23.0 +	17.3	7.6 +	
16	D－22	低Ⅱ	Ic		24.12.13	モモ	核	完形	1	－	21.3	15.1	12.6	
17	D－21	低Ⅱc	Hc	一括	24.12.12	モモ	核	破片	2	1	26.4 +	21.0 +	8.7 +	
17	D－21	低Ⅱc	Hc	一括	24.12.12	モモ	核	破片	－	2	24.8 +	18.4 +	7.0 +	
18	D－21	低Ⅱc	Hc		24.12.18	モモ	核	完形	1	－	25.0 +	16.0 +	13.5	表面摩耗
19	D－20	低Ⅱd	Dd		24.11.21	モモ	核	破片	1	－	22.4 +	16.6	6.9 +	
20	D－20	低Ⅱd	Cb		24.12.12	ツブラジイ	果実	完形	1	－	10.0 +	7.3	7.9	
21	D－20	低Ⅱc	aD		20121120	モモ	核	半分	1	－	27.1 +	21.8	7.8 +	
22	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.11	モモ	核	完形	2	1	27.9	22.4	15.7	
22	D－20	低Ⅱc	Cb	一括	24.12.11	モモ	核	完形	－	2	31.3	21.6	15.8	
23	D－21	低Ⅱd	Eb		24.11.21	モモ	核	完形	1	－	23.8	20.8	15.6	
24	D－20	低 2c	Dg		24.11.28	モモ	核	完形	1	－	24.1	18.2	14.2	
25	D－20	低Ⅱa	Cb		20121109	モモ	核	破片	1	－	21.8 +	19.3	7.7 +	
26	D－20	Ⅱg		トレンチ	20121025	モモ	核	完形	1	－	29.8	21.0 +	15.4	
27	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.13	モモ	核	破片	1	－	27.5 +	20.8	8.5 +	
28	D－21	低Ⅱc	Ec	一括	24.12.6	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	22.4 +	13.1 +	11.0 +	
28	D－21	低Ⅱc	Ec	一括	24.12.6	マツ属複維管束亜属	種子	完形	1	－	3.1	1.8	1.3	
28	D－21	低Ⅱc	Ec	一括	24.12.6	モモ	核	完形	1	－	25.1	20.0	15.4 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	－	34.9 +	19.8 +	19.4 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	完形	1	－	27.8	21.0	15.6	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	半分	3	1	25.4 +	20.0	7.6 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	半分	－	2	27.2 +	20.6	8.0 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	半分	－	3	25.5 +	20.9	8.5 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	破片	3	1	24.9 +	19.6 +	7.4 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	破片	－	2	25.3 +	19.3 +	6.4 +	
29	D－20	低Ⅱc	Db	種実一括	24.11.26	モモ	核	破片	－	3	21.2 +	16.3 +	6.3 +	
30	D－20	低Ⅱc	De	堅果類一括	24.11.28	モモ	核	完形	1	－	22.9 +	18.3 +	15.2	
30	D－20	低Ⅱc	De	堅果類一括	24.11.28	モモ	核	破片	1	－	21.1 +	13.6 +	6.6 +	
31	D－20	低Ⅱc	Db		24.11.8	モモ	核	完形	1	－	26.8	19.1	13.8 +	
32	D－20	低Ⅱc	Dc		24.11.8	モモ	核	完形	1	－	22.4	17.2 +	13.3 +	腹面摩耗
33	D－21	低Ⅱc	Ea	一括	24.11.2	モモ	核	完形	1	－	25.9	22.1	18.8	
33	D－21	低Ⅱc	Ea	一括	24.11.2	モモ	核	破片	1	－	21.9 +	16.6	7.7 +	
34	D－20	低Ⅱc	Db		24.11.8	モモ	核	完形	1	－	26.7	20.1	14.5	
35	D－20	低Ⅱb	Da		24.12.20	モモ	核	完形	1	－	26.3	18.8	14.7 +	
36	D－21	低Ⅱc	Gb	種実一括	24.12.4	モモ	核	破片	3	1	24.9 +	18.7 +	9.3 +	表面摩耗
36	D－21	低Ⅱc	Gb	種実一括	24.12.4	モモ	核	破片	－	2	19.8 +	16.5 +	6.7 +	
36	D－21	低Ⅱc	Gb	種実一括	24.12.4	モモ	核	破片	－	3	21.5 +	16.6 +	6.8 +	
37	D－20	低Ⅱc	De		24.11.28	モモ	核	破片	1	－	20.8 +	17.1	7.2 +	

第27表　種実同定結果(2)

番号	区	層			年月日	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	
38	D－20	低Ⅱc	Cb		24.11.8	モモ	核	完形	1	－	26.8 +	19.2 +	16.9 +	表面摩耗
39	D－20	低Ⅱc	Cd		24.12.14	モモ	核	完形	1	－	33.7	21.9 +	15.1	腹面わずかに欠損
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	完形	3	1	26.3	19.8	14.8	
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	完形	－	2	28.8	20.9	15.6	
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	完形	－	3	22.4	19.3	13.6	
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	半分	2	1	25.1	21.1	8.9 +	
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	半分	－	2	20.3	16.4	6.4 +	
40	D－20	低Ⅱc	Dc	一括	24.12.6	モモ	核	破片	1	－	29.2 +	21.0	8.0 +	
41	D－20	低Ⅱc	Cc	一括	24.12.10	モモ	核	完形	4	1	35.4	20.5	14.9	頂部鋭尖
41	D－20	低Ⅱc	Cc	一括	24.12.10	モモ	核	完形	－	2	27.0	20.9	15.9	
41	D－20	低Ⅱc	Cc	一括	24.12.10	モモ	核	完形	－	3	29.7	18.0	12.8	
41	D－20	低Ⅱc	Cc	一括	24.12.10	モモ	核	完形	－	4	26.2 +	18.3 +	12.8 +	側面食痕
42	D－20	低Ⅱa	Bc		20121109	モモ	核	完形	1	－	23.3 +	21.5	14.7 +	欠損
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	クスノキ	種子	完形	5	1	6.1	6.0	5.1	
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	クスノキ	種子	完形	－	2	6.1	6.0	5.0	
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	クスノキ	種子	完形	－	3	5.9	5.8	5.0	
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	クスノキ	種子	完形	－	4	6.5	6.6	6.0	
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	クスノキ	種子	完形	－	5	6.6	6.5	5.7	
43	D－20	低Ⅱd	Dc	一括	24.12.12	エゴノキ	種子	破片	9	－	7.9	－	－	計1個体分
44	D－20	低Ⅱc	Da		24.11.21	マツ属複維管束亜属	球果	破片	2	1	43.5 +	21.1 +	13.6 +	
44	D－20	低Ⅱc	Da		24.11.21	マツ属複維管束亜属	球果	破片	－	2	35.3 +	16.6 +	7.5 +	
44	D－20	低Ⅱc	Da		24.11.21	コナラ属	果実	破片	1	－	16.1 +	－	－	欠損
44	D－20	低Ⅱc	Da		24.11.21	種実ではない	不明	破片	1	－	－	－	－	植物片(木材?)

合計			
栽培種	ウメ	核	2
	モモ	核	56
その他の木本種実	マツ属複維管束亜属	球果	9
		種子	1
	ヤマモモ	核	2
	アカガシ亜属	果実	1
	コナラ属	果実	1
		子葉	3
	ツブラジイ	果実	1
	クスノキ	種子	282
	エゴノキ	種子	9
草本種実	キカラスウリ	種子	1
種実合計			368

水平樹脂道，エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列，1～10細胞高。

・シキミ（*Illicium anisatum* L.）　シキミ科シキミ属

散孔材で，道管壁は中庸～薄く，横断面では多角形，単独または2～4個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し，壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性，1～3細胞幅，1～20細胞高。

・クスノキ（*Cinnamomum camphora*（L.）Presl）クスノキ科ニッケイ属

散孔材で，道管径は比較的大径，道管壁は薄く，横断面では楕円形，単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性，1～3細胞幅，1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞には油細胞が認められる。

・サカキ（*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）　ツバキ科サカキ属

散孔材で，小径の道管が単独または2～3個が複合して散在し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性，単列，1～20細胞高。

・エゴノキ属（*Styrax*）　エゴノキ科

散孔材で，横断面では楕円形，単独または2～4個が複合して散在し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性，1～3細胞幅，1～20細胞高。

・ハイノキ属ハイノキ節（*Symplocos* sect. Lodhra）

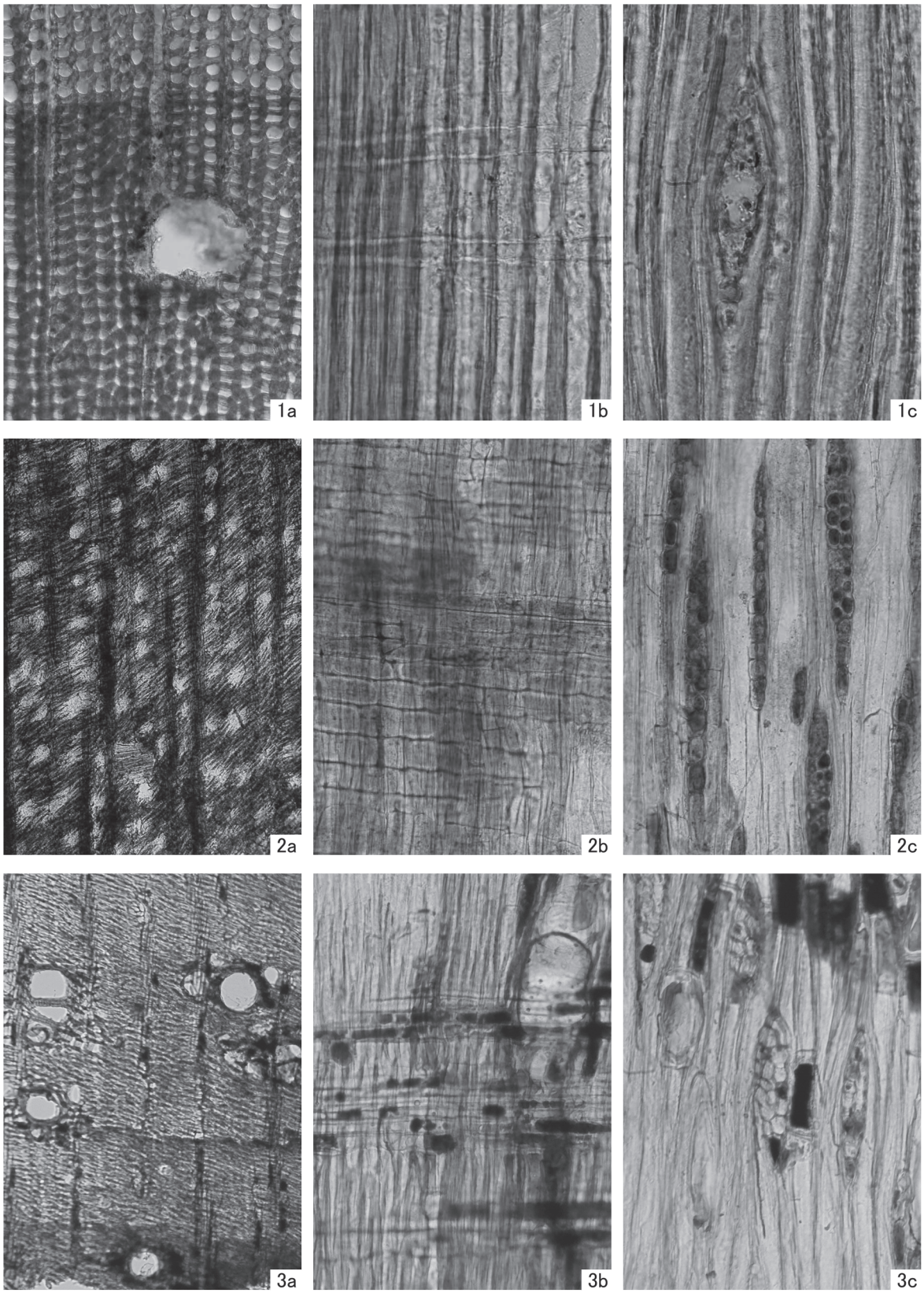
ハイノキ科

散孔材で，道管壁は薄く，横断面では多角形～角張った楕円形，単独および2～5個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性，1～3細胞幅，1～20細胞高で，時に上下に連結する。

4．考察

木製品・杭材・木材には，合計7種類が認められた。各種類の材質についてみると，針葉樹のマツ属複維管束属は，軽軟であるが，強度と保存性は比較的高い。スギは，木理が通直で割裂性・耐水性が比較的高い。広葉樹のシキミ，サカキ，エゴノキ属，ハイノキ節は，比較的重硬で強度が高い。クスノキは，やや軽軟～中庸で，強度も低いが，耐朽性・耐虫性は極めて高い。

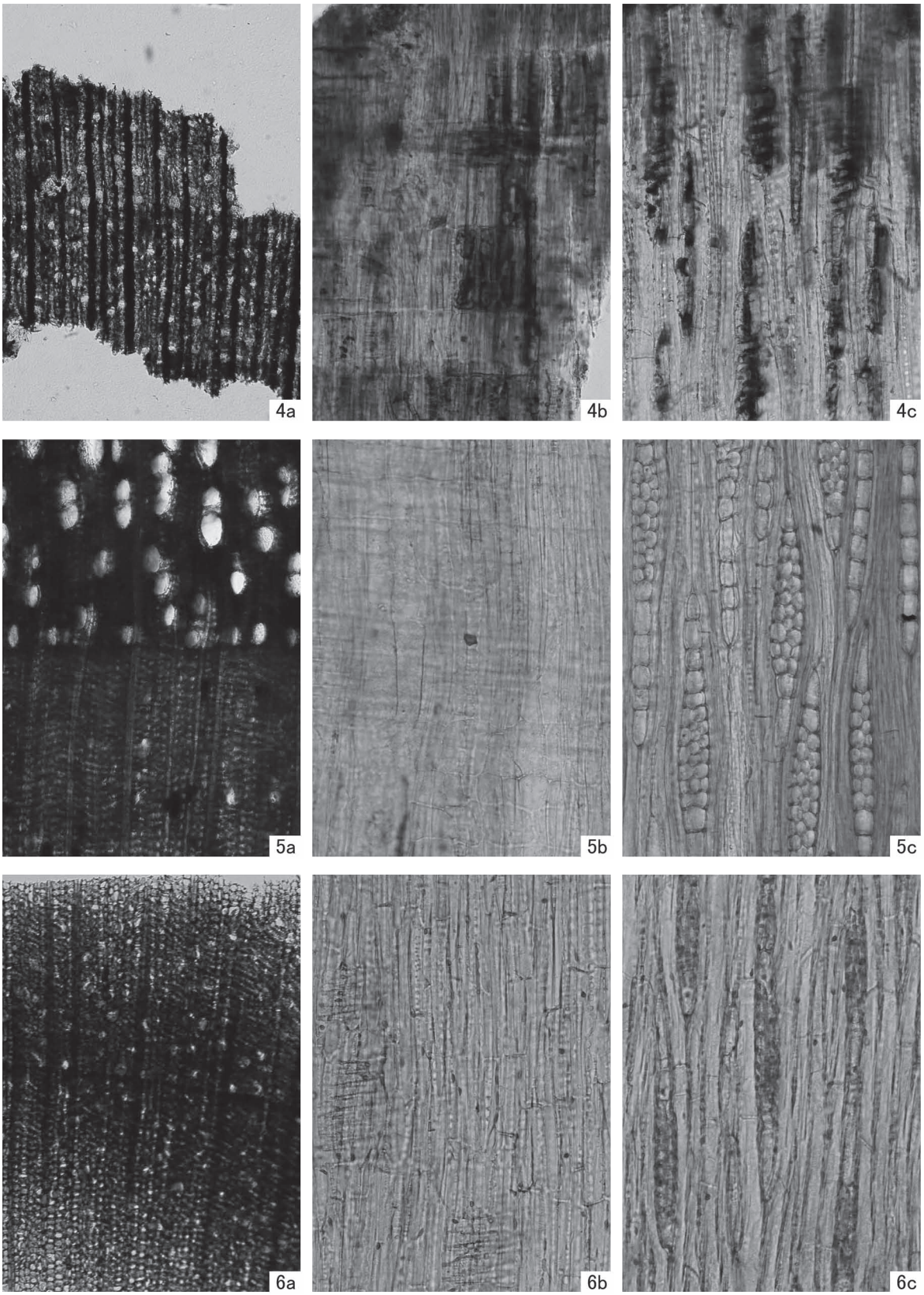
SA1を構成する杭5点には，針葉樹の複維管束亜属，広葉樹のシキミ，エゴノキ属，ハイノキ節が認められ，多くの樹種で構成されている。材質的には，水湿に強い木材や，強度の高い木材が利用される傾向がある。このうち，複維管束亜属とシキミの年代測定結果は，補正年代が共に510 ± 20BPであり，構築時に複数の種類を用いて作られたことが推定される。このうち，複維管束亜属やエゴノキ属については，低湿地の種実でも確認されている。多少時期が異なる可能性があるが，SA1の構築時にも周辺に生育



1.マツ属複維管束亜属(試料番号4)
2.シキミ(試料番号5)
3.クスノキ(試料番号7)
　a:木口, b:柾目, c:板目

100μm:2-3a
100μm:1a,2-3b,c
100μm:1b,c

第131図　樹種同定　木材（1）



4.サカキ(試料番号6)
5.エゴノキ属(試料番号2)
6.ハイノキ属ハイノキ節(試料番号3)
　a:木口, b:柾目, c:板目

100 μm:a
100 μm:b,c

第132図　樹種同定　木材（2）

しており，その木材を杭に利用したことが推定される。

低湿地の木製品はサカキであり，強度を要する器種・部位であったことが推定される。一方，D－21 Fb の木材は，クスノキであった。クスノキは，主に西日本の沿海地を中心に分布しており，巨木になることから，大型の木材を得やすい。耐朽性・耐虫性が高く，樟脳成分により芳香性もある。クスノキについては，後述する種実でも確認されており，遺跡周辺に生育していた樹木を利用した可能性がある。

木製品については，今後用途などの情報も含めて木材利用を検討する必要がある。

Ⅲ．種実同定

1．試料

試料は，低湿地の各層（試料番号 1 ～ 9，11 ～ 44）と，SK17（試料番号 10）から出土した種実遺体 44 点約 100 個とされる。各試料は，湿った状態で容器に入っている。詳細は，結果とともに表 26・27 に示す。

2．分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し，ピンセットを用いて，同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は，現生標本と石川（1994），中山ほか（2000）等の図鑑類を参考に実施し，個数を数えて結果を一覧表に示す。また，主に栽培種を対象として，デジタルノギスを用いて，種実遺体の長さ，幅，厚さを計測し，結果を一覧表に併記する。分析後は，種実遺体を容器に入れ，約 70% のエタノール溶液で液浸し，保管する。

3．結果

裸子植物 1 分類群（針葉樹のマツ属複維管束亜属）10 個，被子植物 8 分類群（広葉樹のヤマモモ，アカガシ亜属，コナラ属，ツブラジイ，クスノキ，ウメ，モモ，エゴノキ，草本のキカラスウリ属）358 個，計 368 の種実が抽出・同定された（表 26・27）。1 個（試料番号 44）は種実ではなく，植物片（木材？）であった。

栽培種は，ウメの核が 2 個（SK17; 試料番号 10），モモの核が 56 個（試料番号 2 ～ 7,10,14,20,43,44 を除く全試料）の，計 58 個が確認された。栽培種を除いた分類群は，常緑高木のマツ属複維管束亜属の球果が 9 個（試料番号 3,4,6,12,15,28,29,44），種子が 1 個（試料番号 28），ヤマモモの核が 2 個（試料番号 2），アカガシ亜属の果実が 1 個（試料番号 14），ツブラジイの果実が 1 個（試料番号 20），クスノキの種子が 282 個（試料番号 2,7,43），常緑または落葉高木のコナラ属の果実が 1 個（試料番号 44），子葉が 3 個（試料番号 14），落葉小高木のエゴノキの種子が 9 個（試料番号 43），つる性多年草のキカラスウリの種子が 1 個（試料番号 5）の，計 310 個が確認された。クスノキが最多で全体の 76.6% を占めるが，そのうち 245 個（86.9%）が破片である。各分類群の写真を 133 図に示し，形態的特徴等を以下に述べる。

〈栽培種〉

・ウメ（*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.）

バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰黒褐色，残存長 13.4㎜，幅 13.9㎜，残存厚 8.2㎜のやや偏平な広楕円体。頂部はやや尖り，基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が，腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く，表面には円形の小凹点が分布する。

・モモ（*Prunus persica* Batsch） バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰褐色，やや偏平な広楕円体で頂部が尖る。最小の核の大きさは長さ 21.3㎜，幅 15.1㎜，厚さ 12.6㎜（試料番号 16）を測る。最大の核の大きさは，長さ 35.4㎜，幅 20.5㎜，厚さ 14.9㎜（試料番号 41）を測り，頂部が鋭く尖る。核の基部は切形で，中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が，腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って割れた半分以下の破片や，側面にネズミ類による食痕と考えられる円形の孔（試料番号 41）がみられる。内果皮は厚く硬く，表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり，全体として粗いしわ状にみえる。核内面は平滑で，1 個の種子が入る楕円状の窪みがある。

〈その他〉

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*） マツ科

球果は灰黒褐色，残存長 22.4 ～ 44.1㎜，最大径 24.9㎜の円錐状広卵形体。径 3 ～ 4㎝程度。球果は木質で，長楕円状で矩形の種鱗が覆瓦状，螺旋状に密着する。種鱗の外部露出部分は不規則な四～五角形で肥厚し，横の稜線とその中央部に短く突起する臍点がみられる。

種鱗内部に 1 ～ 2 個入る種子は灰褐色，長さ 3.1㎜，幅 1.8㎜，厚さ 1.3㎜のやや偏平な非対称倒狭卵体。側面は稜をなし，頂部や基部はやや尖る。頂部に付く倒三角形で膜質の翼を欠損する。種皮は木質で表面は粗面。

・ヤマモモ（*Myrica rubra* Sieb. et Zucc.）

ヤマモモ科ヤマモモ属

核（内果皮）は灰褐色。完形ならば径 6 ～ 9㎜，厚さ 5 ～ 7㎜の歪でやや偏平な非対称広楕円体。内果皮は硬く緻密で，表面には微細な網目模様があり粗面。破片は残存径 3.8㎜を測る。

・アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis）

ブナ科コナラ属

果実は黒褐色，残存長 10.9㎜，残存径 15.4㎜の卵状楕円体。果皮表面はやや平滑で，微細な溝が縦列する。頂部は尖り，殻斗の圧痕である輪状紋がみられる。先端部は花柱が長さ 1.5㎜残存し，柱頭を欠損する。花柱基部付近（肩）がやや尖ることから，イチイガシに似る。基部は切形で，果皮とは別組織の着点がある。着点は灰褐色，径 6.3㎜の円形を呈し，表面は粗面で維管束の穴が輪状に並ぶ。

なお，亜属の判別根拠となる果実頂部の輪状紋を欠損している果実をコナラ属としている。

・コナラ属（*Quercus*） ブナ科

子葉は灰黒褐色，2 枚からなる子葉の合わせ目に沿って割れた半分で，長さ 7.3㎜，幅 4.8㎜，半分厚 2.6㎜の半楕円体，完形な

らば楕円体。子葉は乾燥により収縮しており，表面には縦方向に走る維管束の圧痕が顕著にみられる。合わせ目の表面はやや平滑で，正中線上は僅かに窪み，頂部には長さ0.5㎜程度の小さな孔（主根）がある。なお，出土子葉は，同試料から共に出土したアカガシ亜属に由来すると考えられる。

・ツブラジイ（*Castanopsis cuspidata*（Thunb. ex Murray）Schottky） ブナ科シイ属

果実は黒褐色，残存長10.0㎜，径7.9㎜の広卵体。スダジイより小型で丸い。頂部は尖り，基部を占める灰褐色，円状不定形で維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ着点を欠損する。果皮表面には細くやや深い溝が縦列する。

・クスノキ（*Cinnamomum camphora*（L.）Presl）

クスノキ科ニッケイ属

種子は灰黒褐色，長さ5.9～7.1㎜，幅5.7～7.0㎜，厚さ5.0～6.5㎜の球体。頂部にやや突出する臍からはじまる低い稜があり，側面の途中で終わる。種皮は薄く硬く，断面は柵状，表面は粗面で，一部に最大径1.0㎜の円形の食痕がみられる（試料番

・エゴノキ（*Styrax japonica* Sieb. et Zucc.） エゴノキ科エゴノキ属

種子は灰黒褐色，完形ならば長さ0.8～1.1㎝，径0.7～0.8㎝程度の卵体。頂部から基部にかけて3本程度の縦溝と縦隆条がある。基部は斜切形で，灰黄褐色，径3.5㎜程度で粗面の着点がある。種皮は厚く表面にはやや粗い粒状網目模様があり，断面は柵状。種皮内面は灰褐色で粗面。出土種子は全て破片で，残存長は7.9㎜を測り，計1個体分である。

・キカラスウリ（*Trichosanthes Kirilowii* Maxim. var. japonica（Miq.）Kitam.） ウリ科カラスウリ属

種子は黄灰褐色，長さ12.9㎜，幅7.3㎜，厚さ2.8㎜の偏平な非対称倒卵体。基部は切形で，倒「ハ」の字状の臍と円形の発芽孔がある。縁を浅い帯状の溝が一周する。種皮表面は粗面。

4．考察

低湿地より出土した種実遺体には，栽培種のウメ，モモが確認された。ウメ，モモは，栽培のために持ち込まれた渡来種とされ，果実や種子が食用，薬用，祭祀等に，花が観賞用に利用される。ウメ，モモが周辺で栽培されていたか，近辺より持ち込まれたかは不明であるが，当時利用された植物質食料と示唆される。

栽培種を除く分類群は，木本は高木になる常緑針葉樹のマツ属複維管束亜属，常緑広葉樹のヤマモモ，コナラ属アカガシ亜属，ツブラジイ，クスノキ，落葉小高木のエゴノキ，つる性草本のキカラスウリが確認された。これらの分類群は，本地域に分布する常緑照葉樹（照葉樹）林内や，その林縁部などに生育していた植物に由来すると考えられる。

なお，堅果類のツブラジイは，子葉が生食可能である。コナラ属アカガシ亜属の一部はアク抜きが必要であるが子葉が食用可能である。この他に，ヤマモモは果実が食用可能である。これらの出土種実には，人間による直接の利用の痕跡は認められないが，上記の栽培種とともに当時利用された可能性も考えられる。

引用文献

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81 － 181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66 － 176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83 － 201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30 － 166.

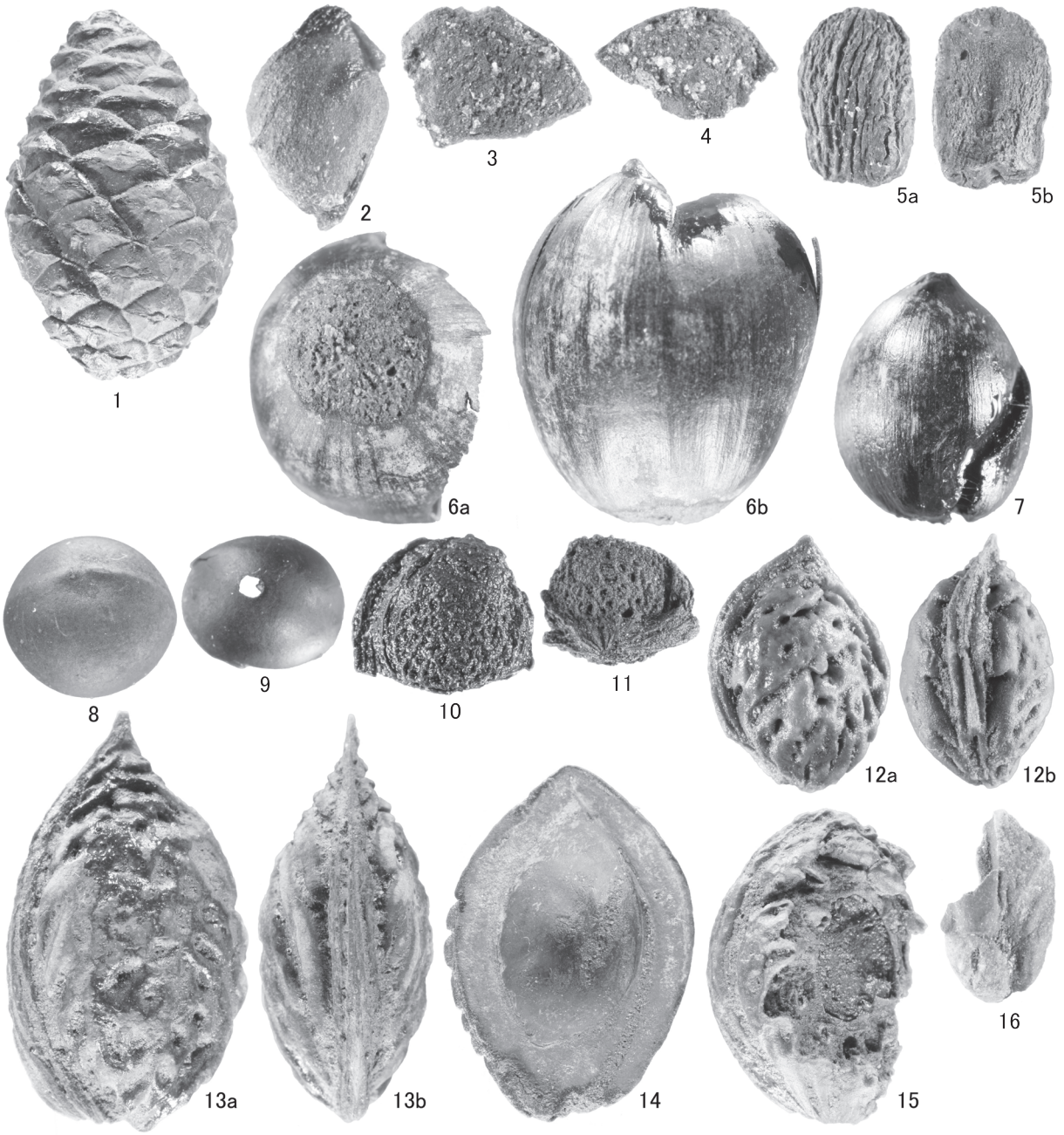
伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47 － 216.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*］.

島地　謙・伊東　隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.



1．マツ属複維管束亜属 球果(試料番号3)
2．マツ属複維管束亜属 種子(試料番号28)
3．ヤマモモ 核(試料番号2)
4．ヤマモモ 核(試料番号2)
5．コナラ属 子葉(試料番号14)
6．アカガシ亜属 果実(試料番号14)
7．ツブラジイ 果実(試料番号20)
8．クスノキ 種子(試料番号7)
9．クスノキ 種子(食痕)(試料番号7)
10．ウメ 核(試料番号10)
11．ウメ 核(試料番号10)
12．モモ 核(試料番号16)
13．モモ 核(試料番号41)
14．モモ 核(試料番号11)
15．モモ 核(食痕)(試料番号41)
16．エゴノキ 種子(試料番号43)
17．キカラスウリ 種子(試料番号5)

第133図　種実遺体

中郡遺跡群における花粉分析

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

花粉分析は，一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており，遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は，水成堆積物では保存状況が良好であるが，乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2．試料

分析試料は，D－21 区（低湿地）から採取された 13 点および C－23区から採取された８点の計21点である。試料は以下に示す。

試料№	グリッド	層位	層相	備考
1	D － 21 ①		褐色土	
2	D － 21 ②		褐色土	
3	D － 21 ③		（灰）褐色土	
4	D － 21 ④		（灰）褐色土	
5	D － 21 ⑤		（灰）褐色土	
6	D － 21 ⑥		褐色土	
7	D － 21 ⑦		褐色土	
8	D － 21 ⑧		（灰）褐色土	
9	D － 21 ⑨	低Ⅱａ層	暗茶褐色土	
10	D － 21 ⑩	低Ⅱｂ層	（黒褐色土）	
11	D － 21 ⑪	低Ⅱｃ層	褐色土	
12	D － 21 ⑫	低Ⅱｄ層	黒褐色土	
13	D － 21 ⑬	Ⅶ層	シラス	
14	C － 23 ①	表土Ⅰ層	黄褐色微砂	
15	C － 23 ②	旧表土Ⅰ層	黄褐色微砂	
16	C － 23 ③	Ⅱ上ａ層	茶褐色土	
17	C － 23 ④	Ⅱ上ｂ層	茶褐色土	
18	C － 23 ⑤	Ⅱａ層	暗褐色土	
19	C － 23 ⑥	Ⅱｂ層	（黒褐色土）	
20	C － 23 ⑦	Ⅱｃ層	暗褐色土	
21	C － 23 ⑧	Ⅶ層	シラス	

3．方法

花粉の分離抽出は，中村（1967）の方法をもとに，以下の手順で行った。

1）試料から 1 cm^3 を秤量

2）0.5％リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加えて 15 分間湯煎

3）水洗処理の後, 0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き, 沈澱法で砂粒を除去

4）25％フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

5）水洗処理の後, 氷酢酸によって脱水し, アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す

6）再び氷酢酸を加えて水洗処理

7）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し，グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

8）検鏡・計数

検鏡は，生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の同定は，島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして，所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって，科，亜科，属，亜属，節および種の階級で分類し，複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については，中村（1974，1977）を参考にして，現生標本の表面模様･大きさ･孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが，個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

4．結果

（1） 分類群

出現した分類群は，樹木花粉 30，樹木花粉と草本花粉を含むもの６，草本花粉 30，シダ植物胞子２形態の計 68 である。また，寄生虫卵２分類群が認められた。分析結果を表 28 に示し，花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（図 134，図 135）。また，花粉分帯が設定された D－21 区については，花粉の散布形態と生育環境を分類解析した(図 134)。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属，ツガ属，マツ属複維管束亜属，スギ，イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科，ヤナギ属，サワグルミ，ハンノキ属，カバノキ属，ハシバミ属，クマシデ属－アサダ，クリ，シイ属－マテバシイ属，コナラ属コナラ亜属，コナラ属アカガシ亜属，ニレ属－ケヤキ，エノキ属－ムクノキ，サンショウ属，ウルシ属，ニシキギ科，カエデ属，ブドウ属，ツバキ属，グミ属，カキ属，ハイノキ属，モクセイ科，トネリコ属，イスノキ属，スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科，ユキノシタ科，バラ科，マメ科，ウコギ科，ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属，サジオモダカ属，オモダカ属，クロモ，イネ科，イネ属型，カヤツリグサ科，ホシクサ属，ミズアオイ属，タデ属サナエタデ節，ギシギシ属，ソバ属，アカザ科－ヒユ科，ナデシコ科，キンポウゲ属，アブラナ科，ノアズキ属，ゲンゲ属－ミヤコグサ属，キカシグサ属，アリノトウグサ属－フサモ属，チドメグサ亜科，セリ亜科，アサザ属，ナス科，キツネノマゴ，オミナエシ科，ゴキヅル，タンポポ亜科，キク亜科，ヨモギ属，

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子，三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵，異形吸虫類卵

（2） 花粉群集の特徴

1）D － 21 区（図 134，図 135）

花粉組成の変化から，下位よりⅠ帯～Ⅴ帯の花粉分帯を設定した。以下に，各分帯における花粉群集の特徴を記載する。

Ⅰ帯：Ⅶ層（試料 13：シラス）では，花粉密度が極めて低く，マツ属複維管束亜属，クマシデ属－アサダ，コナラ属アカガシ亜属，カヤツリグサ科，アリノトウグサ属－フサモ属，ヨモギ属がわずかに認められた。

Ⅱ帯:低Ⅱｄ層～低Ⅱａ層（試料 12 ～ 9：中世の包含層）では，草本花粉の占める割合が 55％～ 60％と高く，樹木花粉は 30％～ 20％である。草本花粉では，イネ科（イネ属型を含む）が優勢で，カヤツリグサ科，ヨモギ属も比較的多く，ソバ属，タンポポ亜科，キク亜科などが伴われる。樹木花粉では，コナラ属アカガシ亜属，シイ属－マテバシイ属，クリ，マツ属複維管束亜属などが認められた。このうち，クリとシイ属－マテバシイ属は虫媒花植物，コ

ナラ属アカガシ亜属とマツ属複維管束亜属は花粉の生産量の多い風媒花植物である。なお，試料９では回虫卵がわずかに検出された。

Ⅲ帯（試料８～５）では，草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）が増加し，ヨモギ属は減少している。また，ソバ属，アブラナ科がやや増加している。アブラナ科やソバ属は虫媒花であり，風媒花と比較して現地性が高く花粉の生産量も少ないことから，他の分類群と比較して過大に評価する必要がある。樹木花粉では，コナラ属アカガシ亜属，シイ属－マテバシイ属，クリが減少している。なお，試料８では回虫卵がわずかに検出された。

Ⅳ帯（試料４～２）では，イネ科（イネ属型を含む）が優勢で，アブラナ科が特徴的に増加し，集塊も認められた。また，試料２ではゲンゲ属－ミヤコグサ属が増加している。樹木花粉では，スギがやや増加し，マツ属複維管束亜属は減少傾向を示している。

Ⅴ帯（試料１：表土）では，草本花粉では，ヨモギ属が増加し，アブラナ科，ゲンゲ属－ミヤコグサ属は減少している。樹木花粉では，シイ属－マテバシイ属がやや増加している。なお，異形吸虫類卵がわずかに検出された。

２）C－23区（図136）

下位のⅦ層（試料21：シラス）では花粉密度が極めて低く，ハシバミ属，クリ，シイ属－マテバシイ属，コナラ属コナラ亜属，コナラ属アカガシ亜属，セリ亜科，ヨモギ属がわずかに認められた。

Ⅱｃ層～Ⅱａ層（試料20～18：中世包含層）では，草本花粉の占める割合が60％～70％と高い。草本花粉では，ヨモギ属が優勢でイネ科も比較的多く，タンポポ亜科などが伴われる。樹木花粉ではクリが優勢で，シイ属－マテバシイ属などが伴われる。

Ⅱ上ｂ層（試料17）から表土Ⅰ層（試料14）にかけては，花粉がほとんど検出されなかった。

５．花粉分析から推定される植生と環境

（１） D－21区（低湿地）

Ⅰ期（Ⅰ帯）のⅦ層（シラス）では，花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては，１）植生が希薄であったこと，２）乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと，３）土層の堆積速度が速かったこと，４）水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

Ⅱ期（Ⅱ帯）の低Ⅱｄ層～低Ⅱａ層（中世の包含層）では，おもに水田稲作が行われていたと考えられ，周囲にはカヤツリグサ科や水田雑草のミズアオイ属なども生育していたと推定される。また，周辺の比較的乾燥したところではソバなどの栽培が行われており，その周囲にはヨモギ属をはじめタンポポ亜科，キク亜科などの草本類が生育していたと考えられる。森林植生としては，周辺に二次林性のクリや照葉樹のシイ類（シイ属－マテバシイ属）などが分布し，周辺地域にはカシ類（コナラ属アカガシ亜属）を主とする照葉樹林やマツ林（マツ属複維管束亜属）が分布していたと推定される。

Ⅲ期（Ⅲ帯）では，水田稲作が本格化したと考えられ，ソバやアブラナ科などを栽培する畑作も行われていたと推定される。アブラナ科には，アブラナ（ナタネ），ダイコン，ハクサイ，タカナ，カブなど多くの栽培植物が含まれている。この時期には，樹木のクリ，シイ類，カシ類などが減少していることから，これらの林が拓かれて耕作地化された可能性が考えられる。なお，低Ⅱａ層では寄生虫卵（回虫卵）が検出された。人糞施肥の影響も示唆されるが，低密度であることから，集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。回虫は中間宿主を必要とせず，糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。

Ⅳ期（Ⅳ帯）でも，おおむね同様の状況であったと考えられるが，アブラナ科が多量に検出され，花粉の集塊も認められることから，アブラナ科の栽培が本格化したと推定される。また，試料２ではゲンゲ属－ミヤコグサ属が多量に検出されることから，レンゲの栽培も行われていたと考えられる。森林植生としては，周辺地域でスギの造林（植林）が行われていたと推定される。

Ⅴ期（Ⅴ帯）の表土では，集約的な水田稲作が行われていたと考えられ，ソバやアブラナ科などを栽培する畑作は縮小したと推定される。表土では寄生虫卵（異形吸虫類卵）が検出されたが，低密度であることから，集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。異形吸虫類（横川吸虫を含む）は，沿岸性の魚類やコイ科の魚を補食することによって感染する。

（２） C－23区

Ⅶ層（シラス）では，花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては，前述のようなことが考えられる。

Ⅱｃ層～Ⅱａ層（中世包含層）の堆積当時は，ヨモギ属を主体としてイネ科なども生育する比較的乾燥した草原的な状況であったと考えられ，周辺にはクリ，シイ属－マテバシイ属が疎林ないし二次林として分布していたと推定される。

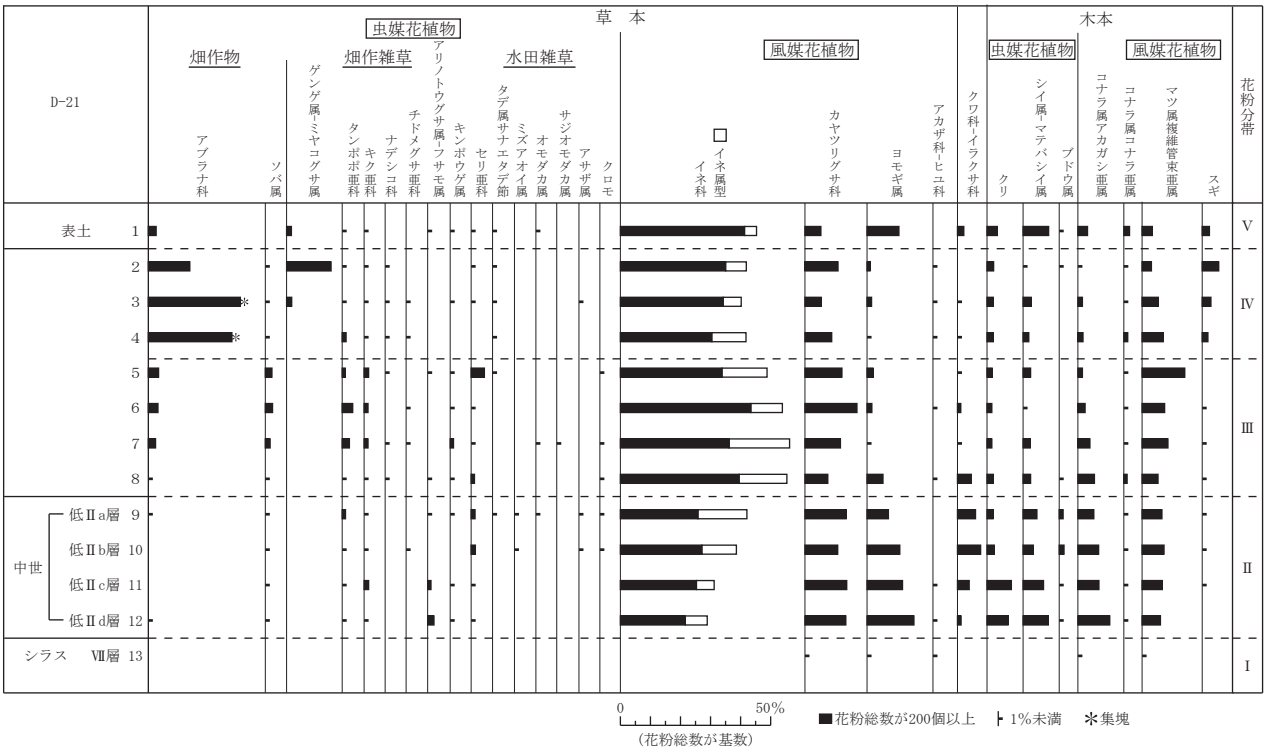
Ⅱ上ｂ層から表土Ⅰ層にかけては，花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては前述のようなことが考えられるが，ここでは乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解された要因が大きいと考えられる。

６．まとめ

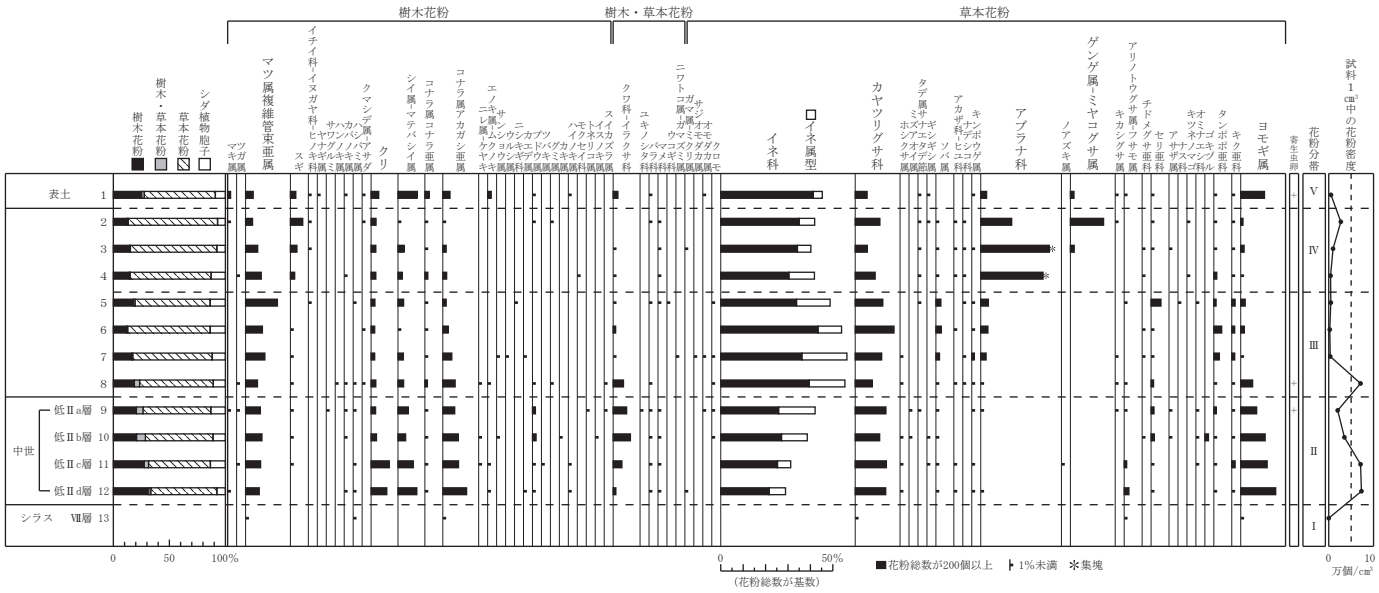
花粉分析の結果から，植生や環境，農耕について下位よりⅠ期～Ⅴ期の変遷が認められた（図137）。Ⅰ期（Ⅶ層：シラス）では，花粉がほとんど検出されなかった。Ⅱ期（中世）では，水田稲作をはじめソバなどの栽培も行われており，周辺の比較的乾燥したところにはヨモギ属をはじめタンポポ亜科，キク亜科などの草本類が生育していたと考えられる。森林植生としては，近隣に二次林性のクリ林やシイ林などが分布し，周辺地域にはカシ類を主とする照葉樹林やマツの二次林が分布していたと推定される。Ⅲ期（中世以降，近世，近代）では，水田稲作が本格化し，ソバやアブラナ科（アブラナ等）などを栽培する畑作も行われていたと考えられる。Ⅳ期（中世以降，近世，近代）では，アブラナ科の栽培が本格化し，レンゲの栽培も行われていたと推定される。また，周辺地域ではスギの造林（植林）が行われていたと考えられる。

第 28 表　中郡遺跡群における花粉分析結果

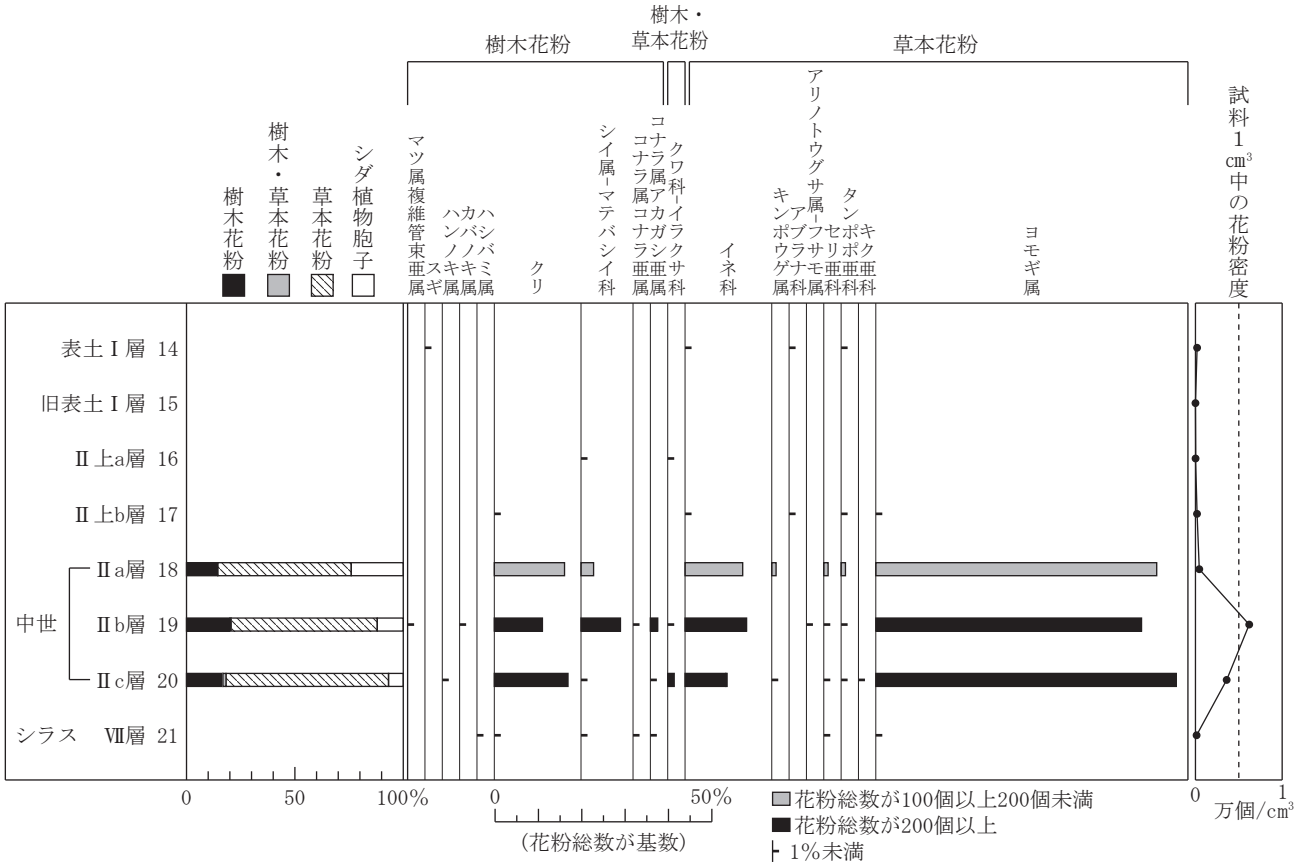
分類群		D－21区													C－23区							
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
Arboreal pollen	樹木花粉																					
Podocarpus	マキ属	5	3							1			1									
Tsuga	ツガ属				1				1	1		1										
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	13	16	26	33	58	28	32	23	30	37	36	47	1						1		
Cryptomeria japonica	スギ	9	28	14	9		1	1	4	4	2	1			2							
Taxaceae － Cephalotaxaxeae －	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	2	2	2		1																
Cupressaceae																						
Salix	ヤナギ属	1																				
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ									1												
Alnus	ハンノキ属								1												1	
Betula	カバノキ属	2			1				1	4	1		2							1		
Corylus	ハシバミ属					1			2	1		2	3	1								1
Carpinus － Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ	1	1				2		2													
Castanea crenata	クリ	13	11	10	10	7	6	6	9	9	12	44	54					7	17	39	58	6
Castanopsis － Pasania	シイ属－マテバシイ属	32	2	13	9	10	3	9	11	21	17	37	65				1		3	32	1	1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	7	2	3	6	1	2	2	5	3	2	3	6							1		3
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	12	2	7	8	6	9	15	24	24	35	38	82	3						6	2	2
Ulmus － Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ								1		1	1										
Celtis － Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ	6							1			2	1									
Zanthoxylum	サンショウ属							1			1											
Rhus	ウルシ属							3														
Celastraceae	ニシキギ科					1																
Acer	カエデ属							1					1									
Vitis	ブドウ属	1	1						3	6	8	4	1									
Camellia	ツバキ属											1										
Elaeagnus	グミ属		1						2													
Diospyros	カキ属										1											
Symplocos	ハイノキ属	1										2	1									
Oleaceae	モクセイ科				1																	
Fraxinus	トネリコ属									1												
Distylium	イスノキ属										1											
Lonicera	スイカズラ属								2	1												
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																					
Moraceae － Urticaceae	クワ科－イラクサ科	8		2	1	3	4	2	20	27	39	21	9				1			2	5	
Saxifragaceae	ユキノシタ科									1												
Rosaceae	バラ科	1	1			2			2	1	3	2	3									
Leguminosae	マメ科		2	2	2	1				1	2	1	3									
Araliaceae	ウコギ科					1																
Sambucus － Viburnum	ニワトコ属－ガマズミ属							1														
Nonarboreal pollen	草本花粉																					
Typha － Sparganium	ガマ属－ミクリ属			2									2									
Alisma	サジオモダカ属							1														
Sagittaria	オモダカ属	1						1		2												
Hydrilla verticillata	クロモ					1		1	1	1	1											
Gramineae	イネ科	156	178	164	144	138	161	135	172	117	137	137	166		25			2	14	50	32	
Oryza type	イネ属型	15	35	29	54	61	39	75	69	74	58	32	56		2			1			1	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	20	56	26	42	50	64	44	33	62	55	75	105	1								
Eriocaulon	ホシクサ属							2	1		1	2	2									
Monochoria	ミズアオイ属									1	1											
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節	1	1	3	3	1				1												
Rumex	ギシギシ属	2	1								3	1										
Fagopyrum	ソバ属		2	1	2	9	9	6	2	1	3	1	1									
Chenopodiaceae － Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科		4	1	1		2		1			1	2									
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1	2	1	2		1	1													
Ranunculus	キンポウゲ属	3		1		1	1	4	2	3		5	7						1		1	
Cruciferae	アブラナ科	10	70	* 147	* 132	14	12	9	3	3			1		2			1				
Dunbaria	ノアズキ属											2										
Astragalus － Lotus	ゲンゲ属－ミヤコグサ属	6	75	8																		
Rotala	キカシグサ属	1	1					3	1	1												
Haloragis － Myriophyllum	アリノトウグサ属－フサモ属	1				1			3	3		6	16	2						1		
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科			3	1		1	1			4											
Apioideae	セリ亜科	2	2	3		18	3	1	5	6	7	5	5						1	2	1	1
Nymphoides	アサザ属			1						1	1											
Solanaceae	ナス科					1																
Justicia procumbens	キツネノマゴ		1		2																	
Valerianaceae	オミナエシ科					1				1	1	2										
Actinostemma lobatum	ゴキヅル										8											
Lactucoideae	タンポポ亜科	3	2	2	6	4	13	9	3	5	4	4	1		1			2	1	1	1	
Asteroideae	キク亜科	3	2	1	2	6	5	5	1	2	4	8	7								2	
Artemisia	ヨモギ属	40	5	7	3	8	6	2	23	32	55	64	120	1				16	68	215	237	4
Fern spore	シダ植物胞子																					
Monolate type spore	単条溝胞子	12	20	15	29	31	23	32	26	32	28	18	18		4			7	20	29	9	34
Trilate type spore	三条溝胞子	25	18	24	40	33	35	18	27	36	34	65	45	1	22		1	8	13	19	16	2
Arboreal pollen	樹木花粉	105	69	75	78	85	51	70	92	107	118	172	264	5	2		1	7	20	80	62	13
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	9	3	4	3	7	4	3	22	30	44	24	15				1			2	5	
Nonarboreal pollen	草本花粉	264	436	401	393	316	316	300	321	316	343	345	491	4	30			22	85	269	275	5
Total pollen	花粉総数	378	508	480	474	408	371	373	435	453	505	541	770	9	32		2	29	105	351	342	18
Pollen frequencies of 1cm3	試料 1cm3 中の花粉密度	5.0 $\times 10^3$	2.7 $\times 10^4$	9.6 $\times 10^3$	4.2 $\times 10^3$	4.7 $\times 10^3$	2.3 $\times 10^3$	4.8 $\times 10^3$	7.1 $\times 10^4$	2.0 $\times 10^4$	3.5 $\times 10^4$	7.1 $\times 10^4$	7.3 $\times 10^4$	5.4 $\times 10$	1.9 $\times 10^2$		1.2 $\times 10$	1.8 $\times 10^2$	4.4 $\times 10^2$	6.2 $\times 10^3$	3.6 $\times 10^3$	1.3 $\times 10^2$
Unknown pollen	未同定花粉	10	6	10	9	8	10	11	15	11	11	6	6					1	6	11	6	3
Fern spore	シダ植物胞子	37	38	39	69	64	58	50	53	68	62	83	63	1	26		1	15	33	48	25	36
Helminth eggs	寄生虫卵																					
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵								1	3												
Metagonimus － Heterophyes	異形吸虫類卵	1																				
Total	計	1							1	3												
Helminth eggs frequencies of 1cm³	試料 1cm³中の寄生虫卵密度	0.5 $\times 10$							0.6 $\times 10$	1.8 $\times 10$												
Stone cell	石細胞	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Charcoal・plant fragments	微細炭化物・微細植物遺体片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(<+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(－)	(<+)



第134図　D－21 区における花粉ダイヤグラム



第135図　D－21 区における花粉分類解析ダイヤグラム



第136図　C－23区における花粉ダイヤグラム

時期	時代	D-21区（低湿地）			C-23区		周辺地域の森林
		層序・試料	花粉帯	植生・環境・農耕	層序・試料	植生・環境・農耕	
Ⅴ期	現代	表土 (試料1)	Ⅴ帯	水田稲作 アブラナ科栽培	表土Ⅰ層 旧表土Ⅰ層 Ⅱ上a層 Ⅱ上b層 (試料14～17)	乾燥した堆積環境	スギの造林 マツ・クリ・シイ類の二次林
Ⅳ期	近代 近世 (中世以降)	(試料2～3)	Ⅳ帯	水田稲作・レンゲ栽培 アブラナ科栽培の盛行 ソバ栽培			スギの造林 マツ林減少
Ⅲ期		(試料4～8)	Ⅲ帯	水田稲作・ソバ栽培の盛行 アブラナ科栽培 近隣の森林減少			マツの二次林ないし里山林 カシなどの照葉樹林減少
Ⅱ期	中世	低Ⅱa層 低Ⅱb層 低Ⅱc層 低Ⅱd層 (試料9～10)	Ⅱ帯	水田稲作 ソバ栽培 近隣にクリ、シイ類の二次林	Ⅱa層 Ⅱb層 Ⅱc層 (試料18～20)	ヨモギ属などの乾燥した草原 クリ、シイ類の疎林や二次林	マツの二次林 カシなどの照葉樹林
Ⅰ期	基盤	Ⅶ層シラス (試料13)	Ⅰ帯	植生希薄	Ⅶ層シラス (試料21)	植生希薄	－

第137図　中郡遺跡群における植生・環境・農耕

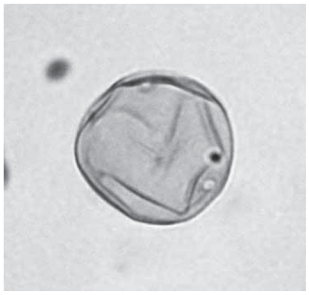
1　マツ属複維管束亜属（10）

2　スギ（3）

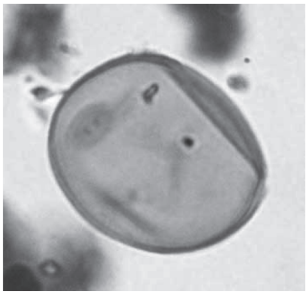
3　クリ（12）

4　シイ属
−マテバシイ属（1）

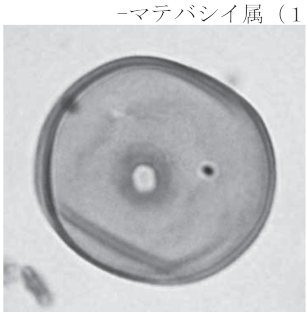
5　コナラ属アカガシ亜属
（12）



6　クワ科−イラクサ科（16）



7　イネ科（1）

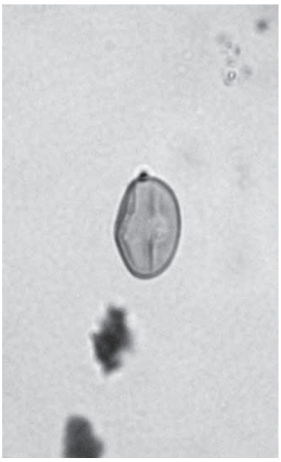


8　イネ属型（9）

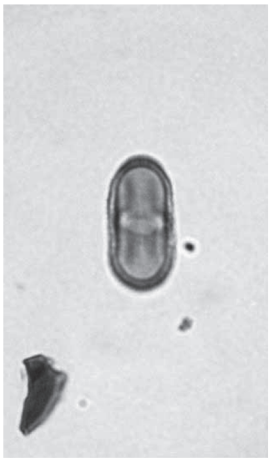
9　カヤツリグサ科（10）

10　ソバ属（6）

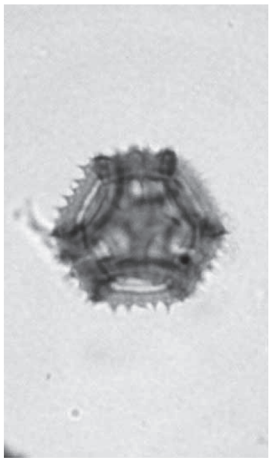
11　アブラナ科（3）



12　ゲンゲ属
−ミヤコグサ属（2）

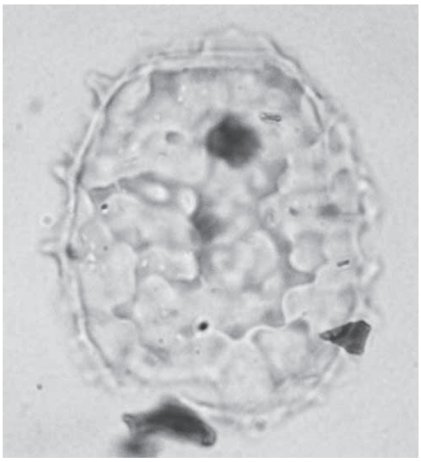


13　セリ亜科（9）



14　タンポポ亜科（10）

15　ヨモギ属（8）



16　回虫卵（9）

10μm

第138図　中郡遺跡群の花粉・寄生虫卵

Ⅴ期（表土）では，集約的な水田稲作が行われており，ソバやアブラナ科などを栽培する畑作は縮小したと推定される。

文献

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248 － 262.

金原正明（2004）寄生虫卵分析．環境考古学ハンドブック，朝倉書店，p.419 － 429.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p.82 － 110.

中村純（1974）イネ科花粉について，とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究,13,p.187 － 193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21 － 30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中郡遺跡群における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．植物珪酸体分析

1．はじめに

植物珪酸体は，植物の細胞内に珪酸（SiO 2）が蓄積したもので，植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は，この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり，イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

2．試料

分析試料は，D－21区（低湿地）から採取された試料1～試料13およびC－23区から採取された試料14～試料21の計21点である。試料の詳細を分析結果139・140図に示す。

3．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は，ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて，次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

2）試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）

3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理

4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

5）沈底法による20μm以下の微粒子除去

6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

7）検鏡・計数

同定は，400倍の偏光顕微鏡下で，おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は，ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に，計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて，試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また，おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて，単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより，各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。タケ亜科については，植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4．分析結果

（1） 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い，その結果を表1および図1，図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ，イネ（穎の表皮細胞由来），ムギ類（穎の表皮細胞），ヨシ属，シバ属型，キビ族型，ススキ属型（おもにススキ属），ウシクサ族A（チガヤ属など），ジュズダマ属型

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節，ヤダケ属），ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節），チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など），ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など），マダケ属型（マダケ属，ホウライチク属），未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源，棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来），茎部起源，未分類等

〔カヤツリグサ科〕

〔樹木〕ブナ科（シイ属），ブナ科（アカガシ亜属），クスノキ科，マンサク科（イスノキ属），アワブキ科，その他

（2） 植物珪酸体の検出状況

1）D－21区（低湿地）

下位のⅦ層（試料13：シラス）では，植物珪酸体がほとんど検出されなかった。中世とされる低Ⅱd層（試料12）では，イネ科ではイネ，ススキ属型，ウシクサ族Aが比較的多く検出され，シバ属型，キビ族型，ジュズダマ属型，チマキザサ節型，ミヤコザサ節型なども認められた。樹木ではブナ科（シイ属），樹木（その他）が比較的多く，ブナ科（アカガシ亜属），クスノキ科，マンサク科（イスノキ属）なども検出された。イネの密度は4,600個/gと比較的高い値であり，稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）に近い値である。低Ⅱc層（試料11）から低Ⅱa層（試料9）にかけては，イネが増加し，ススキ属型はやや減少している。また，ムギ類（穎の表皮細胞），ヨシ属，メダケ節型が出現している。イネの密度は5,600～6,900個/gと高い値であり，稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準を上回っている。ムギ類（穎の表皮細胞）の密度は700個/gと低い値であるが，穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから，少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。試料8から表土（試料1）にかけても，おおむね同様の結果であり，ネザサ節型，マダケ属型なども認められた。イネの密度はおおむね5,000～10,000個/g程度と高い値である。ムギ類（穎の表皮細胞）の密度は試料8～試料2では600～700個/gと低い値であり，表土（試料1）では1,300個/gである。おもな分類群の推定生産量によると，低Ⅱd層より上位ではイネが優勢であり，部分的にススキ属型も比較的多くなっている。

2）C－23区

下位のⅦ層（試料21：シラス）では，イネ科ではススキ属型，

ウシクサ族A，ミヤコザサ節型などが検出されたが，いずれも少量である。樹木ではブナ科（シイ属），樹木（その他）が比較的多く，ブナ科（アカガシ亜属），クスノキ科，マンサク科（イスノキ属）なども検出された。中世とされるⅡc層（試料20）では，イネ科ではススキ属型，ウシクサ族Aが比較的多く検出され，シバ属型，ミヤコザサ節型なども認められた。樹木ではブナ科（シイ属），樹木（その他）が比較的多く，ブナ科（アカガシ亜属），クスノキ科，マンサク科（イスノキ属）なども検出された。Ⅱb層（試料19）からⅡa層（試料18）にかけては，イネ，ムギ類（穎の表皮細胞），ヨシ属，ネザサ節型，チマキザサ節型が出現し，ススキ属型，ウシクサ族A，ブナ科（シイ属）はやや減少している。イネの密度は700～2,000個/gと比較的低い値であり，ムギ類（穎の表皮細胞）は700個/gと低い値である（試料18）。近世以降とされるⅡ上b層（試料17）からⅡ上a層（試料16）にかけては，イネが増加し，ススキ属型，ウシクサ族A，ブナ科（シイ属），樹木（その他）は減少している。また，メダケ節型，マダケ属型が出現している。イネの密度は4,100～4,800個/gと比較的高い値であり，ムギ類（穎の表皮細胞）は700個/gと低い値である。Ⅰ層（試料14，15）では，イネが増加し，ムギ類（穎の表皮細胞）もやや増加している。イネの密度は7,100～10,800個/gと高い値であり，ムギ類（穎の表皮細胞）は2,500個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると，Ⅱc層～Ⅱa層ではススキ属型が優勢であり，Ⅱ上b層より上位ではイネが優勢となっている。

5．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

下位のⅦ層（シラス）については，D－21区（低湿地）では植物珪酸体がほとんど検出されなかった。植物珪酸体が検出されない原因としては，1）植物珪酸体を形成する植物群の生育に適さない環境であったこと，2）土層の堆積速度が速かったこと，3）水流の影響で粒径による淘汰・選別を受けたこと，4）風化作用などによって植物珪酸体が分解・消失したことなどが考えられる。なお，C－23区のⅦ層（シラス）ではススキ属型，ブナ科（シイ属），クスノキ科などが検出されたが，これらの植物珪酸体については何らかの形で上層から混入した可能性が考えられる。

中世とされるD－21区（低地部）の低Ⅱd層～低Ⅱa層では，イネが多量に検出され，稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また，C－23区のⅡb層～Ⅱa層でも比較的少量ながらイネが検出され，調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。さらに，D－21区の低Ⅱb層と低Ⅱc層，C－23区のⅡa層では少量ながらムギ類（穎の表皮細胞）が検出され，ムギ類が栽培されていた可能性が認められた。また，D－21区（低地部）の低Ⅱd層ではジュズダマ属型が検出された。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが，現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。また，密度も700個/gと低い値であることから，ここでハトムギが栽培されていた可能性は低いと考えられる。

中世とされる土層の堆積当時は，部分的にヨシ属やジュズダマ属が生育するような比較的湿潤な環境であったと考えられ，そこを利用してD－21区（低地部）などで水田稲作が行われていたと推定される。また，周辺の比較的乾燥したところにはススキ属やウシクサ族（チガヤ属など），シバ属，キビ族などの草本類が生育していたと考えられ，遺跡周辺にはシイ属，カシ類，イスノキ属，クスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。

その後，D－21区（低地部）の中世以降～表土およびC－23区のⅡ上a層・Ⅱ上b層（近世以降）～Ⅰ層（現表土）では，継続的に水田稲作やムギ類の栽培が行われていたと考えられ，農耕地の拡大に伴ってススキ属やウシクサ族などの草本類およびシイ属などの照葉樹林は減少したと推定される。また，この頃からマダケ属が見られるようになったと考えられる。タケ亜科のうち，マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く，建築材や生活用具，食用などとしての利用価値が高い。

文献

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69－84.

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究，38(2)，p.109－123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189－213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15－29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73－85.

中郡遺跡群における種実同定

株式会社　古環境研究所

1．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く，堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し，その種類や構成を調べることで，過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

2．試料

試料は，D－20区，D·C－2区，D－21区から採取された選別済みの種実類235粒（破片含む）である。試料の詳細を分析結果表30に示す。

3．方法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し，形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科，属，種の階級で示した。

4．結果

（1）　分類群

種実同定の結果，樹木10，樹木・草本を含むもの1，草本12の計23分類群が同定された。表30に分析結果を示し，表31にオオムギのサイズを示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し，主要な分類群について写真を示す。

〔樹木〕

ヤマグワ　*Morus australis* Poir. 種子　クワ科　長さ×幅：2.02×1.44㎜

茶褐色で広倒卵形を呈し，基部に突起がある。表面はやや粗い。

第29表　中郡遺跡群における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：× 100 個 /g）

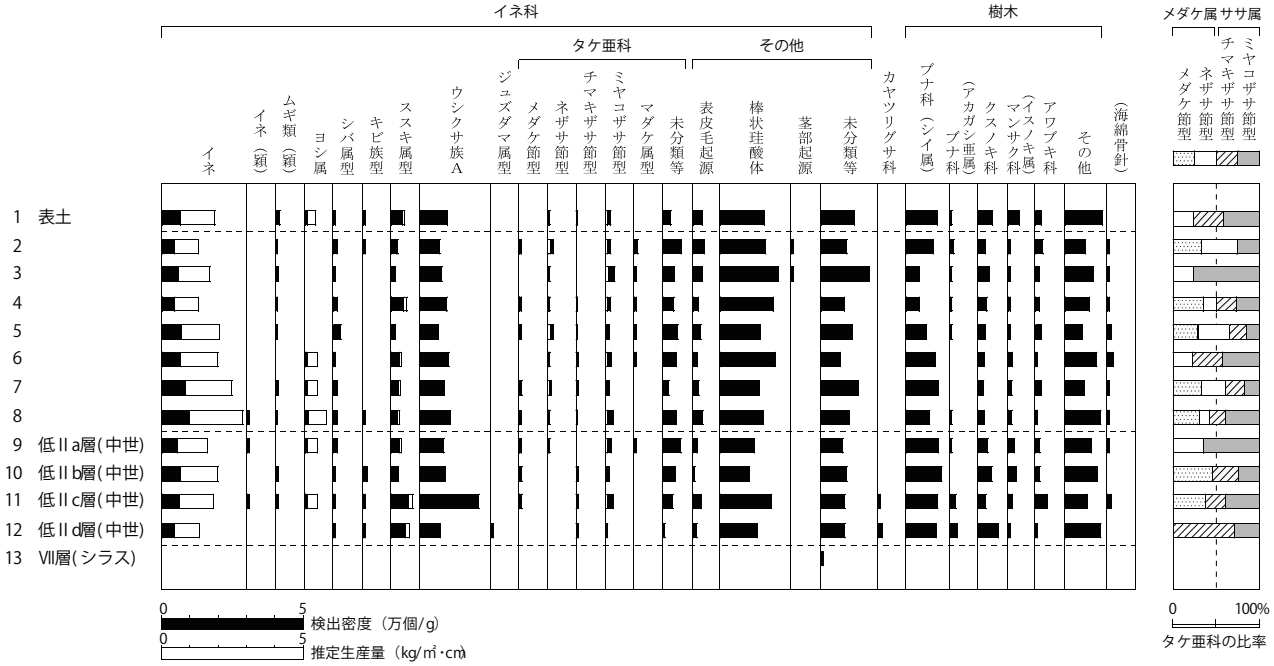
分類群	学名	地点・試料	D − 21 区													C23 区							
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
イネ科	Gramineae																						
イネ	*Oryza sativa*		65	45	59	45	71	69	86	100	56	69	63	46		108	71	48	41	20	7		
イネ籾殻（穎の表皮細胞）	*Oryza sativa*（husk Phytolith）									6	7		7			13							
ムギ類（穎の表皮細胞）	*Triticum − Hordeum*（husk Phytolith）		13	6	7	6	6		7	6		7	7			25	7	7	7	7			
ヨシ属	*Phragmites*		6					7	7	12	7		7			6	7	7	7	7			
シバ属型	*Zoysia type*		6	13	7	13	26	7	13	12	14	7	7	7		19	14	14	28	60	42	20	
キビ族型	Paniceae type		6	6						6		14	7	7		13			7				
ススキ属型	*Miscanthus type*		39	19	13	45	13	28	26	24	28	21	63	52		19	28	14	21	67	70	101	7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		97	71	79	96	65	103	86	106	84	90	209	72		63	50	41	34	74	77	149	36
ジュズダマ属型	*Coix type*													7									
タケ亜科	Bambusoideae																						
メダケ節型	*Pleioblastus sect.* Nipponocalamus			6		6	6		7	6		7	7			13	7	14	7				
ネザサ節型	*Pleioblastus sect.* Nezasa		6	19	7	6	19	7	13	6	7					13	7	7	7	7	7		
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		6			6	6	7	7	6		7	7	7		19	7	7		7			
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		19	19	33	19	13	21	13	29	21	14	28	7		6	35	7	21	40	14	7	7
マダケ属型	*Phyllostachys*			13	7	6	6	7			7					13	7	7	21				
未分類等	Others		26	64	40	38	52	48	20	47	63	42	35	7		57	78	28	21	27	21	7	7
その他のイネ科	Others																						
表皮毛起源	Husk hair origin		32	39	33	19	26	14	20	35	14	7	28	13		63	35	28	34	34	14	20	
棒状珪酸体	Rodshaped		156	161	204	185	142	193	138	153	119	104	181	130		70	163	117	165	134	112	95	22
茎部起源	Stem origin			6	7																		
未分類等	Others		117	90	171	83	110	69	132	100	77	90	84	85	8	82	50	69	34	54	42	41	51
カヤツリグサ科（スゲ属など）	Cyperaceae（*Carex* etc.）												7	13									
樹木起源	Arboreal																						
ブナ科（シイ属）	*Castanopsis*		110	96	46	45	71	103	112	82	112	125	111	104		38	64	76	96	128	167	236	166
ブナ科（アカガシ亜属）	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*		6	13	7	6	6			6	7		21	26		6	7	7	7	7	7	20	7
クスノキ科	Lauraceae		52	26	40	32	26	21	20	24	35	48	28	72		32	35	34	48	67	35	41	65
マンサク科（イスノキ属）	*Distylium*		39	6	7	6	6	14	13	12	21	28	14	7		32	21	14	21	7	14	27	7
アワブキ科	Sabiaceae		19	26	13	13	19	7	20	6	14	14	42	7				28	34	34	21	14	7
その他	Others		130	71	99	83	58	110	66	124	91	111	77	124		63	64	41	69	94	133	101	152
（海綿骨針）	Sponge spicules			6	7	6	13	21	7	6	7		14				7						
植物珪酸体総数	Total		954	816	877	759	751	834	804	907	783	803	1037	789	8	773	759	614	730	872	781	878	534

おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡ ·cm）：試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

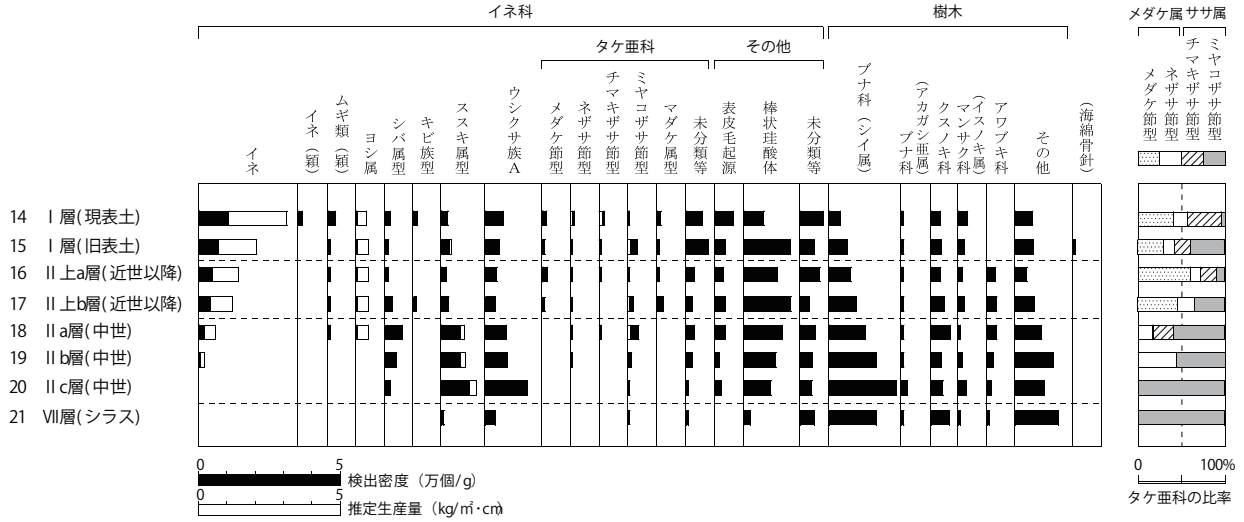
イネ	Oryza sativa	1.91	1.32	1.74	1.31	2.09	2.03	2.52	2.94	1.65	2.04	1.84	1.34		3.17	2.09	1.42	1.21	0.59	0.21			
ヨシ属	*Phragmites*	0.41					0.43	0.42	0.74	0.44		0.44			0.40	0.45	0.44	0.43	0.42				
ススキ属型	*Miscanthus type*	0.48	0.24	0.16	0.55	0.16	0.34	0.33	0.29	0.35	0.26	0.78	0.65		0.24	0.35	0.17	0.26	0.83	0.87	1.26	0.09	
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus		0.07		0.07	0.08		0.08	0.07		0.08	0.08			0.15	0.08	0.16	0.08					
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	0.03	0.09	0.03	0.03	0.09	0.03	0.06	0.03	0.03					0.06	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03			
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.05			0.05	0.05	0.05	0.05	0.04		0.05	0.05	0.05		0.14	0.05	0.05		0.05				
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.06	0.06	0.10	0.06	0.04	0.06	0.04	0.09	0.06	0.04	0.08	0.02		0.02	0.11	0.02	0.06	0.12	0.04	0.02	0.02	

タケ亜科の比率（%）

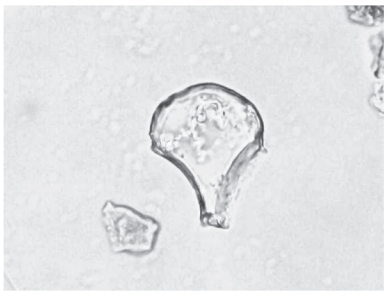
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus		33		35	29		33	30		46	37			40	30	60	46					
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	23	41	24	15	36	23	28	12	35					16	12	12	19	16	44			
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	35			23	19	35	22	19		30	24	71		39	19	19		25				
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	42	26	76	27	15	42	17	39	65	24	39	29		5	39	8	35	59	56	100	100	
メダケ率	Medake ratio	23	74	24	50	66	23	61	42	35	46	37	0		56	42	73	65	16	44	0	0	



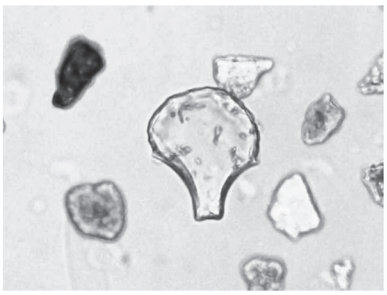
第139図　D－21 区における植物珪酸体分析結果



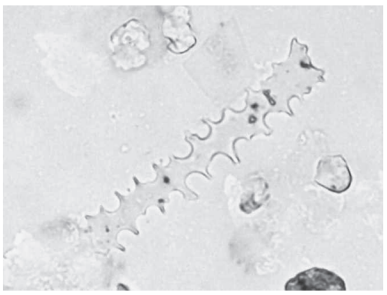
第140図　C－23 区における植物珪酸体分析結果



イネ
試料９

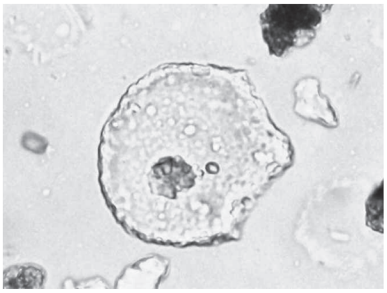


イネ
試料14

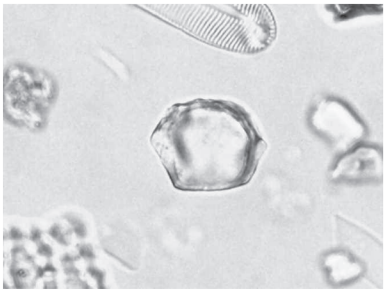


ムギ類（穎の表皮細胞）
試料15

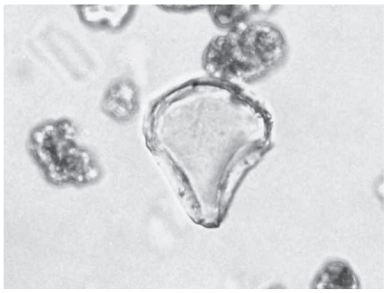
キビ族型
試料12



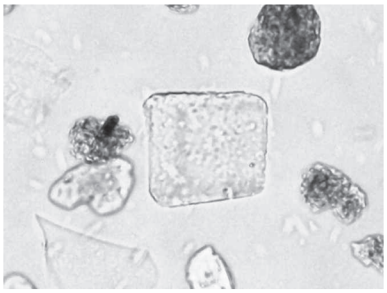
ヨシ属
試料17



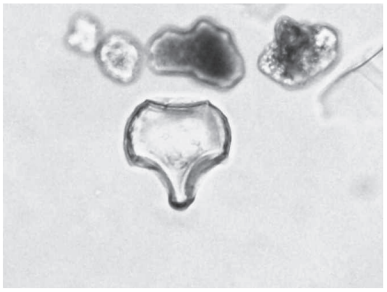
ジュズダマ属型
試料12



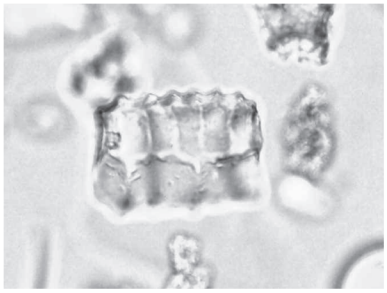
ススキ属型
試料12



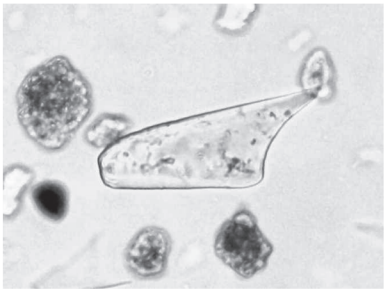
ウシクサ族Ａ
試料12



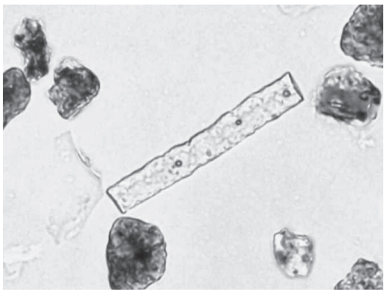
シバ属型
試料５



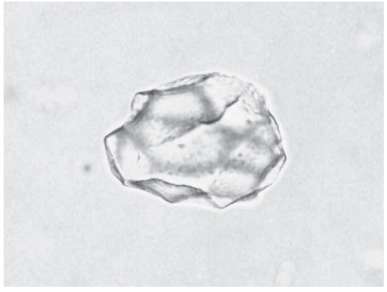
ネザサ節型
試料７



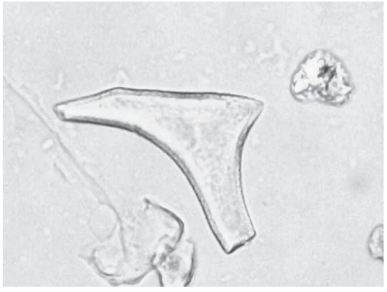
表皮毛起源
試料５



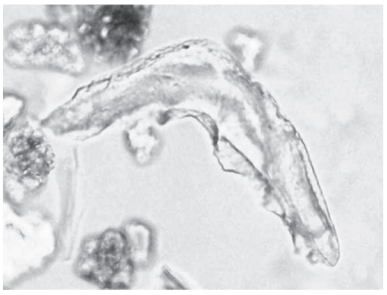
棒状珪酸体
試料１



ブナ科（シイ属）
試料４



マンサク科（イスノキ属）
試料10



クスノキ科
試料11

50μm

第141図　中郡遺跡群の植物珪酸体（プラント・オパール）

第30表　中郡遺跡群における種実同定結果

分類群		部位	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
			D－20				D·C－21				D－21				
学名	和名		Cb①	Cb②	Cb③	Cb④	Ic①	Ic②	Ic③	Ic⑤	Fa①	Fa②	Fa③	Ge①	Ge②
Arbor	樹木														
Morus australis Poir.	ヤマグワ	種子	1		1	1									
Cinnamomum camphora S.	クスノキ	種子			1										
Prunus persica Batsch	モモ	核（完形）				1									
		（半形）		1											
		（破片）				1									
Rubus	キイチゴ属	核	8		6	1									
Zanthoxylum ailanthoides S. et Z.	カラスザンショウ	種子				1									
Mallotus japonicus Muell. et Arg.	アカメガシワ	種子				1									
Ampelopsis brevipedunculata var. *Heterophylla* Hara	ノブドウ	種子	1												
Vitis	ブドウ属	種子	5	7	5	15					1				
Cornus brachypoda C.A. Mey.	クマノミズキ	核（破片）										1			
Sambucus	ニワトコ属	核										1			
Arbor·Herb	樹木・草本														
Araliaceae	ウコギ科	種子	7	2	1										
Herb	草本														
Oryza sativa L.	イネ	炭化果実			1	2									
		（破片）													2
Hordeum vulgare L.	オオムギ	炭化果実	3	5	5	2									
		（破片）		1											
Hordeum vulgare L. － *Triticum aestivum* L.	ムギ類	炭化果実												1	
Fimbristylis	テンツキ属	果実	4												
Scirpus	ホタルイ属	果実	7		12		13	22	7		3		16		
		（破片）				1		3	1				6		
Carex	スゲ属	果実			1	1	4	2	3	4					
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	2		3	13	1								
		（破片）									1				
Humulus scandens Merr.	カナムグラ	種子	1	1	1										
Leguminosae	マメ科	子葉		1											
Ajuga	キランソウ属	果実	1												
Trichosanthes kirilowii Maxim. var. *japonica* Kitam	キカラスウリ	種子				1									
Compositae	キク科	果実		2	1	1									
Total	合計		40	20	38	42	18	27	11	4	5	2	22	1	2
Unknown seeds	不明種実		1			1									
Unknown	不明	（破片）										1			

クスノキ *Cinnamomum camphora* S. 種子 クスノキ科 長さ×幅：6.33 × 5.85㎜

黒褐色で球形を呈す。一条の稜線が走りその中央が突起する。

モモ *Prunus persica* Batsch 核（完形・半形・破片） バラ科 長さ×幅×厚さ：21.76 × 18.82 × 13.96㎜

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し，側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

キイチゴ属 *Rubus* 核 バラ科 長さ×幅：2.14 × 1.43㎜

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面に大きな網目模様がある。

カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* S. et Z. 種子 ミカン科 長さ×幅：2.81 × 2.49㎜

黒色で楕円形を呈し，側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子 トウダイグサ科 長さ×幅：3.44 × 3.31㎜

黒色で球形を呈し，「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla* Hara 種子 ブドウ科 長さ×幅：3.58 × 4.04㎜

茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が２つあり，背面のカラザは長く伸びる。

ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科 長さ×幅：3.63 × 2.89㎜

茶褐色で卵形を呈し，先端がとがる。腹面には二つの孔があり，背面には先端が楕円形のへそがある。

クマノミズキ *Cornus brachypoda* C. A. Mey. 核（破片） ミズキ科 長さ×幅：2.33 × 2.95㎜

淡褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり，数本の細い縦筋が走る。

ニワトコ属 *Sambucus* 核 スイカズラ科 長さ×幅：2.31 × 1.72㎜

黄褐色～茶褐色で楕円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。

〔樹木・草本を含むもの〕

ウコギ科 Araliaceae 種子 長さ×幅：2.30 × 1.37㎜，2.15 × 1.42㎜

淡褐色ないし茶褐色で，半月状を呈する。断面は扁平，向軸側はほぼ直線状になり，肺軸側には浅い溝が２～３本走る。表面はざらつく。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実（完形・破片） イネ科 長さ×幅：3.94 × 2.51㎜，5.19 × 2.85㎜

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し，胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化果実（完形・破片）イネ科

炭化しているため黒色で，楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく，胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

ムギ類（オオムギ－コムギ）*Hordeum* － *Triticum* 炭化果実イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが，形態が細く未成熟のためムギ類とした。

テンツキ属 *Fimbristylis* 果実 カヤツリグサ科 長さ×幅：1.69 × 1.23㎜

淡褐色で広倒卵形でレンズ形を呈し，隆起する横長楕円形の格子紋がある。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実（完形・破片） カヤツリグサ科 長さ×幅：2.42 × 2.01㎜

黒褐色で，やや光沢がある。広倒卵形を呈し，断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。

スゲ属 *Carex* 果実カヤツリグサ科長さ×幅：1.43 × 1.02㎜

茶褐色で倒卵形，扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 *Cyperaseae* 果実 長さ×幅：1.63 × 1.25㎜

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子 クワ科 長さ×幅：3.74 × 3.77㎜

黒色で円形を呈し，断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

マメ科 Leguminosae 子葉 マメ科 長さ×幅×厚さ：2.68 × 2.64 × 2.53㎜

黒色で楕円形を呈し，縦に一本の溝状の筋が走る。内部の細胞の形態はササゲ属と一致するが，破片であるためマメ科の同定に留めた。

キランソウ属 *Ajuga* 果実 シソ科長さ×幅：1.63 × 1.08㎜

卵形や狭卵形で側面は横狭卵形を呈す。着点は広卵形や広楕円形，腹面の一端（卵の細い方）から中央までを占め，幅広い隆条状の縁で囲まれる。大型の網目模様がある。

キカラスウリ *Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. japonica Kitam 種子 ウリ科 長さ×幅：12.16 × 6.13㎜

淡褐色で扁平楕円形を呈す。中央部がやや膨らみ，周辺はざらつく。

キク科 Compositae 果実 キク科 長さ×幅：3.52 × 1.46㎜

茶褐色で楕円形を呈し，両端は切形となる。表面には縦方向に８本程度の筋が走る。

第31表 中郡遺跡群出土オオムギ炭化果実の計測値

試料		長さ（mm）	幅（mm）
22	D － 20 － Cb①	4.14	1.78
		4.39	2.12
		3.80	2.07
23	D － 20 － Cb②	5.52	2.54
		4.09	2.01
		3.88	1.67
		3.67	1.91
		4.28	2.38
24	D － 20 － Cb③	2.99	1.99
		3.80	2.69
		5.16	2.69
		3.85	2.70
		5.26	2.29
25	D － 20 － Cb④	5.71	2.68
		4.39	1.54

	長さ（mm）	幅（mm）
平均値	4.33	2.20
最大値	5.52	2.70
最小値	2.99	1.67

不明種実：種実ではあるが，炭化して表面模様が欠落しているため不明種実とした。
不明：種実かどうか不明。

（2） 種実群集の特徴

1）D－20－Cb①
樹木種実のキイチゴ属8，ブドウ属5，ヤマグワ1，ノブドウ1，樹木・草本を含むウコギ科7，草本種実のホタルイ属7，テンツキ属4，オオムギ3，カヤツリグサ科2，カナムグラ1，キランソウ属1が同定された。樹木種実のキイチゴ属，ブドウ属，ヤマグワは食用となる有用植物である。草本種実のホタルイ属，テンツキ属，カヤツリグサ科は湿地から浅い水域に生育する水生植物，カナムグラ，キランソウ属は畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する耕地雑草，オオムギは栽培植物である。

2）D－20－Cb②
樹木種実のブドウ属7，モモ1，樹木・草本を含むウコギ科2，草本種実のオオムギ6，キク科2，カナムグラ1，マメ科1が同定された。樹木種実のブドウ属は食用となる有用植物，モモは栽培植物である。草本種実のオオムギは栽培植物であり，キク科，カナムグラは畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する耕地雑草である。

3）D－20－Cb③
樹木種実のキイチゴ属6，ブドウ属5，ヤマグワ1，クスノキ1，樹木・草本を含むウコギ科1，草本種実のホタルイ属12，オオムギ5，カヤツリグサ科3，イネ1，スゲ属1，カナムグラ1，キク科1が同定された。樹木種実のキイチゴ属，ブドウ属，ヤマグワは食用となる有用植物である。クスノキは照葉樹林の主要構成要素であり，温暖な地域に生育する。草本種実のホタルイ属，カヤツリグサ科，スゲ属は湿地から浅い（1mまで）水域に生育する水生植物であり，カナムグラ，キク科は畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する耕地雑草である。オオムギ，イネは栽培植物である。

4）D－20－Cb④
樹木種実のブドウ属15，モモ2，ヤマグワ1，キイチゴ属1，カラスザンショウ1，アカメガシワ1，草本種実のカヤツリグサ科13，イネ2，オオムギ2，ホタルイ属1，スゲ属1，キカラスウリ1，キク科1が同定された。樹木種実のブドウ属，ヤマグワ，キイチゴ属は食用となる有用植物であり，モモは栽培植物である。カラスザンショウ，アカメガシワは落葉広葉樹であり，二次林種でもある。草本種実のカヤツリグサ科，ホタルイ属，スゲ属は湿地から浅い水域に生育する水生植物であり，イネ，オオムギは栽培植物である。キカラスウリ，キク科は畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する耕地雑草である。

5）D·C－2－Ic①
草本種実のホタルイ属13，スゲ属4，カヤツリグサ科1が同定された。ホタルイ属，スゲ属，カヤツリグサ科は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

6）D·C－2－Ic②
草本種実のホタルイ属25，スゲ属2が同定された。ホタルイ属，スゲ属は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

7）D·C－2－Ic③
草本種実のホタルイ属8，スゲ属3が同定された。ホタルイ属，スゲ属は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

8）D·C－2－Ic⑤
草本種実のスゲ属4が同定された。スゲ属は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

9）D－21－Fa①
樹木種実のブドウ属1，草本種実のホタルイ属3，カヤツリグサ科1が同定された。樹木種実のブドウ属は食用となる有用植物である。草本種実のホタルイ属，カヤツリグサ科は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

10）D－21－Fa②
樹木種実のクマノミズキ1，ニワトコ属1が同定された。クマノミズキはやや湿気のある肥沃な緩傾斜地や谷間などに生育する落葉高木であり，ニワトコ属は低地と山地のやぶや林縁に生育する。

11）D－21－Fa③
草本種実のホタルイ属24が同定された。ホタルイ属は湿地から浅い水域に生育する水生植物である。

12）D－21－Ge①
草本種実のムギ類1が同定された。ムギ類は栽培植物である。

13）D－21－Ge②
草本種実のイネ2が同定された。イネは栽培植物である。

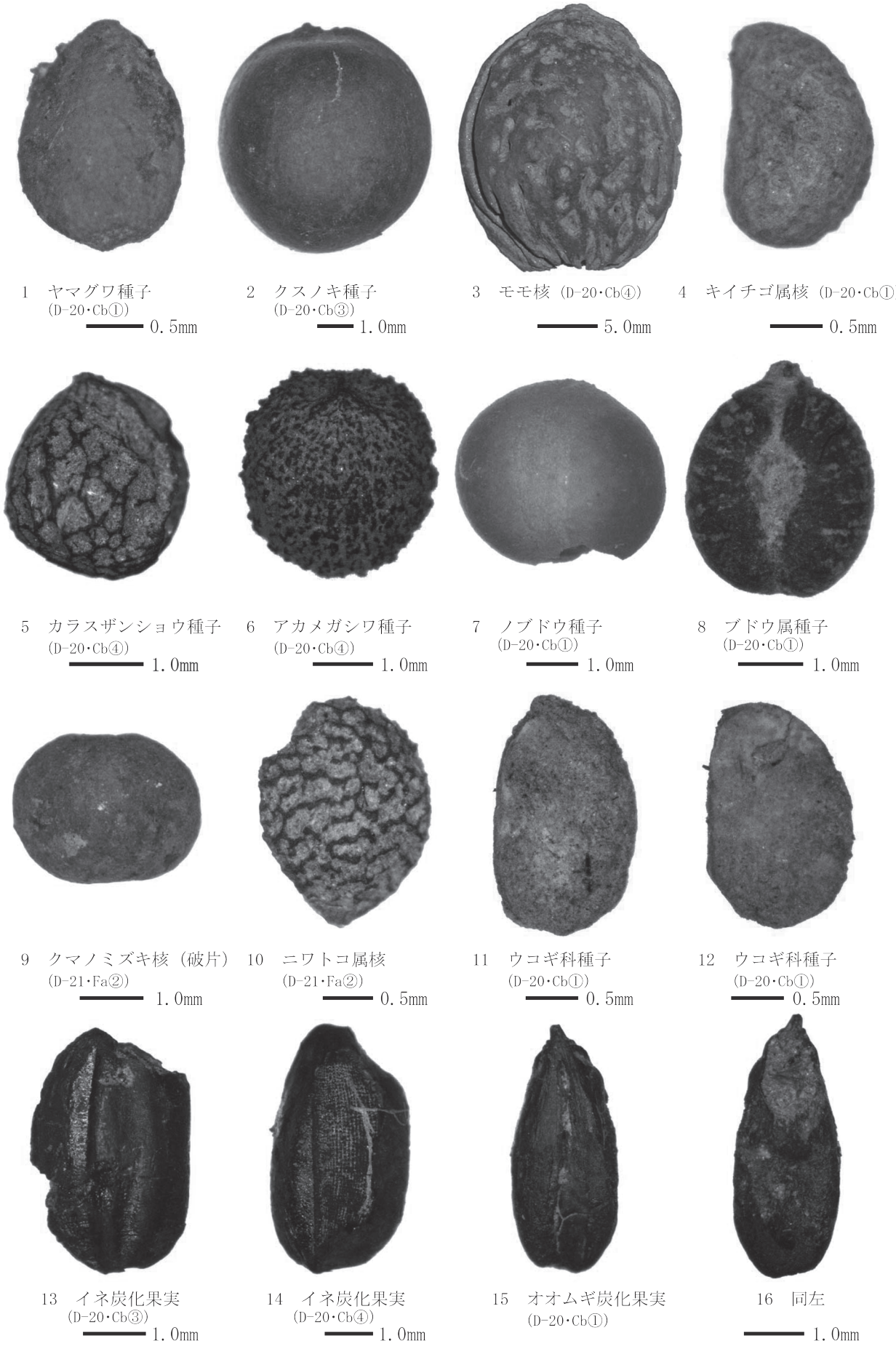
5．種実同定から推定される植生と農耕

種実同定の結果，樹木種実のヤマグワ，クスノキ，モモ，キイチゴ属，カラスザンショウ，アカメガシワ，ノブドウ，ブドウ属，クマノミズキ，ニワトコ属，樹木・草本を含むウコギ科，草本種実のイネ，オオムギ，ムギ類，テンツキ属，ホタルイ属，スゲ属，カヤツリグサ科，カナムグラ，マメ科，キランソウ属，キカラスウリ，キク科が同定された。

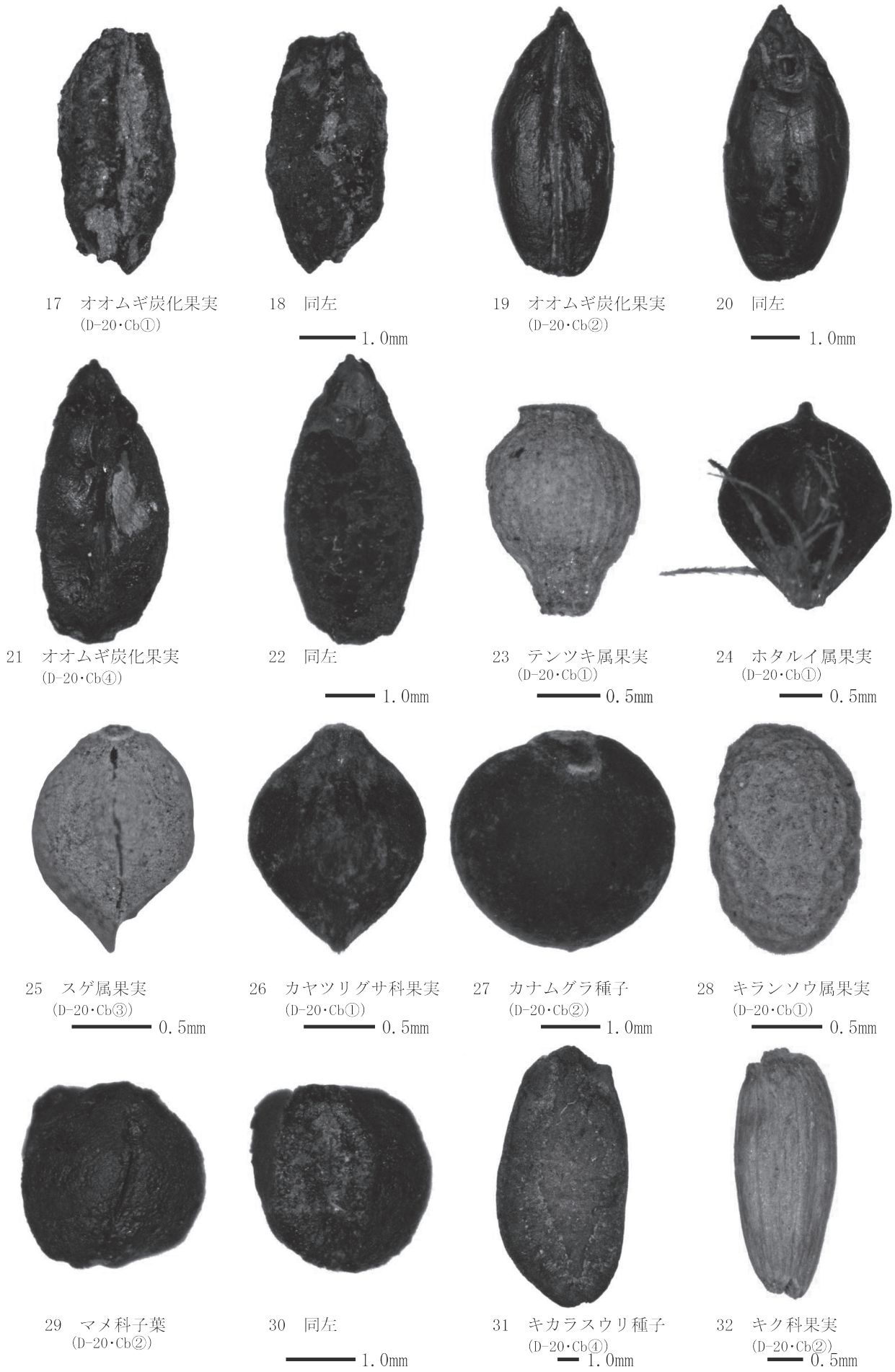
このうち，モモ，イネ，オオムギ，ムギ類は栽培植物であり，ヤマグワ，キイチゴ属，ブドウ属は食用となる有用植物である。草本のテンツキ属，ホタルイ属，スゲ属，カヤツリグサ科は湿地から浅い水域に生育し，水田雑草でもあることから，周囲に水田の分布が想定される。また，カナムグラ，マメ科，キランソウ属，キカラスウリ，キク科は乾燥した人為地に生育し，畑作雑草でもあることから，周囲に畑の分布が想定される。樹木のクマノミズキ，ニワトコ属は二次林種である。

文献

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第2巻生業，雄山閣出版，p.131 － 139.
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編 第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276 － 283.
吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル№355，ニューサイエンス社，p.2 － 14.



第142図　中郡遺跡群の種実（1）



第143図　中郡遺跡群の種実（2）

第５章　総　括

はじめに

遺跡の基本層序は，Ⅲ層に点在する黄橙の軽石が鬼界カルデラ起源に比定され，Ⅳ層及びⅤ層が縄文時代早期の遺物包含層とされている。加えて，中世以降の屋形建物等や堀や溝構築に伴う造成が実施されており，これらの構築物を含め竪穴建物跡や掘立柱建物跡等の遺構の多くがⅥ層面で検出されていることが実情である。したがって，Ⅲ層以上はもちろんのこと，縄文時代早期の遺物包含層とされるⅣ層及びⅤ層についても，中世以降の人為的な撹乱の影響が大きく作用しているものと推測され，安定的な層順や原位置を保つものは少ないと判断される。

第1節　縄文時代

（1）土器

縄文時代の土器は 14 類に細分した。特に３類の中原式土器と５類の下菅生Ｂ式土器が顕著に出土する。中原式土器は長崎県から熊本県を中心に，下菅生Ｂ式土器は大分県から熊本県を中心に分布することが知られ，本遺跡が八代海沿岸や中九州地域との関わりの中で存在していたことが読み取れる。なお，このことは，後述する黒曜石石材の供給行為とも重複する。

中原式土器は，近年の調査の増加に伴い，資料数が確保され，分布域が拡大している。中原式土器がまとまって出土した鹿児島県旧郡山町湯屋原遺跡等では，南九州貝殻文円筒土器との関連について検討が始められている。一方，下菅生Ｂ式土器については，検討資料を中九州に求めざるを得ない。

本遺跡での出土位置については，中原式・下菅生Ｂ式土器がＣ・Ｄ－ 24 区とＣ・Ｄ－ 27・28 区に，塞ノ神Ｂ式土器がＣ・Ｄ－ 23・24 区に集中する傾向がみられた。

（2）石器

本報告で掲載した石器の 150 点中 88 点がⅣ層以下からの出土で，18 点がⅢ層以上から，44 点はⅠ層出土である。

一方，本遺跡での石鏃等の剥片石器の使用石材は，針尾産黒曜石が最も多く，腰岳産黒曜石が続き，それらを補完するように桑ノ木津留産・日東産黒曜石が使用されている。すなわち，入手しやすい在地の石材より，遠隔地でも良質の黒曜石を選択した実態が看取される。

Ⅱ層出土の２点（256・257），Ⅳ層出土の２点（197・198）の正三角形Ｕ脚鏃は同時期と見られる。197・257 は針尾産黒曜石，198 は桑ノ木津留産黒曜石，256 は腰岳産黒曜石で，いずれも遠隔地石材が使用される。なお，出土位置がＣ－ 23 区であることをＤ・Ｅ－ 23・24 区に集中することも同一文化期の所産と支持する要素といえる。

また，正三角形Ｕ脚属に形状が類似する 200 は，桑ノ木津留産黒曜石，203 が針尾産黒曜石，Ⅱ層の 258 が針尾産黒曜石であり，他の剥片類を含めても，Ｃ～Ｅ－ 18 ～ 25 区では遠隔地からの石材供給交流の実態が見えてくる。

176 のチャート製のトロトロ石器自体は搬入品と見られ，周知の資料から判断して下菅生Ｂ式土器に付随したと判断される。

この石材の遠隔地供給については，遠隔地の石材を求めた結果であるのか，それともそれぞれの石材を持つ集団がこの地に立ち寄ったことに起因するかについては，明らかにする材料を持ち合わせていない。なお，調査で採取された資料からは，この地で石鏃製作や狩猟具の製作を行った痕跡は確認できていない。

第2節　弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の遺構は検出されておらず，その生活痕跡について遺物で知るのみとなる。弥生時代に相当する遺物は１点のみで，肥後系の弥生終末期の複合口縁壺（308）がある。搬入品か在地生産かは判別し難いが，中九州（肥後地域）との関連性を示す良好な資料である。

古墳時代は，在地土器の成川式土器や須恵器が主体となる。その中でも叩き目痕をもつ成川式土器（314，315）や在地の成川式土器とは製作技法が異なる肥後系の古式土師器の長胴甕（330）が特徴的である。弥生～古墳時代の土器には中九州地域の要素が散見されることから，その影響や交流関係をもっていたと考えられる。

第3節　古代

（1）埋納土器

土坑７号内出土の土師器甕（332），坏（333），埦（334）の３点はいずれも 10 世紀後半段階に相当する。

坏は埦に被さるような状態で，小型の土師器甕はそれと並列するように甕は逆位の状態で出土した。このような配置状況や土坑の大きさも遺物が入る程度の小規模なものであることから，意図的な埋納行為が考えられる。

また，土師甕の口縁部の一部を打ち欠いている。これについては，肥後地域では古代後半相当の火葬土壙墓に伴う土師器や須恵器・瓦などは必ず破片や一部を欠損させたものが用いられるとの指摘がある（網田 1997）。しかし，本遺構の埋土からは，焼土や骨片等が確認されなかったこと，約 45 × 21cm の小規模な土坑であることから，墓としての機能は考え難い。本遺構の性格・位置づけに関しては，今後類例との検討が必要である。

（2）楠葉型黒色土器Ｂ

本遺跡では，古代の土師器・須恵器等が出土しているが，黒色土器に関しては概ね古代末～中世前期に相当するものが多い傾向にある。その中で，瓦器碗出現直前の 10 世紀後半～ 11 世紀中頃のいわゆる黒色土器Ｂが２点（359・360）している。焼成が瓦器に近く，高台が台形状を呈し，低いという特徴をもち，形態的特徴から 11 世紀により近いものと判断した。鹿児島県内での畿内系瓦器の出土は，稀少ながら数例確認されているが，楠葉型の黒色土器Ｂは県内初の出土例である。南九州における古代～中世前期の広域流通等を解釈する上で，稀少な事例となるであろう。

第4節　中世

(1) D・E－4・5区

本遺跡は，在地の土師器等の他に貿易陶磁器の出土が他の集落遺跡と比して圧倒的に多い。特に本区域の出土は顕著であり，その最たるものとして青白磁龍首水注がある。

D・E－4・5区では，2×3間の掘立柱建物跡1基，そして土坑9基が検出されている。土坑2号は，副葬品が出土していないが，木質が付着した鉄製釘が出土しており，木棺墓の可能性が高いと思われる。また掘立柱建物跡1号との位置関係から，屋敷墓が想定される。

遺物全体としては，12世紀後半～14世紀の遺物が主であり，土師器や須恵器もその範疇に収まる。貿易陶磁器は白磁碗Ⅳ・Ⅴ類，龍泉窯系青磁碗Ⅰ類が主となる12世紀後半～13世紀前半と，龍泉窯系青磁碗Ⅱ類・白磁皿Ⅸ類を主とする13世紀後半～14世紀の2時期に分かれる。景徳鎮産の青白磁龍首水注は13世紀後半～14世紀に相当する。

これらの中には先述の龍首水注をはじめ，白磁四耳壺・青磁花生・黄褐釉盤・中国陶器等の稀少品・優品も多い。これらは“威信財”としての機能をもつものであり，鎌倉モデル（小野2003・2006）に相当するが，本遺跡ではモデルに相当する遺構は検出されていない。県内では中世の有力者の館跡とされる馬場田遺跡，市頭A・B・C遺跡などが鎌倉モデルに相当する遺物をもつ。

滑石製品は他の区域でも出土するが，石鍋や二次加工品含めて，この区域の出土量は群を抜いており，時期的にも12世紀後半～14世紀と，石鍋の流通拡大期と一致する。

以上のことから，本区域は，貿易陶磁器や滑石製品の交易流通品が圧倒的に多く，他区域と出土遺物の様相が異なることが分かる。

(2) B～E－11～17区

B～E－11～17区では，全体としては13世紀後半～14世紀代に相当する遺物が主体である。青磁香炉や水滴，水注等の稀少な陶磁器も出土するが，D・E－4・5区と比して質・量は劣る。

本区域は，東西・南北に延びる2条の堀に区画された空間に，掘立柱建物跡が竪穴建物跡に伴う位置関係で検出され，堀跡1号を境として土地空間が東西に分断される。

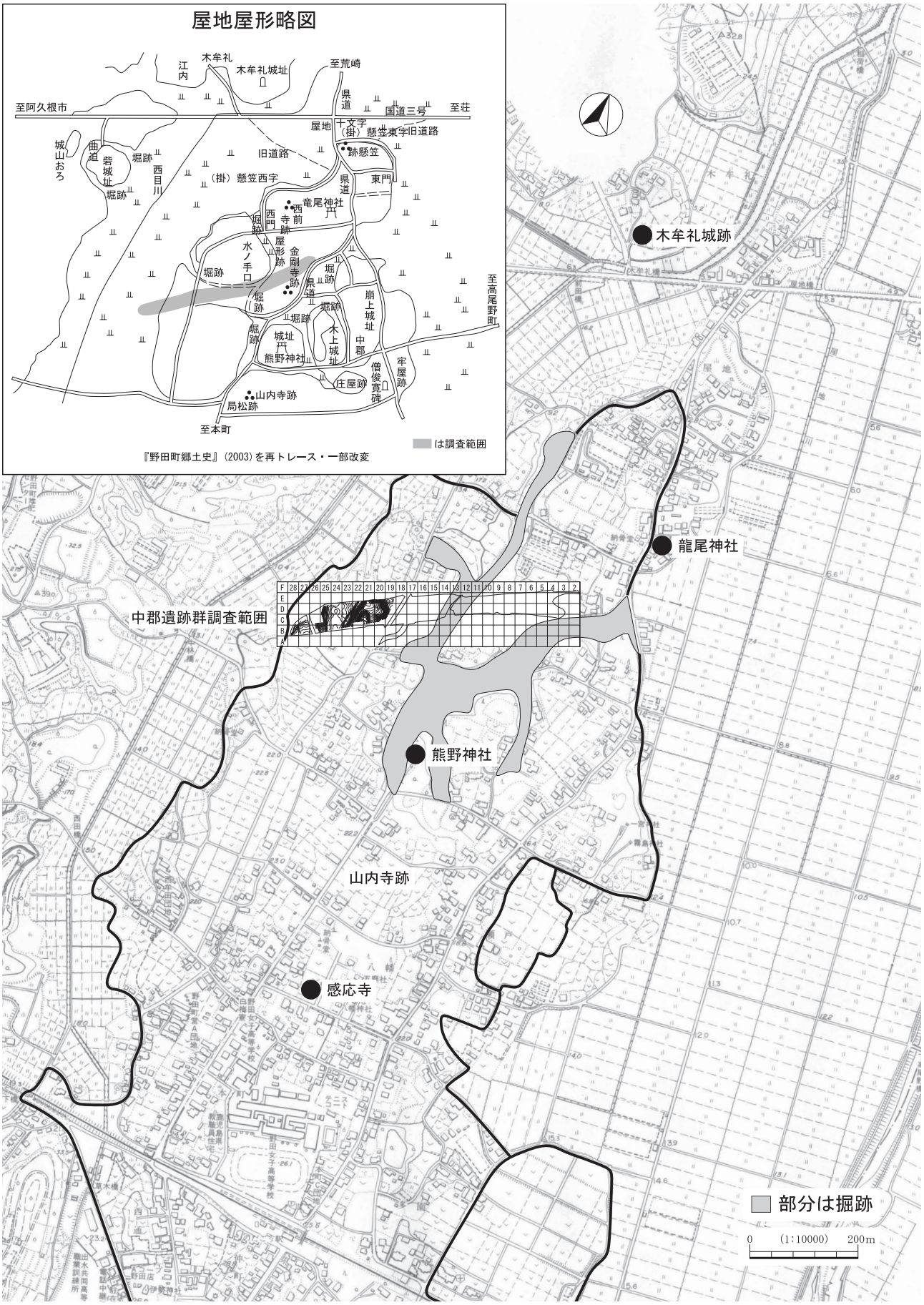
竪穴建物跡4・5号は，半地下の二段構造の特徴的な形態をもつ。5号竪穴建物跡の年代測定結果では，下段と上段には時期差はなく，短期的に使用されたものと想定できる。なお，野田川の対岸に位置する「荘」地区の外畠遺跡でも方形竪穴建物跡が見つかっている。

竪穴建物跡は，①一辺2～4mの方形を基調とすること，②人為的な埋め戻しがあること，③長期的に使用されない，④共伴遺物がない（少ない）などの特徴があり（飯村1994），それらと本遺跡の竪穴建物群の特徴は一致する。

本遺跡の竪穴建物跡の性格や機能については，竪穴建物跡2・3・5・6号に鉄滓や鞴の羽口が出土していることから，鍛冶関連の工房または倉庫を想定させる。

伊佐市新平田遺跡の竪穴建物跡は，工房跡もしくは一時保管場所としての穴蔵であることが指摘されている（堂込1999，2003）。二段構造ではないが，規模や床面の炉跡など類似しており，本遺跡の建物群も同様の施設であったと考えられる。

第144図　中郡遺跡群と掘跡の関係



第 145 図　屋地屋形略図との対応関係

（3）C～E－18～25区

C～E－18～25区は，土坑・溝状遺構が検出され，低湿地では，杭列及び土坑状遺構が検出された。溝状遺構は丘陵部・傾斜地に東西・南北方向に延びており，近世以降の溝状遺構とも概ね主軸は同じである。遺構・遺物は，14世紀～16世紀に相当するものが主体で，D・E－4・5区とB～E－11～17区より新しく，時期差がある。

（4）低湿地

低湿地ではモモ・ウメの種実が多く出土し，クスノキやエゴノキ等の照葉樹の生育が確認されている。花粉分析・植物珪酸体分析の結果では，水田稲作・農耕による土地利用が明らかになっている。また,杭列跡の年代測定結果でも,構築時期が15世紀前半という結果が得られている。

なお，近世以降に相当する溝状遺構がB～D－22・23区の傾斜地から検出されている。土層堆積状況や科学分析の結果から，近世以降は，水田地として利用されていたようである。

（5）中世における中郡遺跡群

中郡遺跡群は，12世紀後半～16世紀まで途切れることなく存続し，その一つの画期がD・E－4・5区を主体とした12世紀後半～13世紀にあったと推測される。

さらに在地生産・流通の土師器等と加え，多量の交易流通品の両者を所有し，兼ね備えている。これは，中世における領主居館がもつ2重のネットワークの結節（広瀬1986）として捉えることができ，交易流通網を掌握できるほどの有力者の存在を考えざるを得ない。よって，屋敷墓（土坑2号）や堀跡などを考慮すると，多くの威信財を所有した有力者の居館・屋形跡と想定される。

また，調査区中心部に南北に延びる大規模な堀跡1号は，それを境として東･西で空間が分断される（第144図)。B・D－6～11区が削平のため不明瞭だが，概ねD・E－4・5区が堀の内側，15区以西は堀外側と推測される。

D・E－4・5区とB・D－6～11区は，堀を境とした一連の「場」であり，堀が巡る周辺も含めて屋形であったと考えられる。また，堀の「内／外」では，内側が居館等の主体部で，B・D－6～11区の竪穴建物跡群が工房・倉庫といった機能分担が読み取れる。

竪穴建物跡については，その性格や立地等から周縁の「場」として位置づけられている（馬淵1991)。さらに南九州では，東国御家人の権力における象徴的な施設として位置づけられており，その背景の一つとして交易流通体系の整備が関連するとの見解もある（堂込1999)。竪穴建物跡のような倉庫などをもつことは社会的ステータスであったとも考えられる。

以上のことから，堀の内側のD・E－4・5区は有力者の屋形跡が想定され，外側のB・D－6～11区は，工房・倉庫といった役割をもっており，堀を含めて屋形に付属した施設として捉えることができる。

なお，C～E－18～25区の低湿地では，14～16世紀に相当する遺構・遺物構成や地形との関係を踏まえると，屋形の一部ではなく,屋形とは分断された「外の場」であったと考えられる。

（6）屋地屋形跡との関係

遺跡周辺には，木牟礼城跡や熊野神社，感応寺といった要所が位置しており，遺跡周辺一帯が中世における本地域の中心的役割を果たした要所であったと想定できる（図145)。

『野田町郷土誌』によると，本遺跡は「屋地屋形跡」と想定されており，島津家発祥の有力地とされる。自然地形（谷）を利用したと思われる堀が現在も確認でき，調査で検出された堀跡もこれに重複すると推測される。

『屋地屋形略図』では，龍尾神社，熊野神社，金剛寺跡，西門・東門・屋形跡，木牟礼城跡のほか，それを取り囲むように堀跡が記載され，現在の地図と照らしても半径1.5km圏内に収まる範囲内で，位置関係も概ね一致する。本遺跡の調査成果では，初代忠久から五代貞久までに相応する遺構・遺物がみてとれるが、五代以降（14世紀中頃以降）は，徐々に遺物・遺構の減少・衰退する傾向にあったと考えられる。前述したように，一つの画期である12世紀後半～13世紀前半は，初代忠久の時期と一致する。

留意すべき点として，本遺跡の調査成果で得られた有力者を想定させる遺構・遺物は，島津氏五代の時期と概ね一致するが，島津氏との関係を結びつける積極的な証拠は得られなかった。伝承や現存する堀跡，調査成果はそれを想起させるものだが，島津氏との関連性については，周辺遺跡も踏まえ，文献史学等との総合的な検討が必要である。今後の資料の蓄積や研究を待ちたい。

第5節　遺跡の残存状況等

中郡遺跡群は，層堆積の状況が不安定であり，また，造成や攪乱等が地山であるシラスにまで至っている地点が多く，遺物包含層が残存しない箇所が多い。しかし，今回の調査では，包含層の残存しない地点でも遺構の残存が確認されており，今後も十分に注意する必要がある。

また，本遺跡の堀跡などは，自然地形を利用し造成されている。特に,第145図に示した堀跡の範囲(アミの範囲)は,現在も旧地形・堀跡の痕跡を明確に残している。したがって，取り扱いに十分に注意しなければならない。

〔主要引用文献〕
網田龍生 1997「肥後における古代後半期の墳墓」『先史学・考古学論究』Ⅱ，龍田考古学会．
飯村　均 1994「中世の『宿』『市』『津』」『中世都市研究』3
大口市教育委員会 1997『新平田遺跡・辻町B遺跡』大口市埋蔵文化財発掘調査報告書（20）
小野正敏 2003「威信財としての貿易陶磁器と場」『戦国時代の考古学』，高志書院．
小野正敏 2006「武家にみる唐物威信財の創出と変容についての素描」『前近代の東アジア海域における唐物と南蛮物の交易とその意義』，国立歴史民俗博物館．
鹿児島県郡山町教育委員会 2003『湯屋原遺跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2012『外畠遺跡』鹿児島県埋蔵文化財センター
鈴木康之 2006「滑石製石鍋の流通と消費」『鎌倉時代の考古学』，高志書院．
野田町郷土誌編さん委員会 2003『野田町郷土誌』，（株）ぎょうせい．
広瀬和雄 1986「中世への胎動」『岩波講座日本考古学』6，岩波書店
堂込秀人 1999「中世南九州の竪穴建物跡」『南九州城郭研究』創刊号，南九州城郭談話会
堂込秀人 2003「竪穴建物跡」『季刊考古学』85，雄山閣．
馬淵和雄 1991「都市の周縁，または周縁の都市－いわゆる方形竪穴建物址による中世都市論の試み」『青山考古』9
南九州市教育委員会 2009『馬場田遺跡』南九州市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

中郡遺跡群遠景（南から）

①～⑥土層堆積状況（①：C－23・24区，②：B－27区，③：C－23区，④：E－19区，⑤：D－20区，⑥：E－20・21区）
⑦Ⅵ層遺物出土状況（C・D－24区），⑧礫群